

平成 25 年

全国一級河川の水質現況

平成 26 年 7 月

国土交通省水管理・国土保全局河川環境課

目 次

第一章 河川水質の概要

1. 水質改善の取組みと成果	1
2. 生活環境の保全に関する環境基準の満足状況	2
3. 過去10年間の水質改善状況	3
4. 水質が良好な河川	4
(1) 年間の平均水質 (BOD値) が良好な地点	5
(2) 水質調査地点の平均的な水質 (BOD値) が良好な河川	6
5. 平成25年新しい水質指標による調査結果の概要	7
6. 人の健康の保護に関する環境基準	11
7. ダイオキシン類	12
8. 水質事故等の状況	13

第二章 河川の水質現況

1. 水質汚濁に関する環境基準項目	14
(1) 水質調査地点	14
(2) 河川の流量	14
(3) 生活環境の保全に関する環境基準項目	15
1) 環境基準項目	15
2) 環境基準の満足状況	16
3) 調査地点の類型指定状況と水質状況	25
4) 調査地点のランク別水質状況	27
5) 河川及び湖沼の代表地点の水質状況の経年変化	33
(4) 人の健康の保護に関する環境基準項目	38
1) 環境基準項目	38
2) 要監視項目	41
(5) 農薬項目	43
(6) 水道関連項目 (トリハロメタン生成能)	49
(7) 「人と川のふれあい」の指標	51
1) 糞便性大腸菌群数	51
2) 透視度	53
(8) 水生生物の保全	55
1) 環境基準項目	55
2) 要監視項目	57
2. 新しい水質指標	58
2.1 新しい水質指標 (河川)	58
(1) 新しい水質指標 (河川) とは	58
(2) 実施水系・地点数	59
(3) 参加者数	61
(4) 調査結果	62
(5) 「人と河川の豊かなふれあいの確保」	88
(6) 「豊かな生態系の確保」	91
(7) 「利用しやすい水質の確保」	94
(8) 「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」	97

2.2	新しい水質指標(湖沼)	99
(1)	新しい水質指標(湖沼)とは	99
(2)	実施水系・地点数	99
(3)	住民参加者数	100
(4)	調査結果	101
(5)	「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」	109
(6)	「豊かな生態系の確保」	112
(7)	「利用しやすい水質の確保」	115
(8)	「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」	118
3.	水生生物による簡易水質調査結果(水生生物調査)	120
(1)	調査の概要	120
(2)	調査結果	120
4.	身近な水環境の全国一斉調査	125
(1)	調査の概要	125
(2)	調査のまとめ	125
5.	微量化学物質(ダイオキシン類・内分泌かく乱化学物質)	127
(1)	調査概要	127
1)	対象物質	127
2)	調査地点および調査頻度	129
(2)	調査結果	130
(3)	これまでの経年変化と今後の対応	132
6.	水質事故等の状況	160
(1)	水質事故の発生状況	160
(2)	コイヘルペスの状況	163

第三章 河川の水環境改善のための事業及び施策

1.	水質浄化対策等	164
2.	河川水量の回復	164
3.	清流ルネッサンス21・清流ルネッサンスⅡ	165
4.	湖沼の水質保全	168
5.	水質監視等	169
6.	水質汚濁対策連絡協議会	169

参考資料1	一級河川の流量状況	171
参考資料2	環境基準(BOD又はCOD)を満足した地点の割合(水系別)	172
参考資料3	各種基準値(指針値)一覧	177
参考資料4	「水生生物による簡易水質調査」参加団体一覧	192
参考資料5	一級河川の全調査地点の水質	195
参考資料6	水系別コイヘルペス発生状況	205
参考資料7	平成25年一級河川の水質状況図	208

第一章 河川水質の概要

1. 水質改善の取組みと成果

公害問題が顕在化してきた昭和40年代以降、全国の河川では水質汚濁の著しい進行で、「汚い、臭い、遊べない」といわれる河川が多かった。国土交通省が、河川を考える上で最も重要な要素のひとつである河川水質について、年単位（1月～12月）でのとりまとめを始めたのは昭和46年であった。その当時、BOD平均値が5.0mg/lを超え、水質改善が急務であった地点は、一級河川の全調査地点の27%を占めていた。

しかし、このような一級河川の水質も、これまでの排水規制、下水道整備、河川浄化事業等の推進により徐々に改善されている。平成25年には、サケやアユが生息できる環境の目安となるBOD75%値が3.0mg/l以下である地点は、一級河川の調査地点全体の約94%を占めている。

例えば、昭和40年代の多摩川は水質悪化が進み、洗剤の泡が浮く汚濁河川であった。その後昭和50年代後半には、アユの遡上が確認されるまでに水質が改善され、近年では、清流といわれている四万十川の水質にも迫る良好な水質となっている。また、綾瀬川及び大和川は昭和40年代には都市化の進展に伴う水質汚濁が著しく、BOD75%値で30mg/lを超えていたが、水質改善の取組みにより確実に改善が図られ、特に大和川では、平成25年の代表地点のBOD75%値が1.7mg/lとなり、サケやアユが生息できる程度の水質になっている（図-1）。

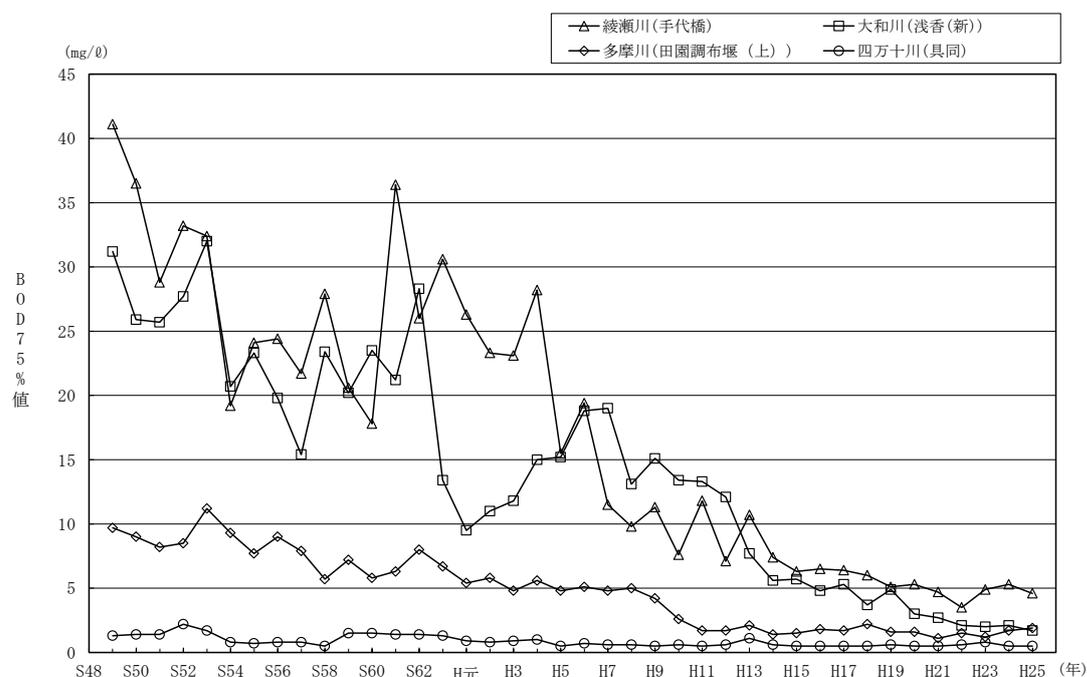


図-1 代表地点におけるBOD75%値の経年変化

このように、昭和40年代以降の水質改善の取組みの結果、汚濁の著しかった一級河川の水質は確実に改善され、BODによる汚濁状況の調査結果によると、ほとんど全ての河川で水質は良好なものとなってきているが、都市を流れる一級河川の中・下流域及び流入支川の一部等では依然としてBOD値が高い調査地点もみられており、引き続き、各調査地点の水質と置かれている状況を踏まえて、水環境改善施策を実施していくことが求められている。

一方、湖沼の水質については、これまでの水質改善の取組みにも関わらず、閉鎖性水域のため滞留時間が長く内部生産等の影響を受けやすいため、CODの環境基準の満足率が低い。このような状況の中、平成17年6月に湖沼水質保全特別措置法の一部を改正する法律が公布された。この改正により、農地・市街地から流出する汚濁負荷対策の推進、排水規制の強化、「湖辺環境保護地区」の指定による水質浄化機能の確保を図ることとなり、水質改善のさらなる取組みが進められている。

2. 生活環境の保全に関する環境基準の満足状況

○ BOD（またはCOD）値が環境基準を満足した地点の割合は90%であった。

平成25年に、一級河川（湖沼及び海域を含む。）の直轄管理区間において、生活環境の保全に関する環境基準項目のうち、BOD（生物化学的酸素要求量）またはCOD（化学的酸素要求量）の環境基準を満足した地点の割合は90%（875地点/974地点）で、依然として高い割合を維持している。

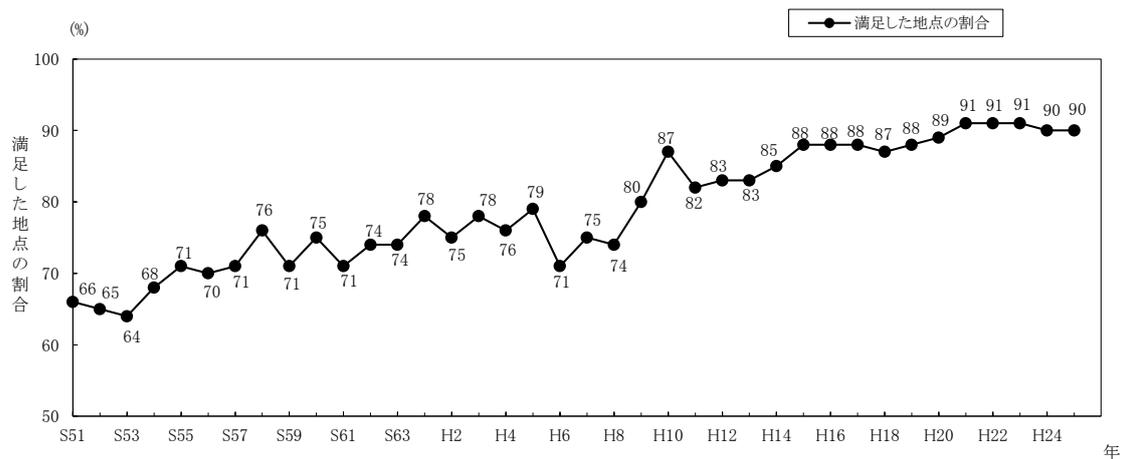


図-2 一級河川（湖沼及び海域を含む。）において環境基準を満足した地点の割合

なお、平成25年にBOD（またはCOD）値が環境基準を満足した地点の割合について、地点の種類別に見ると、河川のみでは96%（836地点/875地点）、湖沼等では39%（39地点/99地点）であった。

表-1 最近10ヶ年の環境基準を満足した地点の割合 (%)

地点	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
河川	93	93	93	94	95	96	97	96	95	96
湖沼等※	32	36	36	37	38	38	36	40	42	39
全地点	88	88	87	88	89	91	91	91	90	90

※湖沼及び海域

3. 過去10年間の水質改善状況

○ 過去10年間にBOD値が大幅に改善されている地点は、太子橋（大和川水系大和川）、亀の子橋（鶴見川水系鶴見川）、遠里小野橋（大和川水系大和川）、秋山川末流（利根川水系秋山川）、浅香新取水口（大和川水系大和川）及び市坪（重信川水系石手川）であった。

平成25年の地点毎の年間の平均的な水質（BOD値）と、平成15年の地点毎の年間の平均的な水質（BOD値）から、10年間の直轄管理区間の水質改善幅による地点の水質改善状況を比較すると、太子橋（大和川水系大和川）、亀の子橋（鶴見川水系鶴見川）、遠里小野橋（大和川水系大和川）、秋山川末流（利根川水系秋山川）、浅香新取水口（大和川水系大和川）及び市坪（重信川水系石手川）で大幅な水質改善が進んでいる。

表-2 BOD平均値の改善幅による過去10年間の水質改善状況

順位	地方名／地点名 (水系名河川名)	平成15年 BOD年間 平均値 (mg/ℓ)	平成25年 BOD年間 平均値 (mg/ℓ)	水質改善幅 (mg/ℓ)
1	近畿／太子橋（大和川水系大和川）	7.8	3.6	4.2
2	関東／亀の子橋（鶴見川水系鶴見川）	7.5	3.7	3.8
3	近畿／遠里小野橋（大和川水系大和川）	5.5	1.9	3.6
4	関東／秋山川末流（利根川水系秋山川）	4.9	1.7	3.2
5	近畿／浅香新取水口（大和川水系大和川）	4.7	1.6	3.1
5	四国／市坪（重信川水系石手川）	4.7	1.6	3.1

4. 水質が良好な河川

(1) 年間の平均的な水質 (BOD値) が良好な地点

○ 年間の平均的な水質 (BOD値) が報告下限値の0.5mg/lである地点は65地点であった。

一級河川の直轄管理区間において、年間の平均的な水質が、環境省の定める報告下限値の0.5mg/lである、水質が最も良好な地点は65地点であった (表-3)。

また、平均的な水質が人の手が入っていない河川並の水質とされるBOD 1.0mg/l未満の地点は431地点であり、対象地点 (883地点) の49%を占めている。

表-3 BOD値による河川の水質状況 (水質が最も良好な地点)

地方	地点	地方	地点
北海道	朝日橋 (天塩川水系天塩川)	中国	関金 (天神川水系小鴨川)
北海道	円山 (天塩川水系天塩川)	中国	河原町 (天神川水系小鴨川)
北海道	日の出橋 (石狩川水系千歳川)	中国	神田橋 (高津川水系高津川)
北海道	幌平橋 (石狩川水系豊平川)	中国	金地橋 (高津川水系高津川)
北海道	豊水大橋 (石狩川水系豊平川)	中国	高角 (高津川水系高津川)
北海道	美瑛緑橋 (石狩川水系美瑛川)	中国	高津大橋 (高津川水系高津川)
北海道	名駒 (尻別川水系尻別川)	中国	漆尾 (佐波川水系佐波川)
北海道	初田橋 (尻別川水系尻別川)	四国	重信橋 (重信川水系重信川)
北海道	住吉 (後志利別川水系後志利別川)	四国	具同 (渡川水系四万十川)
北海道	穂別橋 (鶴川水系鶴川)	四国	後川橋 (渡川水系後川)
北海道	長知内橋 (沙流川水系沙流川)	四国	伊野 (仁淀川水系仁淀川)
北海道	摩周大橋 (釧路川水系釧路川)	四国	八田堰 (仁淀川水系仁淀川)
東北	荒川橋 (阿武隈川水系荒川)	四国	中島 (仁淀川水系仁淀川)
東北	信夫橋 (阿武隈川水系荒川)	四国	仁西 (仁淀川水系仁淀川)
東北	松川橋 (阿武隈川水系松川)	四国	脇町潜水橋 (吉野川水系吉野川)
関東	川治第一発電所前 (利根川水系鬼怒川)	四国	高瀬橋 (吉野川水系吉野川)
関東	男鹿川末流 (利根川水系男鹿川)	四国	貞光 (吉野川水系貞光川)
関東	調布橋 (多摩川水系多摩川)	四国	穴吹 (吉野川水系穴吹川)
北陸	雄神橋 (庄川水系庄川)	九州	古川橋 (松浦川水系厳木川)
北陸	大門大橋 (庄川水系庄川)	九州	観音橋 (松浦川水系厳木川)
中部	千歳橋 (狩野川水系狩野川)	九州	多良木 (球磨川水系球磨川)
中部	柿田橋 (狩野川水系柿田川)	九州	人吉 (球磨川水系球磨川)
中部	曙橋 (安倍川水系安倍川)	九州	五木宮園 (球磨川水系川辺川)
中部	安倍川橋 (安倍川水系安倍川)	九州	神屋敷 (球磨川水系川辺川)
中部	牧ヶ谷橋 (安倍川水系藁科川)	九州	五木 (球磨川水系川辺川)
中部	山口 (木曾川水系根尾川)	九州	四浦 (球磨川水系川辺川)
中部	勸進橋 (鈴鹿川水系鈴鹿川)	九州	柳瀬 (球磨川水系川辺川)
中部	岩出 (宮川水系宮川)	九州	元井谷 (球磨川水系五木小川)
近畿	熊野大橋 (新宮川水系熊野川)	九州	三輪 (五ヶ瀬川水系五ヶ瀬川)
近畿	西津橋 (北川水系北川)	九州	松山橋 (五ヶ瀬川水系五ヶ瀬川)
近畿	弘原 (円山川水系出石川)	九州	大瀬橋 (五ヶ瀬川水系大瀬川)
中国	今泉 (天神川水系天神川)	九州	番匠橋 (番匠川水系番匠川)
中国	大原 (天神川水系天神川)		

※湖沼類型指定、海域類型指定の調査地点及びダム貯水池は含まない。

※BODの年間の平均水質が報告下限値の0.5mg/lである地点を、水質が最も良好な地点としている。

(2) 水質調査地点の平均的な水質 (BOD値) が良好な河川

○ 平均的な水質が最も良好な河川は、尻別川、荒川 (阿武隈川水系)、庄川、安倍川、小鴨川、高津川、仁淀川、吉野川、川辺川、五ヶ瀬川 of 全10河川であった。

直轄管理区間に複数の水質調査地点を有する河川のうち、各調査地点の年間の平均的な水質が最も良好な河川は、尻別川、荒川 (阿武隈川水系)、庄川、安倍川、小鴨川、高津川、仁淀川、吉野川、川辺川、五ヶ瀬川 of 全10河川であり、そのBOD値は0.5 mg/lであった (表-4)。

表-4 BOD値による河川の水質状況 (水質が最も良好な河川)

年	地方名 / 河川名 (水系名)	都道府県名	BOD (mg/l)	
			平均値	(75%値)
平成25年	北海道 / 尻別川 (尻別川水系)	北海道	0.5	(0.5)
	東北 / 荒川 (阿武隈川水系)	福島		
	北陸 / 庄川 (庄川水系)	富山		
	中部 / 安倍川 (安倍川水系)	静岡		
	中国 / 小鴨川 (天神川水系)	鳥取		
	中国 / 高津川 (高津川水系)	島根		
	四国 / 仁淀川 (仁淀川水系)	高知		
	四国 / 吉野川 (吉野川水系)	徳島		
	九州 / 川辺川 (球磨川水系)	熊本		
	九州 / 五ヶ瀬川 (五ヶ瀬川水系)	宮崎		
平成24年	北海道 / 尻別川 (尻別川水系)	北海道	0.5	(0.5)
	北海道 / 後志利別川 (後志利別川水系)	北海道		
	東北 / 荒川 (阿武隈川水系)	福島		
	北陸 / 庄川 (庄川水系)	富山		
	近畿 / 北川 (北川水系)	福井		
	中国 / 高津川 (高津川水系)	島根		
	四国 / 仁淀川 (仁淀川水系)	高知		
	四国 / 吉野川 (吉野川水系)	徳島		
	九州 / 川辺川 (球磨川水系)	熊本		

※以下の条件を満たす163河川のうち、各調査地点のBOD年平均値の平均が0.5 mg/l (環境省の定めるBODの報告下限値) であるものを、平均的な水質が最も良好な河川としている。

対象河川は以下の河川。

- ・一級河川 (本川) :直轄管理区間に調査地点が2以上ある河川
- ・一級河川 (支川) :直轄管理区間延長が概ね10km以上、かつ直轄管理区間に調査地点が2以上ある河川

※湖沼類型指定、海域類型指定の調査地点及びダム貯水池は含まない。

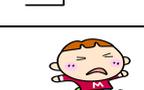
5. 新しい水質指標による調査結果の概要

○ ゴミの量や水のおいなど、人と河川のふれあいに関する新しい指標を用いて、住民との協働により、河川に近づきやすい地点で調査を実施した。

○ 約26%（79地点/308地点）が「泳ぎたいと思うきれいな川」^{注1}と評価された。

国土交通省では、河川をBODなどの環境基準だけでなく多様な視点で評価するための指標について検討し、「今後の河川水質管理の指標について（案）」を平成17年3月にとりまとめている^{注2}。新しい水質指標（河川）は、「人と河川の豊かなふれあいの確保」などの視点からなり、調査の一部は住民と河川管理者との協働により平成17年から実施している（表-5）^{注3注4}。

表-5 人と河川の豊かなふれあいの確保（赤枠内は住民と協働調査）

ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル					地域特性項目
			全国共通項目				糞便性大腸菌群数 (個/100mL)	
A	顔を川の水につけやすい (泳ぎたいと思うきれいな川)		川の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ゴミはあるが全く気にならない	100以上	快適である	不快でない		100以下
B	川の中に入って遊びやすい		川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	70以上	不快感がない		1000以下	
C	川の中には入れないが、川に近づくことができる		川の中や水際にゴミがあって不快である	30以上	不快である	水に鼻を近づけると不快な臭いを感じる	1000を超えるもの	
D	川の水に魅力がなく、川に近づきにくい		川の中や水際にゴミがあつてとても不快である	30未満		水に鼻を近づけるととても不快な臭いを感じる		

^{注1} 水質に関する指標（ゴミの量、透視度、川底の感触、水のおい、糞便性大腸菌群数）により評価した結果であり、流れの状態や、川岸・川底の形状などの安全性については考慮していない。また、水浴場水質判定基準（環境省）における油膜の有無やCOD等の評価項目、その他の有害物質等による評価は行っていない。

^{注2} 平成21年3月に一部改訂し、平成21年度の調査より適用している。

^{注3} 評価項目ごとにA～Dランクの4段階の評価ランクを決めた上で、まず調査回ごとに最も低い項目別評価ランクを、その地点のその調査時の総合評価ランクとする。1年間の調査時の総合評価ランクのうち最頻出ランクを、その地点における年間の総合評価ランクとする。最頻出ランクが2つ以上ある場合は、低い方のランクを年間の総合評価ランクとする。

^{注4} 平成25年については、一部精度が不十分なものを含む可能性がある。

①調査結果

平成25年は、「人と河川の豊かなふれあいの確保」の視点から、直轄管理区間において、約26%（79地点/308地点）が「泳ぎたいと思うきれいな川」と評価された。

表-6 新しい水質指標（河川）による年間の総合評価ランク別の地点数

	人と河川の豊かなふれあい	
	地点数	割合
Aランク	79	26%
Bランク	137	44%
Cランク	77	25%
Dランク	15	5%
計	308	100%

②調査への住民参加

新しい水質指標（河川）による調査における「人と河川の豊かなふれあいの確保」の視点による調査は、202地点で6,998人の参加を得て実施した。

参加者数が最も多かった調査地点は、大野川水系乙津川の水辺の楽校（大分県）であった。

【人と河川の豊かなふれあいの確保】

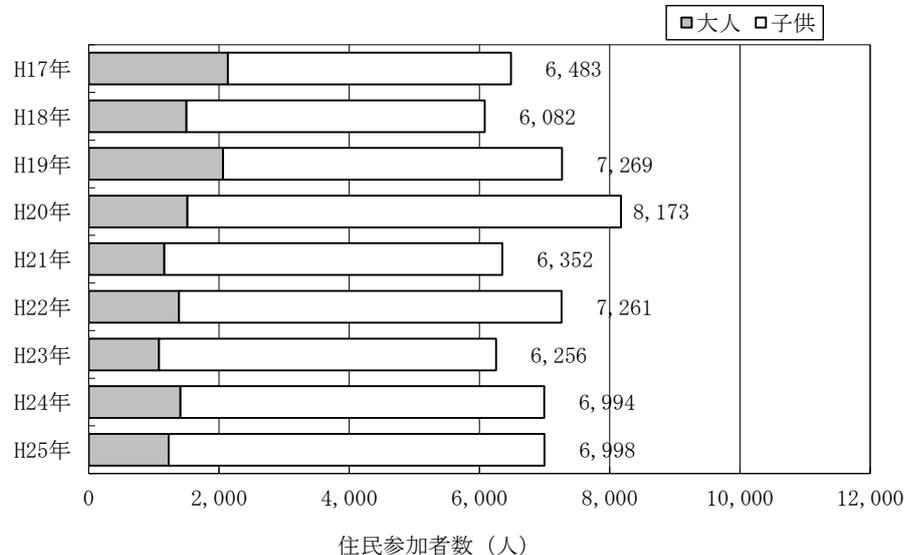


図-3 平成17年～平成25年の参加者数の推移

表-7 参加者数が特に多かった調査地点

順位	都道府県	河川名（水系名）/調査地点名	参加者数
1	大分県	乙津川（大野川水系）/水辺の楽校	340
2	三重県	雲出川（雲出川水系）/小戸木橋	222
3	愛媛県	重信川（重信川水系）/中川原橋	216
4	大阪府	大和川（大和川水系）/河内橋	198
5	香川県	土器川（土器川水系）/高速道路橋	144

※表中の参加者数は、年間通した延べ人数。年間に複数回の調査を実施した調査地点がある。

泳ぎたいと思うきれいな川

人と河川の豊かなふれあいの確保の評価項目と評価レベル

ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル				糞便性大腸菌群数(個/100mL)
			全国共通項目				
			ゴミの量	透視度(cm)	川底の感触	水におい	
A	顔を川の水につけやすい(泳ぎたいと思うきれいな川)		川の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ゴミはあるが全く気にならない	100以上	快適である		100以下
B	川の中に入って遊びやすい		川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	70以上	不快感がない	不快でない	1000以下
C	川の中には入れないが、川に近づくことができる		川の中や水際にゴミがあって不快である	30以上		水に鼻を近づけると不快な臭いを感じる	1000を超えるもの
D	川の水に魅力がなく、川に近づきにくい		川の中や水際にゴミがあってとても不快である	30未満		水に鼻を近づけるととても不快な臭いを感じる	

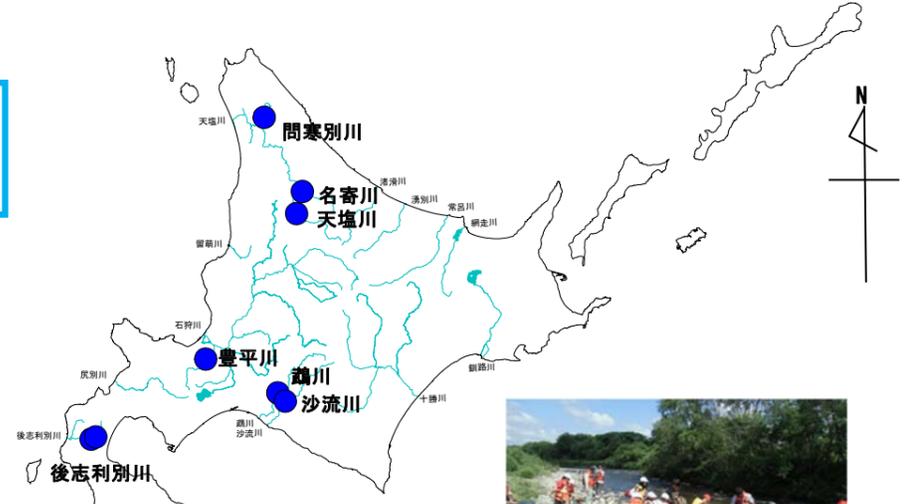
測定した評価項目のうち全ての評価項目がAランクの場合、泳ぎたいと思うきれいな川と判定



北陸 荒川



中部 木曾川



北海道 名寄川



東北 米代川



関東 久慈川



図-4 泳ぎたいと思うきれいな川

※図中の青丸は、年間の総合評価ランクがAランクの地点。

※ 住民と河川管理者との協働により上記評価項目のうち1項目以上を測定した調査結果及び河川管理者が単独で「ゴミの量」「川底の感触」又は「水におい」を含む1項目以上を測定した調査結果を、評価の対象としている。

※あくまでも水質に関する指標により評価した結果であり、流れの状態や、川岸・川底の形状などの安全性については考慮していません。
 ※水浴場水質判定基準(環境省)における油膜の有無やCOD等の評価項目、その他の有害物質等による評価は行っていません。



四国 吉野川



中国 佐波川



近畿 北川



九州 川辺川

6. 人の健康の保護に関する環境基準

○ 人の健康の保護に関する項目（健康項目）が環境基準を満足した地点の割合は約99%であった。

平成25年における、直轄管理区間の健康項目全体の環境基準満足率は99%（前年99%）となっており、ほとんどの地点で環境基準を満足した。

環境基準超過がみられたのは、砒素及びほう素の2項目であり、全て自然由来によるものであった。

表-8 健康項目の水質調査結果

項目名	調査地点数	調査検体数	超過地点数
カドミウム	692	1,832	—
全シアン	677	1,776	—
鉛	766	2,732	—
六価クロム	678	1,752	—
砒素	761	2,693	1
総水銀	683	1,844	—
アルキル水銀	102	210	—
P C B	618	794	—
ジクロロメタン	630	1,159	—
四塩化炭素	638	1,094	—
1, 2-ジクロロエタン	627	1,097	—
1, 1-ジクロロエチレン	627	1,080	—
シス-1, 2-ジクロロエチレン	628	1,089	—
1, 1, 1-トリクロロエタン	638	1,100	—
1, 1, 2-トリクロロエタン	625	1,078	—
トリクロロエチレン	655	1,140	—
テトラクロロエチレン	654	1,160	—
1, 3-ジクロロプロペン	624	1,017	—
チウラム	624	984	—
シマジン	624	984	—
チオベンカルブ	624	984	—
ベンゼン	626	1,076	—
セレン	639	1,134	—
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	684	4,190	—
ふっ素	628	1,500	—
ほう素	613	1,317	3
1, 4-ジオキサン	525	1,007	—
合計	16,910	37,823	4

7. ダイオキシン類

○ ダイオキシン類が水質環境基準を満足した地点の割合は約97%であった。

平成11年度から、「ダイオキシン類対策特別措置法」で定義されているダイオキシン類について、直轄管理区間で継続的に水質と底質の調査を実施している。

平成11年度以降、水質については、ほとんどの地点が環境基準（1.0pg-TEQ/ℓ以下）を満足しており、平成25年度は、約97%（215地点／221地点）が環境基準を満足した。また、底質については、全ての地点で環境基準（150pg-TEQ/ℓ以下）を満足した。

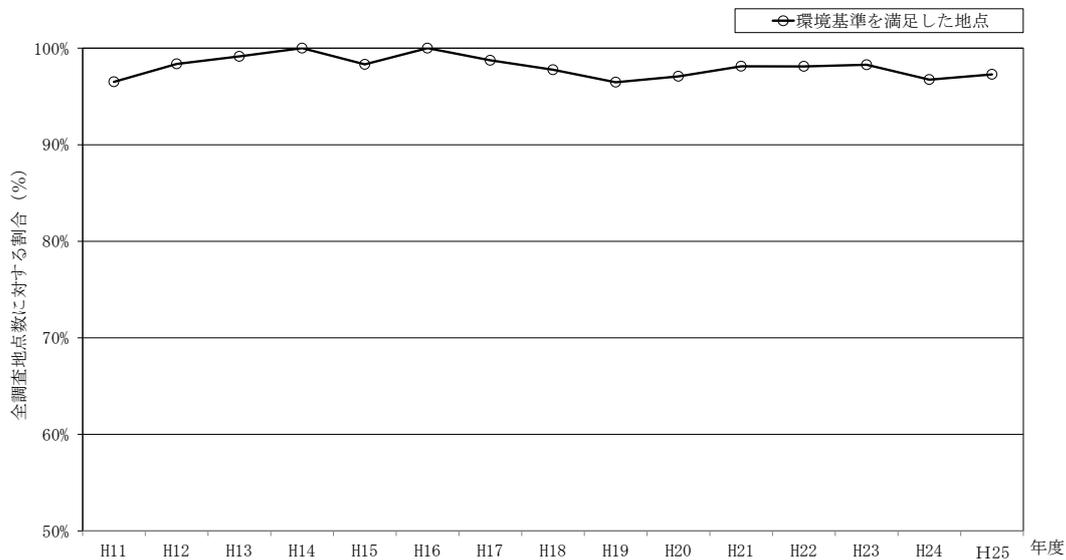


図-5 ダイオキシン類の水質調査で環境基準を満足した地点の割合

8. 水質事故等の状況

○ 水質事故の発生件数は1,233件で、平成19年以降、概ね横ばいであった。

水質事故の発生件数は平成18年まで毎年増加していたが、その後は概ね横ばいである。平成25年は平成24年より11件減少した。

一方、上水道の取水停止を伴う重大な事故の発生件数は16件であった。

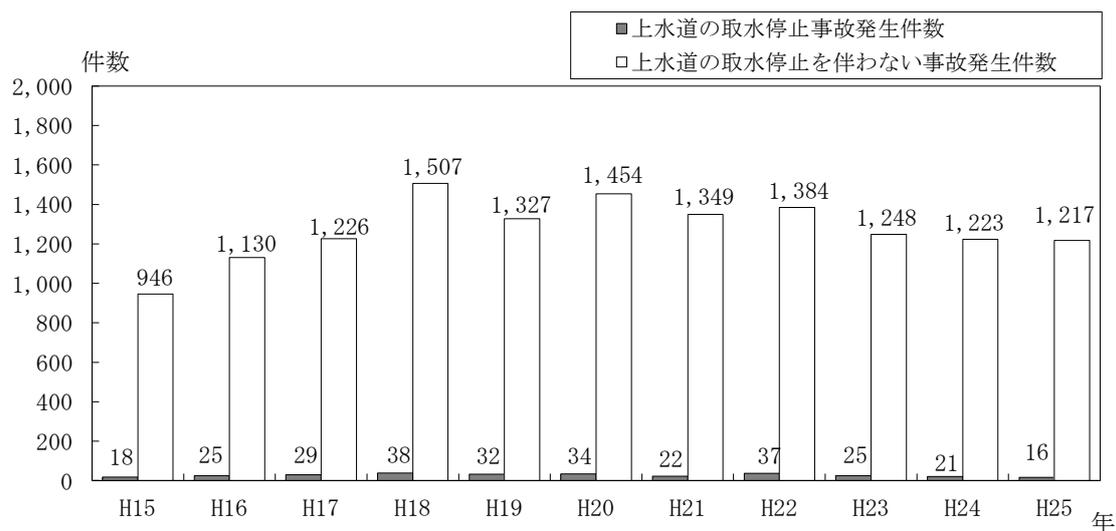


図-6 水質事故発生件数と上水道の取水停止事故発生件数の推移

第二章 河川の水質現況

1. 水質汚濁に関する環境基準項目

(1) 水質調査地点

水質調査は、昭和33年に8水系54地点において開始され、その後調査地点を増やし今日に至っている。

平成25年における一級河川の水質調査は、湖沼を含む直轄管理区間（一部指定区間を含む）の109水系1,074地点において実施している^{注5}。直轄管理区間の河川延長が約10,590km（平成25年4月現在）であることから、平均すると延長約10kmに1地点の割合で水質調査を実施したことになる。国土交通省では、これらの地点において定期的に水質調査を実施している。

本報告では、都道府県が観測している直轄管理区間内の16地点を含め1,090地点のデータを対象にとりまとめを行った。なお、水質調査のとりまとめにあたっては平成25年1月から12月の調査結果を使用しており、地方別の値のとりまとめは、北海道開発局及び各地方整備局の管轄区域を集計単位とした。農薬項目に関するゴルフ場関連地点（排水口等）をあわせて水質調査の総検体数は、277,805検体にのぼる。

(2) 河川の流量

河川の水質の経年変化を評価するにあたり、水質は流量の大小の影響を受けることから、平成24年と平成25年の河川の流量を比較した。

国土交通省で実施している流量観測結果に基づき、一級河川の基準地点における年間総流出量の合計及び低水流量の合計についてまとめたものが表-9である（参考資料1参照）。

表-9 一級河川の流量状況

	平成25年 (A)	平成24年 (B)	(A)/(B)×100%
基準地点における 年間総流出量の合計	2,277億m ³	2,528億m ³	90%
基準地点における 低水流量*の合計	3,741m ³ /s	3,818m ³ /s	98%
備 考	平成25年の年間総流出量及び低水流量の合計値は速報値である。		

* 低水流量：一年を通じて275日はこれを下らない流量

^{注5} 調査地点としては1,074地点であるが、平成25年に観測を行ったのは1,071地点である。川内川水系川内川/鶴田ダムST-II、鶴田ダム監視点-I、鶴田ダム監視点-ロの3地点では、観測地点の見直しを行い、現在、休止としている。

(3) 生活環境の保全に関する環境基準項目

1) 環境基準項目

生活環境の保全に関する環境基準の項目について、河川の場合は水質汚濁の代表指標であるBOD^{注6}（生物化学的酸素要求量）の75%値^{注7}、湖沼及び海域の場合は水質汚濁の代表指標であるCOD^{注8}（化学的酸素要求量）の75%値及び総窒素、総リン^{注9}の年間平均値によって整理した。

「2）環境基準の満足状況」において、河川とは湖沼を除く地点であり、湖沼とは天然湖沼及び貯水量が1,000万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖を示す。ただし、人工湖であっても水域類型が河川として指定されている場合には、河川とする。

「4）調査地点のランク別水質状況」、「(7)「人と川のふれあい」」においては、水域類型が河川として指定されているダム貯水池については湖沼に準じて扱うこととする。

^{注6} BOD(Biochemical Oxygen Demand)とは、溶存酸素存在のもとで水中の有機物を栄養源として好気性微生物が増殖・呼吸するときに消費される酸素量で、20℃5日間で消費される溶存酸素量(mg/l)を標準とする。一般的に水質汚濁を示す代表的な指標で、水質関係の各種法令で規制項目として採用されている。

^{注7} BOD及びCODにおける環境基準の達成状況は、公共用水域が通常の状態(河川にあつては低水流量以上の流量)にあるときの測定値によって判断することとなっている。しかし、低水流量時の水質の把握が非常に困難であるため、BOD及びCODについては測定された年度のデータのうち、75%以上のデータが基準値を達成することをもって評価することとしたものである。例えば、月一回の測定の場合、日平均値を水質の良いものから12個並べたとき、水質の良い方から9番目が75%値となる。この値が基準値に適合することをもって、当該測定地点において環境基準を達成しているとみなすこととされている。

^{注8} COD(Chemical Oxygen Demand)とは、水中の有機物等を過マンガン酸カリウム(KMnO₄)で化学的に酸化するとき消費される酸化剤の量を、対応する酸素量であらわしたものである。BODと同様、水質汚濁を示す代表的指標である。

^{注9} 総窒素、総リン：総窒素とは、窒素化合物全体を示し、総リンはリン化合物全体を示す。窒素、リンはともに動植物の増殖に欠かせない元素であり、植物プランクトンの増殖に関与するため、富栄養化の目安となるものである。

2) 環境基準の満足状況^{注10}

①環境基準の類型指定状況

環境基準の類型指定は、全国の一級河川109水系すべてについて行われている。このうち、直轄管理区間における類型指定延長は、全体で約9,220kmであり、その内訳はAA類型区間：約980km、A類型区間：約5,780km、B類型区間：約2,100km、C類型区間：約220km、D類型区間：約110km、E類型区間：約30kmとなっている。平成25年は、4地点において類型指定の見直され、15地点において新たに類型指定された。(表-10参照)。

表-10 類型指定見直し地点及び新たに類型指定された地点の一覧

平成24年	平成25年	地点数	備考
未	AA	1	見直し (4地点)
未	A	3	
—	A	6	新規 (15地点)
—	湖A	3	
—	未	6	

^{注10} 環境基準の満足状況

本報告は、国土交通省が河川管理者の立場から実施した全国一級河川の水質調査結果(平成25年1月～12月)をとりまとめたものである。

本報告で「満足」とする表現を用いている理由は、水質汚濁防止法に基づき年度毎に公共用水域の水質の汚濁状況を環境基準との比較で評価する場合の「達成」とする表現と区別するためである。

②調査地点の環境基準の満足状況

平成25年における類型指定区間内の調査地点は全国で974地点（河川875地点、湖沼97地点、海域2地点）となっている^{注11}。

これらの調査地点における環境基準を満足した地点の割合を表-11に示す。

平成25年の環境基準を満足した地点の割合は、河川は平成24年より1ポイント高い96%、湖沼は3ポイント低い39%であった。全体では平成24年と同じ90%で、過去2番目に高い値であった。

表-11 河川、湖沼、海域別環境基準を満足した地点数及び割合

	平成24年			平成25年		
	調査地点数	満足した地点数	割合	調査地点数	満足した地点数	割合
河川	866	826	95%	875	836	96%
湖沼	95	40	42%	97	38	39%
海域	2	1	50%	2	1	50%
全体	963	867	90%	974	875	90%

これらの調査地点について、BODまたはCODの環境基準を満足した地点の割合の経年変化を、年間総流出量の合計の経年変化及び低水流量の合計の経年変化と比較したものが図-7(1)、図-7(2)である。

環境基準を満足した地点の割合は、年間総流出量の合計と同様な傾向の変動を示しつつ、経年的にみると増加の傾向を示している。

^{注11} 調査地点としては977地点であるが、平成25年に観測を行ったのは974地点で、川内川水系川内川/鶴田ダムST-II、鶴田ダム監視点-I、鶴田ダム監視点-ロの3地点では、観測を行っていない。なお、琵琶湖については調査地点が多いことから、環境基準点のみを評価対象とした。

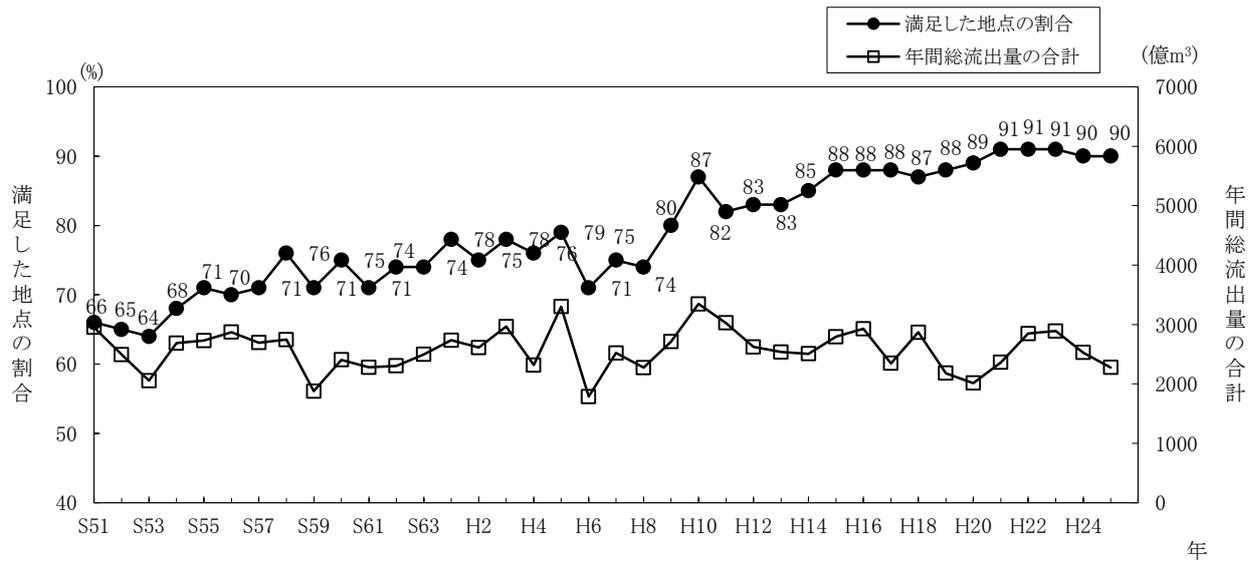


図-7(1) 一級河川(湖沼及び海域も含む。)において環境基準を満足した地点の割合と年間総流出量の合計の経年変化(全国)

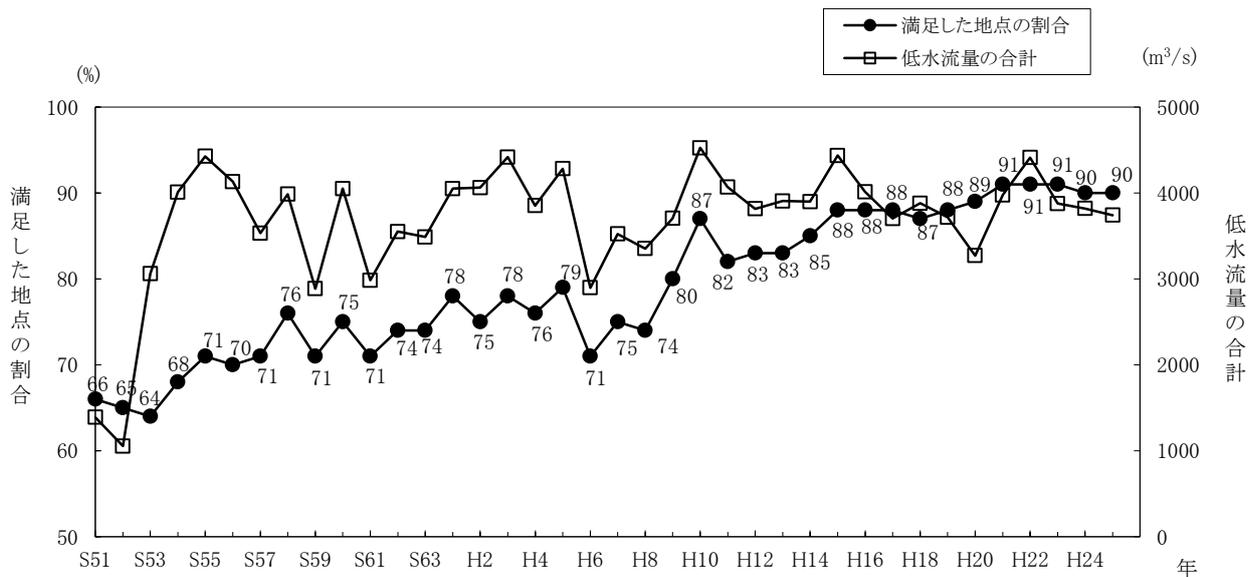


図-7(2) 一級河川(湖沼及び海域も含む。)において環境基準を満足した地点の割合と低水流量の合計の経年変化(全国)

昭和50年代前半（昭和51年～55年）、昭和60年代（昭和60年～平成2年）及び過去5ヵ年（平成20年～24年）の年間総流出量の合計と環境基準を満足した地点の割合との関係を図-8に示す。

それぞれの年代についてみると、昭和50年代前半及び昭和60年代は、年間総流出量の合計が大きいほど環境基準を満足する地点の割合が増加する傾向がみられる。一方、過去5ヵ年は年間総流出量の合計にかかわらず、環境基準を満足する地点の割合はほぼ一定となっている。各年代間で比較すると、年間総流出量の合計が同程度の場合でも、近年になるほど環境基準を満足した地点の割合は上昇しており、水質改善が進んでいるといえる。

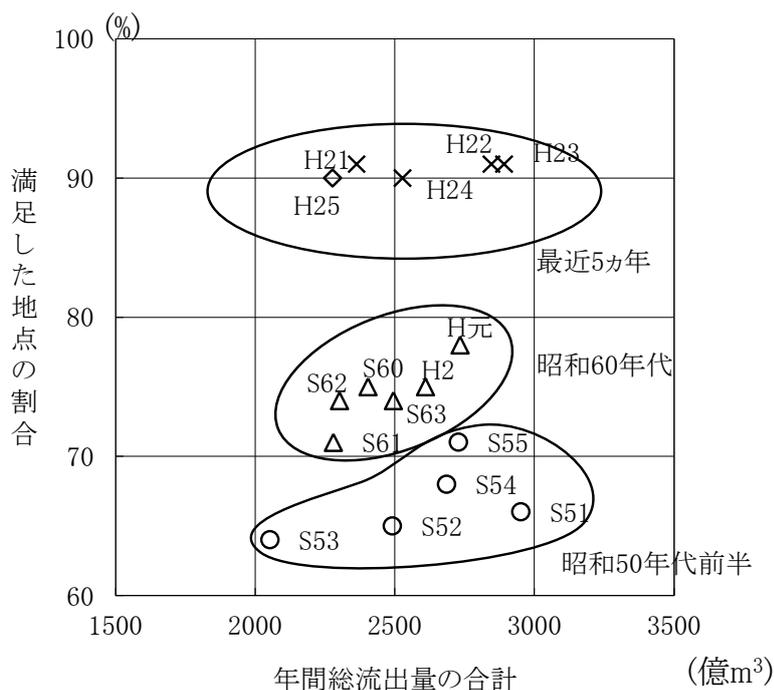
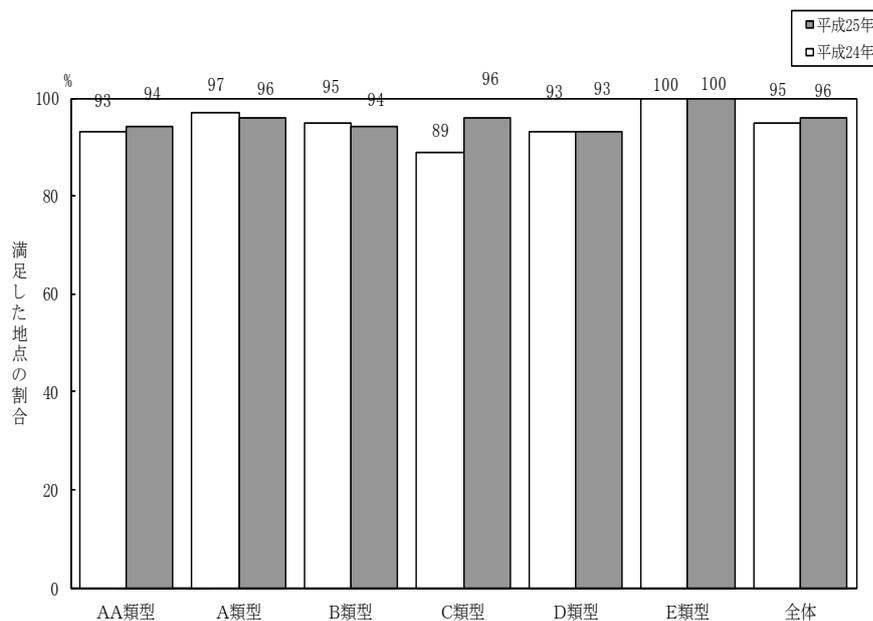


図-8 年間総流出量の合計と環境基準を満足した地点の割合との関係
 (○:昭和51年～55年、△:昭和60年～平成2年、×:平成21年～24年、◇:平成25年)

③類型別の環境基準の満足状況

平成25年における類型指定区間内の調査地点974地点のうち、環境基準を満足した地点の類型別割合を、河川及び湖沼についてそれぞれ図-9(1)、図-9(2)に示す。

河川における環境基準^{注12}を満足した地点の割合は、C類型は増加、その他の類型は同程度であり、全体としては平成24年と同程度の96%であった。E類型については、前年に引き続き全ての調査地点で環境基準を満足していた。



調査地点数	平成24年	503	203	45	15	4	866
	平成25年	96	513	203	45	15	4

図-9(1) 一級河川における環境基準を満足した地点の類型別割合 (河川)

^{注12} 河川における環境基準

- A A類型 : BOD 1mg/ℓ以下
- A 類型 : BOD 2mg/ℓ以下
- B 類型 : BOD 3mg/ℓ以下
- C 類型 : BOD 5mg/ℓ以下
- D 類型 : BOD 8mg/ℓ以下
- E 類型 : BOD 10mg/ℓ以下

また、湖沼における環境基準^{注13}を満足した地点の割合は、A類型は減少、B類型は同じであり、全体としては平成24年より3ポイント低い39%であった。AA類型については、前年に引き続きすべての地点で環境基準を満足できなかった。

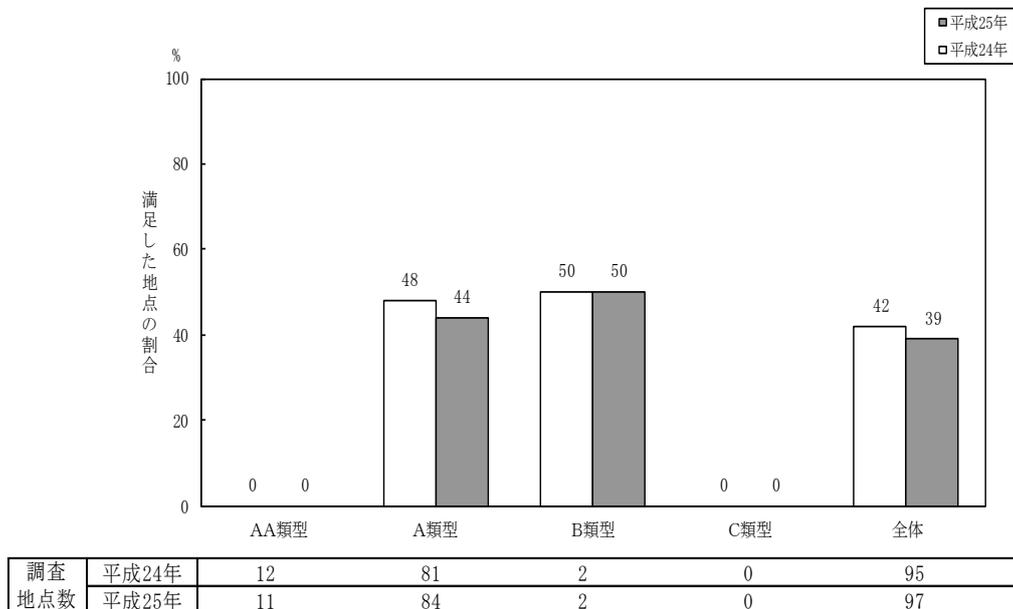


図-9(2) 一級河川における環境基準を満足した地点の類型別割合（湖沼）^{注14}

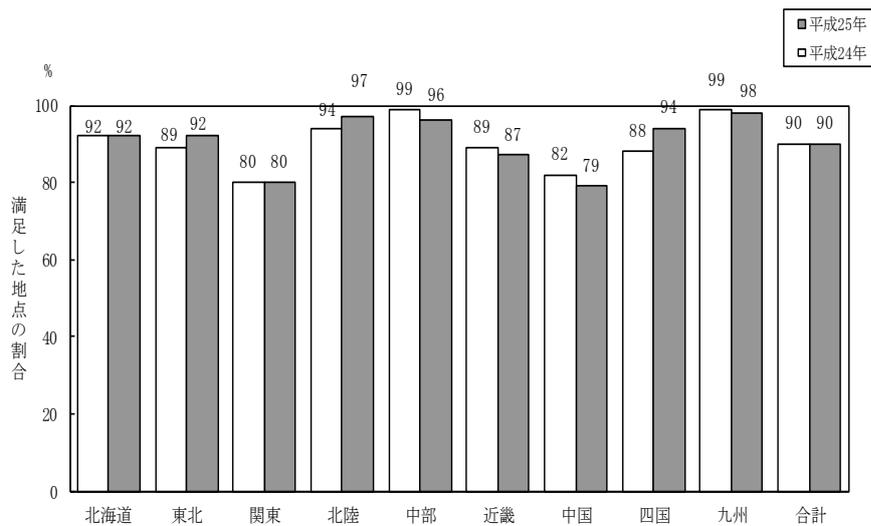
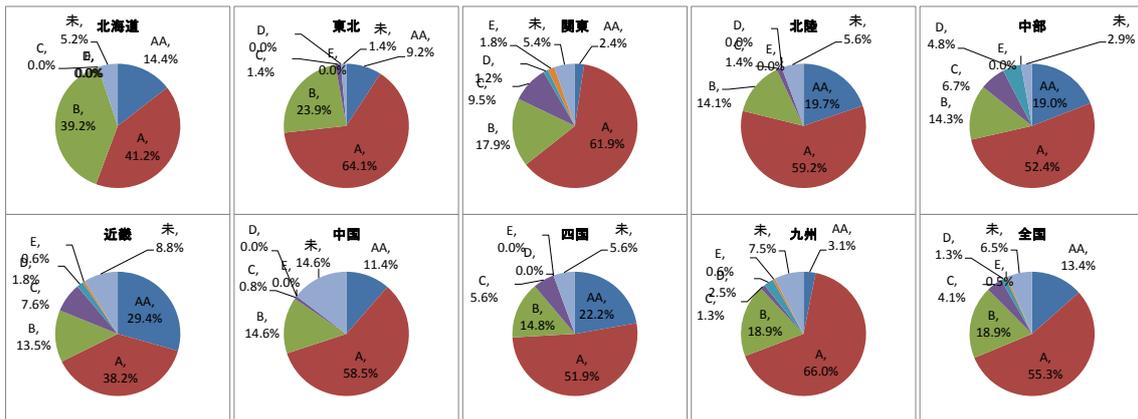
^{注13} 湖沼における環境基準

- AA類型 : COD 1mg/ℓ以下
- A類型 : COD 3mg/ℓ以下
- B類型 : COD 5mg/ℓ以下
- C類型 : COD 8mg/ℓ以下

^{注14} 湖沼における調査地点は100地点であるが、川内川水系川内川/鶴田ダムST-II、鶴田ダム監視点-I、鶴田ダム監視点-ロの3地点（いずれも湖A類型）において観測を行っておらず、これを除いて集計している。

④地方別の環境基準の満足状況

各地方の類型指定割合と環境基準を満足した地点の地方別割合を図-10に示す。前年との比較では、中部で3ポイント、近畿で2ポイント、中国で3ポイント減少し、東北で3ポイント、北陸で3ポイント、四国で6ポイント増加し、全体としては同程度であった。



調査地点数	平成24年	平成25年
北海道	92	92
東北	133	137
関東	159	159
北陸	68	67
中部	102	102
近畿	114	115
中国	97	105
四国	51	50
九州	147	147
合計	963	974

図-10 一級河川（湖沼及び海域を含む）における環境基準を満足した地点の地方別割合

環境基準を満足した地点の地方別割合の経年変化を図-11に示す。いずれの地方も経年的には横ばいまたは増加の傾向を示している。

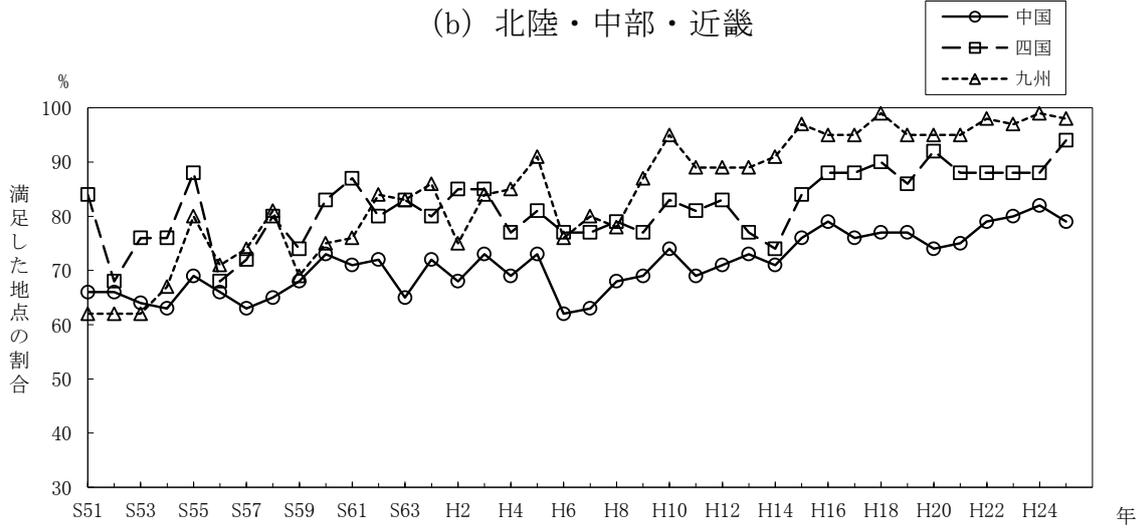
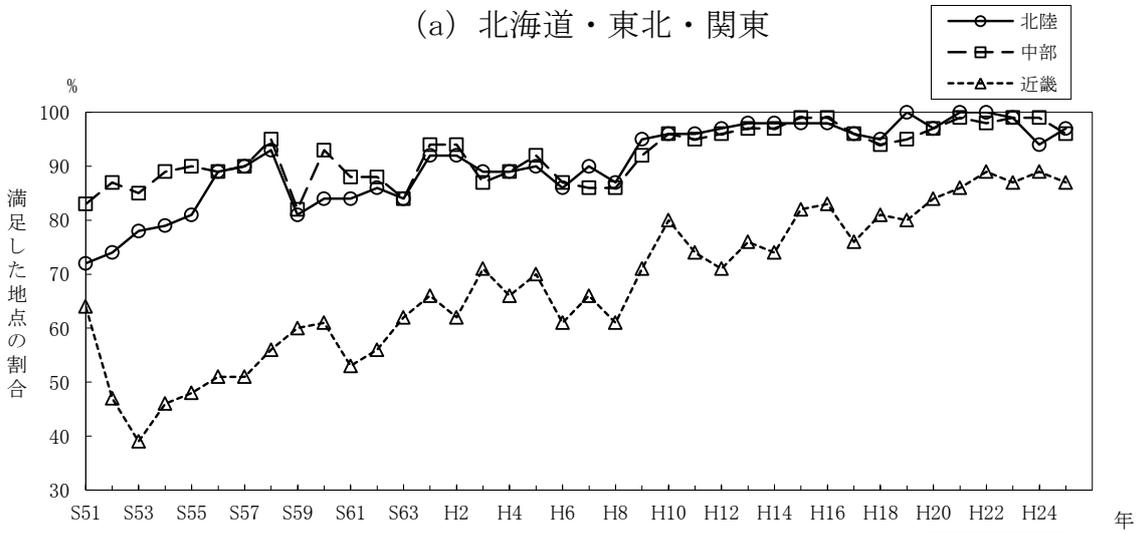
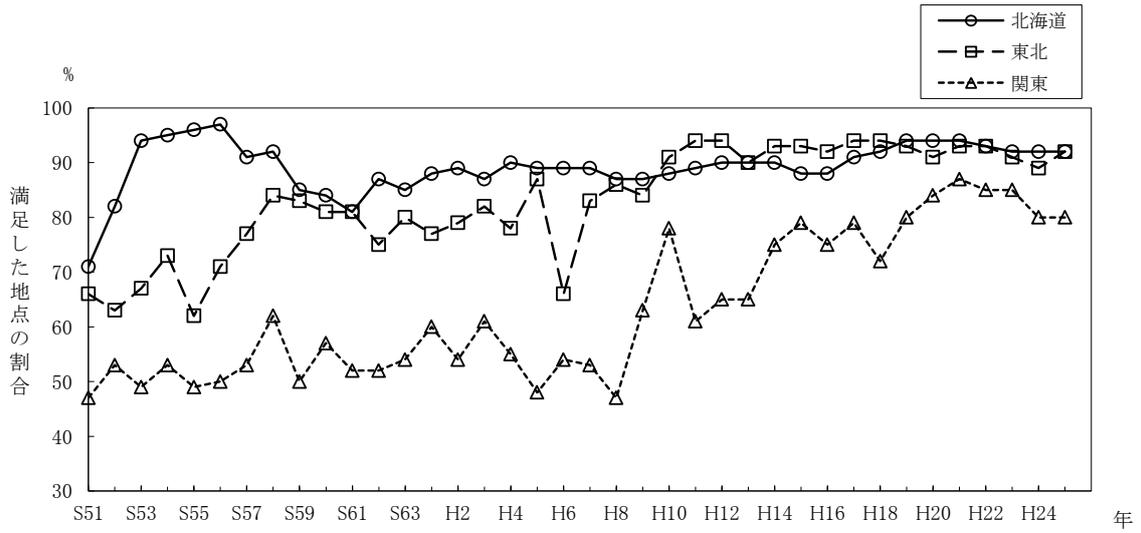


図-11 一級河川（湖沼及び海域を含む）における環境基準を満足した地点の
地方別割合の経年変化

⑤水系別の環境基準の満足状況

水系別の環境基準の満足状況を見ると、すべての調査地点が環境基準を満足した水系数は、表-12に示すとおり、109水系中79水系であり全体の約77%にあたる。なお、水系毎の環境基準を満足した地点の割合を参考資料2に示す。

また、すべての調査地点が環境基準を満足した水系数の経年変化を図-12に示す。平成25年は前年の水系数より8水系減少した。

表-12 すべての調査地点が環境基準を満足した水系数とその割合

地方名	水系数	すべての調査地点が環境基準を満足した水系数とその割合 (%)			
		平成24年		平成25年	
		水系数	割合	水系数	割合
北海道	13	11	(85)	11	(85)
東北	12	8	(67)	6	(50)
関東	8	6	(75)	6	(75)
北陸	12	10	(83)	10	(83)
中部	13	12	(92)	9	(69)
近畿	10	8	(80)	6	(60)
中国	13	10	(77)	9	(69)
四国	8	3	(38)	5	(63)
九州	20	19	(95)	17	(85)
全国	109	87	(80)	79	(77)

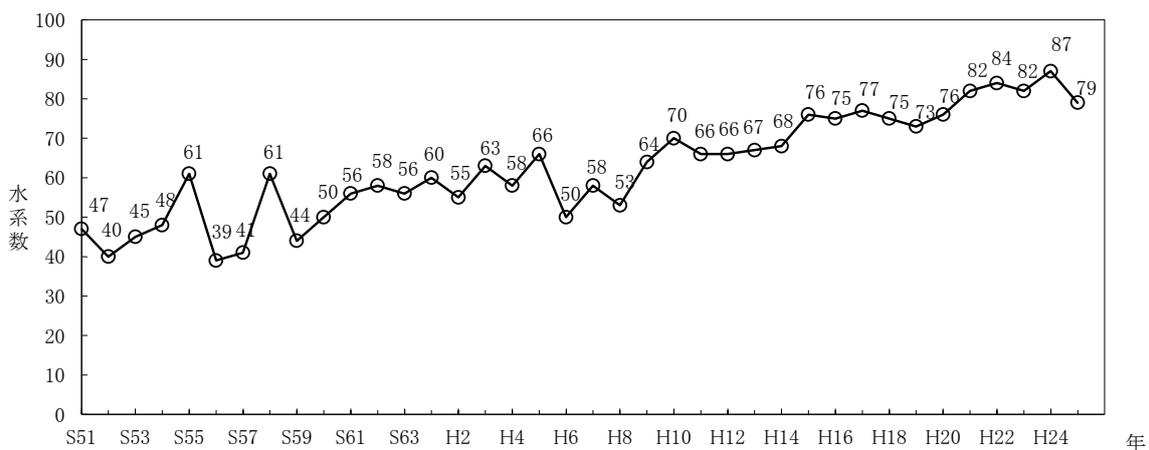


図-12 すべての調査地点が環境基準を満足した水系数の経年変化(全国)

3) 調査地点の類型指定状況と水質状況

一級河川の全調査地点のうち主要な地点について、各調査地点の環境基準の類型指定状況及びBOD75%値（またはCOD75%値）のランク別の水質状況を図-13に示す。全国的にみると大都市部を流れる一部の河川や湖沼を除き、概ね良好な水質が確保されていることがわかる。

なお、全調査地点の類型指定、平成25年のBOD（COD）平均値及び75%値は、「参考資料5 一級河川の全調査地点の水質」に示す。

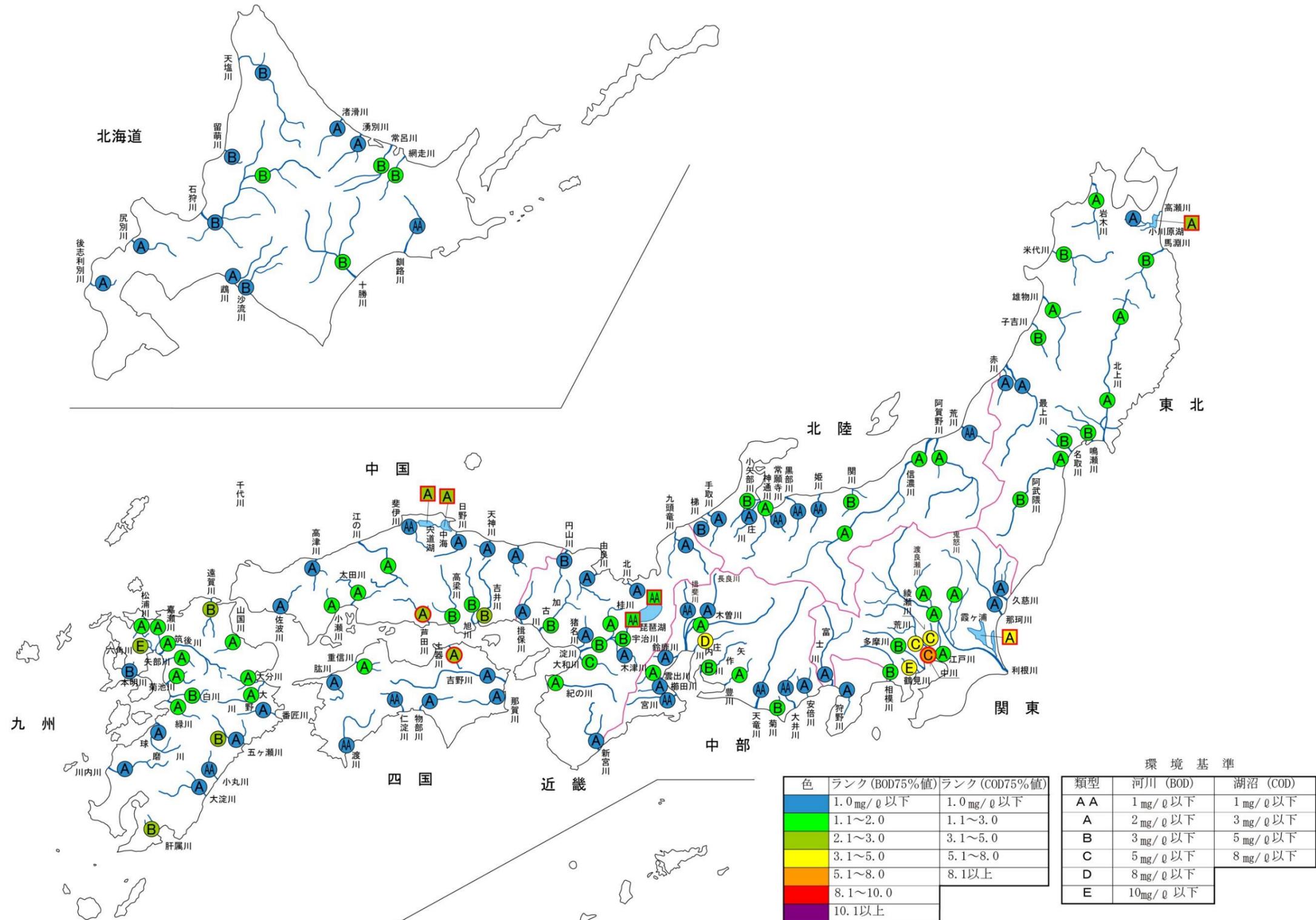


図-13 平成25年一級河川の水質状況図
(河川主要地点はBOD75%値 湖沼主要地点はCOD75%値)



4) 調査地点のランク別水質状況

全調査地点のうち、河川（湖沼等を除く。以下「河川」という。）におけるBODを観測した883地点^{注11}について、BOD75値のランク別割合を図-14に示す。

河川におけるBOD75値のランク別割合は、1.0mg/ℓ以下が48.6%、1.1～2.0mg/ℓが38.7%と大きな割合を占める。また、3.0mg/ℓ以下^{注12}の合計は、平成24年と同程度の94.6%であった。

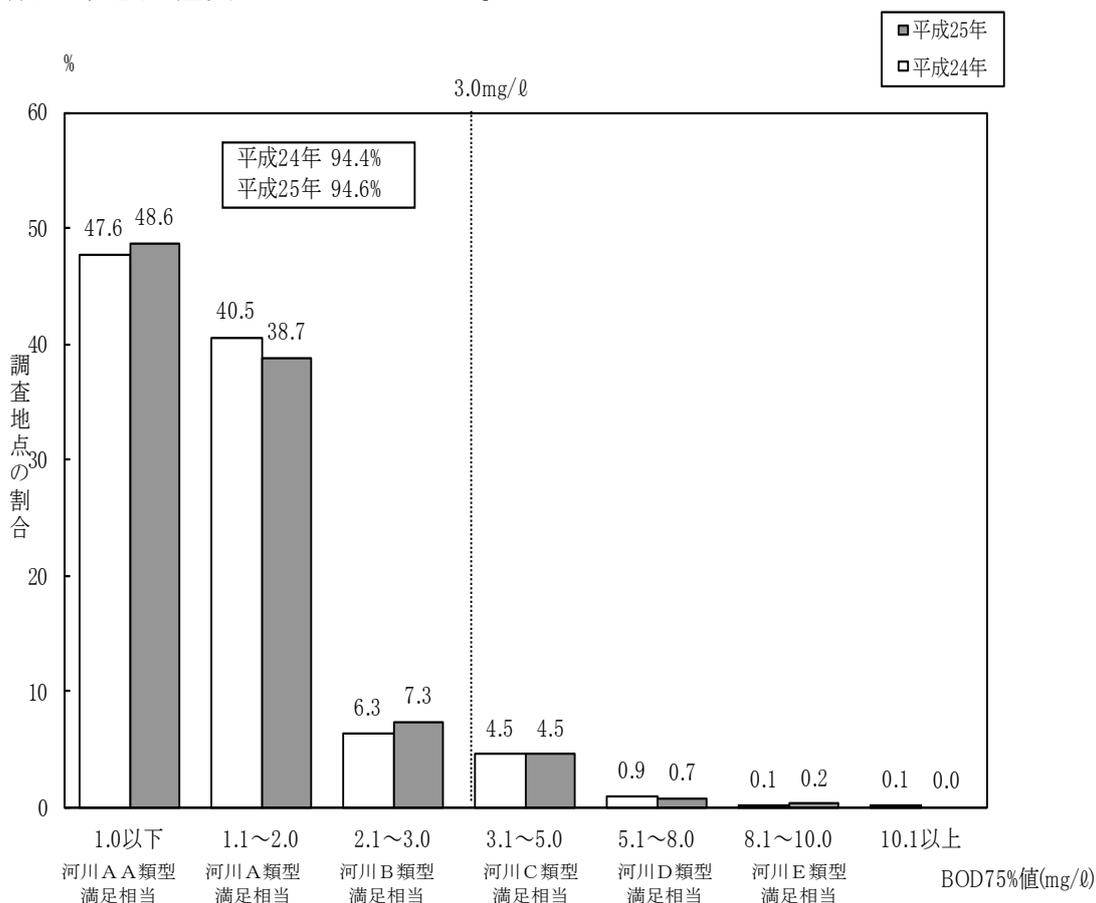


図-14 BOD75値ランク別割合（河川）

注11 河川の調査地点としては886地点であるが、BOD観測を行わない調査地点が3地点ある。

注12 水道1級～水道3級に相当。

水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの

水道2級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの

水道3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの

湖沼、海域及びダム貯水池（以下「湖沼等」という。）における調査地点199地点^{注13}について、COD75%値及び総窒素、総リン平均値のランク別割合をそれぞれ図-15(1)～図-15(3)に示す。

湖沼等における COD75%値のランク別割合は、1.1～3.0mg/ℓ の割合が60.3%と最も大きい。また、3.0mg/ℓ 以下^{注12}の合計は60.8%と、平成24年より3.7ポイント増加した。

総窒素平均値のランク別割合は、0.21～0.40mg/ℓ の割合が49.5%と最も大きい。また、0.40mg/ℓ 以下^{注12}の合計は、平成24年より1.5ポイント増加し全体の53.0%を占めている。

総リン平均値のランク別割合は、0.011～0.030mg/ℓ の割合が39.9%と最も大きく、次いで0.006～0.010mg/ℓ の割合が26.3%となっている。0.030mg/ℓ 以下^{注12}の合計は、平成24年より4.3ポイント低下し全体の70.2%を占めている。

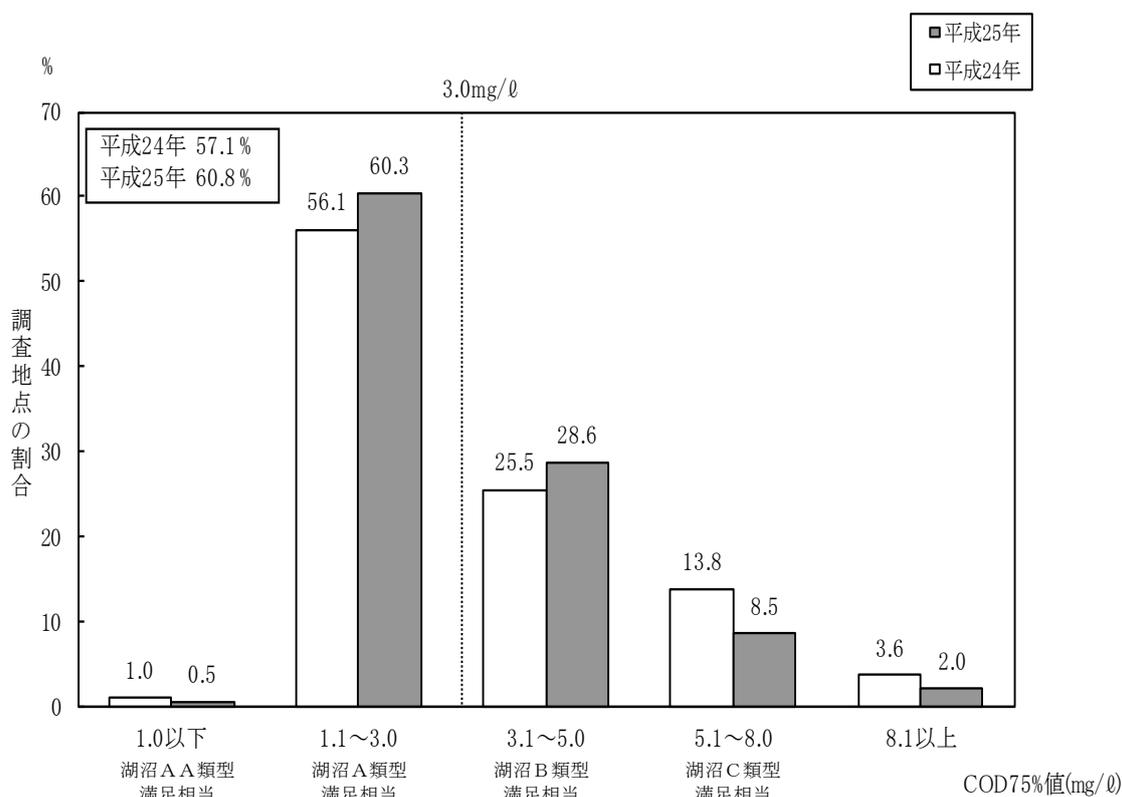


図-15(1) COD75%値ランク別割合（湖沼等）

^{注13} 湖沼等における調査地点としては202地点であるが、3地点(川内川水系川内川/鶴田ダムST-II、鶴田ダム監視点-I、鶴田ダム監視点-ロ)で未観測である。

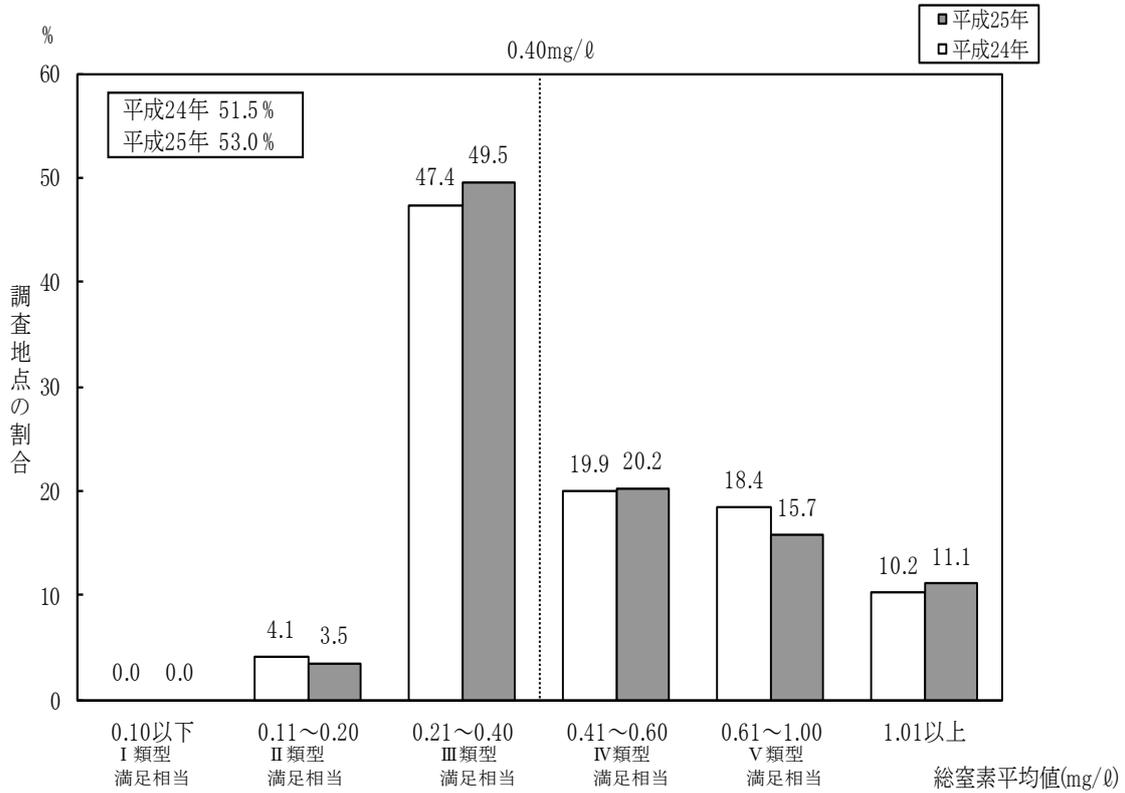


図-15(2) 総窒素平均値ランク別割合 (湖沼等)

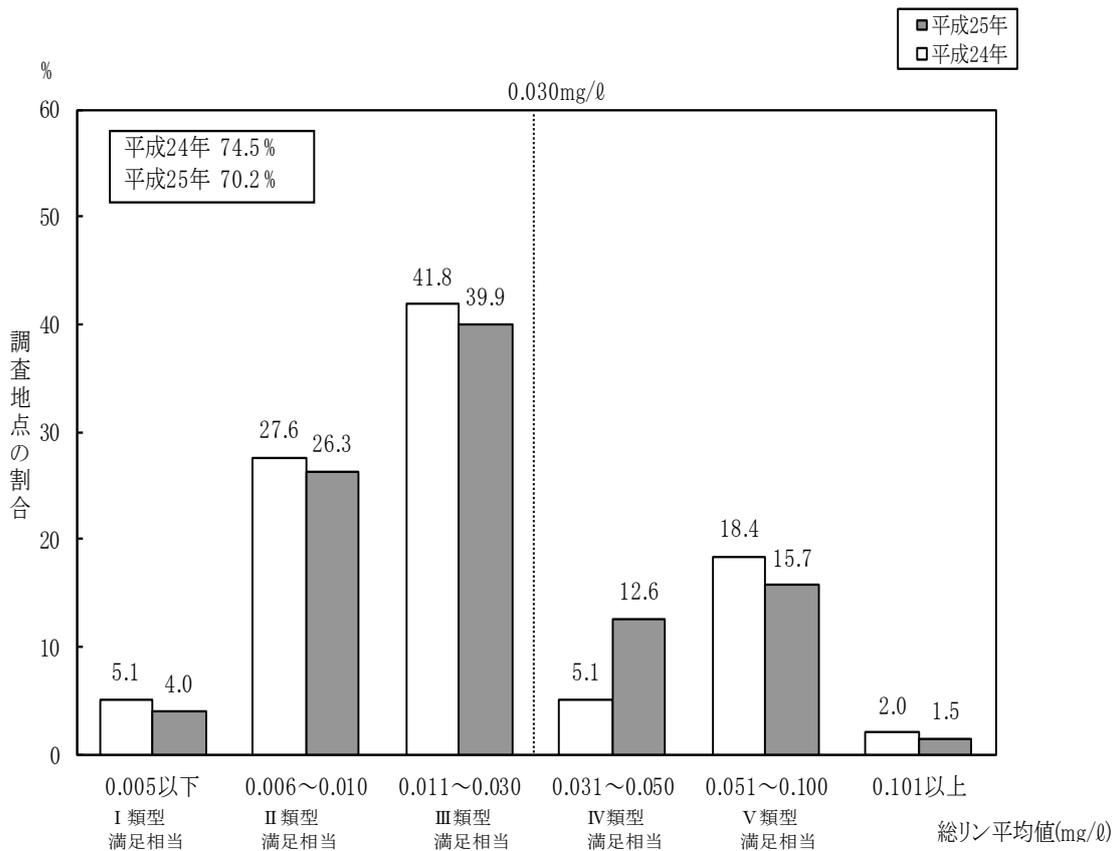


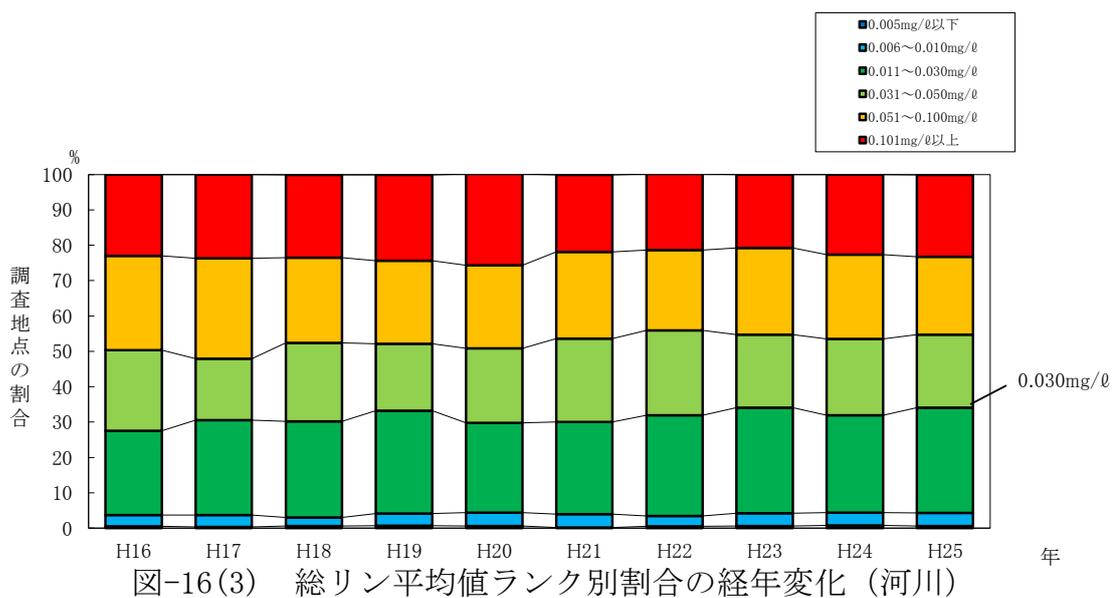
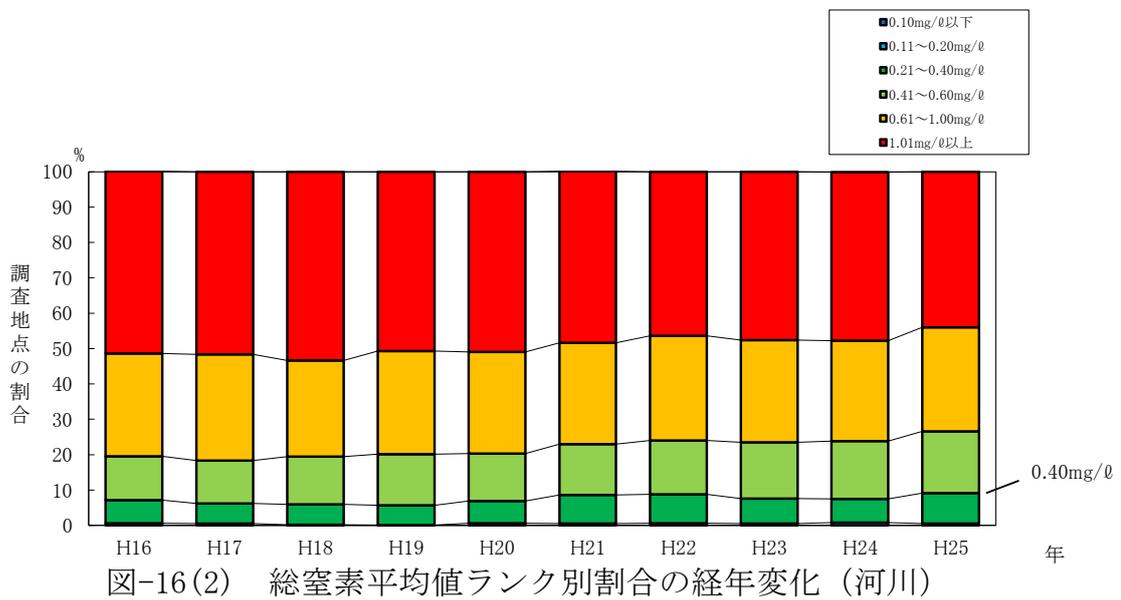
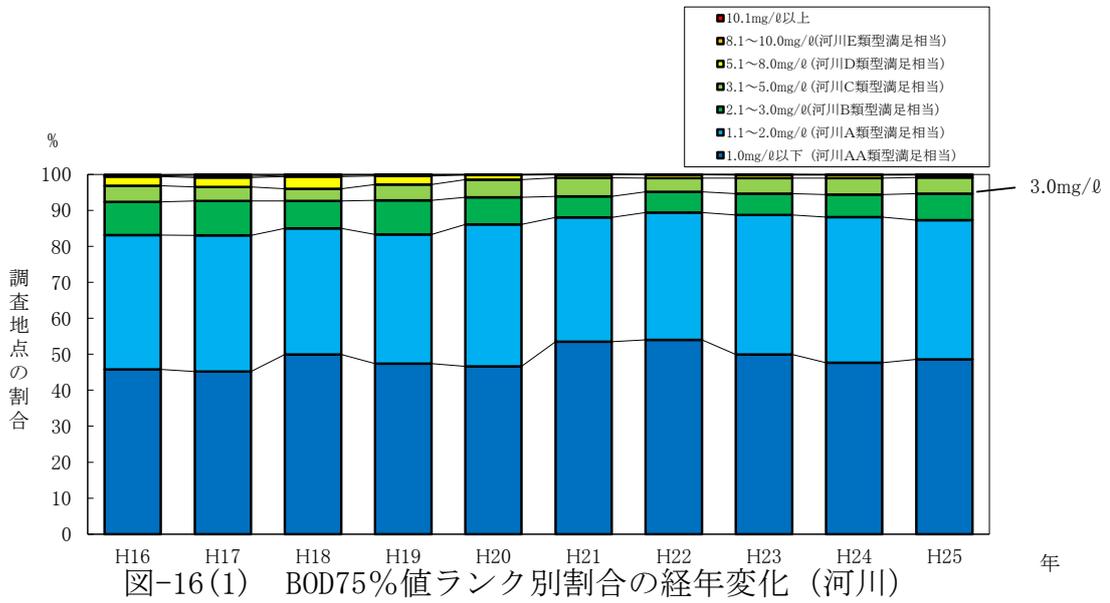
図-15(3) 総リン平均値ランク別割合 (湖沼等)

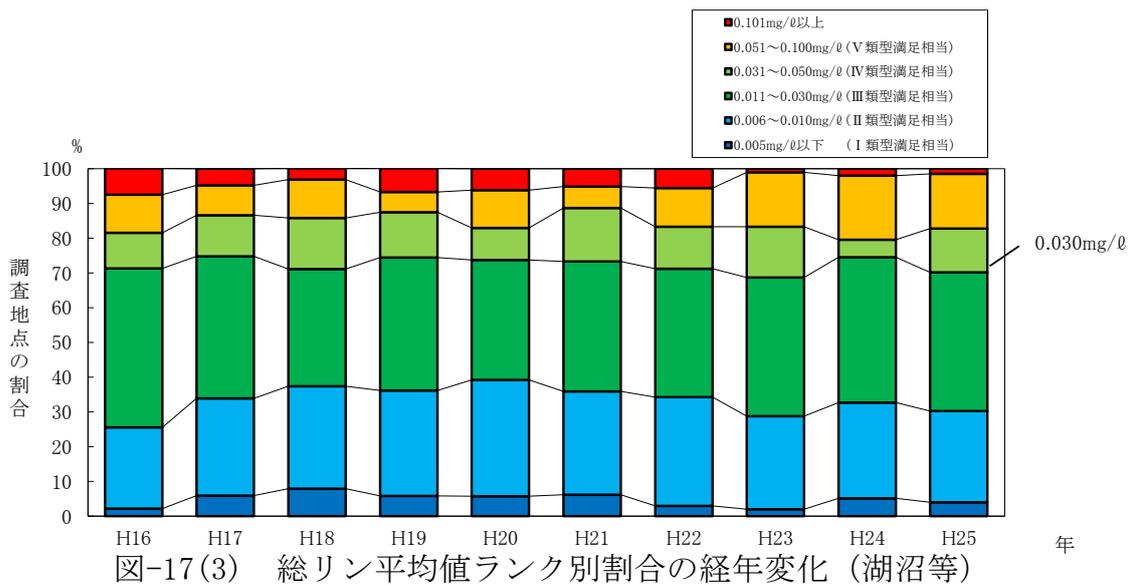
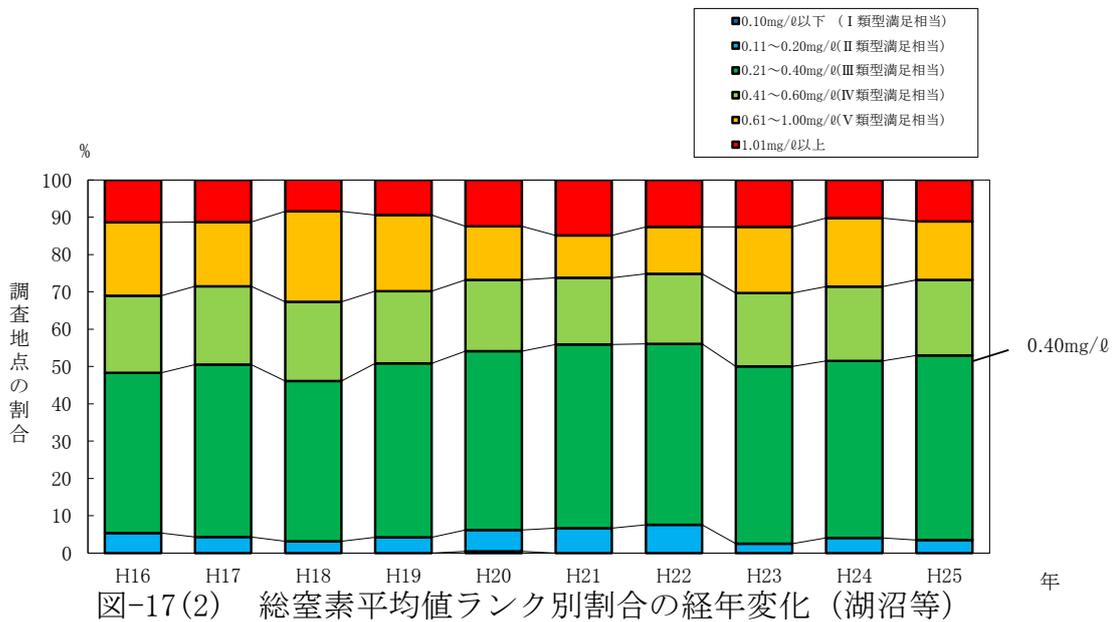
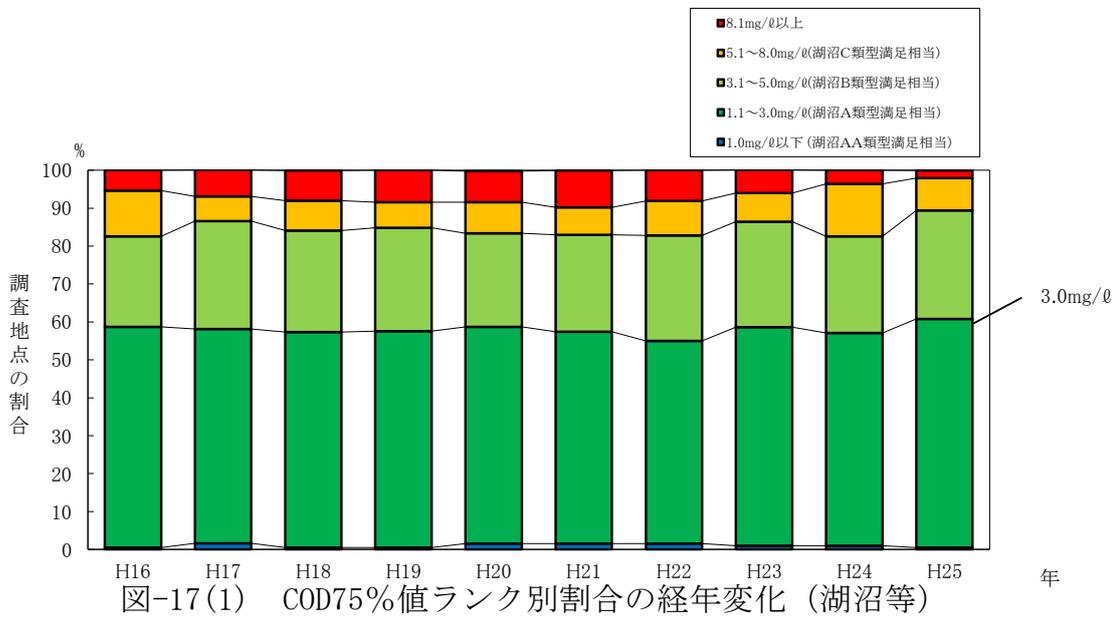
河川のBOD75%値及び総窒素、総リン平均値のランク別割合のここ10年間の経年変化を、それぞれ図-16(1)～図-16(3)に、湖沼等のCOD75%値及び総窒素、総リン^{注14}平均値のランク別割合の経年変化を同様にそれぞれ図-17(1)～図-17(3)に示す。

河川の水質のうち、BOD75%値の3.0mg/ℓ以下（河川B類型満足相当）の割合については、平成16年以降はほぼ横ばいである。総窒素平均値の0.40mg/ℓ以下の割合は、ここ10年間ほぼ横ばいの傾向を示している。総リン平均値の0.030mg/ℓ以下の割合は、最近10年間ほぼ横ばいの傾向を示している。

湖沼等の水質のうち、COD75%値の3.0mg/ℓ以下（湖沼A類型満足相当）の割合、総窒素平均値の0.40mg/ℓ以下（Ⅲ類型満足相当）の割合及び総リン平均値の0.030mg/ℓ以下（Ⅲ類型満足相当）の割合については、ここ10年間ほぼ横ばいの傾向を示している。

^{注14} 湖沼等の閉鎖性水域においては、総窒素及び総リンは、富栄養化現象の原因物質となる。





5) 河川及び湖沼の代表地点の水質状況の経年変化

各地方を代表する主要河川及び都市河川の代表地点について、BOD75%値の経年変化をそれぞれ図-18(1)～図-18(3)、図-19に示す。

各地方の主要河川の代表地点は、最近ではBOD75%値が概ね2.0mg/ℓ以下の良好な水質を維持している。

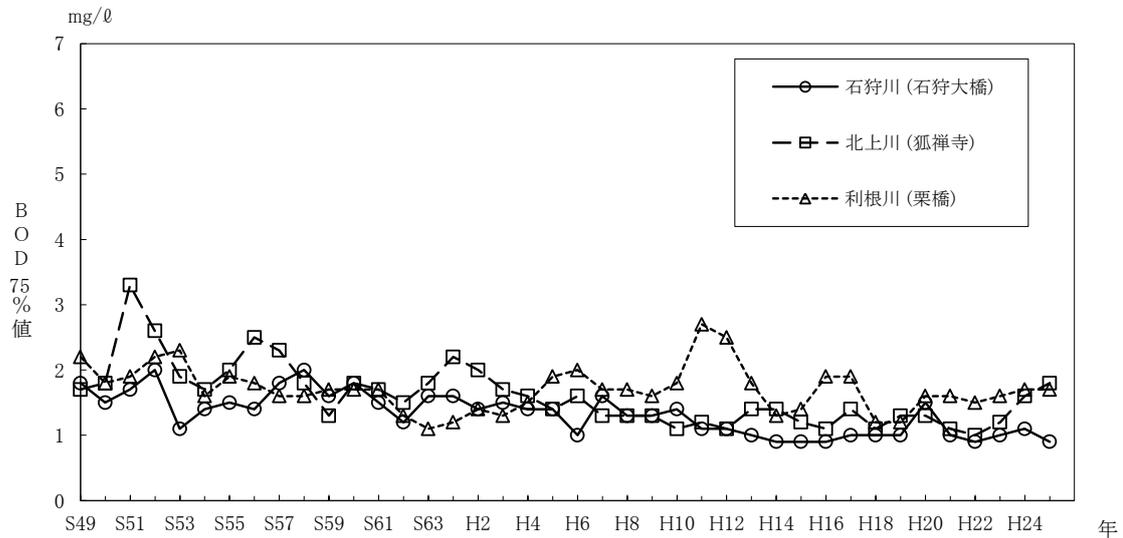


図-18(1) 主要河川の代表地点におけるBOD75%値の経年変化

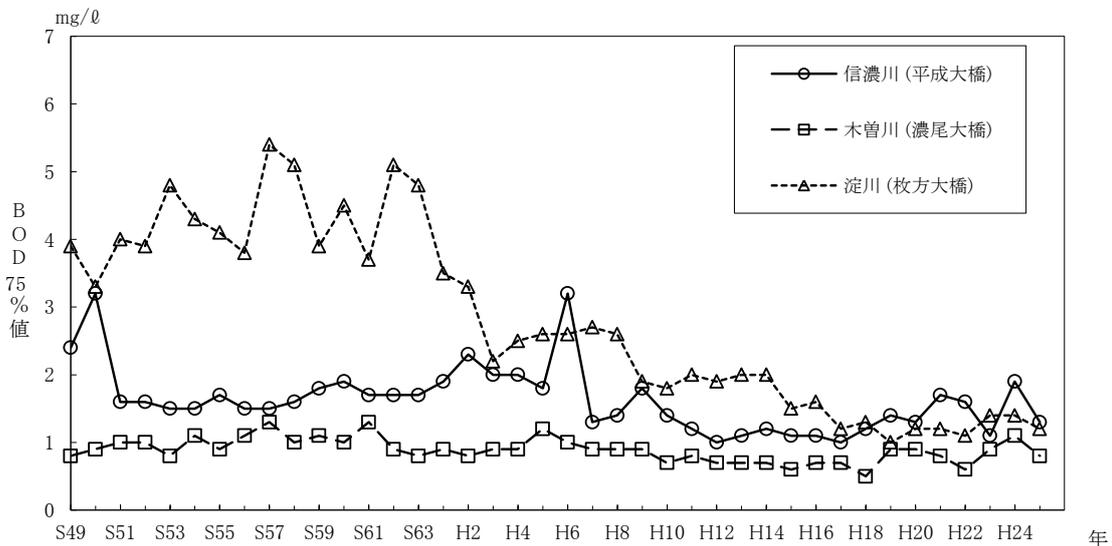


図-18(2) 主要河川の代表地点におけるBOD75%値の経年変化

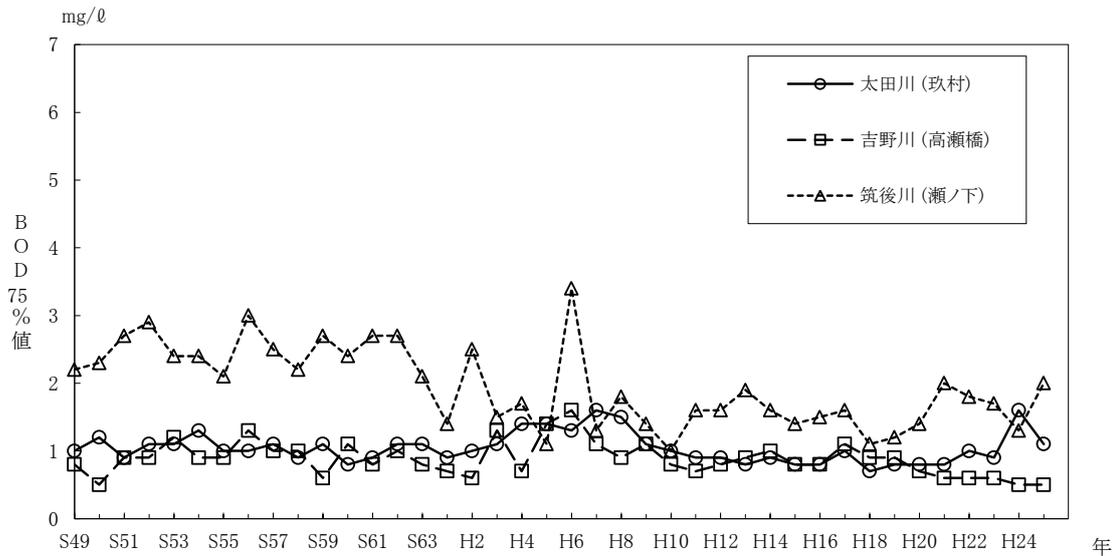


図-18(3) 主要河川の代表地点におけるBOD75%値の経年変化

大和川等の都市河川の水質は、かつて汚濁が著しかったが、近年かなり改善されてきている。平成25年のBOD75%値は、多摩川（田園調布堰（上））で1.9mg/l、大和川（浅香新取水口）で1.7mg/l、鶴見川（大綱橋）で3.6mg/l、綾瀬川（手代橋）で4.6mg/lとなっている。

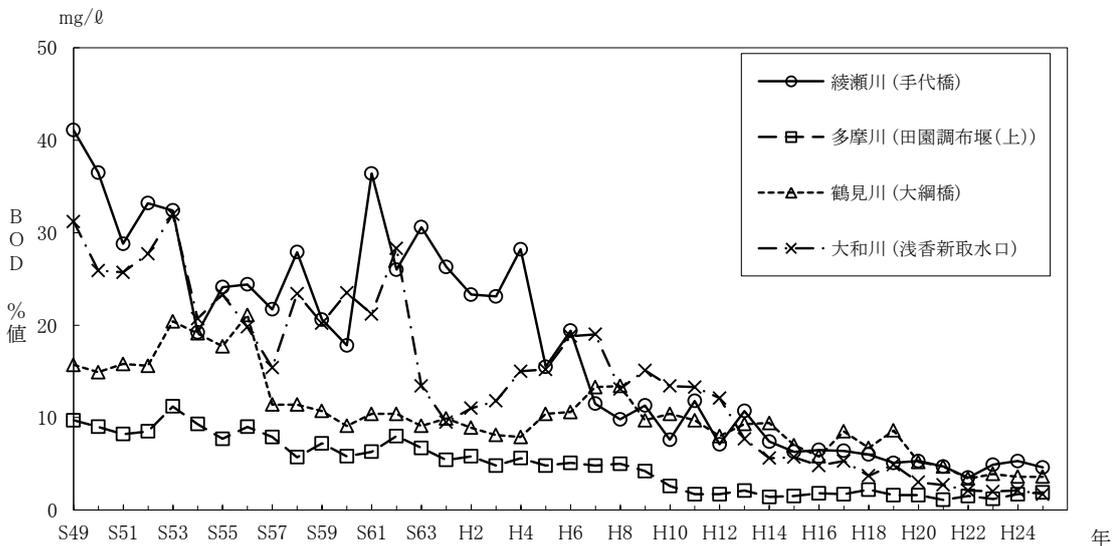


図-19 都市河川の代表地点におけるBOD75%値の経年変化

霞ヶ浦、琵琶湖、中海、宍道湖といった主要湖沼のCOD75%値及び総窒素、総リン平均値の経年変化を図-20(1)～図-20(5)に示す。

主要湖沼におけるCOD、総窒素、総リンの環境基準は表-13に示すとおりであり、図中に参考としてそれぞれの環境基準値を1本の実線で併記している。

主要湖沼は、環境基準を満足した地点の割合が小さい。

表-13 主要湖沼の類型と環境基準

ア. COD (化学的酸素要求量)

水系名	水域名	該当類型	環境基準 (COD)
利根川	霞ヶ浦 (全域) 北浦 (全域 (鱒川を含む)) 常陸利根川 (全域)	A	3mg/ℓ
淀川	琵琶湖(1) (琵琶湖大橋より北側) 琵琶湖(2) (琵琶湖大橋より南側)	AA	1mg/ℓ
斐伊川	中海 (中海及境水道) 宍道湖 (大橋川を含む)	A	3mg/ℓ

イ. 窒素及びリン

水系名	水域名	該当類型	環境基準
利根川	霞ヶ浦 (全域) 北浦 (全域 (鱒川を含む)) 常陸利根川 (全域)	III	総窒素 : 0.4mg/ℓ 総リン : 0.03mg/ℓ
淀川	琵琶湖(1) (琵琶湖大橋より北側) 琵琶湖(2) (琵琶湖大橋より南側)	II	総窒素 : 0.2mg/ℓ 総リン : 0.01mg/ℓ
斐伊川	中海 (中海及境水道) 宍道湖 (大橋川を含む)	III	総窒素 : 0.4mg/ℓ 総リン : 0.03mg/ℓ

霞ヶ浦の湖心地点では、総リンは長期的には増加傾向にあったが、近年、減少傾向がみられる。

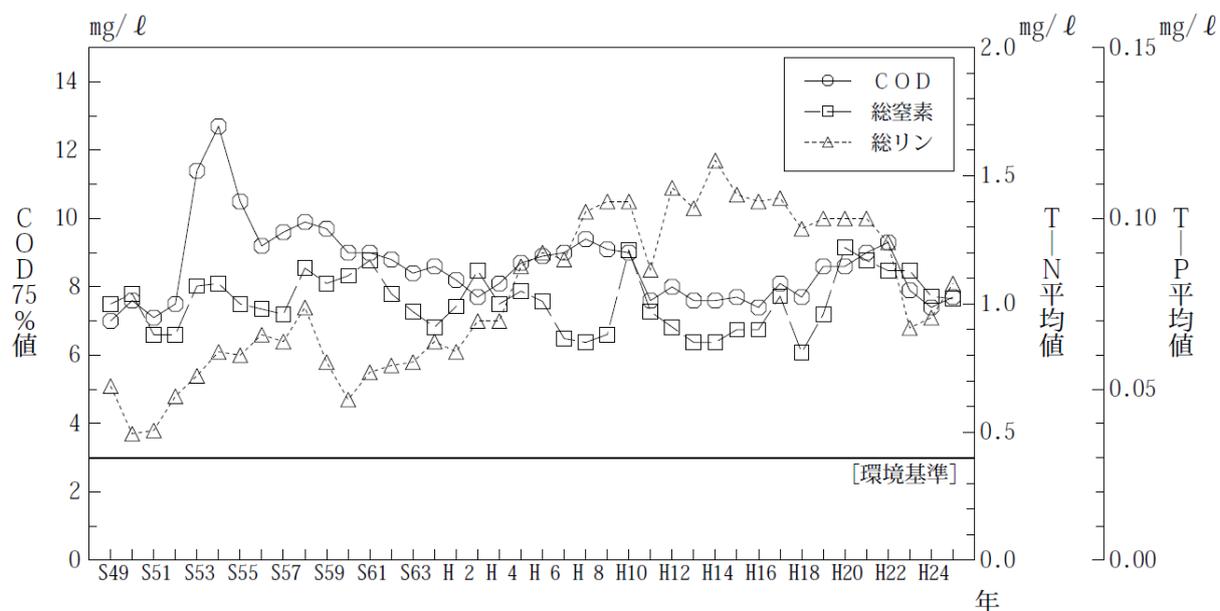


図-20(1) 主要湖沼代表地点における水質の経年変化
霞ヶ浦 湖心 (湖沼A, III)

琵琶湖の北湖安曇川沖中央地点では、CODは長期的には増加傾向を示している。総窒素については、若干変動はあるものの概ね横ばいである。総リンは環境基準を近年満足している。

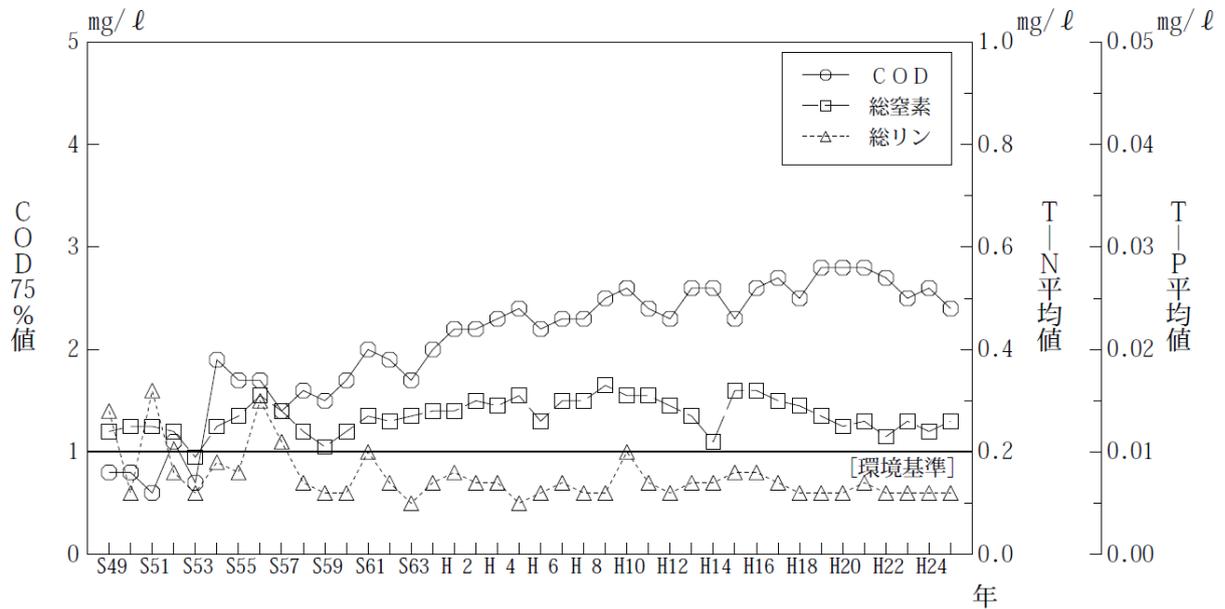


図-20(2) 主要湖沼代表地点における水質の経年変化
琵琶湖（北湖） 安曇川沖中央（湖沼AA, II）

琵琶湖の南湖大宮川沖中央地点では、CODは近年ほぼ横ばいである。総窒素及び総リンは近年、減少傾向を示している。

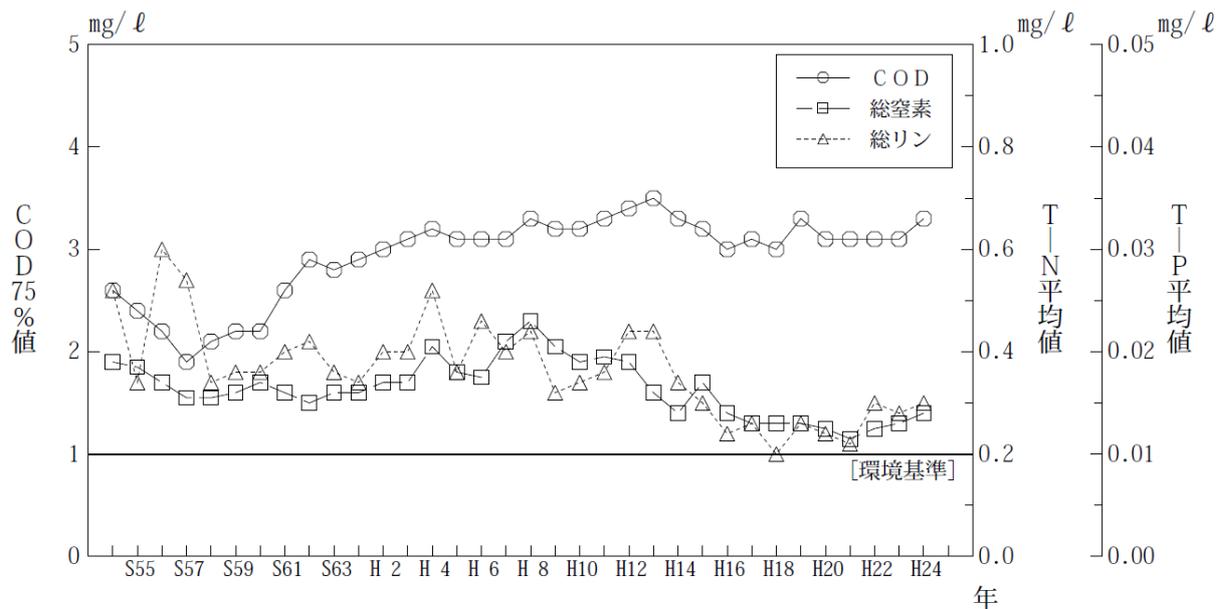


図-20(3) 主要湖沼代表地点における水質の経年変化
琵琶湖（南湖） 大宮川沖中央（湖沼AA, II）

中海の湖心地点では、COD、総窒素及び総リンとも変動はあるものの、長期的には概ね横ばい傾向を示している。

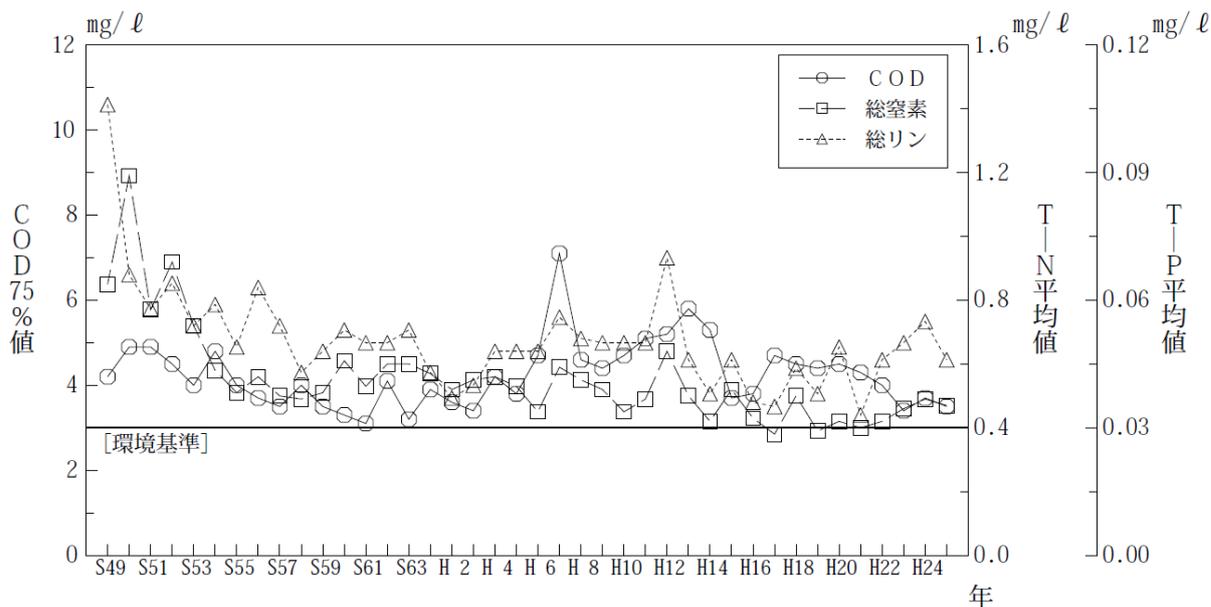


図-20(4) 主要湖沼代表地点における水質の経年変化
中海 湖心 (湖沼A, III)

宍道湖のNo.3湖心地点では、COD及び総窒素については、変動はあるものの、長期的には概ね横ばい傾向を示している。総リンは平成24年に0.100 mg/lと増加していたが、平成25年には0.050mg/lになり、もとの水質レベルに戻った。

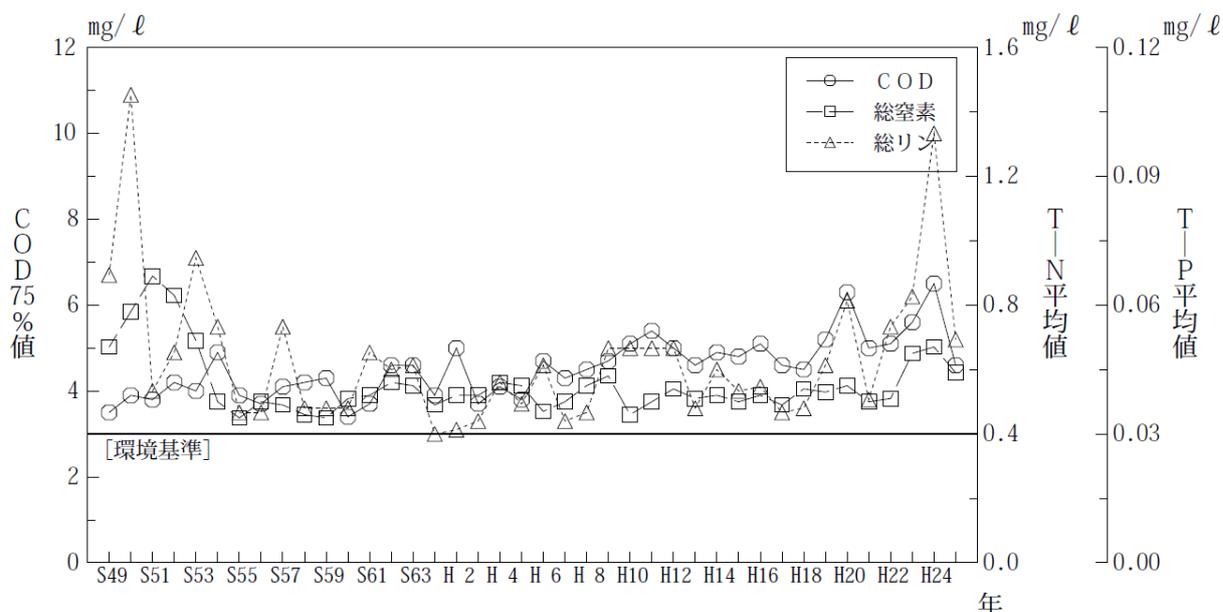


図-20(5) 主要湖沼代表地点における水質の経年変化
宍道湖No.3:湖心 (湖沼A, III)

(4) 人の健康の保護に関する環境基準項目

1) 環境基準項目

「人の健康の保護に関する環境基準」(以下「健康項目」という。)は、環境基本法に基づき公共用水域に一律に適用されるものとして、27項目が定められている(参考資料3参照)。

平成25年の調査結果について、表-14に地方別の調査地点数及び調査検体数を、表-15に項目別の調査地点数及び調査検体数を示す。

平成25年は全国854地点で調査を実施し、健康項目の総調査検体数は37,823検体にのぼっている。

このうち環境基準を満足できなかった地点は、砒素は1地点であり、表-16(1)のとおりである。ほう素は3地点であり、表-16(2)のとおりである。全体ではのべ4地点である。その他の調査地点においては環境基準を満足した。

環境基準を満足できなかった項目のうち、砒素は自然に由来するものと推定される。

また、ほう素が基準値を超過した調査地点は、感潮区間内にある地点がほとんどであり、海水の影響を受けたものと推定される。

表-14 健康項目の総調査地点数及び調査検体数

地方名	調査地点数	調査検体数
北海道	85	3,506
東北	110	4,568
関東	157	7,099
北陸	54	2,680
中部	92	5,079
近畿	137	7,215
中国	96	3,890
四国	43	2,035
九州	80	1,751
全国	854	37,823

表-15 健康項目の水質調査結果

項目名	調査地点数	調査検体数	超過地点数
カドミウム	692	1,832	—
全シアン	677	1,776	—
鉛	766	2,732	—
六価クロム	678	1,752	—
砒素	761	2,693	1
総水銀	683	1,844	—
アルキル水銀	102	210	—
P C B	618	794	—
ジクロロメタン	630	1,159	—
四塩化炭素	638	1,094	—
1, 2-ジクロロエタン	627	1,097	—
1, 1-ジクロロエチレン	627	1,080	—
シス-1, 2-ジクロロエチレン	628	1,089	—
1, 1, 1-トリクロロエタン	638	1,100	—
1, 1, 2-トリクロロエタン	625	1,078	—
トリクロロエチレン	655	1,140	—
テトラクロロエチレン	654	1,160	—
1, 3-ジクロロプロペン	624	1,017	—
チウラム	624	984	—
シマジン	624	984	—
チオベンカルブ	624	984	—
ベンゼン	626	1,076	—
セレン	639	1,134	—
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	684	4,190	—
ふっ素	628	1,500	—
ほう素	613	1,317	3
1, 4-ジオキサン	525	1,007	—
合計	16,910	37,823	4

表-16(1) 健康項目の環境基準を満足できなかった地点（砒素）

環境基準値 0.01mg/l

地方名	水系河川名	地点名	原因	対策	最大値	平均値
東北	北上川水系江合川	大深沢	自然由来	経過監視	0.035	0.027

表-16(2) 健康項目の環境基準を満足できなかった地点（ほう素）

環境基準値 1mg/l

地方名	水系河川名	地点名	原因	対策	最大値	平均値
東北	北上川水系江合川	大深沢	自然由来	経過監視	2.2	1.6
中部	宮川水系勢田川	勢田大橋	海水の影響	経過監視	1.6	1.3
中国	斐伊川水系斐伊川	S-5	海水の影響	経過監視	1.1	1.1

2) 要監視項目

「人の健康の保護に係る要監視項目」とは、人の健康の保護に関連する物質ではあるが、公共用水域等における検出状況等からみて、現時点では直ちに環境基準項目とせず、引き続き知見の集積に努めるべきと判断されるものであり、平成5年に選定されている（環境庁水質保全局長通知）。現在26項目となっており、各項目について指針値が設定されている（参考資料3参照）。

平成25年の調査結果について、表-17に地方別の調査地点数及び調査検体数を、表-18に項目別の調査地点数及び調査検体数を示す。

平成25年は全国359地点で調査を実施し、要監視項目の総調査検体数は5,810検体である。

要監視項目についてはすべての調査地点で指針値を満足した。

表-17 要監視項目の総調査地点数及び調査検体数

地方名	調査地点数	調査検体数
北海道	33	610
東北	6	6
関東	66	951
北陸	29	197
中部	21	169
近畿	118	1,734
中国	23	422
四国	39	1,477
九州	24	244
全国	359	5,810

表-18 要監視項目の水質調査結果

項目名	調査地点数	調査検体数	超過地点数
イソキサチオン	148	189	—
ダイアジノン	156	198	—
フェニトロチオン (MEP)	164	209	—
イソプロチオラン	185	227	—
オキシ銅 (有機銅)	148	189	—
クロタロニル (TPN)	149	190	—
プロピザミド	146	187	—
EPN	215	340	—
ジクロロボス (DDVP)	147	188	—
フェノブカルブ (BPMC)	149	190	—
イプロベンホス (IBP)	158	211	—
クロロニトロフェン (CNP)	165	221	—
クロロホルム	149	191	—
トランス-1,2-ジクロロエチレン	175	217	—
1,2-ジクロロプロパン	145	186	—
p-ジクロロベンゼン	151	206	—
トルエン	181	261	—
キシレン	162	222	—
フタル酸ジエチルヘキシル	160	215	—
ニッケル	234	553	—
モリブデン	156	202	—
アンチモン	166	232	—
塩化ビニルモノマー	91	91	—
エピクロロヒドリン	89	98	—
全マンガン	125	495	—
ウラン	88	102	—
合計	4,002	5,810	0

(5) 農薬項目

ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止を図るため、平成2年に「ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止に係る暫定指導指針」が環境庁（現環境省）により定められた。国土交通省ではこれらの項目について水質調査を実施している。

平成2年に21項目が定められ、その後検出実態等を踏まえ、平成3年に9項目、平成9年に5項目、平成13年に10項目が追加され、平成22年度には29項目の追加と2項目の削除が行われた。平成24年度及び平成25年度には大幅な追加が行われ、平成25年11月現在で224項目となっている。

平成25年の調査結果について、表-19に地方別の調査地点数及び調査検体数を、表-20(1)～表-20(5)に項目別の調査地点数及び調査検体数を示す。

平成25年は全国の公共用水域57地点、ゴルフ場関連地点（排水口等）57地点の計114地点で調査を実施し、総調査検体数は3,918検体である。

平成25年の調査結果を、平成24年度の指針改定後の指針値により評価したところ、すべての調査地点で指針値を満足していた。

表-19 ゴルフ場使用農薬に関する総調査地点数及び調査検体数

地方名	公共用水域		ゴルフ場関連地点 (排水口等)		合 計	
	調査地点数	調査検体数	調査地点数	調査検体数	調査地点数	調査検体数
北海道	18	178	10	169	28	347
東 北	4	36	8	48	12	84
関 東	22	1,418	27	662	49	2,080
北 陸	0	0	0	0	0	0
中 部	2	60	3	64	5	124
近 畿	4	528	5	660	9	1,188
中 国	0	0	0	0	0	0
四 国	1	16	3	23	4	39
九 州	6	55	1	1	7	56
全 国	57	2,291	57	1,627	114	3,918

表-20(1) ゴルフ場使用農薬の水質調査結果

項目名	調査地点数	調査検体数	超過地点数
1-ナフタレン酢酸ナトリウム	0	0	-
EPN	9	9	-
MCPAイソプロピルアミン塩及びMCPAナトリウム塩	13	17	-
S-メトラクロール	0	0	-
アジムスルフロン	0	0	-
アシユラム	43	71	-
アセキノシル	0	0	-
アセタミプリド	17	33	-
アセフエート	31	52	-
アゾキシストロビン	46	76	-
アバメクチン	0	0	-
アミスルブロム	0	0	-
アミトラズ	0	0	-
アメトクトラジン	0	0	-
アラクロール	0	0	-
イソキサチオン	54	74	-
イソチアニル	0	0	-
イソプロチオラン	49	71	-
イプフェンカルバゾン	0	0	-
イプロジオン	44	67	-
イプロベンホス又はIBP	10	10	-
イミシアホス	0	0	-
イミダクロプリド	25	44	-
イミノクタジナルベシル酸塩及びイミノクタジン酢酸塩	45	69	-
イミベンコナゾール	3	3	-
インダジフラム	0	0	-
インダノファン	0	0	-
インドキサカルブ	0	0	-
インドキサカルブMP	0	0	-
ウニコナゾールP	0	0	-
エスプロカルブ	2	2	-
エタボキサム	0	0	-
エチクロゼート	0	0	-
エチプロール	0	0	-
エトキサゾール	0	0	-
エトキシスルフロン	25	44	-
エトフェンプロックス	25	48	-
エトフメセート	0	0	-
エトリジアゾール(エクロメゾール)	24	40	-
オキサジアゾン	0	0	-
オキサジアルギル	20	36	-
オキサジクロメホン	26	45	-
オキシシン銅(有機銅)	59	81	-
オキシソリニック酸	0	0	-
オリサストロビン	0	0	-
カズサホス	0	0	-

表-20(2) ゴルフ場使用農薬の水質調査結果

項目名	調査地点数	調査検体数	超過地点数
カフエンストロール	30	50	—
カルフェントラゾンエチル	0	0	—
カルブチレート	0	0	—
カルプロパミド	0	0	—
キヤプタイン	29	52	—
クミルロン	0	0	—
グルホシネート	0	0	—
グルホシネートPナトリウム塩	0	0	—
クレソキシムメチル	1	1	—
クロチアニジン	41	72	—
クロマフェノジド	0	0	—
クロメプロップ	0	0	—
クロラントラニプロール	0	0	—
クロリムロンエチル	0	0	—
クロルチアミド(DCBM)	0	0	—
クロルピリホス	27	43	—
クロルフェナピル	0	0	—
クロルフタリム	0	0	—
クロロタロニル(TPN)	56	81	—
クロロネブ	21	37	—
シアゾファミド	1	1	—
シエノピラフェン	0	0	—
ジカンバカリウム塩又はMDBAカリウム塩	2	2	—
ジカンバジメチルアミン塩又はMDBAジメチルアミン塩	0	0	—
ジカンバ又はMDBA	0	0	—
ジクロシメット	0	0	—
シクロスルフアムロン	29	48	—
ジチアノイン	0	0	—
ジチオピル	27	47	—
シデユロン	23	43	—
ジノテフライン	0	0	—
ジフェノコナゾール	30	52	—
シフルフェナミド	0	0	—
シフルメトフェン	0	0	—
ジフルメトリム	0	0	—
シプロコナゾール	25	44	—
シマジン(CAT)	61	78	—
シメコナゾール	20	36	—
ジメタメトリン	0	0	—
ジメテナミド	0	0	—
ジメテナミドP	0	0	—
ジメトモルフ	0	0	—
シラフルオフェン	0	0	—
シロマジン	0	0	—
スピネトラム	0	0	—
スピノサド	0	0	—
スピロジクロフェン	0	0	—

表-20(3) ゴルフ場使用農薬の水質調査結果

項目名	調査地点数	調査検体数	超過地点数
スピロテトラマト	0	0	—
スピロメシフェン	0	0	—
ダイアジノン	63	85	—
ダイムロン	0	0	—
チアジニル	0	0	—
チアメトキサム	22	38	—
チウラム (チラム)	67	88	—
チオジカルブ	29	49	—
チオフアネートメチル	38	66	—
チオベンカルブ	29	30	—
チフルザミド	28	47	—
テトラコナゾール	21	40	—
テブコナゾール	42	75	—
テブフェノジド	27	46	—
テブフロキン	0	0	—
テフリルトリオソ	0	0	—
トプラメゾン	0	0	—
トリアジフラム	0	0	—
トリクロピル	40	65	—
トリクロルホン (DEP)	35	52	—
トリネキサパックエチル	30	50	—
トリフルミゾール	24	44	—
トリフルラリン	0	0	—
トリフロキシストロビン	2	3	—
トルクロホスメチル	38	62	—
トルフェンピラド	0	0	—
ナプロパミド	23	39	—
ノバルロン	0	0	—
パクロブトラゾール	0	0	—
バリダマイシン	28	51	—
ハロスルフロンメチル	32	57	—
ヒドロキシイソキサゾール (ヒメキサゾール)	26	42	—
ビフェナゼート	0	0	—
ビフェントリン	0	0	—
ピメトロジン	0	0	—
ピラクロストロビン	0	0	—
ピラクロニル	0	0	—
ピラフルフェンエチル	0	0	—
ピリオフェノン	0	0	—
ピリダベン	0	0	—
ピリダリル	0	0	—
ピリフタリド	0	0	—
ピリブチカルブ	29	50	—
ピリフルキナゾン	0	0	—
ピリプロキシフェン	0	0	—
ピリベンカルブ	0	0	—

表-20(4) ゴルフ場使用農薬の水質調査結果

項目名	調査地点数	調査検体数	超過地点数
ピリミスルファン	0	0	—
ピリミノバックメチル	0	0	—
フェニトロチオン(MEP)	69	96	—
フェノキサニル	0	0	—
フェリムゾン	2	2	—
フェンアミド	0	0	—
フェントエート(PAP)	0	0	—
フェントラザミド	0	0	—
フェンピラザミン	0	0	—
フェンブコナゾール	0	0	—
フェンヘキサミド	0	0	—
ブタクロール	0	0	—
ブタミホス	31	47	—
ブトルアリン	0	0	—
ブプロフェジン	3	3	—
フラザスルフロ	33	59	—
フラメトピル	3	3	—
フルアクリピリム	0	0	—
フルオピコリド	0	0	—
フルオピラム	0	0	—
フルキサピロキサド	0	0	—
フルジオキサニル	0	0	—
フルセトスルフロ	0	0	—
フルチアニル	0	0	—
フルトラニル	42	68	—
フルフェノクスロン	0	0	—
フルベンジアミド	2	3	—
フルポキサム	1	1	—
フルルプリミドール	0	0	—
プレチラクロー	2	2	—
プロジアミン	3	3	—
プロスルホカルブ	0	0	—
フロニカミド	0	0	—
プロパモカルブ塩酸塩	0	0	—
プロピコナゾール	45	73	—
プロピザミド	50	73	—
プロヒドロジヤモン	0	0	—
プロピリスルフロ	0	0	—
プロモブチド	0	0	—
ヘキサジノン	0	0	—
ペノキススラム	0	0	—
ベノミル	23	43	—
ペルメトリン	23	39	—
ペンシクロ	42	72	—
ペンスルタツブ	22	39	—
ペンスルフロメチル	0	0	—
ペンゾビシクロ	0	0	—
ベンチアバリカルブイソプロピル	0	0	—

表-20(5) ゴルフ場使用農薬の水質調査結果

項目名	調査地点数	調査検体数	超過地点数
ペンチオピラド	3	3	—
ペンデイメタリン	37	60	—
ペントキサゾン	0	0	—
ペンフルフェン	0	0	—
ベンフルラリン(ベスロジン)	32	53	—
ベンフレセー	0	0	—
ボスカリド	30	54	—
ホセチル	33	56	—
ホラムスルフロン	0	0	—
ポリカーバメー	29	49	—
マンジプロパミド	0	0	—
ミクロブタニル	0	0	—
ミルベメクチン	0	0	—
メコプロップPイソプロピルアミン塩	39	67	—
メコプロップPカリウム塩	26	43	—
メコプロップカリウム塩又はMCPPカリウム塩	32	50	—
メコプロップジメチルアミン塩 又はMCPPジメチルアミン塩、メコプロップP イソプロピルアミン塩	28	47	—
メソトリオン	0	0	—
メタアルデヒド	0	0	—
メタゾスルフロン	0	0	—
メタフルミゾン	0	0	—
メタミホツブ	0	0	—
メタラキシル	34	53	—
メタラキシルM	23	40	—
メトキシフェノジド	0	0	—
メトコナゾール	3	3	—
メトミノストロビン	0	0	—
メトラクロール	0	0	—
メフェナセツト	2	2	—
メプロニル	34	54	—
ヨウ化メチル	0	0	—
ルフェヌロン	0	0	—
レピメクチン	0	0	—
合計	2,447	3,918	0

(6) 水道関連項目（トリハロメタン生成能）

水道水中のトリハロメタン^{注15}の問題（水道用水の塩素消毒の結果、発ガン性のあるトリハロメタンが発生）等を背景に、水道事業者の対応のみでは水道水質基準に適合する水道水の供給が困難となる恐れから水道水源の水質保全が強く求められていることに関連して、平成6年2月に「水道原水水質保全事業の実施の促進に関する法律」が施行された。これを受けて、国土交通省では、平成6年からトリハロメタン生成能^{注16}の水質調査を実施している。

平成25年の調査結果について、表-21に地方別の調査地点数及び調査検体数を示す。平成25年は全国250地点で調査を行い、総調査検体数は1,511検体である。

図-21に各調査地点におけるトリハロメタン生成能の最大値のランク別割合の経年変化を示す。新しい水質指標の「利用しやすい水質の確保」の評価レベルにおいて、A及びBランクであるトリハロメタン生成能の最大値が $100\mu\text{g}/\ell$ 以下の割合は長期的には横ばい傾向である。

なお、公共用水域におけるトリハロメタン生成能についての基準は定められていない。

表-21 トリハロメタン生成能の調査地点数及び調査検体数

地方名	調査地点数	調査検体数
北海道	24	218
東北	26	93
関東	53	444
北陸	10	35
中部	26	255
近畿	40	167
中国	31	159
四国	13	46
九州	27	94
全国	250	1,511

^{注15} トリハロメタンとは、メタン(CH_4)の4つの水素原子のうち3個が塩素や臭素などのハロゲン原子で置き換わった化合物である。具体的には、クロロホルム(CHCl_3)、ブロモジクロロメタン(CHBrCl_2)、ブromoホルム(CHBr_3)、ジブromokロロメタン(CHBr_2Cl)の4物質が代表的な物質である。これらのトリハロメタンは、水道原水中に含まれるフミン質などの有機物が、浄水処理の過程で注入される塩素と反応して生じる。水道法に基づく水質基準のひとつ。

^{注16} トリハロメタン生成能とは、一定の条件下でその水がもつトリハロメタンの潜在的な生成量をいい、具体的には一定のpH(7 ± 0.2)及び温度(20°C)において、水に塩素を添加して一定時間(24時間)経過した場合に生成されるトリハロメタンの量で表される。なお、トリハロメタン生成能の濃度が浄水後の水道水中のトリハロメタン濃度と一致するものではない。

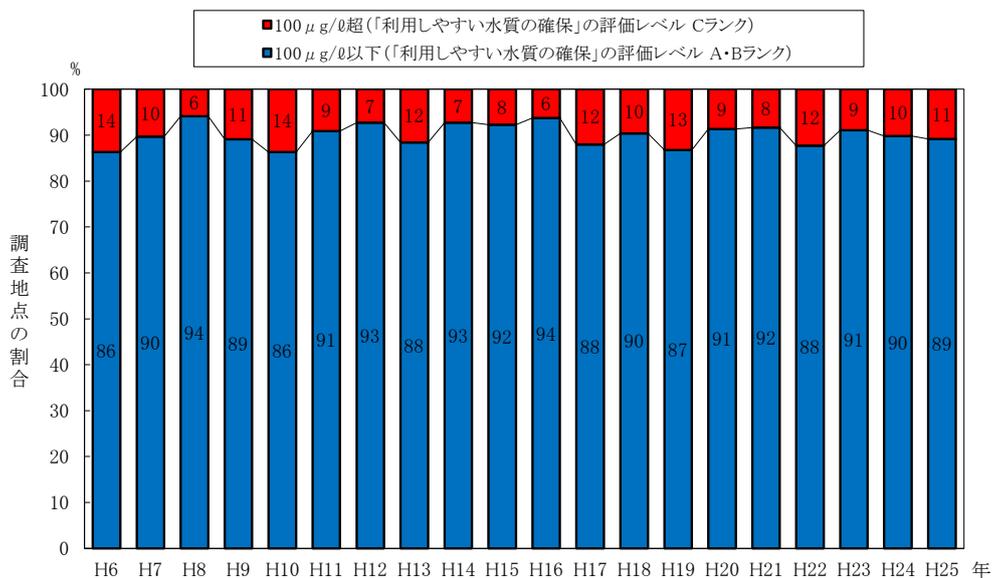


図-21 トリハロメタン生成能（最大値）のランク別割合の経年変化

表-22 トリハロメタン生成能の水質調査結果

	全調査地点数	最大値が100 µg/lを超えた地点数	最大値が100 µg/lを超えた地点数の割合
平成6年	124 地点	17 地点	13.7 %
平成7年	136 地点	14 地点	10.3 %
平成8年	153 地点	9 地点	5.9 %
平成9年	147 地点	16 地点	10.9 %
平成10年	161 地点	22 地点	13.7 %
平成11年	176 地点	16 地点	9.1 %
平成12年	179 地点	13 地点	7.3 %
平成13年	199 地点	23 地点	11.6 %
平成14年	206 地点	15 地点	7.3 %
平成15年	220 地点	17 地点	7.7 %
平成16年	208 地点	13 地点	6.2 %
平成17年	250 地点	30 地点	12.0 %
平成18年	271 地点	26 地点	9.6 %
平成19年	264 地点	35 地点	13.3 %
平成20年	254 地点	22 地点	8.7 %
平成21年	252 地点	21 地点	8.3 %
平成22年	244 地点	30 地点	12.3 %
平成23年	257 地点	23 地点	8.9 %
平成24年	256 地点	26 地点	10.2 %
平成25年	250 地点	27 地点	10.8 %

(7) 「人と川のふれあい」の指標

1) 糞便性大腸菌群数

糞便性大腸菌群数は、人や動物の排泄物由来の大腸菌群により水の汚染を知る指標であり、国土交通省では、平成14年4月から調査を行っている。平成25年は全国943地点で調査を行った。

図-22に全調査地点（湖沼等（湖沼、海域及びダム貯水池）については表層）における糞便性大腸菌群数のランク別割合の経年変化を示す。新しい水質指標の「人と河川の豊かなふれあいの確保」の評価レベルにおいて、Aランクである100個/100ml以下の割合は、長期的には増加傾向である。

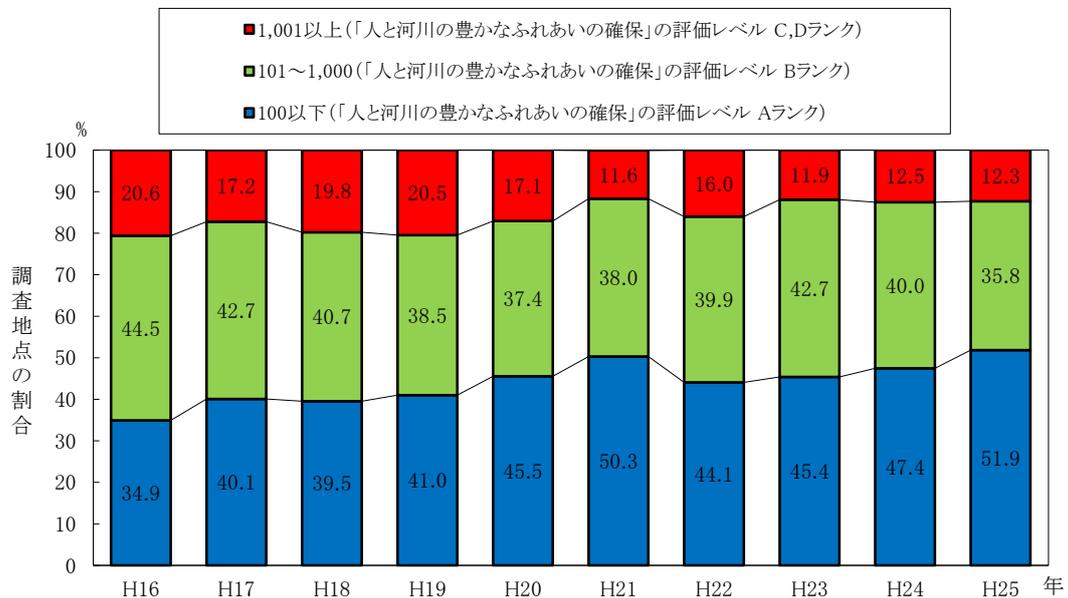


図-22 糞便性大腸菌群数（年平均値）のランク別割合の経年変化

※平成25年については、一部精度が不十分なものを含む可能性がある。

河川及び湖沼等における糞便性大腸菌群数のランク別割合の経年変化をそれぞれ図-23(1)、図-23(2)に示す。河川では、「人と河川の豊かなふれあいの確保」の評価レベルのAランクである100個/100ml以下の割合は、長期的には増加傾向である。一方、湖沼等では経年的に90%以上の地点で100個/100ml以下となっており、平成25年は95.5%の地点で100個/100ml以下となっている。

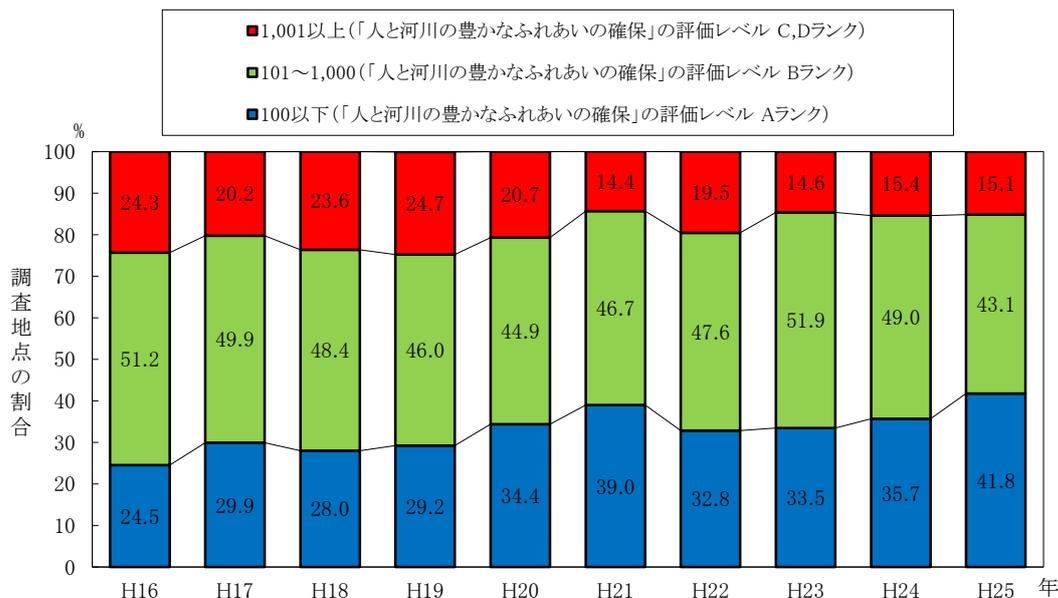


図-23(1) 糞便性大腸菌群数のランク別割合の経年変化 (河川)

※平成25年については、一部精度が不十分なものを含む可能性がある。

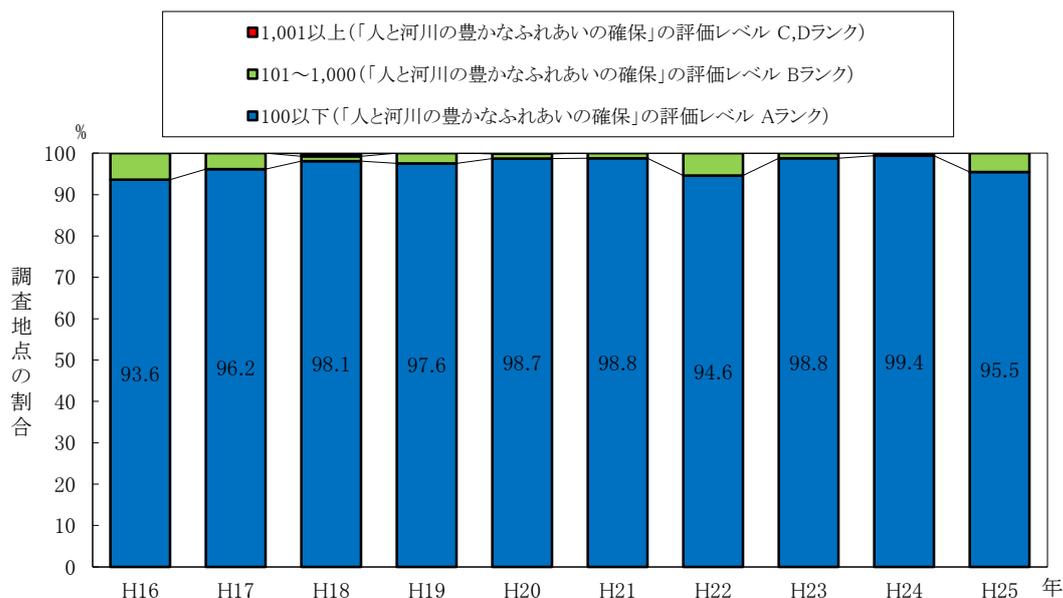


図-23(2) 糞便性大腸菌群数のランク別割合の経年変化 (湖沼等の表層)

※平成25年については、一部精度が不十分なものを含む可能性がある。

2) 透視度

透視度とは、水の中に含まれる濁りの程度を示す指標で、1mのメスシリンダーに水を入れ底部の白色円板に引かれた二重十字が識別できる限界の水の厚さをcmで表したものである。値が大きいほど濁りが少ない。

国土交通省では、平成14年4月から調査を行っており、平成25年は全国999地点で調査を行った。

図-24に全調査地点（湖沼等については表層）における透視度のランク別割合の経年変化を示す。100以上（「人と河川の豊かなふれあいの確保」の評価レベル Aランク）の割合は、近年横ばいで推移している。

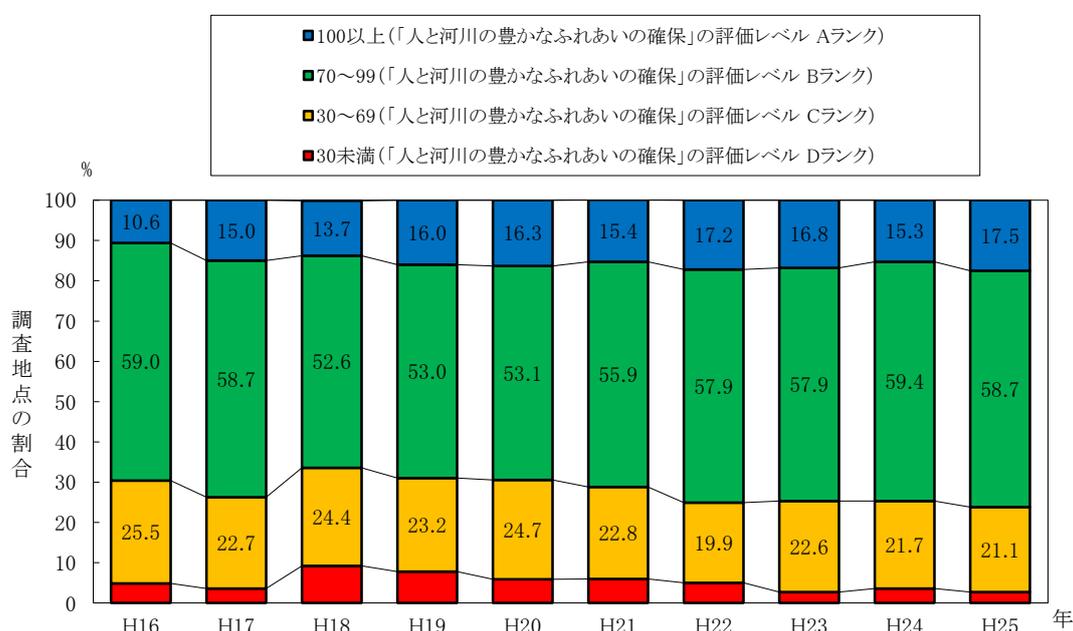


図-24 透視度（年平均値）のランク別割合

※湖沼等については表層

河川及び湖沼等における透視度のランク別割合の経年変化をそれぞれ図-25(1)、図-25(2)に示す。30未満(「人と河川の豊かなふれあいの確保」の評価レベル Dランク)の割合は、河川では10%未満である。湖沼等では平成22年まで10%を超えていたが、平成23年以降は10%を下回っている。

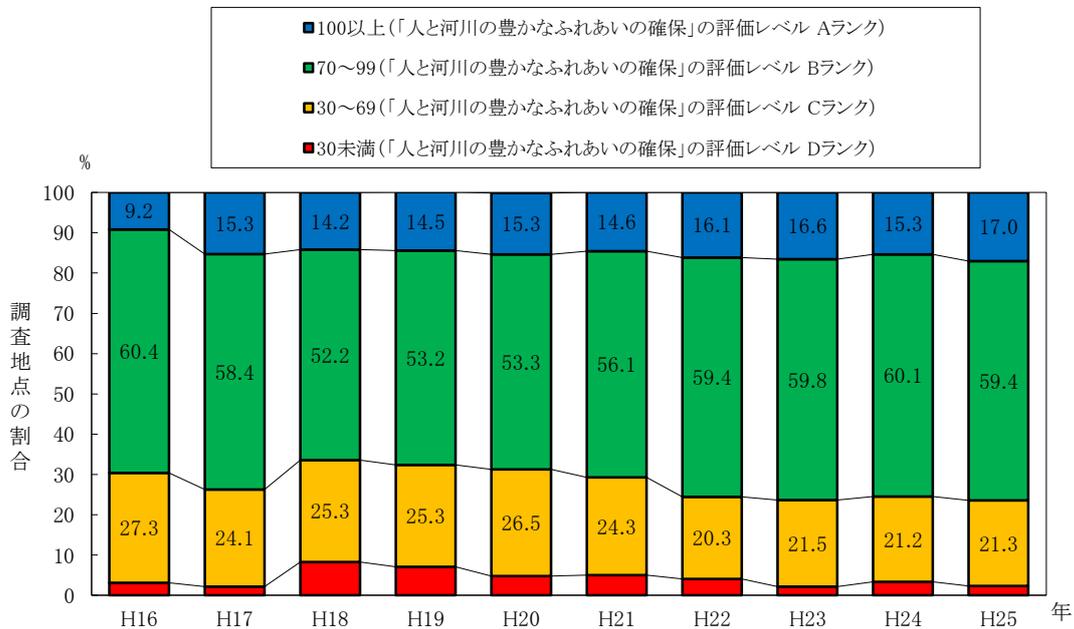


図-25(1) 透視度ランク別割合 (河川)

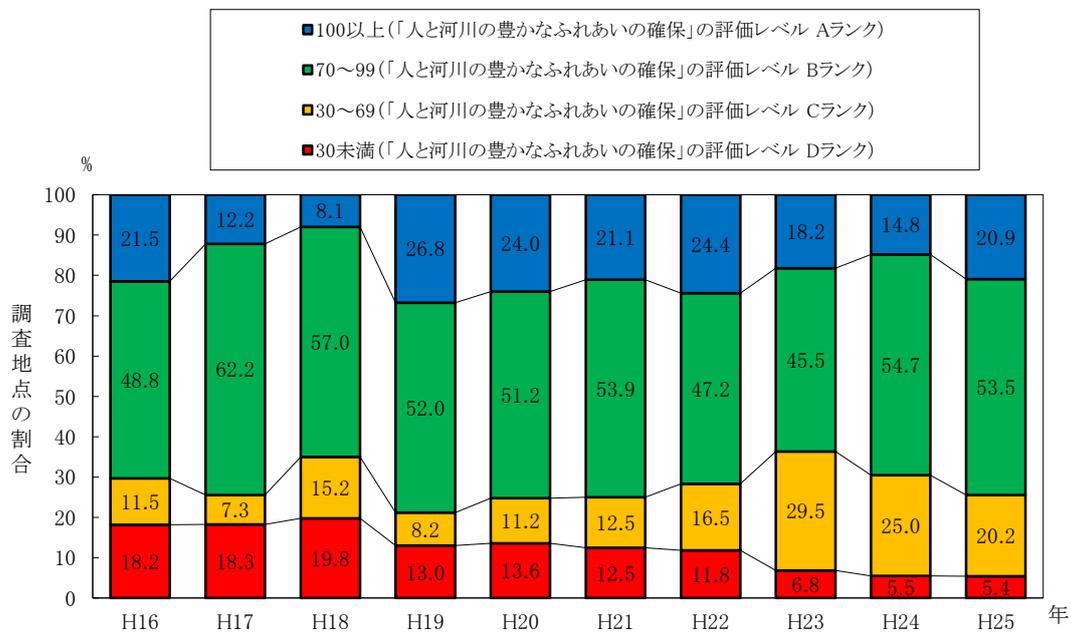


図-25(2) 透視度ランク別割合 (湖沼等、表層)

(8) 水生生物の保全

1) 環境基準項目

平成15年11月に環境省より「水質汚濁に係る環境基準についての一部を改正する件」が告示された。これにより、生活環境の保全に関する環境基準に、公共用水域における水生生物及びその生息又は生育環境を保全する観点から全亜鉛が追加され、その基準値が設定された。基準値は魚類のえら呼吸や魚類のエサとなる水生生物（ヒラタカゲロウ等）の生息への影響を考慮して設定されたものである。河川、湖沼については、いずれも基準値は0.03mg/ℓ以下である（参考資料3参照）。

国土交通省では、平成16年から全国的に調査を行っている。平成25年は全国816地点（河川681地点、湖沼等135地点）で調査を行った。

図-26に全調査地点の全亜鉛のランク別割合の経年変化を示す。0.01mg/ℓ以下の割合は平成18年にかけて増加し、その後は横ばいであったが、平成25年にやや低下した。0.031mg/ℓ以上(生活環境の保全に関する環境基準（水生生物）超過)の割合は、徐々に減少している。

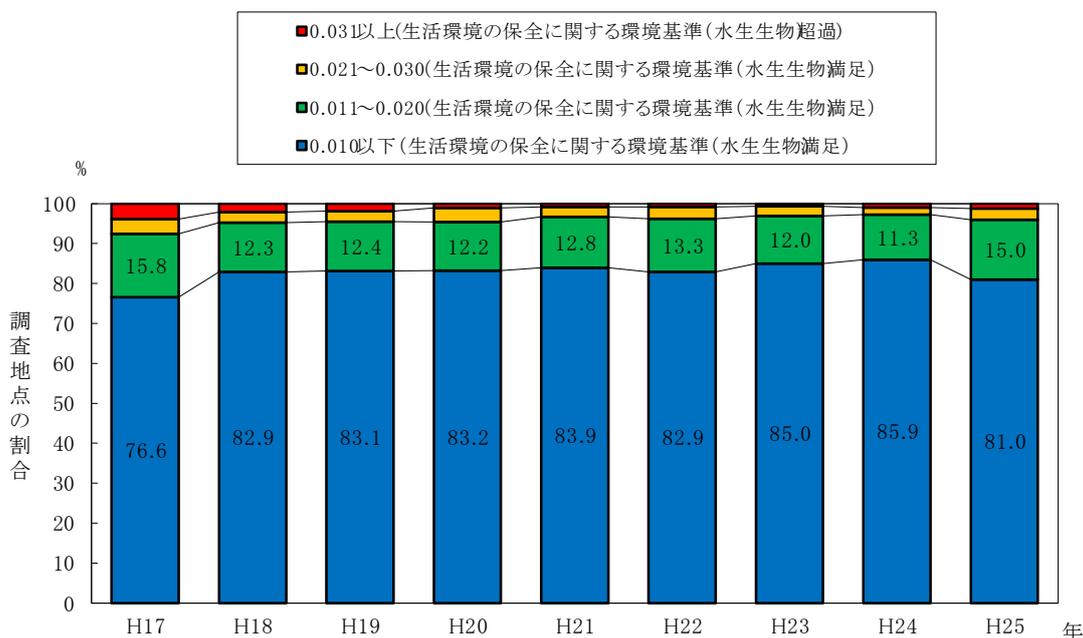


図-26 全亜鉛（年平均値）ランク別割合

河川及び湖沼等における全亜鉛のランク別割合をそれぞれ図-27(1)、図-27(2)に示す。

河川における調査地点については、0.01mg/ℓ以下の割合は平成18年にかけて増加し、その後は横ばいであったが平成25年に減少した。0.031mg/ℓ以上

(生活環境の保全に関する環境基準（水生生物）超過)の割合は、徐々に減少している。

湖沼等における調査地点については、平成17年以降、0.01mg/ℓ以下の割合が概ね95%前後で推移していたが、平成24年は99%まで増加し、平成25年には以前と同程度の94.1%に戻った。

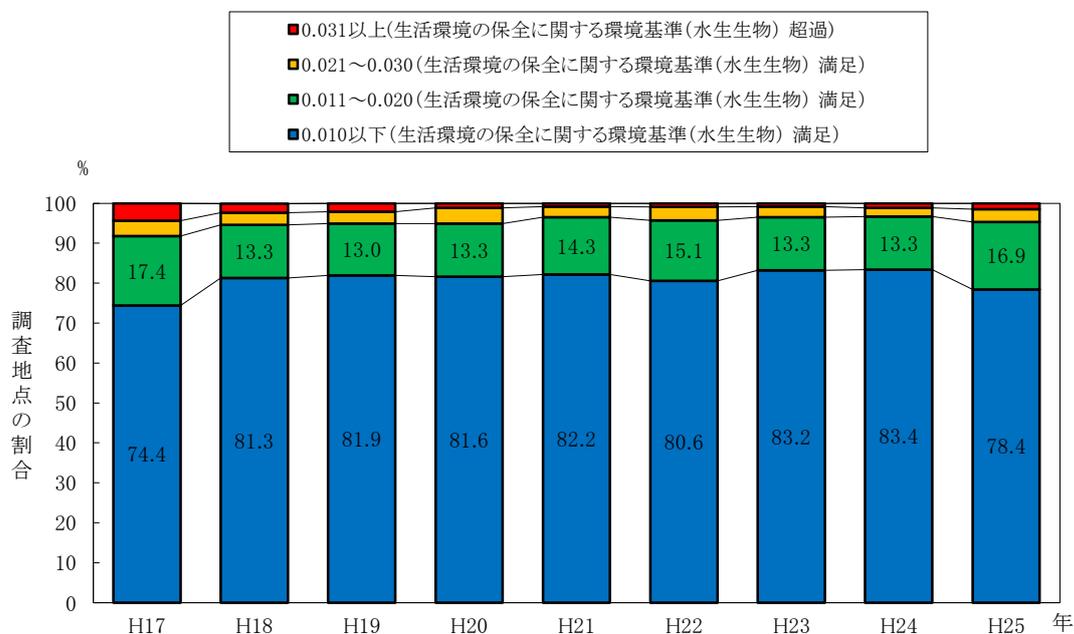


図-27(1) 全亜鉛（年平均値）ランク別割合（河川）

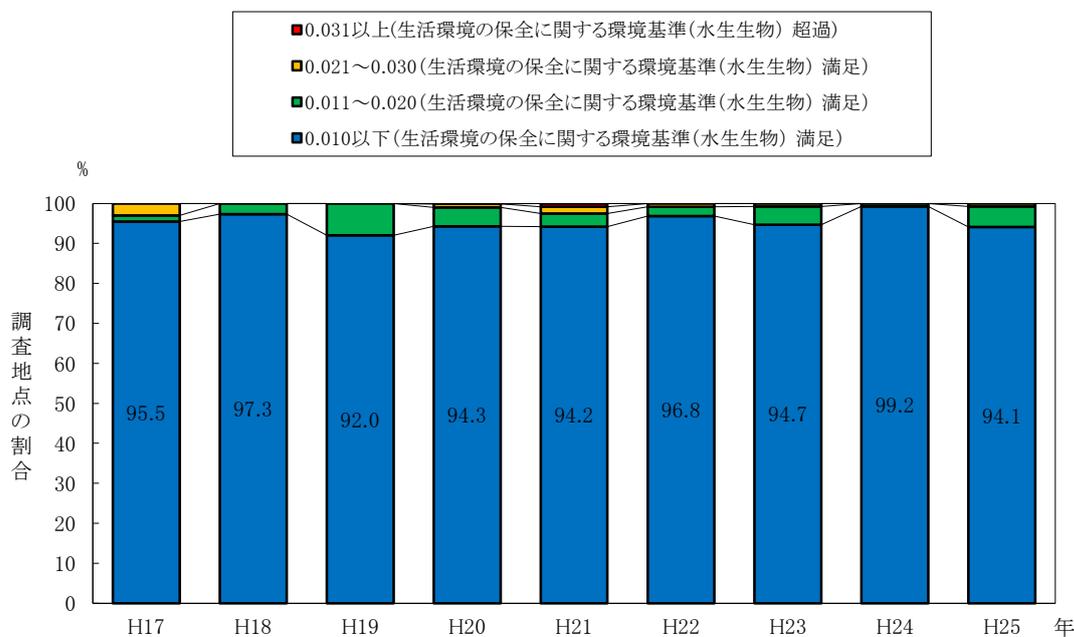


図-27(2) 全亜鉛（年平均値）ランク別割合（湖沼等）

2) 要監視項目

「水生生物の保全に係る要監視項目」とは、有用な水生生物及びその餌生物並びにそれらの生息又は生息環境の保全に関連する物質ではあるが、公共用水域等における検出状況等からみて、現時点では直ちに環境基準項目とせず、引き続き知見の集積に努めるべきと判断されるものであり、平成15年に3項目が定められ（環境省環境管理局水環境部長通知）、各項目について指針値が設定されている（参考資料3参照）。

平成25年の調査結果について、表-23に地方別の調査地点数及び調査検体数を、表-24に項目別の調査地点数及び調査検体数を示す。

平成25年は全国220地点で調査を実施し、要監視項目の総調査検体数は571検体である。

平成25年の調査結果では、すべての調査地点で指針値を満足していた。

表-23 水生生物の保全に係る要監視項目の総調査地点数及び調査検体数

地方名	調査地点数	調査検体数
北海道	21	22
東北	1	1
関東	38	88
北陸	15	15
中部	8	13
近畿	77	270
中国	12	23
四国	32	63
九州	16	76
全国	220	571

表-24 水生生物の保全に係る要監視項目の水質調査結果

項目名	調査地点数	調査検体数	超過地点数
クロロホルム	215	340	—
フェノール	89	110	—
ホルムアルデヒド	97	121	—
合計	220	571	—

2. 新しい水質指標

国土交通省では、河川水質管理において、住民や利水者の河川水質・河川環境に対して多様化するニーズに応えるため、平成17年3月に「今後の河川水質管理の指標について(案)」を発表した。この「河川水質管理の指標」(新しい水質指標)は、住民との協働による測定項目及び河川等管理者による測定項目からなり、平成17年度に全国規模で住民と協働で行う調査を試行し、平成18年より全ての一級河川を対象に本格的に実施している。

さらに、湖沼についても、平成22年3月に「今後の湖沼水質管理の指標について(案)」をとりまとめ、これに基づく調査を実施している。

2. 1 新しい水質指標(河川)

(1)新しい水質指標(河川)とは

新しい水質指標(河川)とは、人と河川のふれあいや生態系への関心など、多様な視点で河川が捉えられるようになってきている現在の状況を鑑み、河川をBODだけでなく多様な視点で評価できるように検討された指標である。評価の視点は、

- ①「人と河川の豊かなふれあいの確保」(水質に関係する分かりやすい指標(ゴミの量、透視度、川底の感触、水の臭い、糞便性大腸菌群数^{注17})により、評価します。
- ②「豊かな生態系の確保」(水生生物の生息・生育・繁殖に関係する指標(呼吸に支障が無いこと、毒性が無いこと、生物が生息していること)により、評価します。
- ③「利用しやすい水質の確保」(上水利用・農業用水・工業用水・水産用水の利用に関係する指標(トリハロメタン生成能、2-MIB、ジオスミン、 $\text{NH}_4\text{-N}$)により評価します。
- ④「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」(下流部の富栄養化や閉鎖性水域(ダム・湖沼・湾)の富栄養化への影響に関係する指標(T-N、T-P)により評価します。

の4つにわたり、「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」以外の視点

注¹⁷ 平成25年については、糞便性大腸菌群数に関して、一部精度が不十分なものを含む可能性がある。

について評価項目と評価レベルが設定されている注¹⁸。また、4つの視点のうち「人と河川の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」では、調査の一部は住民と河川管理者との協働により実施している。

新しい水質指標(河川)は、平成17年3月に「今後の河川水質管理の指標について(案)」(国土交通省河川局河川環境課)注¹⁹としてとりまとめられ、これに基づく調査が、平成17年4月よりほぼ全ての一級水系の直轄区間を対象に実施されている。

(2)実施水系・地点数

「人と河川の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」「利用しやすい水質の確保」の平成25年の調査実施状況を表-25に示す。

「人と河川の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」では、調査を実施した水系のうち、ほとんどの水系で住民との協働調査を実施している。住民との協働調査を実施している調査地点数は、「人と河川の豊かなふれあいの確保」では202地点(全国308地点のうち)、「豊かな生態系の確保」では187地点(全国265地点のうち)である。

「利用しやすい水質の確保」では、該当する地点が限られるため注²⁰、水系数・地点数ともに「人と河川の豊かなふれあいの確保」や「豊かな生態系の確保」よりも少ないが、全国130地点で実施された。

注¹⁸ 一般的に滞留水域の水質と滞留水域に流入する河川の水質は異なり、現状の知見では下流域への影響を与える河川水質濃度を評価することは困難であることから、「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」の視点では、評価項目や評価レベルは定めず、今後の課題としている。

注¹⁹ 平成21年3月に「今後の河川水質管理の指標について(案)」を一部改訂し、平成21年度の調査より適用している。

http://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/suishitsukanri/shihyou.pdf

注²⁰ 「利用しやすい水質の確保」は、水道水源としての利用しやすさを評価する指標項目であることから、主に上水道取水がある水域を調査対象範囲としている。

表-25 調査を実施した水系数と地点数

地整局 開発局	水系数	人と河川の豊かな ふれあいの確保		豊かな生態系の確保		利用しやすい 水質の確保	
		水系数	地点数	水系数	地点数	水系数	地点数
北海道	13	13 (12)	30 (18)	13 (12)	25 (17)	6	12
東北	12	7 (6)	11 (9)	4 (4)	8 (7)	5	9
関東	8	8 (5)	56 (25)	8 (5)	46 (23)	4	21
北陸	12	7 (2)	11 (2)	9 (4)	14 (5)	3	6
中部	13	11 (10)	63 (34)	10 (10)	41 (34)	7	14
近畿	10	6 (6)	22 (18)	6 (6)	21 (16)	4	24
中国	13	12 (12)	42 (34)	12 (12)	36 (27)	8	24
四国	8	6 (6)	18 (18)	6 (6)	22 (18)	3	4
九州	20	19 (18)	55 (44)	19 (18)	52 (40)	13	16
全国	109	89 (77)	308 (202)	87 (77)	265 (187)	53	130

※ () 内は、住民と協働して調査を実施した水系数と地点数

(3) 参加者数

住民との協働による測定を実施する「人と河川の豊かなふれあいの確保」の視点による調査では6,998人、「豊かな生態系の確保」の視点による調査では6,726人の住民に参加を得て実施した。どの地方でも子供(15歳以下)の割合が多かった(図-28)。

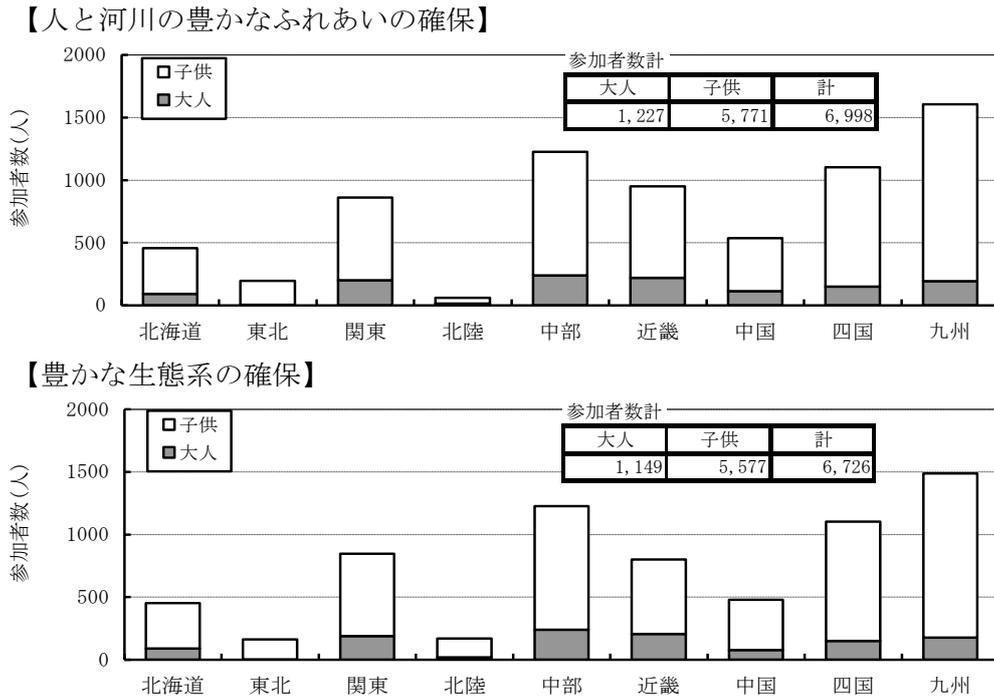


図-28 調査に参加した住民の数(延べ人数)

※例えば、1人が2つの地点を調査した場合は、2人として集計している

「人と河川の豊かなふれあいの確保」の調査にあたって住民参加が多かった地点は、下表のとおりである。

表-26 参加者数が特に多かった調査地点

順位	都道府県	河川名(水系名)/調査地点名	参加者数
1	大分県	乙津川(大野川水系)/水辺の楽校	340
2	三重県	雲出川(雲出川水系)/小戸木橋	222
3	愛媛県	重信川(重信川水系)/中川原橋	216
4	大阪府	大和川(大和川水系)/河内橋	198
5	香川県	土器川(土器川水系)/高速道路橋	144

※表中の参加者数は、年間通した延べ人数。年間に複数回の調査を実施した調査地点がある。

(4) 調査結果

①新しい水質指標(河川)(案)による全国の調査地点の総合評価結果

平成25年に実施した新しい水質指標による調査結果を基に、「人と河川の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」「利用しやすい水質の確保」の3つの視点ごとに、全国の調査地点の総合的な評価注²¹を行い、年間の総合評価ランクを全国マップ(図-29(1)～図-29(3))に示した。

年間の総合評価ランクが最も高いAランク(青丸)の地点は、表-27に示すように、「人と河川の豊かなふれあいの確保」の視点については約26%(79地点/308地点)、「豊かな生態系の確保」の視点については約52%(138地点/265地点)、「利用しやすい水質の確保」の視点については約68%(89地点/130地点)となった。

一方、年間の総合評価ランクが最も低いDランク(赤丸)の地点は、「人と河川の豊かなふれあいの確保」の視点については約5%(15地点/308地点)、「豊かな生態系の確保」の視点については約4%(10地点/265地点)となった。また、「利用しやすい水質の確保」では評価ランクが最も低いCランク(黄色丸)の地点は、約9%(12地点/130地点)となった。

個別の地点の総合評価結果は、表-28(1)～表-28(7)に示すとおりである。

表-27 新しい水質指標(河川)による年間の総合評価ランク別の地点数

	人と河川の豊かなふれあい		豊かな生態系		利用しやすい水質	
	地点数	割合	地点数	割合	地点数	割合
Aランク	79 (53)	26%	138 (105)	52%	89	68%
Bランク	137 (92)	44%	100 (70)	38%	29	22%
Cランク	77 (46)	25%	17 (8)	6%	12	9%
Dランク	15 (11)	5%	10 (4)	4%		
計	308 (202)	100%	265 (187)	100%	130	100%

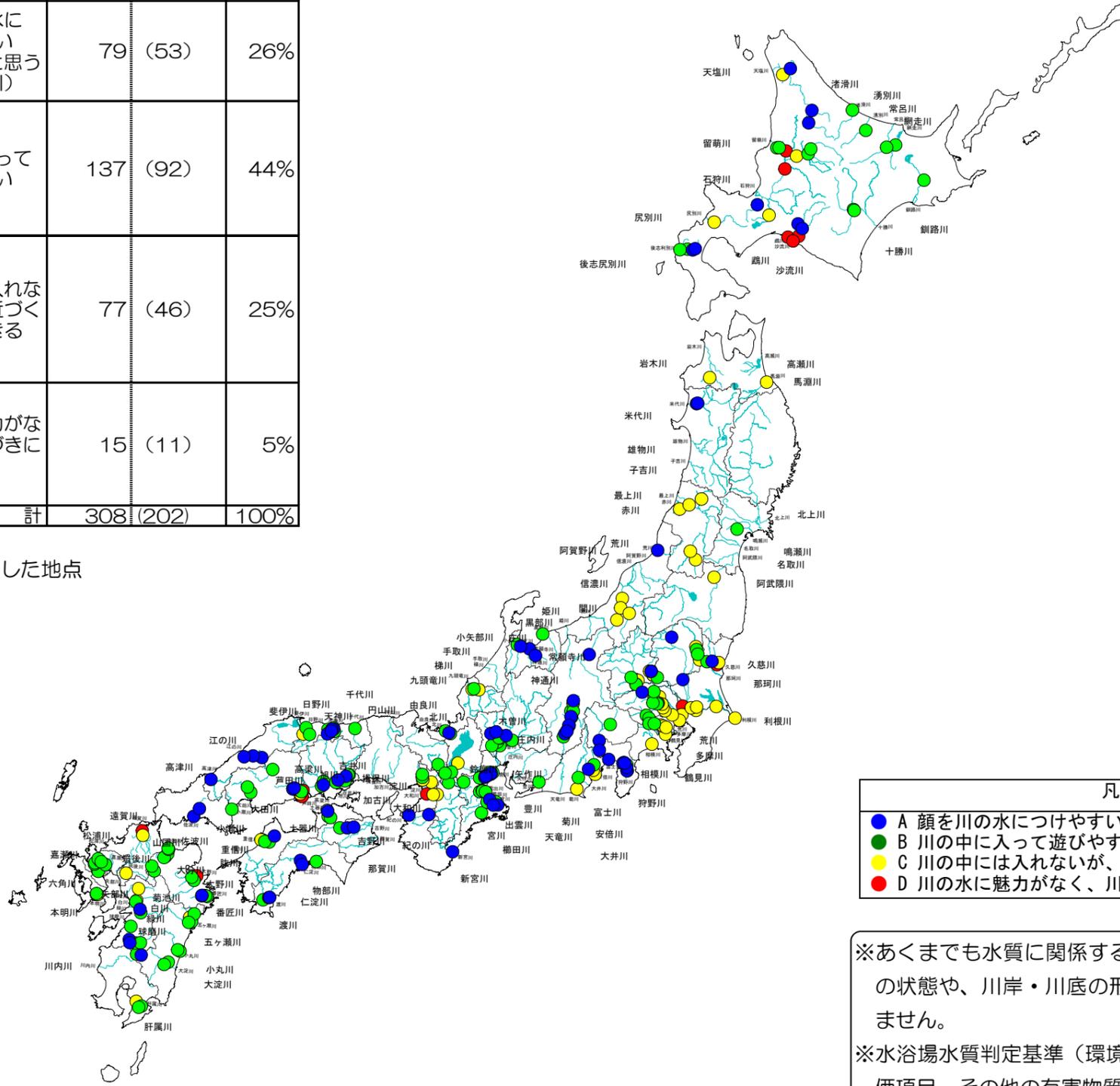
※ ()内は、住民と協働で調査した地点数。四捨五入による端数処理のため内訳の合計が100%にならないことがある。

注²¹ 評価項目ごとにA～Dランクの4段階(「利用しやすい水質の確保」はA～Cランクの3段階)の評価ランクを決めた上で、まず調査回ごとに最も低い項目別評価ランクを、その地点のその調査時の総合評価ランクとした。次に、1年間の調査時の総合評価ランクのうち、「人と河川の豊かなふれあいの確保」では最頻出のランク、「豊かな生態系の確保」では最低ランク、「利用しやすい水質の確保」では95%値に該当するランクを、その地点の年間の総合評価ランクとした。評価方法の詳細は「今後の河川水質管理の指標について(案)」参照。

平成25年「人と河川の豊かなふれあいの確保」調査結果

凡例	ランク	ランクのイメージ	説明	地点数※	割合
●	A		顔を川の水につけやすい (泳ぎたいと思うきれいな川)	79 (53)	26%
●	B		川の中に入って遊びやすい	137 (92)	44%
●	C		川の中には入れないが、川に近づくことができる	77 (46)	25%
●	D		川の水に魅力がなく、川に近づきにくい	15 (11)	5%
計				308 (202)	100%

※ () 内は、住民と協働で調査を実施した地点



凡例	
●	A 顔を川の水につけやすい(泳ぎたいと思うきれいな川)
●	B 川の中に入って遊びやすい
●	C 川の中には入れないが、川に近づくことができる
●	D 川の水に魅力がなく、川に近づきにくい

※あくまでも水質に関する指標により評価した結果であり、流れの状態や、川岸・川底の形状などの安全性については考慮していません。
 ※水浴場水質判定基準（環境省）における油膜の有無やCOD等の評価項目、その他の有害物質等による評価は行っていません。

図-29(1) 平成25年「人と河川の豊かなふれあいの確保」調査結果

平成25年「利用しやすい水質の確保」調査結果

凡例	ランク	説明	地点数	割合※
●	A	より利用しやすい	89	68%
●	B	利用しやすい	29	22%
●	C	利用するためには高度な処理が必要	12	9%
計			130	100%

※四捨五入による端数処理のため内訳の合計が100%にならないことがある。

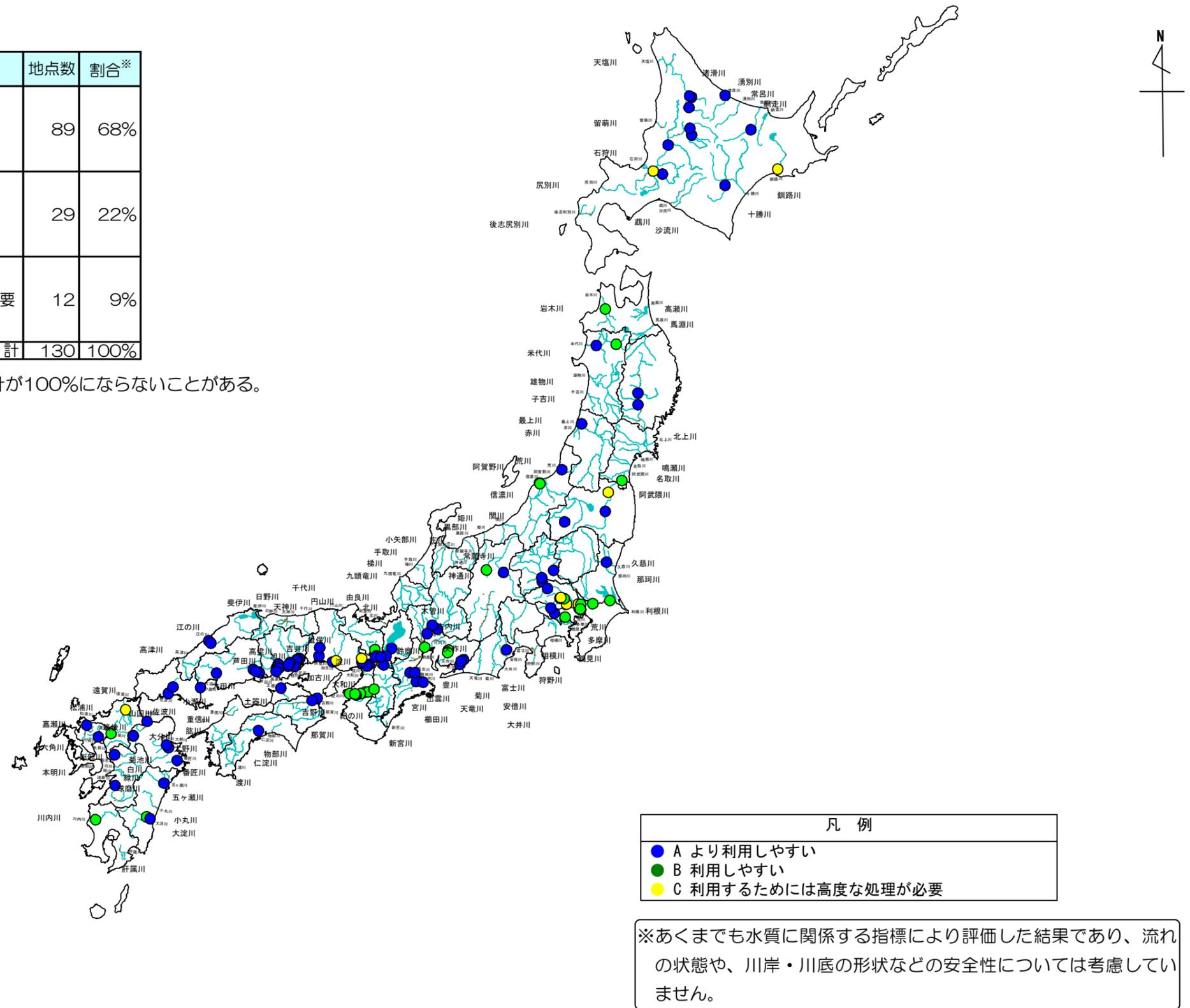


図-29(3) 平成25年「利用しやすい水質の確保」調査結果

表-28(1) 新しい水質指標（河川）による年間の総合評価結果一覧

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間の総合評価ランク			
				人と河川の 豊かな ふれあい	豊かな 生態系	利用しやすい 水質	
北海道	釧路川	釧路川	標茶水辺の楽校	B	A	-	
			愛国浄水場取水口	-	-	C	
	後志利別川	後志利別川	花石	A	-	-	
			兜野橋（河口）	B	B	-	
			今金橋	B	A	-	
			住吉	A	A	-	
	沙流川	沙流川	沙流川橋	D	-	-	
			長知内橋	A	A	-	
			平取	D	-	-	
	十勝川	札内川	札内橋	B	A	-	
			南帯橋	-	-	A	
			十勝大橋	B	B	-	
	渚滑川	渚滑川	ウツツ橋	B	A	A	
	常呂川	常呂川	若松橋	B	A	-	
	尻別川	尻別川	豊国橋下流	C	A	-	
	石狩川	雨竜川	沼田大橋上流	D	B	-	
			中島橋下流	C	-	-	
			空知川	空知大橋下流	D	A	-
			空知大橋	-	-	A	
		石狩川	永山橋	B	A	A	
			納内橋上流	C	A	-	
		千歳川	新江別橋	-	-	C	
		忠別川	神楽岡公園	B	A	-	
			東神楽橋	-	-	A	
		豊平川	幌平橋下流	A	A	-	
			夕張川	馬追橋	-	-	A
	天塩川	天塩川	士別橋上流	A	B	-	
			中士別橋	-	-	A	
			名寄大橋	-	-	A	
		名寄川	日進橋上流	A	B	-	
			真勲別頭首工	-	-	A	
			問寒別川	kp8.6付近	A	A	-
	鶴川	鶴川	雄信内川	C	A	-	
			徳別橋	A	A	-	
	網走川	網走川	鶴川橋	D	-	-	
			大正橋	B	A	-	
	湧別川	湧別川	遠軽橋	B	A	-	
	常呂川	常呂川	金比羅橋	-	-	A	
	留萌川	留萌川	橋橋	B	A	-	
	東北	阿武隈川	阿武隈川	幌糠水辺の楽校	B	A	-
				天神橋	C	-	-
				阿久津	-	-	A
				丸森	-	-	B
		岩木川	岩木川	黒岩	-	-	C
				上岩木橋	C	-	-
		最上川	金山川	乾橋	-	-	B
				水辺の学校	C	A	-
最上川			長井橋下流	C	A	-	
			平柳橋下流	C	A	-	
立谷沢川		立谷沢川	砂越	-	-	A	
			東雲橋	C	C	-	
赤川		赤川	羽黒橋	C	A	-	
馬淵川		馬淵川	水辺の楽校	C	A	-	
米代川		米代川	能代市二ツ井町大林地区	A	A	-	
			能代市二ツ井町富根地区	A	A	-	
			二ツ井	-	-	A	
			十二所	-	-	B	
北上川		胆沢川	再巡橋	-	-	-	
			中津川	御廩橋	-	-	-
		磐井川	中の橋	-	-	-	
			上の橋	-	-	-	
			東大橋	-	-	-	
		北上川	珊瑚橋	-	-	-	
			紫波橋	-	-	-	
			藤橋	-	-	-	
			南大橋	-	-	-	
名取川		名取川	金ヶ崎橋	-	-	A	
			朝日橋	-	-	A	
			名取橋	-	-	-	
鳴瀬川		吉田川	高田橋	B	-	-	

表-28(2) 新しい水質指標（河川）による年間の総合評価結果一覧

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間の総合評価ランク			
				人と河川の 豊かな ふれあい	豊かな 生態系	利用しやすい 水質	
関東	久慈川	久慈川	富岡橋上流	A	A	-	
			富岡橋	-	-	A	
		山田川	東橋下流	D	B	-	
			里川	機初橋下流	C	A	-
	荒川	越辺川	落合橋(越)	C	-	C	
		荒川	開平橋	C	-	B	
			久下橋	B	-	-	
			御成橋	C	-	-	
			治水橋	C	-	-	
			秋ヶ瀬橋堰(上)	C	-	C	
			新荒川大橋	C	D	-	
			正喜橋	A	-	A	
			平井大橋	C	C	-	
			高麗川	高麗川大橋	B	-	-
			小畔川	とげ橋	B	-	C
		都幾川	東松山橋	B	-	-	
		入間川	入間大橋	C	-	C	
			落合橋(入)	B	-	B	
	相模川	相模川	神川橋	C	B	-	
	多摩川	浅川	高幡橋	B	B	-	
			鶴巻橋	B	B	-	
		多摩川	永田橋	B	B	-	
			新二子橋	C	C	-	
			多摩水道橋	C	C	B	
			多摩川原橋	C	C	-	
			調布橋	B	B	A	
			拝島橋	C	B	A	
	鶴見川	鶴見川	亀の子橋	C	C	-	
	那珂川	那珂川	鳥山大橋上流	B	A	-	
			新那珂橋上流	C	B	-	
			大藤橋上流	C	B	-	
			那珂川大橋下流	B	A	-	
			八溝大橋下流	B	B	-	
	富士川	笛吹川	鶴飼橋	B	B	-	
			富士川	南部橋	A	A	-
		富士川	富山橋	A	A	-	
			富士川橋	A	A	-	
	利根川	綾瀬川	内匠橋	-	D	-	
			鳥川	岩倉橋	C	-	-
		鳥川	岩鼻	C	B	A	
			高松	B	B	-	
			鬼怒川	川島橋	A	A	-
		桐生川	水辺の楽校(右岸)	A	B	-	
			水辺の楽校(左岸)	B	B	-	
		江戸川	江戸川	関宿橋	-	-	-
				江戸川水門(上)	-	-	-
				東西線鉄橋下	-	-	-
野田橋				-	-	-	
流山橋				-	-	B	
新葛飾橋				-	-	B	
矢切取水場				-	-	B	
小貝川				中郷	C	-	-
神流川		神流川橋	B	B	A		
		藤武橋	B	B	-		
男鹿川		男鹿川末流	A	A	-		
中川		中川	高砂橋	-	D	-	
			潮止橋	-	D	-	
			八条橋	-	-	C	
			飯塚橋	-	-	C	
渡良瀬川		渡良瀬川	赤岩用水取水口(左岸)	C	B	-	
			田中橋	B	B	-	
			葉鹿橋(右岸)	C	B	-	
			葉鹿橋(左岸)	C	B	-	
			赤岩用水取水口	-	-	A	
利根運河	運河橋	D	-	-			

表-28(3) 新しい水質指標（河川）による年間の総合評価結果一覧

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間の総合評価ランク			
				人と河川の 豊かな ふれあい	豊かな 生態系	利用しやすい 水質	
関東	利根川	利根川	河口堰	-	B	-	
			金江津	-	C	-	
			取手	C	-	-	
			須賀	-	B	-	
			水郷大橋	C	C	B	
			銚子大橋	C	C	-	
			布川	C	B	B	
			木下	-	B	-	
	流水保全水路	ふれあい松戸川	C	-	-		
北陸	関川	関川	今池橋	-	D	-	
	荒川	荒川	温泉橋	-	A	-	
			荒川橋	A	A	-	
			荒川取水堰	-	-	A	
	黒部川	黒部川	下黒部橋	B	A	-	
	小矢部川	小矢部川	国条橋	B	C	-	
	庄川	庄川	大門大橋	A	A	-	
	常願寺川	常願寺川	立山橋	A	A	-	
	阿賀野川	阿賀野川	馬越橋	-	-	-	
			馬越浄水場	-	-	A	
		阿賀野川	馬下	-	-	-	
	信濃川	信濃川	魚野川	小出橋	C	A	-
			旭橋	C	B	-	
			十日町橋	C	A	-	
			長生橋	C	B	-	
			信濃川取水塔	-	-	B	
			平成大橋	-	-	B	
			厚川	睦橋	-	-	B
	千曲川	千曲川	屋島橋	A	A	-	
			生田	-	-	A	
神通川	神通川	神通大橋	A	A	-		
姫川	姫川	濁澄川合流点	-	A	-		
中部	安倍川	安倍川	安倍川大橋	C	A	-	
			曙橋	B	A	A	
			南安倍川橋	C	A	-	
		藁科川	富厚里橋	A	A	-	
	雲出川	雲出川	雲出橋	B	-	A	
			小戸木橋	B	B	-	
			小野江頭首工	B	A	-	
			大仰橋	B	A	A	
	長野川	入田橋	-	D	-		
	中村川	小川橋	-	-	-		
	菊川	菊川	高田橋	C	C	-	
	宮川	宮川	岩出	A	-	-	
			宮川ラブリバー公園	B	B	-	
			度会橋	B	B	A	
		五十鈴川	御側橋	A	A	-	
	榑田川	榑田川	榑田橋	A	B	-	
			両郡橋	B	A	A	
	佐奈川	佐奈川	梶尾橋	C	B	-	
			梶尾橋	C	B	-	
	狩野川	黄瀬川	黄瀬川橋	B	-	-	
			黄瀬川橋下流	C	A	-	
			黄瀬川大橋上流	C	A	-	
		柿田川	狩野川	柿田橋	A	-	-
				黒瀬橋	A	A	-
		狩野川	狩野川	千歳橋下流	A	B	-
				大仁橋	A	-	-
	大仁橋上流			A	A	-	
	来光川	来光川	蛇ヶ橋	B	-	-	
	庄内川	庄内川	多治見橋	-	-	-	
			大留橋	-	-	-	
			天ヶ橋	-	-	-	
			枇杷島橋	-	-	-	
			矢田川	天神橋	-	-	-
	大井川	大井川	神座	B	A	-	
	天竜川	天竜川	蛇川	A	A	-	
			横川川	A	A	-	
三峰川			B	A	-		
松川			A	A	-		
前沢川			新前沢橋	A	A	-	

表-28(4) 新しい水質指標（河川）による年間の総合評価結果一覧

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間の総合評価ランク			
				人と河川の 豊かな ふれあい	豊かな 生態系	利用しやすい 水質	
中部	天竜川	天竜川	伊那路橋	B	A	-	
			駒見大橋	B	A	-	
			天の中川橋	B	A	-	
			天竜橋	B	A	-	
			平成大橋	B	A	-	
			明神橋	C	A	-	
	太田切川	太田切川	大田原橋	A	A	-	
			当古橋	B	A	A	
			江島橋	-	-	A	
	豊川	豊川	石田	-	-	A	
			織船橋	C	-	-	
	木曽川	伊自良川	竹橋	B	-	-	
			杭瀬川	B	-	-	
			根尾川	A	-	-	
			多度川	-	-	-	
			長良川	-	-	B	
			伊勢大橋	-	-	-	
			鏡島大橋	B	-	-	
			長良大橋	B	-	-	
			東海大橋	-	-	-	
			南濃大橋	-	-	-	
		藍川橋	A	-	A		
		木曽川	大山橋	B	-	A	
			東海大橋	-	-	-	
			濃尾大橋	B	-	A	
			木曽川橋	B	-	-	
		揖斐川	岡島橋	A	-	-	
			海津橋	-	-	-	
			鷺田橋	B	-	-	
			福岡大橋	-	-	-	
			伊勢大橋	-	-	-	
		鈴鹿川	安楽川	中富田	A	-	-
				和泉橋	B	B	-
			内部川	河原田橋	A	B	-
	新矢矧橋			B	B	-	
	鈴鹿川		勤進橋	B	B	-	
			亀山橋	B	B	-	
			高岡橋	A	-	-	
			山下橋	B	A	-	
			小倉橋	B	-	-	
			庄野橋	A	B	-	
			鈴国橋	A	-	-	
			和泉橋	B	-	-	
	矢作川		矢作川	岩津天神橋	-	-	B
			明治用水頭首工	-	-	B	
	近畿	加古川	加古川	国包	-	-	C
			池尻	-	-	A	
紀の川		紀の川	九度山橋	A	A	-	
			岸上橋	-	-	B	
			高島橋	-	-	A	
			三谷橋	-	-	B	
			新六ヶ井堰	-	-	B	
			船戸	-	-	B	
			大川橋	-	-	B	
			藤崎井堰	-	-	B	
			千手川	出世不動明王	A	A	-
九頭竜川		九頭竜川	天池河川公園	C	A	-	
			福井大橋下流	B	B	-	
			鳴鹿橋上流	C	B	-	
新宮川		相野谷川	相野谷橋下流	A	A	-	
		熊野川	-	-	-		
大和川		大和川	河内橋	C	B	-	
			浅香	D	-	-	
			藤井	C	-	-	
北川		北川	高塚橋	B	B	-	
			三宅橋	B	B	-	
			天徳寺橋	A	B	-	
揖保川		揖保川	山崎	-	-	A	
			龍野	-	-	A	

表-28(5) 新しい水質指標（河川）による年間の総合評価結果一覧

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間の総合評価ランク				
				人と河川の 豊かな ふれあい	豊かな 生態系	利用しやすい 水質		
近畿	淀川	宇治川	宇治橋	B	B	A		
			大峰橋	-	A	-		
			宇治川御幸橋	-	-	A		
		桂川	渡月橋	B	B	B		
			宮前橋	-	-	B		
		瀬田川	信楽川・瀬田川合流点	B	A	A		
		猪名川	銀橋	-	-	C		
			軍行橋	-	-	A		
			こんにやく橋	B	B	-		
			桑津橋	C	B	-		
		服部川	池田床固下流	B	B	-		
			新服部橋	B	A	-		
		木津川	恭仁大橋	B	B	-		
			加茂恭仁大橋	-	-	A		
			木津川御幸橋	-	-	B		
		野洲川	野洲川大橋	C	D	A		
		淀川	鳥飼大橋	C	B	-		
			柴島（表層）	-	-	A		
			菅原城北大橋（表層）	-	-	A		
			鳥飼大橋（左岸）	-	-	A		
		中国	旭川	旭川	三野	B	B	-
					新大原橋	A	B	-
					乙井手堰	-	-	A
					合同堰	-	-	A
					相生橋	-	-	A
			芦田川	芦田川	山手橋	C	B	-
					小水呑橋	D	A	-
大井手頭首工	-				B	-		
中津原	-				-	A		
中津原取水堰	B				-	-		
府中新橋	A				B	-		
府中大渡橋	A				-	-		
福戸橋	B				-	-		
上戸手	-				-	A		
府中大橋	-				-	A		
高屋川	掛の橋				D	-	-	
	出原橋				C	-	-	
	鶴ヶ橋		D	-	-			
	白鷺橋		-	C	-			
	横尾		-	-	-			
砂川	川北		-	-	-			
	中須大橋		D	-	-			
瀬戸川	観音橋		D	-	-			
	瀬戸川		-	-	-			
吉井川	吉井川		熊山橋	A	B	A		
			備前大橋	B	B	A		
			和気橋	B	B	A		
			鴨越堰	-	-	A		
			弓削橋	-	-	A		
			坂根堰	-	-	A		
			宮橋	B	B	A		
江の川	江の川		祝橋下流	B	B	-		
			川戸	A	A	-		
			川本	A	B	-		
			都賀本郷	A	B	-		
			桜江大橋	-	-	A		
			川平9K700	-	-	A		
高津川	高津川		神田	A	B	-		
高粱川	高粱川		川辺橋	A	B	A		
			湛井堰	B	B	A		
			霞橋	-	-	A		
			笠井堰	-	-	A		
小田川	佐波川		福松橋	B	B	A		
			漆尾	A	A	A		
佐波川	新橋		A	B	A			
	新橋		A	B	A			
小瀬川	小瀬川		両国橋	B	A	A		
千代川	千代川	源太橋	B	A	-			
太田川	太田川	壬辰橋	B	A	-			
		矢口川上流	B	A	A			

表-28(6) 新しい水質指標（河川）による年間の総合評価結果一覧

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間の総合評価ランク			
				人と河川の 豊かな ふれあい	豊かな 生態系	利用しやすい 水質	
中国	天神川	天神川	小田橋	B	A	-	
			竹田橋	A	A	-	
			国府川	B	A	-	
			三徳川	B	A	-	
			小鴨川	下大江親水公園	A	A	-
				出口橋	A	A	-
				松河原大橋	A	A	-
	日野川	日野川	上小鴨水辺の楽校	A	A	-	
			鬼守橋	B	B	-	
			車尾堰	B	B	-	
			車尾	-	-	-	
			八幡	-	-	-	
			法勝寺川	C	A	-	
			四国	吉野川	鮎喰川	鮎喰	-
吉野川	A	A				-	
吉野川	学島橋下流	A			A	-	
	高瀬橋	-			-	A	
	第十堰貯水池内	-			A	-	
	美馬橋下流	B			A	-	
	脇町潜水橋	-			-	-	
	牛屋島橋	-			-	-	
旧吉野川	市場橋	-			-	A	
	大津橋	-			A	-	
穴吹川	穴吹	-			-	-	
	穴吹新橋	A			A	-	
今切川	加賀須野橋	-			A	-	
	鯛浜堰上流	-			-	-	
重信川	重信川	貞光		-	-	-	
		山之内		A	A	-	
		重信橋		B	A	-	
		出合橋		C	C	-	
		中川原橋		C	C	-	
仁淀川	仁淀川	拜志大橋		B	A	-	
		弘岡地先		A	A	-	
渡川	後川	波川地先		A	A	A	
		後川橋		A	B	-	
土器川	土器川	四万十川		A	B	-	
		中筋川		B	B	-	
		丸亀大橋		C	D	-	
		丸亀橋		-	-	A	
九州	遠賀川	遠賀川		常包橋	-	-	-
				吉川地先	B	A	-
	肝属川	始良川		溝堀	C	D	-
				笹尾川	D	D	-
				彦山川	-	-	C
	嘉瀬川	嘉瀬川	中島	-	-	-	
			鶴峰橋	B	A	-	
	菊池川	菊池川	肝属川	C	C	-	
			大脇床止	B	B	-	
	球磨川	球磨川	嘉瀬橋	-	-	A	
中富			C	A	-		
白石			-	-	A		
球磨大橋上流			B	A	-		
中川原公園			B	A	-		
横石			-	-	A		
権現橋			A	A	-		
五ヶ瀬川	五ヶ瀬川	中園川	A	A	-		
		油谷川	B	A	-		
		三輪	B	A	A		
		松山橋	-	-	-		
		祝子川	C	A	-		
		小川	B	A	-		
山国川	山国川	大瀬橋	B	A	-		
		友内川	-	B	-		
		下宮永	B	B	-		
		下唐原	B	B	A		
		柿坂	B	B	-		
城井橋	城井橋	上曾木	B	A	-		
		城井橋	B	B	-		
		城井橋	B	B	-		

表-28(7) 新しい水質指標（河川）による年間の総合評価結果一覧

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間の総合評価ランク		
				人と河川の 豊かな ふれあい	豊かな 生態系	利用しやすい 水質
九州	小丸川	小丸川	高城橋	B	A	-
			竹鳩橋	B	A	-
	松浦川	厳木川	厳木コミュニティーセンター	B	A	-
			中山	B	B	-
			町切堰	B	A	-
		松浦川	大黒堰	B	B	-
			桃川親水公園	B	B	-
			久里橋	-	-	A
	川内川	川内川	堂本堰下流	B	A	-
			麓橋上流	A	A	-
			斧淵	-	-	B
	大分川	大分川	府内大橋	B	B	A
	大野川	乙津川	水辺の楽校	D	B	-
		大野川	白滝橋	B	A	A
	大淀川	大淀川	浦之名川合流点	B	B	-
			相生橋	-	-	A
			本庄川	B	A	B
	筑後川	筑後川	本庄橋	B	A	-
			台霧の瀬	B	A	-
			大山水辺プラザ	B	A	-
			三隈大橋	-	-	A
			瀬ノ下	-	-	B
			島内堰	-	-	A
	白川	白川	子飼橋	B	B	-
			代継橋	C	B	-
	番匠川	番匠川	笠掛水辺の楽校	A	-	-
			上岡	B	A	-
			森下橋	A	-	-
			池船スポーツ公園	B	B	-
			番匠公園	B	A	A
	本明川	本明川	旭町	C	-	-
			公園橋	C	C	-
			四面橋	C	A	-
			鉄道橋	B	A	-
			天満公園前	C	-	-
	矢部川	矢部川	船小屋	C	A	-
	緑川	緑川	中甲橋	B	B	-
			津志田	A	A	-
	六角川	生津川	妙見橋	C	B	-
			武雄川	C	B	-
		六角川	妙見橋	B	B	-
			溝ノ上	B	B	-

コラム：川の魅力アップ ～新しい水質指標での評価結果より～

新しい水質指標による評価は、平成17年より毎年、数多くの調査地点で行われてきました。

調査当初と現在の評価を比較すると、評価が良くなっている調査地点も多数あります（表①）。「人と河川の豊かなふれあいの確保」では、平成17年と比べて2ランクアップした調査地点が全国で6地点ありました（図①）。

今後も引き続き調査を続けることで、調査地点の水質の状況が経年的に比較できます。結果を活用して評価ランクが下がってしまっている原因を確認できれば、更なる水質改善に繋がると考えられます。

※表①は、「人と河川の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」「利用しやすい水質の確保」のいずれかの視点について平成17年と平成25年に同じ調査地点で実施されているものを対象に整理しました。

※ランク変動は、年間の総合評価ランクを数値（A=4、B=3、C=2、D=1）に置き換えて平成17年からの変動を表しています（例：H17年D→H25年Aの場合は3ランクアップ）。

※表①の凡例は、下図の通りです。

【凡例】
年間評価ランク：■Aランク、■Bランク、■Cランク、■Dランク
ランク変動：（ランクアップ）↑3、↑2、↘1
：（変動なし）⇔0
：（ランクダウン）↘-1、↓-2、↓-3

表① 年間評価ランクの変動状況一覧表（1/3）

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間評価ランク						ランク変動				
				ふれあい		生態系		利用		ふれあい	生態系	利用		
				H17年	H25年	H17年	H25年	H17年	H25年					
北海道	釧路川	釧路川	愛国浄水場取水口	-	-	-	-	A	-	-	-	-	-	
			沙流川	B	A	B	A	-	-	1	1	-	-	
	十勝川	札内川	札内橋	C	B	A	A	-	-	1	0	-	-	
			南帯橋	-	-	-	-	A	-	-	-	-	-	
		十勝川	十勝大橋	C	B	B	B	-	A	1	0	-	-	
	渚滑川	渚滑川	ウツツ橋	-	B	A	A	A	-	-	0	0	-	
	尻別川	尻別川	豊国橋下流	B	C	A	A	-	-	-1	0	-	-	
	石狩川	永山橋	永山橋	-	B	-	-	A	A	-	-	-	0	-
			豊平川	A	A	A	A	A	A	0	0	0	0	-
	天塩川	名寄川	天塩川	B	A	C	B	-	A	1	1	-	-	
			日進橋上流	B	A	A	B	-	A	1	-1	-	-	
			真勲別頭首工	-	-	-	-	A	-	-	-	-	-	
	鶴川	鶴川	穂別橋	B	A	A	A	-	-	1	0	-	-	
	網走川	網走川	大正橋	B	B	A	A	-	-	0	0	-	-	
	湧別川	湧別川	遠軽橋	-	B	-	A	A	-	-	-	-	-	
	東北	阿武隈川	阿武隈川	天神橋	B	C	-	-	-	-	-1	-	-	-
				阿久津	-	-	-	-	B	-	-	-	-	-
				丸森	-	-	-	-	B	A	-	-	1	-
黒岩				-	-	-	-	B	B	-	-	0	-	
岩木川		岩木川	上岩木橋	-	C	-	-	A	C	-	-	-2		
赤川		赤川	羽黒橋	C	C	A	A	A	-	0	0	-		
北上川		北上川	紫波橋	B	-	A	-	-	-	-	-	-	-	
			南大橋	C	-	A	-	-	-	-	-	-	-	
鳴瀬川		吉田川	高田橋	-	B	B	-	-	-	-	-	-		
関東		久慈川	荒川	富岡橋	B	-	B	-	A	-	-	-	-	
	久下橋			C	B	A	-	C	B	1	1	-		
	都幾川	入間川	新荒川大橋	C	C	D	D	-	C	0	0	-		
			東松山橋	B	B	B	-	A	C	0	-	-2		
			入間大橋	-	C	-	-	B	-	-	-	-		
			落合橋(入)	-	B	-	-	A	C	-	-	-2		
	多摩川	多摩川	氷田橋	B	B	-	B	-	-	0	-	-		
			新二子橋	B	C	-	C	-	-	-1	-	-		
			多摩水道橋	B	C	-	C	-	-	-1	-	-		
			多摩川原橋	B	C	-	C	-	B	-1	-	-		
	鶴見川	鶴見川	亀の子橋	C	C	-	C	-	A	0	-	-		
	富士川	富士川	箱吹川	C	B	A	B	-	-	1	-1	-		
			南部橋	C	A	A	A	-	-	2	0	-		
			富山橋	C	A	A	A	-	-	2	0	-		
			富士川橋	B	A	A	A	-	-	1	0	-		
	利根川	鳥川	岩倉橋	岩倉橋	B	C	B	-	B	-	-1	-	-	
				岩鼻	-	C	B	B	-	-	-	0	-	
				高松	C	B	B	B	B	A	1	0	1	
				江戸川	D	-	-	-	-	-	-	-	-	
				流山橋	-	-	-	-	B	-	-	-		
			新葛飾橋	-	-	-	-	B	B	-	-			
			中郷	-	C	-	-	C	B	-	-			
			神流川橋	B	B	B	B	A	-	0	0			
			藤武橋	A	B	B	B	-	A	-1	0			
			男鹿川末流	B	A	A	A	-	-	1	0			
			赤岩用水取水口	C	-	A	-	A	-	-	-			
			河口堰	-	-	-	B	C	-	-	-			
			取手	-	C	-	-	B	-	-	-			
			須賀	-	-	-	B	B	-	-	-			
		布川	-	C	-	B	B	-	-	-				
		木下	D	-	-	B	B	B	-	0				
北陸	荒川	荒川	温泉橋	-	-	A	A	-	-	-	0	-		
			荒川橋	C	A	-	A	-	-	2	-	-		
			荒川取水堰	-	-	-	-	A	-	-	-	-		
	黒部川	黒部川	下黒部橋	C	B	A	A	-	A	1	0			
	庄川	庄川	大門大橋	A	A	A	A	-	-	0	0			
	常願寺川	常願寺川	立山橋	B	A	A	A	-	-	1	0			
	阿賀野川	阿賀野川	馬越橋	-	-	-	-	A	-	-	-			
	信濃川	魚野川	小出橋	小出橋	C	C	A	A	-	-	0	0	-	
				十日町橋	C	C	-	A	-	-	0	0	-	
				長生橋	C	C	-	B	-	-	0	-	-	
				平成大橋	D	-	B	-	-	B	-	-	-	
				睦橋	-	-	-	-	C	B	-	-	1	
			千曲川	-	-	-	-	B	-	-	-			
	神通川	神通川	神通大橋	B	A	B	A	-	A	1	1			

表① 年間評価ランクの変動状況一覧表 (2/3)

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間評価ランク						ランク変動				
				ふれあい		生態系		利用		ふれあい	生態系	利用		
				H17年	H25年	H17年	H25年	H17年	H25年					
中部	菊川	菊川	高田橋	-	C	A	C	-	-	-	-	-	-	
			宮川	宮川	岩出	-	A	A	-	-	-	-	-	-
	榎田川	榎田川	度会橋	B	B	A	B	-	-	0	0	-1	-	
			榎田橋	B	A	B	B	-	-	1	1	0	-	
	狩野川	狩野川	両郡橋	C	B	D	A	-	-	1	1	3	-	
			大仁橋上流	-	A	A	A	-	-	-	-	0	-	
	庄内川	庄内川	大留橋	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			大井川	大井川	神座	C	B	-	A	-	-	1	-	-
	木曾川	木曾川	江島橋	-	-	B	-	-	-	-	-	-	-	
			長良川	藍川橋	B	A	-	-	A	-	1	-	-	
	木曾川	木曾川	東海大橋	C	-	-	-	-	A	-	-	-	-	
			木曾川橋	A	B	-	-	-	A	-	-1	-	-	
	鈴鹿川	鈴鹿川	揖斐川	-	-	B	A	-	-	-	-	-	-	
			安楽川	和泉橋	-	B	B	B	-	-	-	0	-	-
	鈴鹿川	鈴鹿川	内部川	河原田橋	-	A	B	B	-	-	-	0	-	-
			鈴鹿川	勸進橋	-	B	B	B	-	-	-	0	-	-
	鈴鹿川	鈴鹿川	高岡橋	-	-	A	B	-	-	-	-	-	-	
			庄野橋	B	A	B	B	-	-	1	1	0	-	
	鈴鹿川	鈴鹿川	鈴国橋	C	A	B	-	-	-	-	2	-	-	
			加古川	加古川	池尻	-	-	-	-	A	C	-	-	-2
近畿	紀の川	紀の川	九度山橋	-	A	B	A	-	-	-	1	-	-	
			岸上橋	A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	大和川	大和川	新六ヶ井堰	-	-	A	-	-	-	-	-	-	-	
			大川橋	B	-	-	-	-	B	-	-	-	-	
	北川	北川	河内橋	-	C	C	B	-	-	-	1	-	-	
			高塚橋	B	B	B	B	-	-	0	0	0	-	
	揖保川	揖保川	龍野	C	-	B	-	A	A	-	-	0	-	
			宇治川	宇治橋	B	B	B	B	-	A	0	0	0	-
	淀川	淀川	大峰橋	-	-	A	A	B	A	-	-	0	1	
			宇治川御幸橋	-	-	-	-	B	-	-	-	-	-	
	桂川	桂川	渡月橋	B	B	B	B	-	A	0	0	0	-	
			宮前橋	-	-	-	-	C	B	-	-	-	1	
	猪名川	猪名川	銀橋	B	-	B	-	-	A	-	-	-	-	
			桑津橋	A	C	B	B	-	-	-	-2	0	-	
	服部川	服部川	新服部橋	C	B	B	A	-	-	1	1	1	-	
			木津川	木津川御幸橋	-	-	-	-	C	A	-	-	2	-
	野洲川	野洲川	野洲川大橋	B	C	C	D	B	B	-	-1	-1	0	
			淀川	鳥飼大橋	C	C	C	B	C	A	0	1	2	
	中国	旭川	旭川	乙井手堰	B	-	B	-	A	-	-	-	-	-
				吉井川	吉井川	熊山橋	B	A	B	B	A	-	1	0
江の川		江の川	桜江大橋	-	-	A	-	A	-	-	-	-	-	
			高津川	高津川	神田	B	A	A	B	-	A	1	-1	-
高梁川		高梁川	澁井堰	B	B	B	B	A	A	0	0	0	0	
			佐波川	佐波川	新橋	B	A	B	B	-	A	1	0	-
小瀬川		小瀬川	両国橋	B	B	A	A	-	A	0	0	0	-	
			千代川	千代川	源太橋	B	B	A	A	A	A	0	0	0
太田川		太田川	壬辰橋	B	B	A	A	-	-	0	0	0	-	
			矢口川上流	-	-	B	A	A	-	-	-	1	-	
日野川		日野川	重尾	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			八幡	-	-	A	-	-	-	-	-	-	-	
四国		吉野川	吉野川	鮎喰	B	-	-	A	-	-	-	-	-	-
				高瀬橋	A	-	-	-	B	-	-	-	-	-
		旧吉野川	旧吉野川	脇町潜水橋	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-
				市場橋	C	-	-	-	-	C	-	-	-	-
		穴吹川	穴吹川	穴吹	A	-	A	-	-	-	-	-	-	-
				貞光川	貞光	C	-	-	-	-	-	-	-	-
		重信川	重信川	重信橋	D	B	C	A	-	-	2	2	2	-
				出合橋	C	C	C	C	B	-	0	0	0	-
	渡川	渡川	中川原橋	C	C	D	C	-	-	0	1	-	-	
			拝志大橋	B	B	A	A	-	-	0	0	0	-	
	土器川	土器川	後川	後川橋	B	A	B	B	-	A	1	0	-	
			四万十川	具同	A	A	A	B	-	-	0	-1	-	
	土器川	土器川	祓川橋	B	B	A	A	-	-	0	0	0	-	
			丸亀橋	C	-	C	-	B	-	-	-	-	-	
	土器川	土器川	常包橋	B	-	-	-	-	A	-	-	-	-	

表① 年間評価ランクの変動状況一覧表 (3/3)

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間評価ランク						ランク変動					
				ふれあい		生態系		利用		ふれあい	生態系	利用			
				H17年	H25年	H17年	H25年	H17年	H25年						
九州	遠賀川	遠賀川	溝堀	C	C	C	D	-	-	⇒	0	-1	-		
			彦山川	-	-	-	-	-	C	-	-	-	-	-	
	肝属川	肝属川	鹿屋小学校前	B	C	C	C	-	-	⇒	-1	⇒	0	-	
			菊池川	菊池川	C	C	A	A	-	A	⇒	0	⇒	0	-
	五ヶ瀬川	五ヶ瀬川	白石	-	-	-	-	-	A	-	-	-	-	-	
			三輪	-	B	B	A	-	-	-	⇒	-	⇒	1	-
			松山橋	-	-	B	-	-	A	-	-	-	-	-	
			大瀬川	C	B	A	A	-	-	⇒	1	⇒	0	-	
	山国川	山国川	下宮永	A	B	B	B	-	-	⇒	-1	⇒	0	-	
			柿坂	A	B	-	B	-	A	⇒	-1	-	-	-	
			上曾木	A	B	-	A	-	-	-	⇒	-1	-	-	
			城井橋	A	B	A	B	-	-	⇒	-1	⇒	-1	-	
	小丸川	小丸川	高城橋	C	B	A	A	-	-	⇒	1	⇒	0	-	
	松浦川	松浦川	久里橋	-	-	-	-	A	-	-	-	-	-		
	川内川	川内川	谷洲	-	-	B	-	A	-	-	-	-	-		
	大分川	大分川	府内大橋	B	B	B	B	A	B	⇒	0	⇒	0	-1	
	大野川	乙津川	水辺の楽校	C	D	C	B	-	A	⇒	-1	⇒	1	-	
			筑後川	筑後川	白滝橋	B	B	B	A	A	-	⇒	0	⇒	1
	筑後川	筑後川	台霧の瀬	-	B	B	A	-	B	-	⇒	-	⇒	1	-
			三隈大橋	B	-	-	-	A	-	-	-	-	-	-	
			瀬ノ下	C	-	A	-	B	A	-	-	-	-	⇒	1
			島内堰	B	-	A	-	A	B	-	-	-	-	⇒	-1
	白川	白川	子飼橋	B	B	B	B	-	A	⇒	0	⇒	0	-	
			代継橋	B	C	B	B	-	-	-	⇒	-1	⇒	0	-
	番匠川	番匠川	上岡	A	B	-	A	-	-	⇒	-1	-	-	-	
			池船スポーツ公園	B	B	-	B	-	-	⇒	0	-	-	-	
	本明川	本明川	旭町	C	C	B	-	-	A	⇒	0	-	-	-	
			鉄道橋	B	B	A	A	-	-	⇒	0	⇒	0	-	
			天満公園前	C	C	A	-	-	-	⇒	0	-	-	-	
	矢部川	矢部川	船小屋	B	C	B	A	-	-	⇒	-1	⇒	1	-	
	緑川	緑川	中甲橋	D	B	A	B	-	-	⇒	2	⇒	-1	-	
	六角川	牛津川	妙見橋	C	C	B	B	-	-	⇒	0	⇒	0	-	

荒川		【荒川橋】				
調査年	総合評価 ランク	①ゴミの 量	②透視度	③川底の 感触	④水の におい	⑤糞便性 大腸菌
H17年	C	★	★	★	★	★
H25年	A	-	-	★	★	-

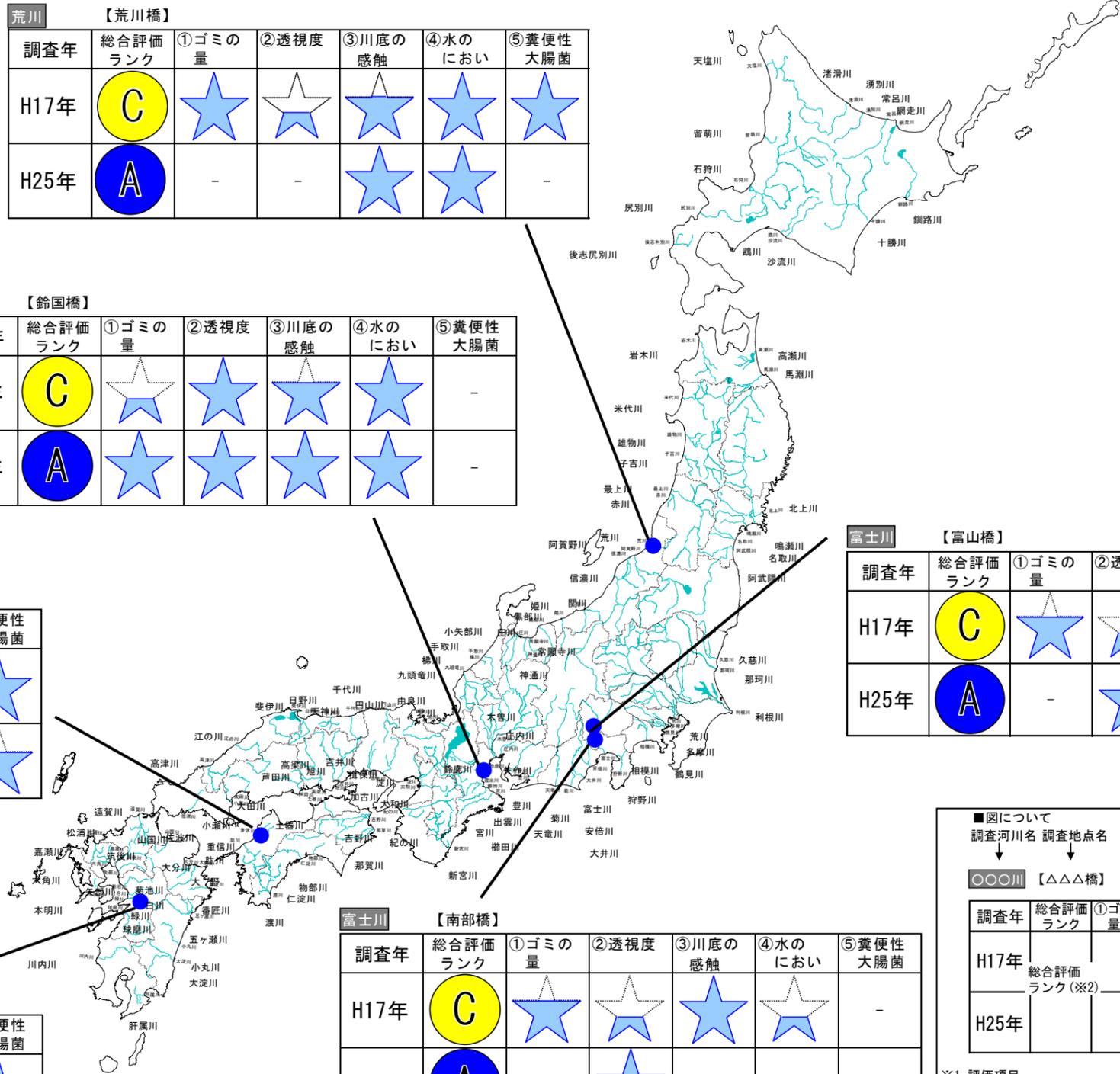
鈴鹿川		【鈴国橋】				
調査年	総合評価 ランク	①ゴミの 量	②透視度	③川底の 感触	④水の におい	⑤糞便性 大腸菌
H17年	C	★	★	★	★	-
H25年	A	★	★	★	★	-

重信川		【重信橋】				
調査年	総合評価 ランク	①ゴミの 量	②透視度	③川底の 感触	④水の におい	⑤糞便性 大腸菌
H17年	D	★	★	★	★	★
H25年	B	★	★	★	★	★

緑川		【中甲橋】				
調査年	総合評価 ランク	①ゴミの 量	②透視度	③川底の 感触	④水の におい	⑤糞便性 大腸菌
H17年	D	★	★	★	★	★
H25年	B	★	★	★	★	★

富士川		【南部橋】				
調査年	総合評価 ランク	①ゴミの 量	②透視度	③川底の 感触	④水の におい	⑤糞便性 大腸菌
H17年	C	★	★	★	★	-
H25年	A	-	★	-	-	-

富士川		【富山橋】				
調査年	総合評価 ランク	①ゴミの 量	②透視度	③川底の 感触	④水の におい	⑤糞便性 大腸菌
H17年	C	★	★	★	★	-
H25年	A	-	★	-	-	-



■図について
調査河川名 調査地点名

○○○川 【△△△橋】

調査年	総合評価 ランク	①ゴミの 量	②透視度	③川底の 感触	④水の におい	⑤糞便性 大腸菌
H17年	総合評価 ランク(※2)	ランク評価(※3)				
H25年						

← 評価項目 (※1)

※1 評価項目
①ゴミの量が少ない
②透視度が高い
③川底の感触が不快ではない
④水のおいが不快ではない
⑤糞便性大腸菌数が少ない

※3 ランク評価

Aランク	Bランク	Cランク	Dランク
★	★	★	★

※2 総合評価ランク
Aランク…顔を川の水につけやすい
Bランク…川の中に入って遊びやすい
Cランク…川の中には入れないが、川に近づくことができる
Dランク…川の水の魅力がなく、川に近づきにくい

図① 「人と河川の豊かなふれあいの確保」評価ランクの平成17年から平成25年の変化（2ランクアップの調査地点）

②水質調査地点の平均的な水質（BOD値）が良好な河川との比較

平成25年の各河川における水質調査地点の平均的な水質（BOD値）が良好な河川について、新しい水質指標により評価した結果を表-29(1)、表-29(2)に示した。

良好な河川について新しい水質指標により測定された河川についてみると、「人と河川の豊かなふれあいの確保」の視点ではゴミの量、透視度、川底の感触、水のおいの評価が低い地点もみられるが、他の項目はAランクとなっており、BOD以外の視点からも概ね良好な河川であることが分かった。「豊かな生態系の確保」の視点、「利用しやすい水質の確保」の視点では全ての評価項目がAランクとなっており、BOD以外の視点からも良好な河川であった。

表-29(1) 水質調査地点の平均的な水質（BOD値）が良好な河川の新しい水質指標による評価（平成25年）

地方名／河川名 (水系名)	都道府県名	BOD (mg/ℓ)		新しい水質指標による評価												
		平均値	(75%値)	人と河川の豊かなふれあいの確保					豊かな生態系の確保			利用しやすい水質の確保				
				① ゴミの量が少ない	② 透視度が高い	③ 川底の感触が不快ではない	④ 水のおいが不快ではない	⑤ 糞便性大腸菌群数が少ない	⑥ DOが多い	⑦ NH ₄ -Nが少ない	⑧ きれいな水にすむ生物が多い	⑨ トリハロメタン生成能が少ない	⑩ 2-MIBが少ない	⑪ シオスミンが少ない	⑫ NH ₄ -Nが少ない	
北海道／尻別川 (尻別川水系)	北海道			★	★	★	★	※未測定	※未測定	★	※未測定					
東北／荒川 (阿武隈川水系)	福島			※未測定					※未測定			※未測定				
北陸／庄川 (庄川水系)	富山	0.5	(0.5)	★	★	★	★	★	★	★	※未測定					
中部／安倍川 (安倍川水系)	静岡			★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
中国／小幡川 (天神川水系)	鳥取			★	★	★	★	※未測定	※未測定	★	※未測定					

『人と河川の豊かなふれあいの確保』				『豊かな生態系の確保』				『利用しやすい水質の確保』		
Aランク	Bランク	Cランク	Dランク	Aランク	Bランク	Cランク	Dランク	Aランク	Bランク	Cランク
★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★

- ※新しい水質指標による評価について
- ①それぞれの項目について、Aが最も良い評価ランクです。
 - ②「人と河川の豊かなふれあいの確保」では、河川水質を親水性や景観の観点から調査した結果です。また、「豊かな生態系の確保」では、河川水質を水生生物の生息環境の観点、「利用しやすい水質の確保」では、河川水質を水道水への利用のしやすさの観点から調査した結果です。
 - ③「人と河川の豊かなふれあいの確保」と「豊かな生態系の確保」では、地域住民と河川管理者が協働して調査を実施しています（一部の水質項目は河川管理者のみで実施しています）。
 - ④河川の水質を評価したものであり、その地点への近づき易さや河川形態などは評価の対象となっていません。
 - ⑤「人と河川の豊かなふれあいの確保」では、においや感触など、個人差が生じる項目も含んだ結果です。
 - ⑥「利用しやすい水質の確保」は、水道水源としての利用しやすさを評価する指標項目であることから、主に上水道取水がある水域を調査対象範囲としました。

表-29(2) 水質調査地点の平均的な水質（BOD値）が良好な河川の新しい水質指標による評価（平成25年）

地方名/河川名 (水系名)	都道府県名	BOD (mg/ℓ)		新しい水質指標による評価											
		平均値	(75%値)	人と河川の豊かなふれあいの確保					豊かな生態系の確保			利用しやすい水質の確保			
				① ゴミの量が少ない	② 透視度が高い	③ 川底の感触が不快ではない	④ 水のおいが不快ではない	⑤ 糞便性大腸菌群数が少ない	⑥ DOが多い	⑦ NH ₄ -Nが少ない	⑧ きれいな水にすむ生物が多い	⑨ トリハロメタン生成能が少ない	⑩ 2-MIBが少ない	⑪ シオスミンが少ない	⑫ NH ₄ -Nが少ない
中国/高津川 (高津川水系)	島根	0.5	(0.5)	★	★	★	★	★	★	★	★	※未測定			
四国/仁淀川 (仁淀川水系)	高知			★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
四国/吉野川 (吉野川水系)	徳島			★	★	★	★	※未測定	★	★	★	★	★	★	★
九州/川辺川 (球磨川水系)	熊本			★	★	★	★	★	★	★	★	※未測定			
九州/五ヶ瀬川 (五ヶ瀬川水系)	宮崎			★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★

『人と河川の豊かなふれあいの確保』				『豊かな生態系の確保』				『利用しやすい水質の確保』		
Aランク	Bランク	Cランク	Dランク	Aランク	Bランク	Cランク	Dランク	Aランク	Bランク	Cランク
★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★

※新しい水質指標による評価について

- ①それぞれの項目について、Aが最も良い評価ランクです。
- ②「人と河川の豊かなふれあいの確保」では、河川水質を親水性や景観の観点から調査した結果です。また、「豊かな生態系の確保」では、河川水質を水生生物の生息環境の観点、「利用しやすい水質の確保」では、河川水質を水道水への利用のしやすさの観点から調査した結果です。
- ③「人と河川の豊かなふれあいの確保」と「豊かな生態系の確保」では、地域住民と河川管理者が協働して調査を実施しています（一部の水質項目は河川管理者のみで実施しています）。
- ④河川の水質を評価したものであり、その地点への近づき易さや河川形態などは評価の対象となっておりません。
- ⑤「人と河川の豊かなふれあいの確保」では、においや感触など、個人差が生じる項目も含んだ結果です。
- ⑥「利用しやすい水質の確保」は、水道水源としての利用しやすさを評価する指標項目であることから、主に上水道取水がある水域を調査対象範囲としました。

一方、新しい水質指標の「人と河川の豊かなふれあいの確保」の視点について、各調査地点の年間の総合評価ランク別に、河川のBOD平均水質との関係をまとめた結果を図-30に示す。総合評価ランクA～Dの総数はそれぞれ異なるが、Bランクと良好な評価をされた地点でもBOD平均値が比較的高い河川があることや、逆に、BOD平均値が低い河川でも、最も評価の低いDランクの地点があることがわかった。

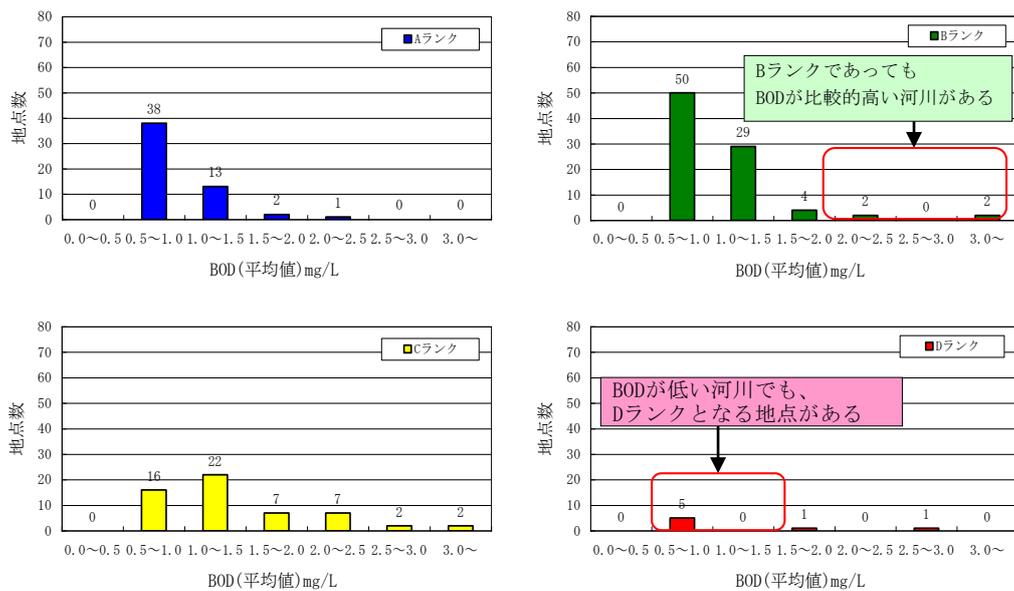


図-30 「人と河川の豊かなふれあいの確保」の年間の総合評価ランク別の河川のBOD平均値と地点数

③新しい水質指標（河川）（案）による総合評価の最低ランクの原因の推定

新しい水質指標による総合評価結果のうち最低ランクの地点について、項目別評価ランクを示した（図-31(1)～図-31(3)）。

「人と河川の豊かなふれあいの確保」については、総合評価ランクが最も低いDランクであった15地点のうち、大和川水系大和川の浅香と大野川水系乙津川の水辺の楽校では「水の臭い」、芦田川水系瀬戸川の観音橋では「川底の感触」の評価ランクが低い時期があったことが原因であった。その他の12地点では、透視度のみの評価ランクが低い時期があったことが原因であった。

「豊かな生態系の確保」については、総合評価ランクが最も低いDランクであった10地点のうち、4地点ではアンモニア性窒素(NH₄-N)、6地点では「生物の生息・生育・繁殖環境」の評価ランクが低い時期があることが原因であった。

「利用しやすい水質の確保」については、総合評価ランクが最も低いCランクであった12地点のうち、半数の6地点ではトリハロメタン生成能とアンモニア性窒素(NH₄-N)、3地点では「トリハロメタン生成能」、2地点ではアンモニア性窒素(NH₄-N)、1地点では「2-MIB」の評価ランクが低い時期があることが原因であった。

表-30 総合評価の最低ランクの原因

水質指標	評価項目	地点数
人と河川の豊かなふれあいの確保	ゴミの量	0
	透視度	12
	川底の感触	1
	水におい	2
	糞便性大腸菌	0
	計	15
豊かな生態系の確保	DO	0
	NH ₄ -N	4
	水生生物の生息	6
	計	10
利用しやすい水質の確保	トリハロメタン生成能	9
	2-MIB	1
	ジエオスミン	0
	NH ₄ -N	8
	計	18

※重複している地点もあるため、最低ランク数と表中の計は一致しない水質指標がある。

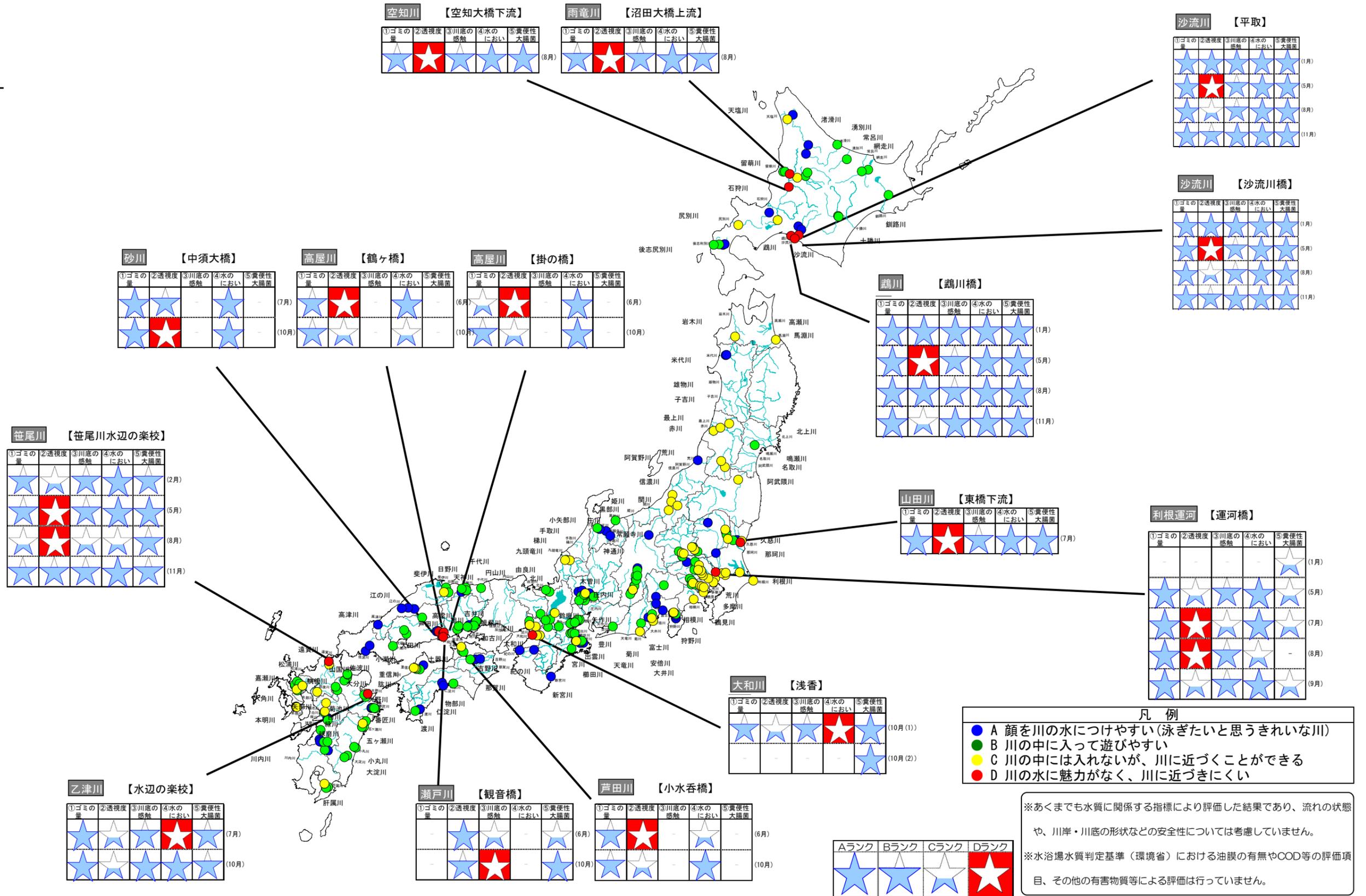


図-31(1) 平成25年「人と河川の豊かなふれあいの確保」調査結果 Dランクの要因分析

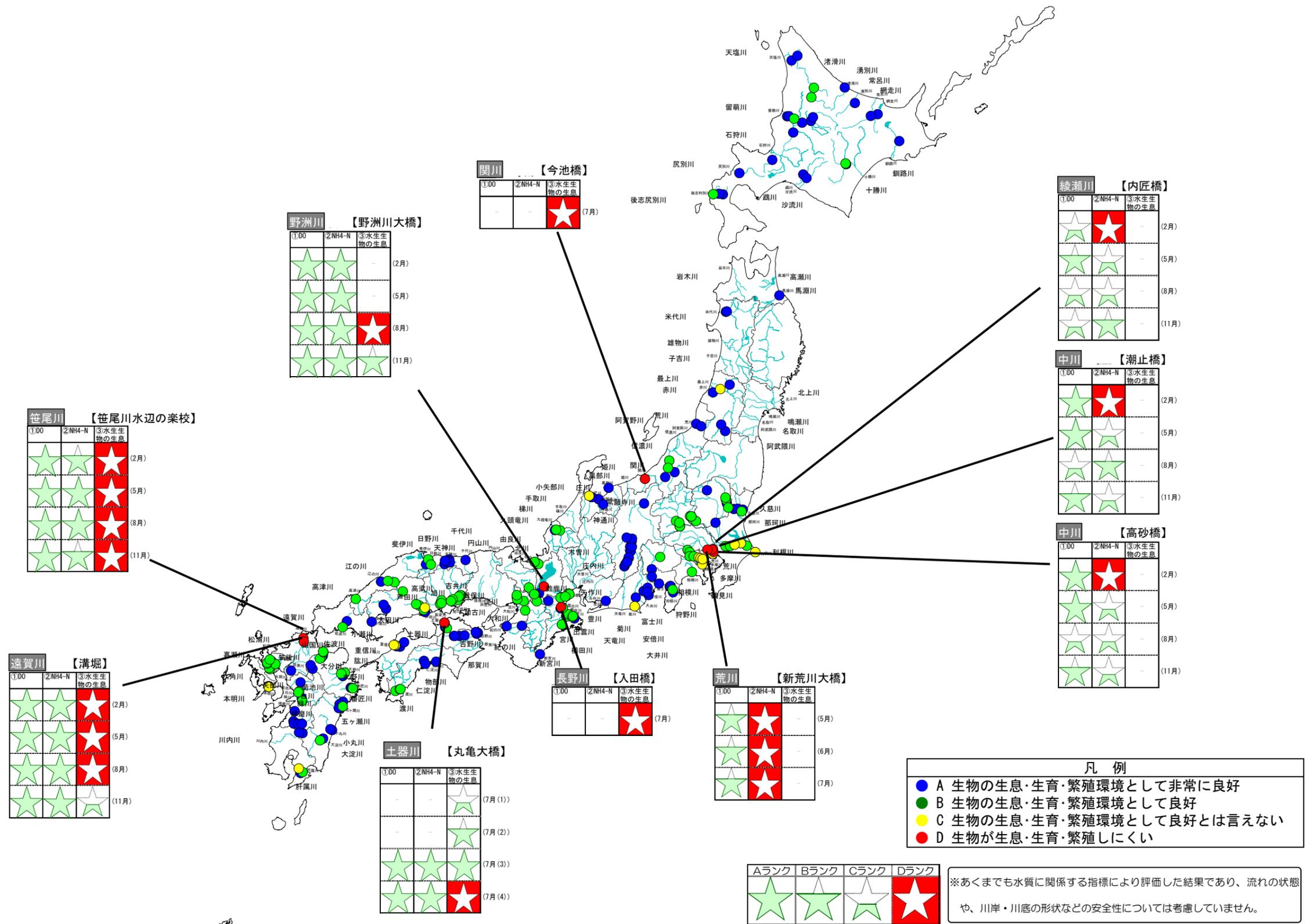
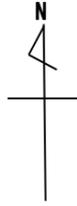


図-31(2) 平成25年「豊かな生態系の確保」調査結果 Dランクの要因分析

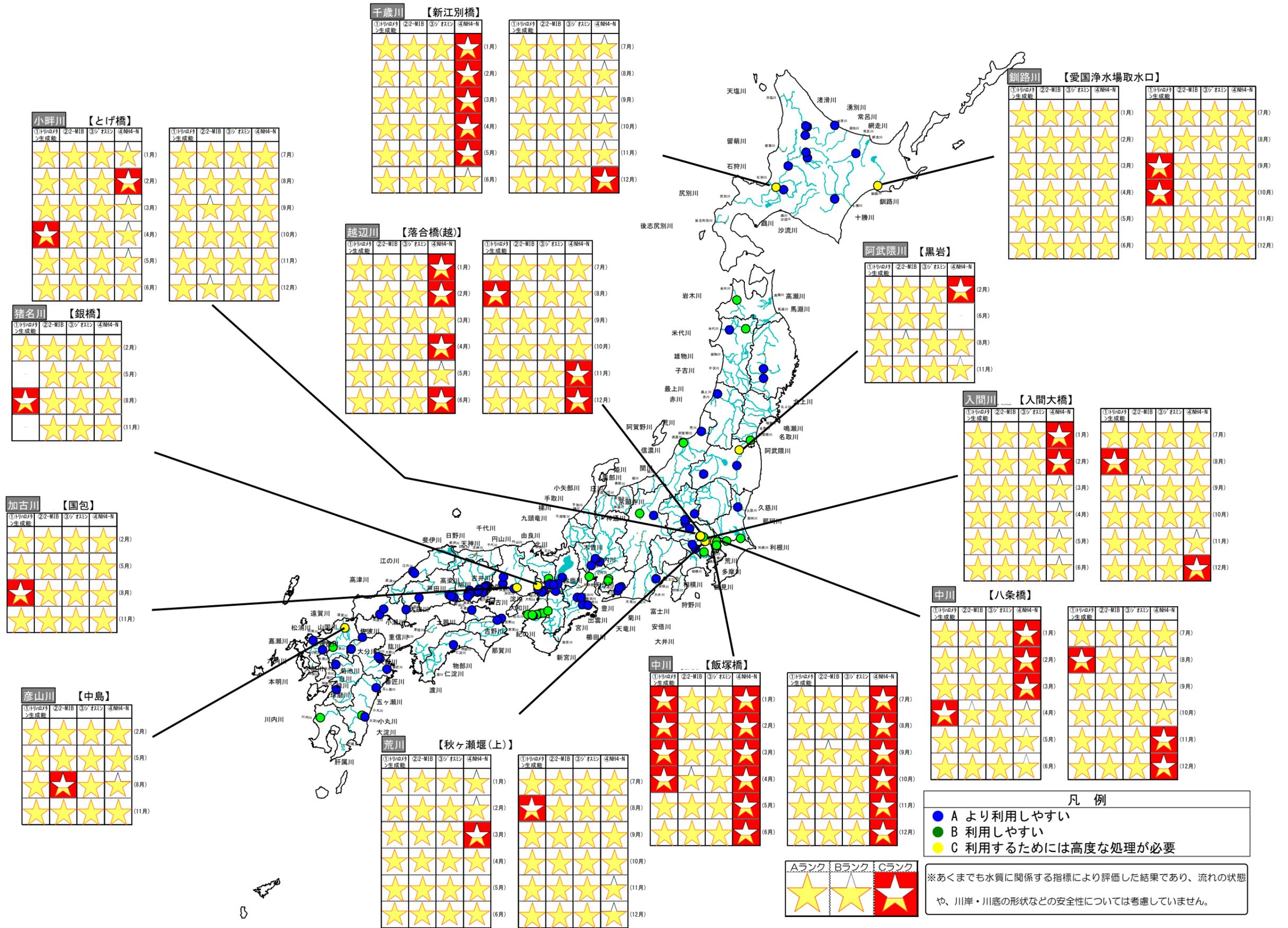


図-31(3) 平成25年「利用しやすい水質の確保」調査結果 Cランクの要因分析

④新しい水質指標（河川）（案）による全国の調査地点のAランク評価

前述の評価は、それぞれの視点について3～5つある評価項目のうち、最も低い項目別評価ランクをその地点の総合評価ランクとしたものである。

ここでは、各視点についてAランク（最も良い評価）を得た項目数を星（☆）の数で表し、調査地点を評価した結果を図-32に示す。星の数が多いものほど、各視点の項目で高い評価を得た数が多いことを示す。なお、ここでは、全測定項目を測定した調査地点をとりまとめの対象とした注²²。

「人と河川の豊かなふれあいの確保」は、ゴミの量や透視度等全5項目を測定しており、全項目がAランクであると☆が5つになる。全調査地点のうち、全項目がAランクであった☆5つは約20%（36地点/178地点）であった。

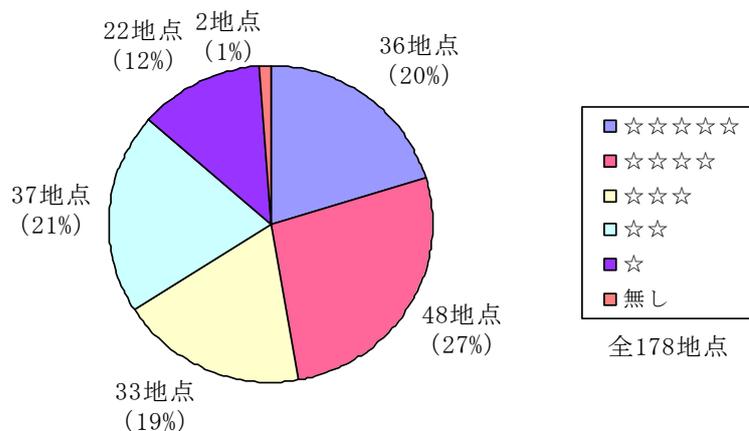
「豊かな生態系の確保」は、水生生物の生息等全3項目を測定している。全調査地点のうち全項目がAランクであった☆3つの地点が最も多く約51%（80地点/157地点）であった。また、全ての地点はいずれかの項目でAランクと評価された。

「利用しやすい水質の確保」は、トリハロメタン生成能等全4項目を測定している。全調査地点のうち全項目がAランクであった☆4つの地点が最も多く、約88%（122地点/138地点）であった。また、全ての地点でいずれかの項目がAランクと評価された。

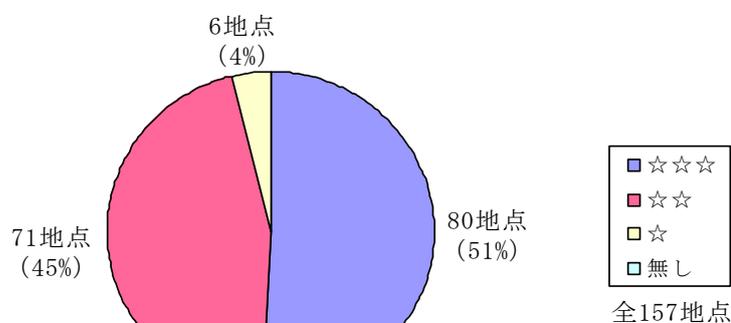
注²² 同一地点で年間に複数回の調査が行われた場合は、調査回ごとの評価ランク（☆の数）の最頻値を地点の年間評価とした。最頻値が2つ以上ある場合は、☆の数の少ない方を地点の年間評価とした。

全測定項目を測定した調査地点をとりまとめの対象としたことから「(2)実施水系・地点数」などに示した全地点数とは異なる。

【人と河川の豊かなふれあいの確保】



【豊かな生態系の確保】



【利用しやすい水質の確保】

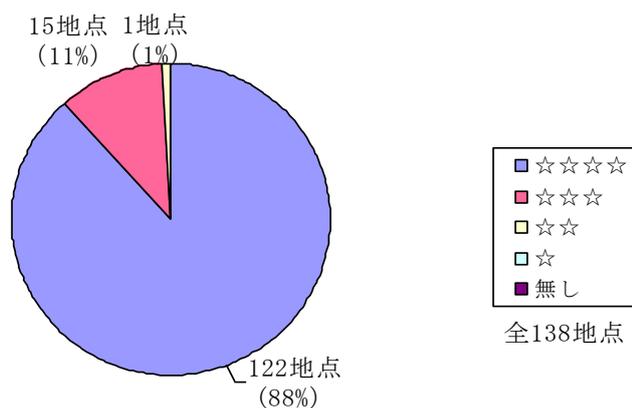


図-32 Aランクで評価された項目数を用いた調査地点とその割合*

※各地点について、各視点からAランクと評価された測定項目の数を☆の数で示した。
 人と河川の豊かなふれあいの確保：全5項目、豊かな生態系の確保：全3項目、利用しやすい水質の確保：全4項目

(5) 「人と河川の豊かなふれあいの確保」

① 評価項目と評価レベル

「人と河川の豊かなふれあいの確保」は、快適性や安全性といった、人が河川とふれあう際に、河川水質が確保すべき機能を評価するための視点である。

評価項目として、「ゴミの量」「透視度」「川底の感触」「水のおい」「糞便性大腸菌群数」の5つが設定されており、このうち糞便性大腸菌群数以外の4項目は、住民と河川管理者とが協働で調査する項目である。

各評価項目の評価レベルは表-31に示すとおりであり、評価は調査回ごとに最も低い項目別評価ランクをその地点のその調査時の総合評価ランクとしている。1年間の調査時の総合評価ランクのうち、年間を通じて最も頻度の高かったランクをその地点の年間の総合評価ランクとしている。

表-31 「人と河川の豊かなふれあいの確保」の評価項目と評価レベル
(赤枠内は住民と協働調査)

ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル					地域特性項目
			全国共通項目				糞便性大腸菌群数 (個/100mL)	
			ゴミの量	透視度 (cm)	川底の感触	水のおい		
A	顔を川の水につけやすい (泳ぎたいと思うきれいな川)		川の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ゴミはあるが全く気にならない	100以上	快適である	不快でない	100以下	・住民と共に独自に設定 ・文献等から設定
B	川の中に入って遊びやすい		川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	70以上	不快感がない		1000以下	
C	川の中には入れないが、川に近づくことができる		川の中や水際にゴミがあって不快である	30以上	不快である	水に鼻を近づけると不快な臭いを感じる	1000を超えるもの	
D	川の水に魅力がなく、川に近づきにくい		川の中や水際にゴミがあってとても不快である	30未満				

②年間の総合評価ランク

地点の年間の総合評価について、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、地方別に図-33に示す。

地方により内訳の違いが大きかったが、全国の合計では、Aランクの地点が約26%、A、Bランクの地点を合わせると約72%であった。地方ごとに見ると、東北地方、関東地方を除く各地方では、AランクとBランクの地点が過半数を占めていた。

【人と河川の豊かなふれあいの確保】

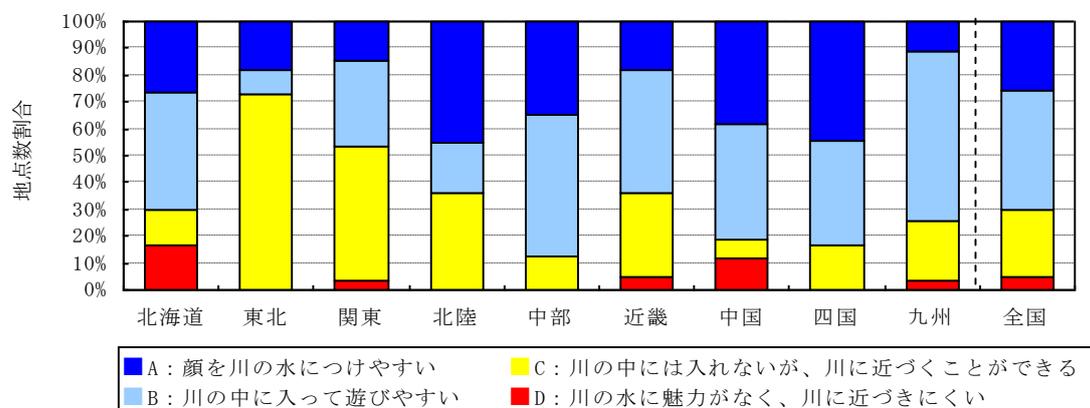


図-33 年間の総合評価ランク別割合（人と河川の豊かなふれあいの確保）

③年間の評価項目評価ランク

5つの評価項目それぞれについて、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、地方別に図-34に示す。

Cランク以下と評価された地点の割合に着目すると、地方ごとに傾向が異なっていた。北海道地方、東北地方、関東地方、北陸地方は透視度がCランクを下回る地点が多くなっている。

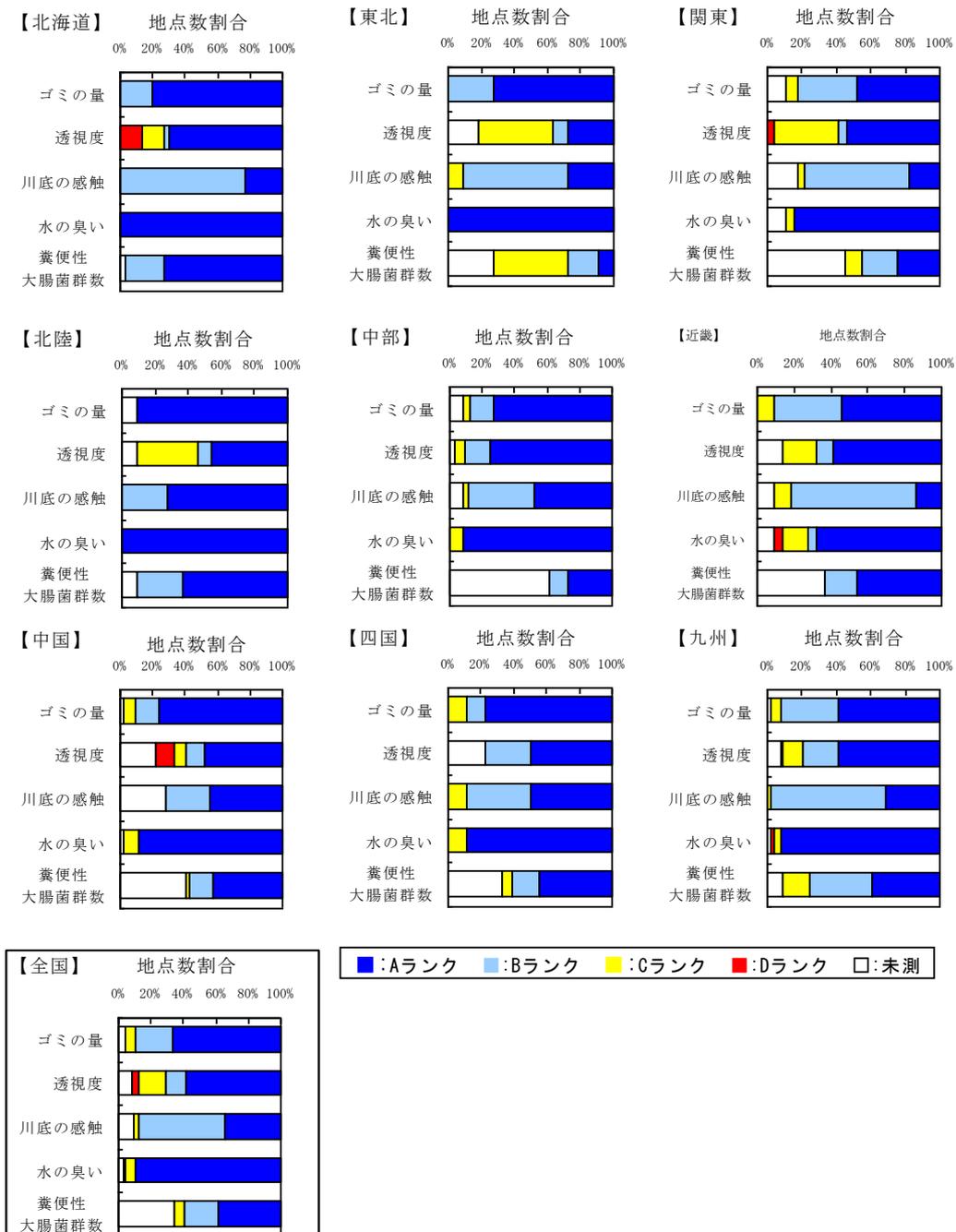


図-34 年間の評価項目のランク別割合（人と河川の豊かなふれあいの確保）

(6) 「豊かな生態系の確保」

①評価項目と評価レベル

「豊かな生態系の確保」は、動植物の生息や生育、繁殖といった、河川の健全な生態系を確保する上で、河川水質が満たすべき機能を評価するための視点である。

評価項目として、「溶存酸素(DO)」「アンモニア性窒素(NH₄-N)」「水生生物の生息」の3つが設定されており、このうち水生生物の生息は、住民と河川管理者とが協働で調査する項目である。

各評価項目の評価レベルは表-32に示すとおりであり、評価は調査回ごとに最も低い項目別評価ランクをその地点のその調査時の総合評価ランクとしている。1年間の調査時の総合評価ランクのうち、年間を通じて最も低かったランクをその地点の年間の総合評価ランクとしている。

表-32 「豊かな生態系の確保」の評価項目と評価レベル
(赤枠内は住民と協働調査)

ランク	説明	評価項目と評価レベル			地域特性項目 当該河川・地点の特性や地域住民のニーズに応じて独自に設定
		全国共通項目			
		DO(mg/L)	NH ₄ -N(mg/L)	水生生物の生息	
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2以下	I. きれいな水 ・カワゲラ ・ナガレトビケラ等	・住民と共に独自に設定 ・文献等から設定
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上	0.5以下	II. 少しきたない水 ・コガタシマトビケラ ・オオシマトビケラ等	
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3以上	2.0以下	III. きたない水 ・ミズムシ ・ミズカマキリ等	
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2.0を超えるもの	IV. 大変きたない水 ・セスジユスリカ ・チョウバエ等	

②年間の総合評価ランク

地点の年間の総合評価について、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、地方別に図-35に示す。

全国的にAあるいはBランクである地点の割合が高く、全国の合計では、Aランクの地点が約52%、A、Bランクの地点を合わせると約90%であった。地方ごとに見ると、全ての地方でAランクとBランクの地点が過半数を占めていた。

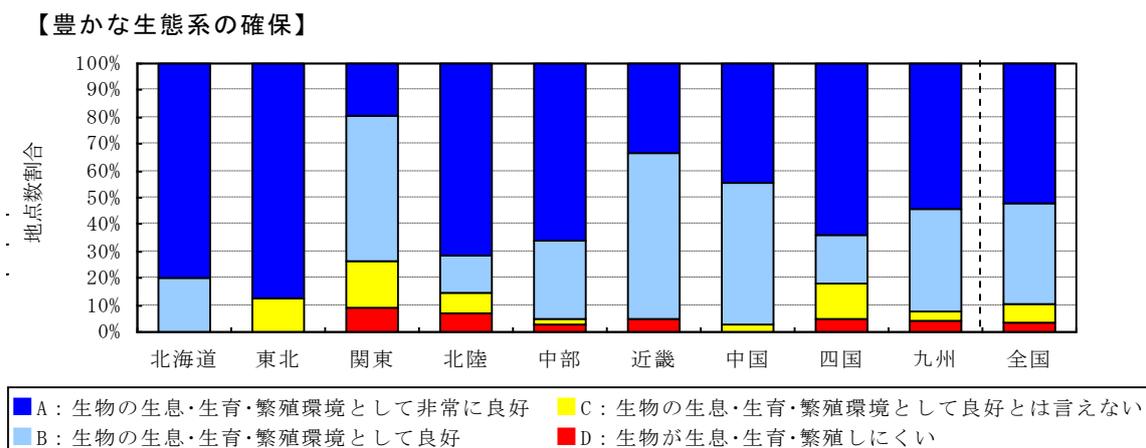


図-35 年間の総合評価ランク別割合 (豊かな生態系の確保)

③年間の評価項目評価ランク

3つの評価項目それぞれについて、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、地方別に図-36に示す。

全国を合わせてみると、DOは測定を行った約91%の地点でAランクであった。NH₄-Nと水生生物の生息は測定を行った約90%以上の地点でBランク以上であった。地方ごとに見ると、関東地方はNH₄-N、がDランクである地点の割合が多い。

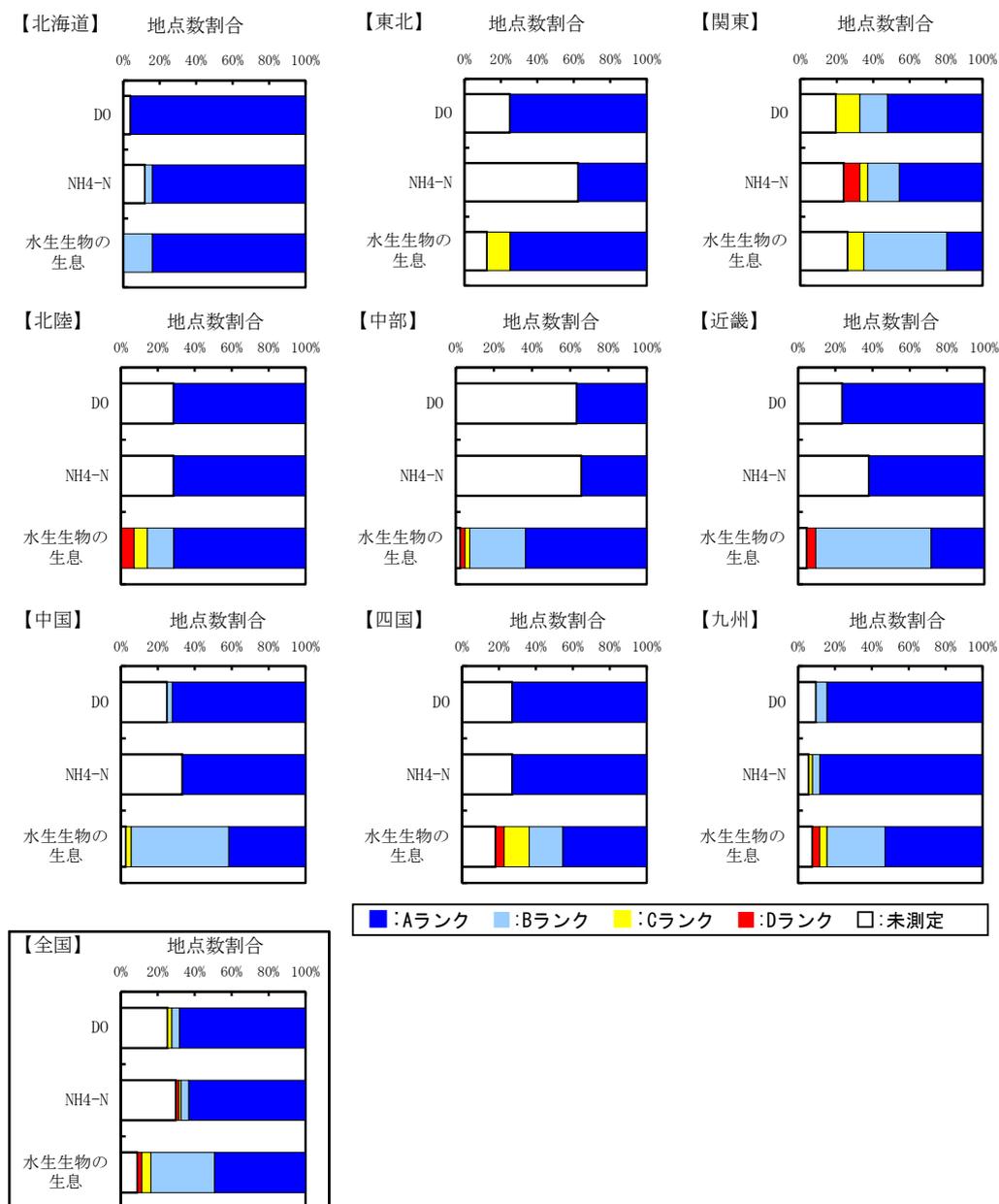


図-36 年間の評価項目のランク別割合 (豊かな生態系の確保)

(7) 「利用しやすい水質の確保」

① 評価項目と評価レベル

「利用しやすい水質の確保」は、現状において特に水質的課題が顕著である「上水利用」に注目し、安全性や快適性、維持管理性（浄水処理管理）といった、河川水質が確保すべき機能を評価するための視点である。

評価項目として、「トリハロメタン生成能」「2-MIB」「ジオスミン」「アンモニア性窒素(NH₄-N)」の4つが設定されている。

各評価項目の評価レベルは表-33に示すとおりであり、評価は調査回ごとに最も低い項目別評価ランクをその地点のその調査時の総合評価ランクとしている。1年間の調査時の総合評価ランクのうち、年間を通じて95%値に該当するランクをその地点の年間の総合評価ランクとしている。

表-33 「利用しやすい水質の確保」の評価項目と評価レベル

ランク	説明	評価項目と評価レベル				地域特性項目 当該河川・地点の特性 や地域住民のニーズに 応じて独自に設定
		全国共通項目				
		安全性 トリハロメタン 生成能 ($\mu\text{g/L}$)	快適性 2-MIB (ng/L)	快適性 ジオスミン (ng/L)	維持管理性 NH ₄ -N (mg/L)	
A	より利用しやすい	100以下	5以下	10以下	0.1以下	文献等から設定
B	利用しやすい		20以下	20以下	0.3以下	
C	利用するためには高度な 処理が必要	100を超えるもの	20を超えるもの	20を超えるもの	0.3を超えるもの	

②年間の総合評価ランク

地点の年間の総合評価について、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、地方別に図-37に示す。

全国的にAあるいはBランクである地点の割合が高く、全国の合計では、Aランクの地点が約68%、A、Bランクの地点を合わせると約91%であった。地方ごとに見ると、全ての地方でAランクとBランクの地点が過半数を占めていた。

しかし、関東地方ではCランクの地点の割合が他の地方に比べ大きかった。

【利用しやすい水質の確保】

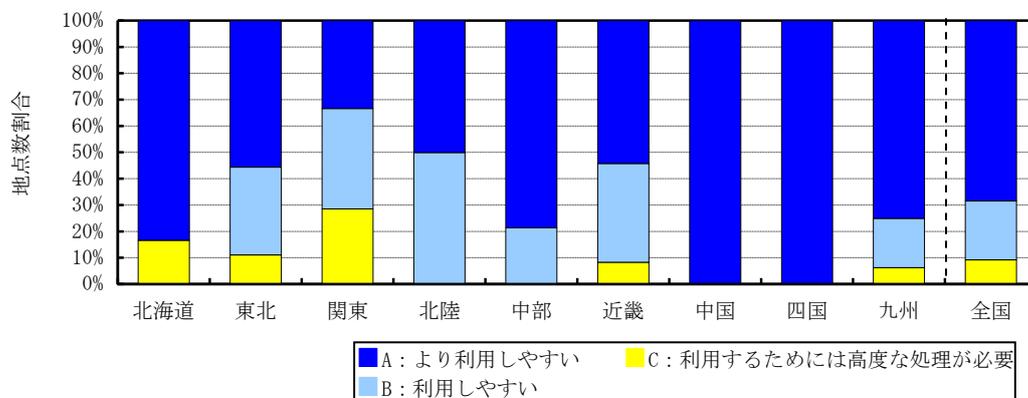


図-37 年間の総合評価ランク別割合（利用しやすい水質の確保）

③年間の評価項目評価ランク

4つの評価項目それぞれについて、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、地方別に図-38に示す。

全国を合わせてみると、トリハロメタン生成能は約96%、2-MIBは約90%、ジオスミンは100%、NH₄-Nは約76%の地点でAランクであった。地方ごとに見ると、東北地方はNH₄-NがCランクである地点の割合が多かった。

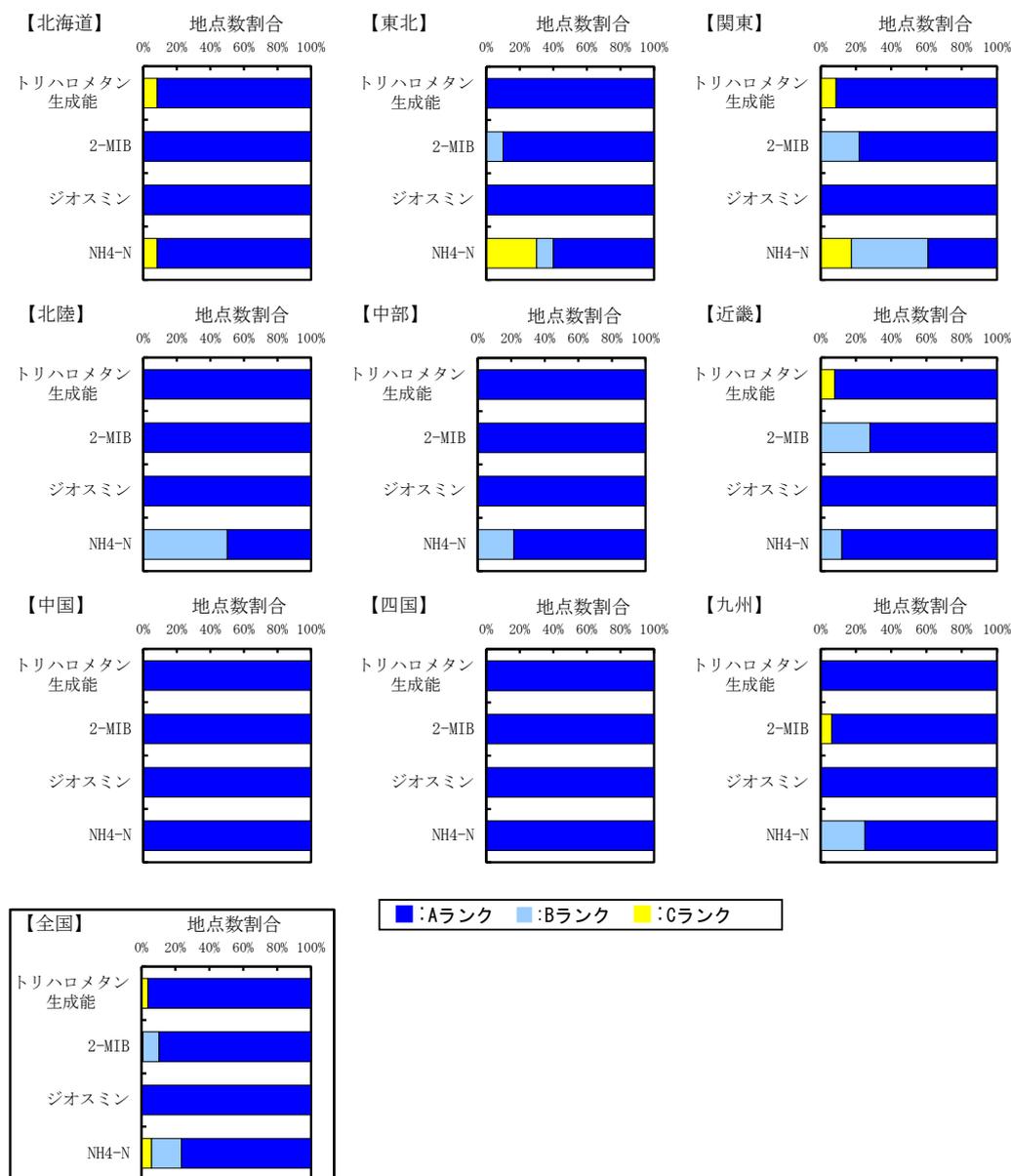


図-38 年間の評価項目のランク別割合 (利用しやすい水質の確保)

(8) 「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」

①指標項目

「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」は、河川の下流域、特に閉鎖性水域などの滞留水域の富栄養化を意識した水質管理を行う視点で設定されており、富栄養化状態を直接的に表す「総窒素 (T-N)」「総リン (T-P)」を指標項目として設定している。

なお、一般的に滞留水域の水質と滞留水域に流入する河川の水質は異なり、現状の知見では、下流域へ影響を与える河川水質濃度を評価することは困難であることから、「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」の視点では、評価項目、評価ランク及び評価レベルは定めず、今後の課題としている。

②年間の地点平均値の濃度範囲

地点のT-N、T-P年平均値について、全地点数に占める各濃度範囲の地点数の割合を図-39に示す。

T-Nは、全国を合わせてみると、約48%の地点が年平均値1mg/ℓ以下であった。地方ごとに見ると、関東地方、近畿地方、九州地方以外の地方では1mg/ℓ以下の地点が過半数を占めていた。逆に関東では、1mg/ℓ以下の地点は約10%であり、約29%の地点が3mg/ℓを超えていた。

T-Pは、全国を合わせてみると、約44%の地点が年平均値0.05mg/ℓ以下であった。地方ごとに見ると、北海道、東北地方、北陸地方、四国地方では0.05mg/ℓ以下の地点が過半数を占めていた。

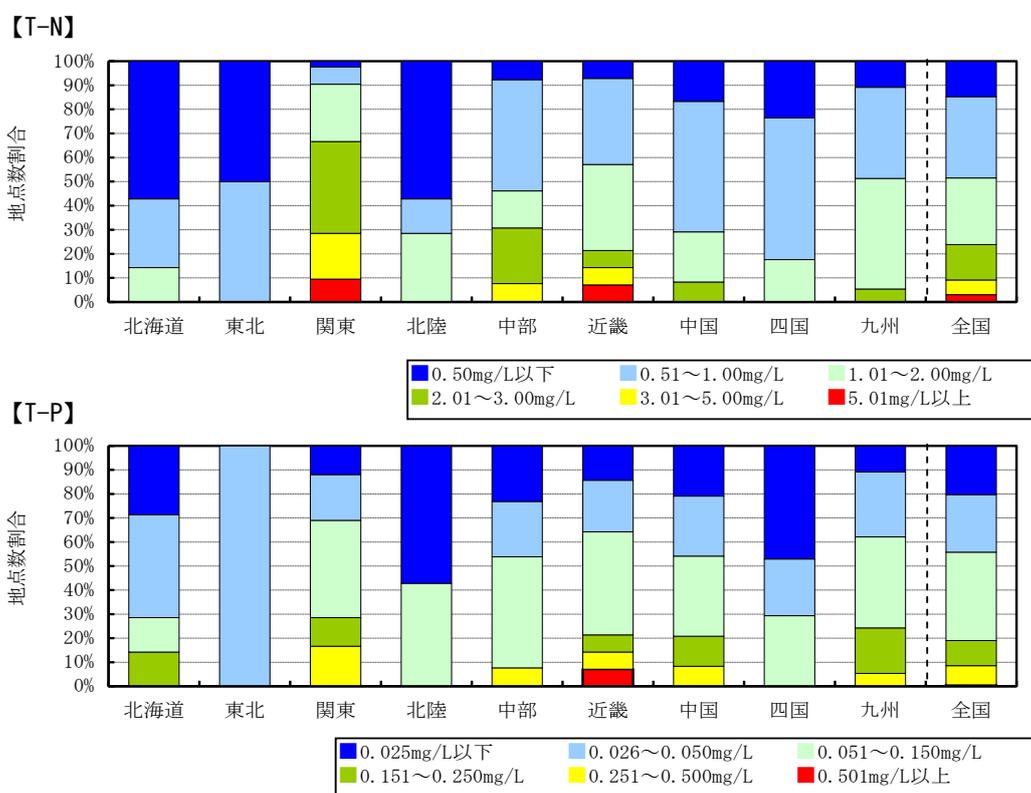


図-39 年間の地点平均値の濃度範囲別割合*

(下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保)

※新しい水質指標の調査として測定された調査データのみを対象

2. 2 新しい水質指標(湖沼)

(1)新しい水質指標(湖沼)とは

新しい水質指標(湖沼)とは、人と湖沼のふれあいや生態系への関心など、多様化する湖沼の課題に対応した湖沼水質管理を実施するために多様な視点を踏まえ、湖沼をCODなどの環境基準だけでなく多様な視点で評価できるように検討された指標である。評価の視点は、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」「利用しやすい水質の確保」「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」の4つにわたり、「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」以外の視点について評価項目と評価レベルが設定されている。

また、4つの視点のうち「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」では、調査の一部は住民と河川管理者との協働により実施している。

新しい水質指標(湖沼)は、平成22年3月に「今後の湖沼水質管理の指標について(案)」(国土交通省河川局河川環境課)としてとりまとめられ、これに基づく調査が、同年より全国の湖沼を対象に実施されている。

(2)実施水系・地点数

「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」「利用しやすい水質の確保」の平成25年の調査実施状況を表-34に示す。

「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」では、調査を実施した調査地点のうち、住民との協働調査を実施している調査地点数は、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」では9地点(全国14地点)、「豊かな生態系の確保」では6地点(全国16地点)である。

「利用しやすい水質の確保」では、該当する地点に限られるため^{注23}、水系数・地点数ともに「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」や「豊かな生態系の確保」よりも少なく全国5地点で実施された。

注²³ 「利用しやすい水質の確保」は、水道水源としての利用しやすさを評価する指標項目であることから、主に上水道取水がある水域を調査対象範囲としている。

表-34 調査を実施した湖沼数と地点数

地整局 開発局	人と湖沼の豊かな ふれあいの確保		豊かな生態系の確保		利用しやすい 水質の確保	
	湖沼数	地点数	湖沼数	地点数	湖沼数	地点数
北海道	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0	0
東北	1 (1)	2 (2)	1 (0)	1 (0)	0	0
関東	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1	4
北陸	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0	0
中部	1 (1)	5 (5)	1 (1)	5 (5)	0	0
近畿	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	0	0
中国	1 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0	0
四国	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0	0
九州	2 (1)	3 (1)	4 (0)	6 (0)	1	1
全国	7 (4)	14 (9)	10 (2)	16 (6)	2	5

※ () 内は、住民と協働して調査を実施した湖沼数と地点数

(3) 住民参加者数

住民との協働による測定を実施する「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」の視点による調査では387人、「豊かな生態系の確保」の視点による調査では368人の住民に参加を得て実施した(図-40)。

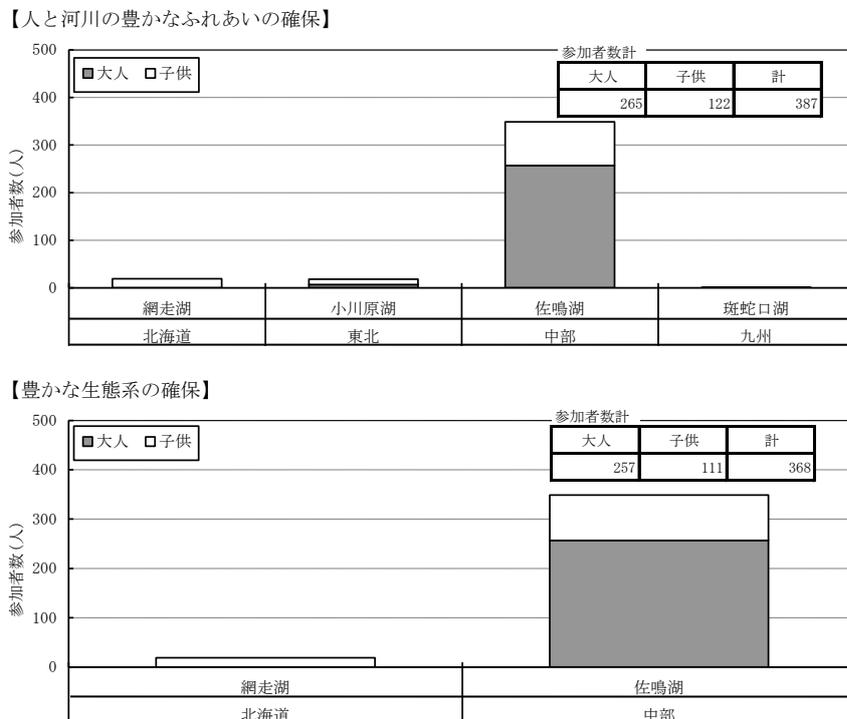


図-40 調査に参加した住民の数(延べ人数)

※例えば、1人が2つの地点を調査した場合は、2人として集計している。

(4) 調査結果

①新しい水質指標(湖沼)(案)による全国の調査地点の総合評価結果

平成25年に実施した新しい水質指標による調査結果を基に、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」「利用しやすい水質の確保」の3つの視点ごとに、全国の調査地点の総合的な評価注²⁴を行い、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」の年間の総合評価ランクを全国マップ(図-41)に示した。

年間の総合評価ランクが最も高いAランクの地点は、表-35に示すように、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」の視点については約36%(5地点/14地点)、「豊かな生態系の確保」の視点については水質(底層DO、NH₄-N注²⁵)による評価では約13%(2地点/16地点)、生物による評価では50%(4地点/8地点)、「利用しやすい水質の確保」の視点については20%(1地点/5地点)となった。

一方、年間の総合評価ランクが最も低いDランクの地点は、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」の視点については0地点、「豊かな生態系の確保」の視点については水質(底層DO、NH₄-N)による評価では約31%(5地点/16地点)、生物による評価注²⁶では0地点となった。また、「利用しやすい水質の確保」では評価ランクが最も低いCランクの地点は、80%(4地点/5地点)となった。

個別の地点の総合評価結果は、表-36に示すとおりである。

表-35 新しい水質指標(湖沼)による年間の総合評価ランク別の地点数

	人と湖沼の豊かなふれあい		豊かな生態系				利用しやすい水質	
	地点数	割合	水質		生物		地点数	割合
			地点数	割合	地点数	割合		
Aランク	5 ₁ (3)	36%	2 ₁ (1)	13%	4 ₁ (2)	50%	1	20%
Bランク	2 ₁ (1)	14%	7 ₁ (5)	44%	4 ₁ (4)	50%	0	0%
Cランク	7 ₁ (5)	50%	2 ₁ (0)	13%	0 ₁ (0)	0%	4	80%
Dランク	0 ₁ (0)	0%	5 ₁ (0)	31%	0 ₁ (0)	0%		
計	14 ₁ (9)	100%	16 ₁ (6)	100%	8 ₁ (6)	100%	5	100%

※ ()内は、住民と協働で調査した地点数。四捨五入による端数処理のため内訳の合計が100%にならないことがある。

注²⁴ 評価項目ごとにA~Dランクの4段階(「利用しやすい水質の確保」はA~Cランクの3段階)の評価ランクを決めた上で、まず調査回ごとに最も低い項目別評価ランクを、その地点のその調査時の総合評価ランクとする。ただし、「豊かな生態系の確保」については、生物の生息は各湖沼で設定される指標項目であることから、その項目を除いた底層DO、NH₄-Nで評価することを基本とし、生物の生息については、単独で評価している。1年間の調査時の総合評価ランクのうち、「人と河川の豊かなふれあいの確保」では最頻ランク、「豊かな生態系の確保」では、底層DO、NH₄-Nによる評価は最低ランク、生物の生息は、最高ランクをその地点の年間の総合評価ランクとする。「利用しやすい水質の確保」では95%値に該当するランクを、その地点の年間の総合評価ランクとする。評価方法の詳細は「今後の湖沼水質管理の指標について(案)」参照。

注²⁵ NH₄-Nは、底層DOと同一の調査地点(採水位置)での測定値で評価している。

注²⁶ 網走湖では「ヤマトシジミ」、佐鳴湖では「水辺の植生」、さよの湖(厳木ダム)では「沈水植物」と「底生生物」を指標とした評価をしている。

表-36 新しい水質指標（湖沼）による年間の総合評価結果一覧

地方	水系名	湖沼名	調査地点名	年間の総合評価ランク			
				人と湖沼の 豊かな ふれあい	豊かな生態系		利用しやすい 水質
					水質	生物	
北海道	網走川	網走湖	女満別キャンプ場	B	A	B	-
東北	高瀬川	小川原湖	三沢湖水浴場	A	-	-	-
			小川原湖No.H	-	D	-	-
			上北湖水浴場	A	-	-	-
関東	利根川	霞ヶ浦（西浦）	沖宿	C	C	-	C
			西の州沖	-	-	-	C
		北浦	釜谷沖	-	-	-	C
			神宮橋	-	-	-	C
中部	都田川	佐鳴湖	①漕艇場	C	B	B	-
			②入野漁協船着場	C	B	A	-
			③接触酸化施設	C	B	A	-
			④佐鳴八景歌碑	C	B	B	-
			⑤西岸時計塔前	C	B	B	-
近畿	紀ノ川	おおたき龍神湖	大滝ダム湖中央（底層）	-	B	-	-
	新宮川	猿谷ダム湖	猿谷ダム湖中央（底層）	-	A	-	-
中国	斐伊川	宍道湖	宍道湖西岸なぎさ公園 （坂田地先）	C	-	-	-
			宍道湖西岸なぎさ公園 （島田地先）	B	-	-	-
九州	松浦川	さよの湖（厳木ダム）	K-1	A	D	A	-
			K-2	A	C	A	-
	筑後川	下釜ダム湖（蜂ノ巣湖） 松原ダム湖（梅林湖）	蜂の巣公園	-	D	-	-
			貫見地先	-	B	-	-
	菊池川	斑蛇口湖	M-1	-	-	-	A
			ボート場艇庫	A	D	-	-
緑川	緑川ダム湖	St. 2	-	D	-	-	

ランク	ランクのイメージ	説明	地点数*	割合
A		顔を湖沼の水につけやすい (泳ぎたいと思う きれいな湖沼)	5 (3)	36%
B		湖沼の中に入って 遊びやすい	2 (1)	14%
C		湖沼の中には入れ ないが、湖沼に近 づくことができる	7 (5)	50%
D		湖沼の水に魅力が なく、湖沼に近づ きにくい	0 (0)	0%
			14 (9)	100%

湖沼名	調査地点名	年間ランク
さよの湖 <small>きゅうらぎ</small> (巖木ダム)	K-1	A
	K-2	A

湖沼名	調査地点名	年間ランク
しんじこ 穴道湖	穴道湖西岸なぎさ公園 (坂田地先)	C
	穴道湖西岸なぎさ公園 (島村地先)	B

湖沼名	調査地点名	年間ランク
はんじゃくこ 斑蛇口湖	ボート場艇庫	A

湖沼名	調査地点名	年間ランク
あばしりこ 網走湖	女満別キャンプ場	B

湖沼名	調査地点名	年間ランク
おがわらこ 小川原湖	三沢湖水浴場	A
	上北湖水浴場	A

湖沼名	調査地点名	年間ランク
かすみがうら 霞ヶ浦 (西浦)	にしらの 沖宿	C

湖沼名	調査地点名	年間ランク
きなるこ 佐鳴湖	①漕艇場	C
	②入野漁協船着場	C
	③接触酸化施設	C
	④佐鳴八景歌碑	C
	⑤西岸時計塔前	C

※あくまでも水質に関する指標により評価した結果であり、湖岸・湖底の形状などの安全性については考慮していません。
 ※水浴場水質判定基準（環境省）における油膜の有無やCOD等の評価項目、その他の有害物質等による評価は行っていません。

図-41 新しい水質指標（湖沼）による「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」調査結果

②新しい水質指標（湖沼）（案）による総合評価の最低ランクの原因の推定

新しい水質指標による総合評価結果のうち最低ランクの地点について、項目別評価ランクを示した（図-42(1)～図-42(2)）。

なお、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」については、総合評価ランクが最も低いDランクであった調査地点はなかった。

「豊かな生態系の確保」については、総合評価ランクが最も低いDランクであった5地点の全ての地点で底層DOの評価ランクが低いことが原因であった。

「利用しやすい水質の確保」については、総合評価ランクが最も低いCランクであった4地点のうち、霞ヶ浦（西浦）西の州沖ではかび臭の原因となる2-MIB、ジオスミンの評価ランクが低い時期があること、霞ヶ浦（西浦）沖宿及び（北浦）釜谷沖、神宮橋ではトリハロメタン生成能、2-MIB、ジオスミン、NH₄-Nの評価ランクが低い時期があることが原因であった。

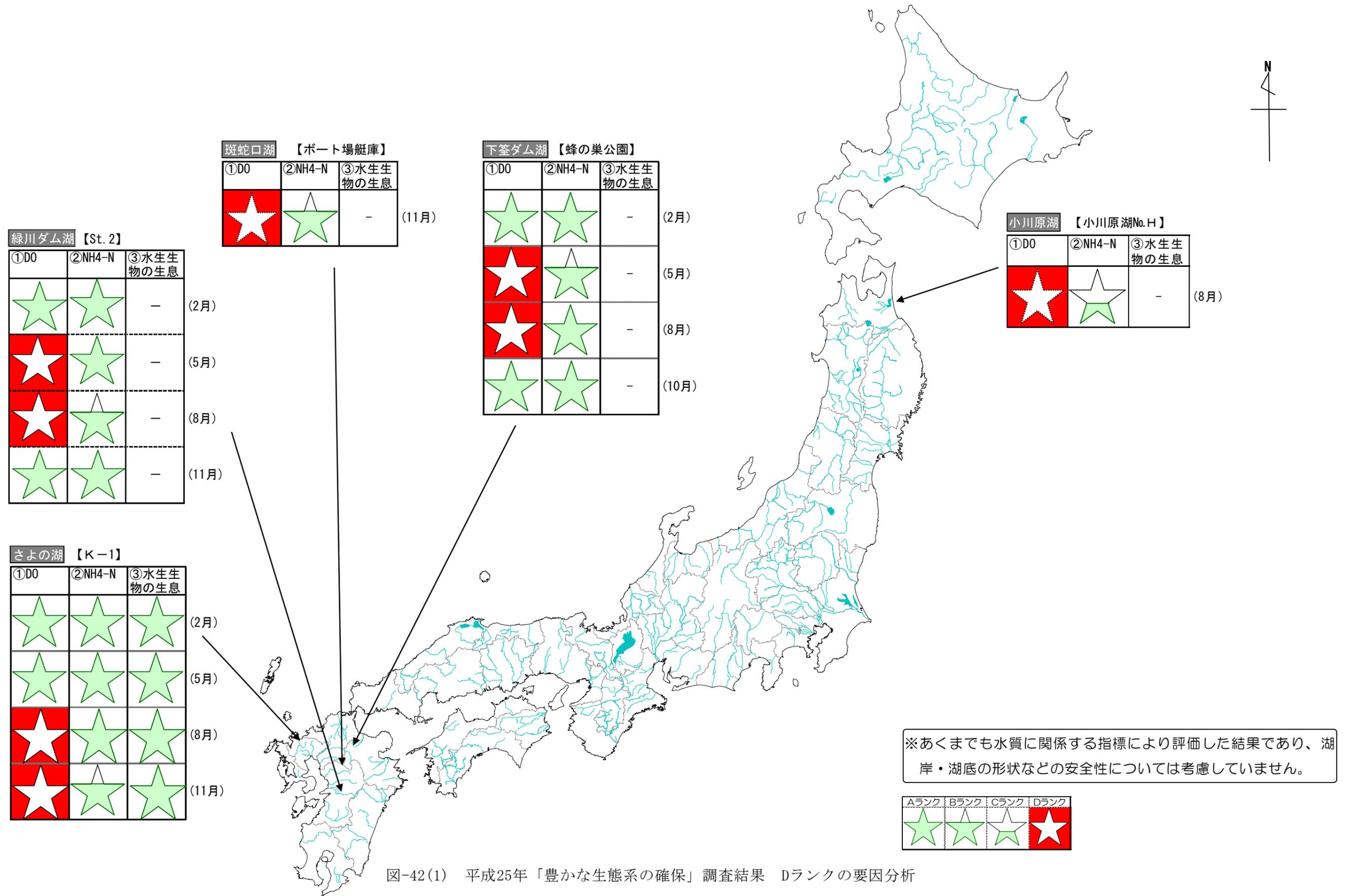


図-42(1) 平成25年「豊かな生態系の確保」調査結果 Dランクの要因分析

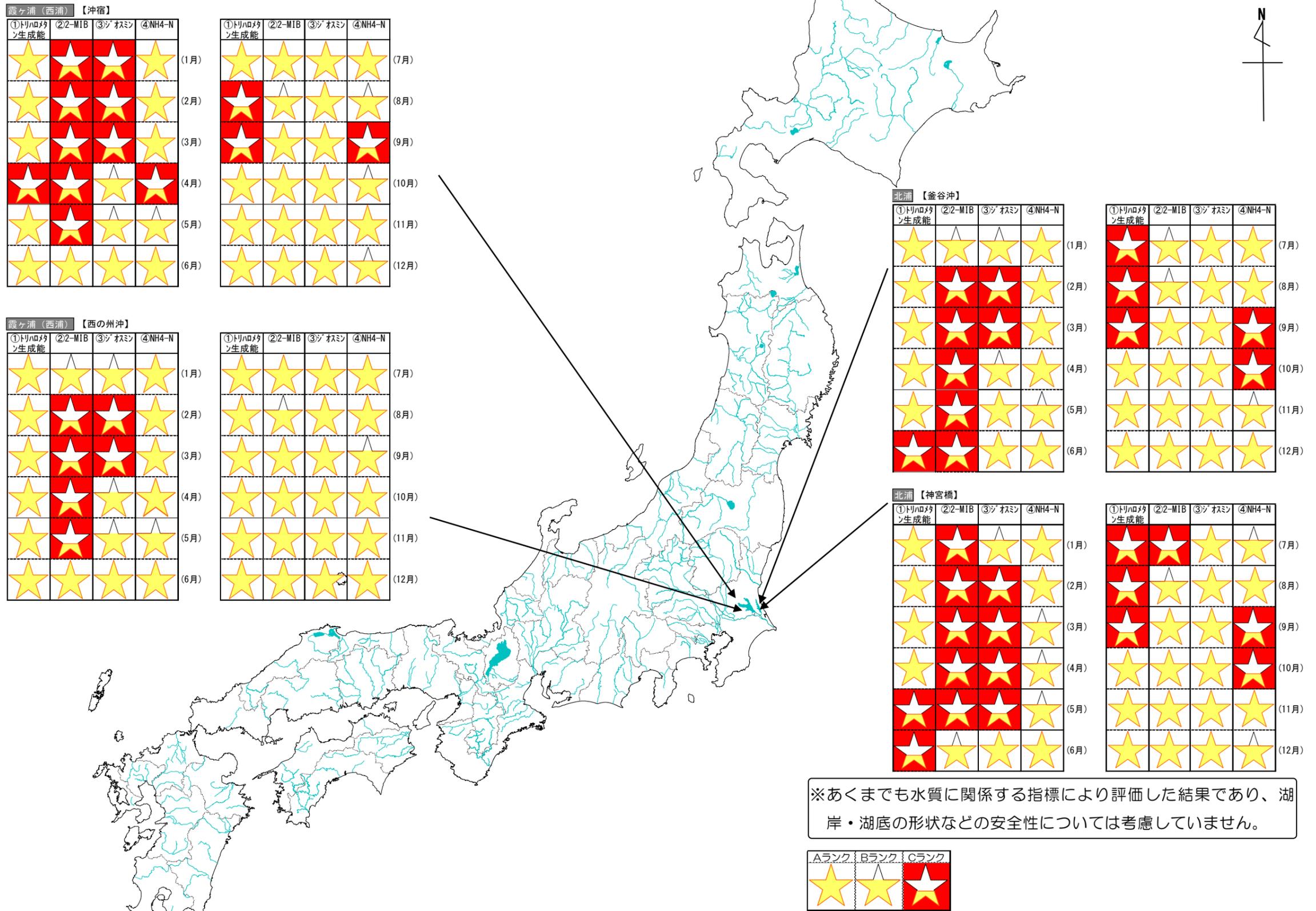


図-42(2) 平成25年「利用しやすい水質の確保」調査結果 Cランクの要因分析

③新しい水質指標（湖沼）（案）による全国の調査地点のAランク評価

前述の評価は、それぞれの視点について3～6つある評価項目のうち、最も低い項目別評価ランクをその地点の総合評価ランクとしたものである。

ここでは、各視点についてAランク（最も良い評価）を得た項目数を星（☆）の数で表し、調査地点を評価した結果を図-43に示す。星の数が多いものほど、各視点の項目で高い評価を得た数が多いことを示す。なお、ここでは、全測定項目を測定した調査地点をとりまとめの対象とした^{注27}。

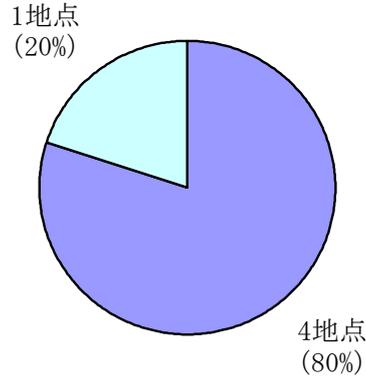
「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」は、ゴミの量や透視度等全6項目を測定しており、全項目がAランクであると☆が6つになる。全調査地点のうち、全項目がAランクであった☆6つは80%（4地点/5地点）であった。また、全地点でいずれかの項目がAランクと評価された。

「豊かな生態系の確保」は、水生生物の生息等全3項目を測定している。全調査地点のうち2項目がAランクであった☆2つの地点は25%（2地点/8地点）であった。

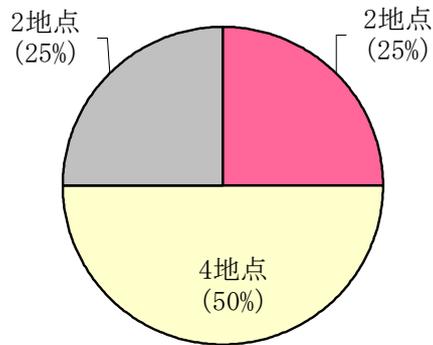
「利用しやすい水質の確保」は、トリハロメタン生成能等全4項目を測定している。全項目がAランクの☆4つの地点は20%（1地点/5地点）であった。

注²⁷ 同一地点で年間に複数回の調査が行われた場合は、調査回ごとの評価ランク（☆の数）の最頻値を地点の年間評価とした。最頻値が2つ以上ある場合は、☆の数の少ない方を地点の年間評価とした。
全測定項目を測定した調査地点をとりまとめの対象としたことから「(2)実施水系・地点数」などに示した全地点数とは異なる。

【人と湖沼の豊かなふれあいの確保】



【豊かな生態系の確保】



【利用しやすい水質の確保】

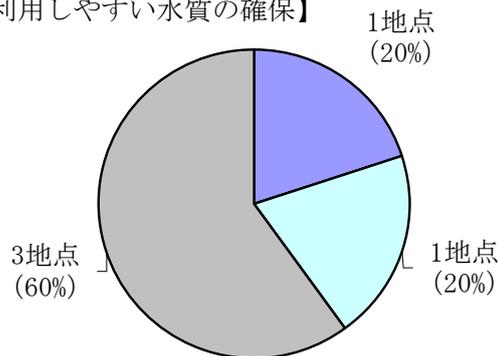


図-43 Aランクで評価された項目数を用いた調査地点とその割合

※各地点について、各視点からAランクと評価された測定項目の数を☆の数で示した。

人と湖沼の豊かなふれあいの確保：全6項目

豊かな生態系の確保：全3項目

利用しやすい水質の確保：全4項目

(5) 「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」

① 評価項目と評価レベル

「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」は、快適性や安全性といった、人が湖沼とふれあう際に、湖沼水質が確保すべき機能を評価するための視点である。

評価項目として、「ゴミの量」「透視度」「湖底の感触」「水のにおい」「アオコ発生」「糞便性大腸菌群数」の6つが設定されており、このうち糞便性大腸菌群数以外の5項目は、住民と河川管理者が協働で調査する項目である。

各評価項目の評価レベルは表-37に示すとおりであり、評価は、調査回ごとに最も低い項目別評価ランクをその地点のその調査時の総合評価ランクとしている。1年間の調査時の総合評価ランクのうち、年間を通じて最も頻度の高かったランクをその地点の年間の総合評価ランクとしている。

表-37 「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」の評価項目と評価レベル
(赤枠内は住民と協働調査)

ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル						
			全国共通項目					地域特性項目	
			ゴミの量	透視度 (cm)	湖底の感触	水のにおい	アオコ発生	糞便性大腸菌群数 (個/100mL)	当該湖沼・地点の特性や地域住民のニーズに応じて独自に設定
A	顔を湖沼の水につけやすい		湖沼の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ゴミはあるが全く気にならない	50以上	快適である	不快でない	アオコは確認できない	100以下	住民と共に独自に設定 文献等から設定
B	湖沼の中に入って遊びやすい		湖沼の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	25以上	不快感が無い		肉眼では水面にアオコが確認できないが、水をくんで肉眼でよく見ると確認できる	1000以下	
C	湖沼の中には入れないが、湖沼に近づくことができる		湖沼の中や水際にゴミがあって不快である	25未満	不快である	水に鼻を近づけて不快なおいを感じる	アオコがうっすらと筋状に発生していて、水面にわずかに散らばり肉眼で確認できる	1000を超えるもの	
D	湖沼の水に魅力がなく、湖沼に近づきにくい		湖沼の中や水際にゴミがあってとても不快である			水に鼻を近づけてとても不快なおいを感じる	アオコが湖面や湖岸の表面を広く覆い、かたまりもできている		

②年間の総合評価ランク

地点の年間の総合評価について、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、湖沼別に図-44に示す。

湖沼により内訳の違いが大きかったが、全国の合計では、Aランクの地点が約36%、A、Bランクの地点を合わせると約50%であった。湖沼ごとにみると、小川原湖、さよの湖（厳木ダム）、斑蛇口湖ではAランクと評価された地点があった。

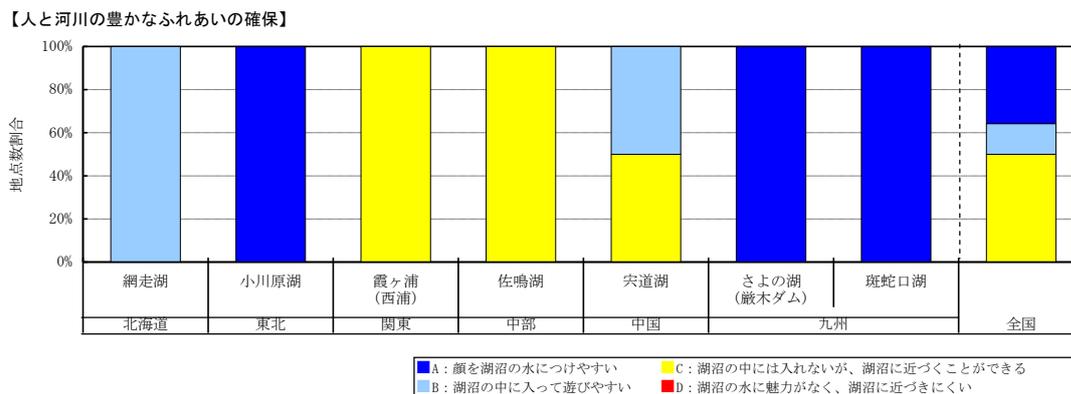


図-44 年間の総合評価ランク別割合（人と湖沼の豊かなふれあいの確保）

③年間の評価項目評価ランク

6つの評価項目それぞれについて、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、湖沼別に図-45に示す。

全国を合わせてみると、アオコの発生、糞便性大腸菌群数は測定を行った90%以上の地点でAランクであった。湖沼ごとにCランク以下の項目をみると、霞ヶ浦（西浦）、佐鳴湖では透視度であった。

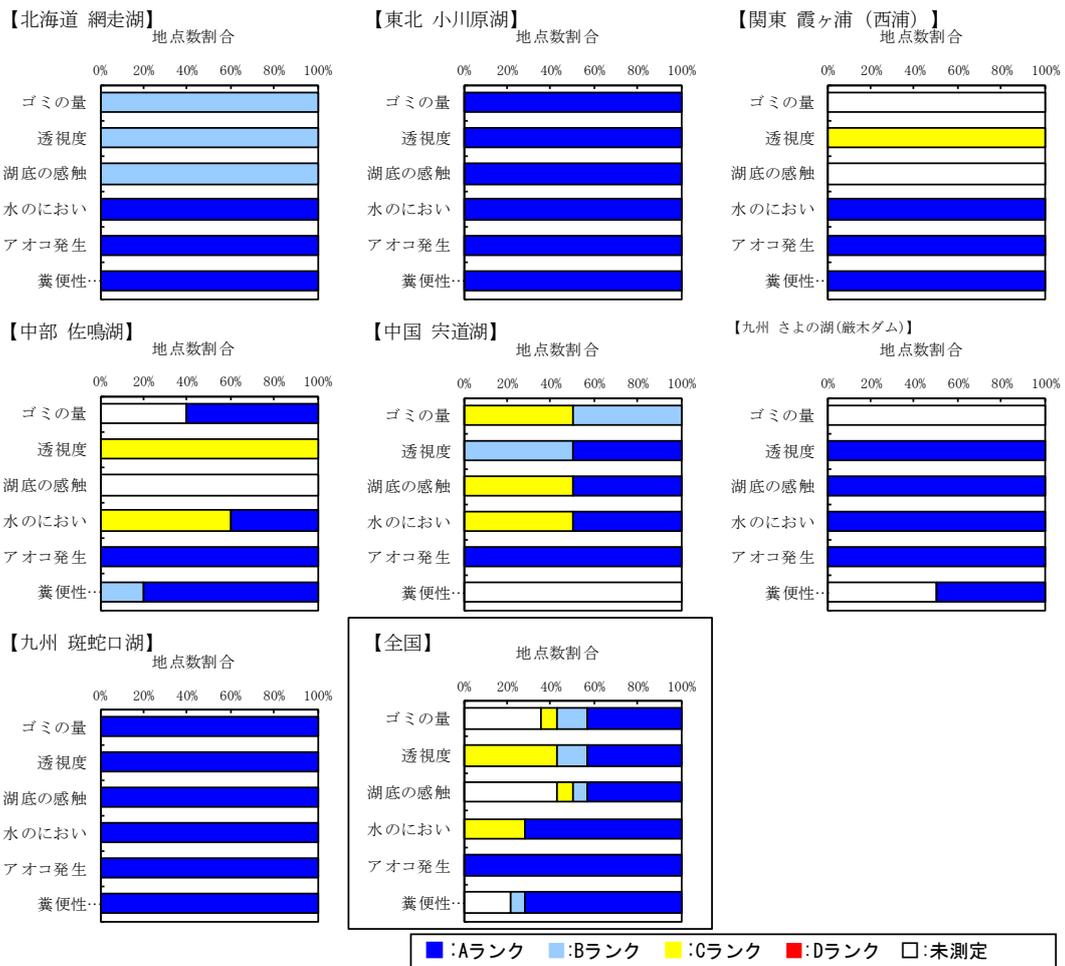


図-45 年間の評価項目のランク別割合（人と湖沼の豊かなふれあいの確保）

(6) 「豊かな生態系の確保」

① 評価項目と評価レベル

「豊かな生態系の確保」は、動植物の生息や生育、繁殖といった、湖沼の健全な生態系を確保する上で、湖沼水質が満たすべき機能を評価するための視点である。

評価項目として「底層 DO」「アンモニア性窒素 (NH₄-N)」「生物の生息」の3つが設定されており、このうち水生生物の生息は、住民と河川管理者とが協働で調査する項目である。

各評価項目の評価レベルは表-38 に示すとおりであり、評価は、調査回ごとに最も低い項目別評価ランクをその地点のその調査時の総合評価ランクとしている。ただし、「生物の生息」は各湖沼で設定される指標項目であることから、その項目を除いた底層 DO、NH₄-N で評価することを基本とし、「生物の生息」については、単独で評価している。1年間の調査時の総合評価ランクのうち、底層 DO、NH₄-N による評価では最低ランク、生物の生息は最高ランクをその地点の年間の総合評価ランクとしている。

表-38 「豊かな生態系の確保」の評価項目と評価レベル
(赤枠内は住民と協働調査)

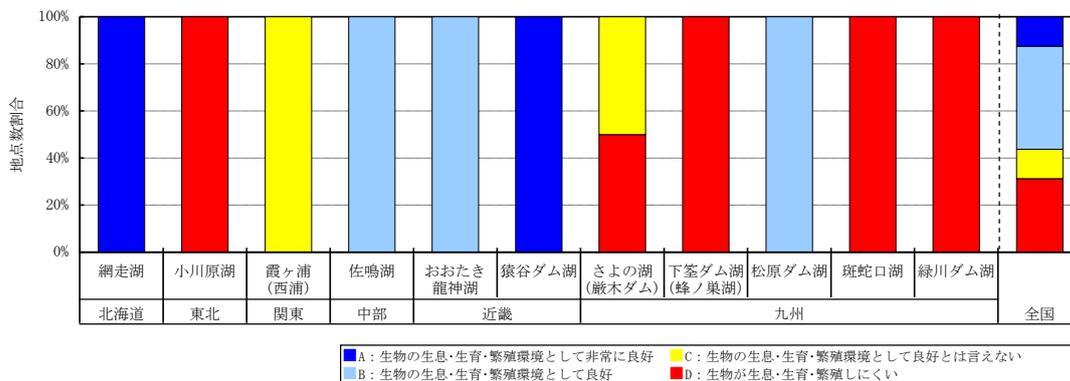
ランク	説明	評価項目と評価レベル			
		全国共通項目			地域特性項目
		底層DO (mg/L)	NH ₄ -N (mg/L)	生物の生息 (各湖沼で設定)	当該湖沼・地点の特性や 地域住民のニーズに応じ て独自に設定
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2以下	独自の評価レベル	・住民と共に独自に設定 ・文献等から設定
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上	0.5以下	独自の評価レベル	
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3以上	2.0以下	独自の評価レベル	
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2.0を超えるもの	独自の評価レベル	

②年間の総合評価ランク

地点の年間の総合評価について、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、湖沼別に図-46に示す。

水質（底層DO、NH₄-N）による評価では、全国の合計で見ると、Aランクの地点の割合が約13%、A、Bランクの地点を合わせると約57%であった。生物による評価では、Aランクの地点の割合が50%、A、Bランクの地点を合わせると100%であった。

【豊かな生態系の確保（水質）】



【豊かな生態系の確保（生物）】

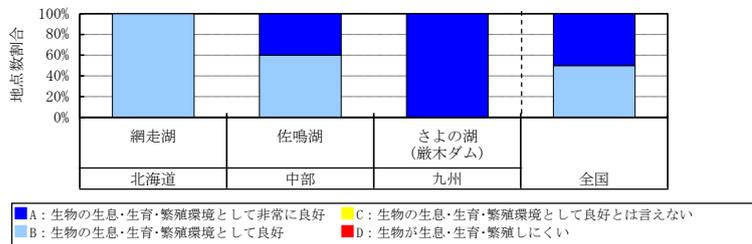


図-46 年間の総合評価ランク別割合（豊かな生態系の確保）

③年間の評価項目評価ランク

3つの評価項目それぞれについて、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、湖沼別に図-47に示す。

湖沼ごとにCランク以下の項目をみると、小川原湖では底層DOとNH₄-N、霞ヶ浦（西浦）ではNH₄-N、さよの湖（巖木ダム）、下笠ダム湖（蜂ノ巣湖）、斑蛇口湖、緑川ダム湖では底層DOであった。

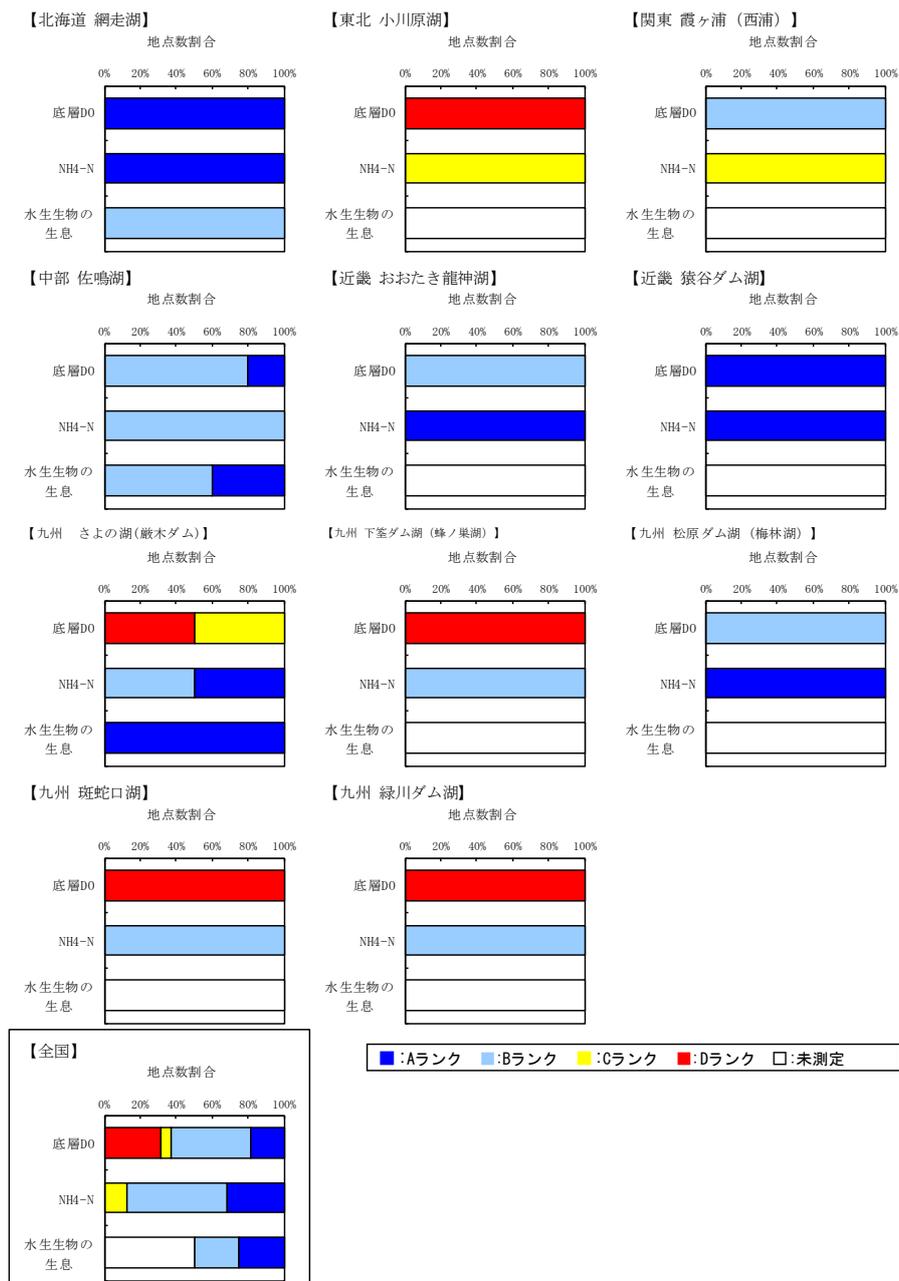


図-47 年間の評価項目のランク別割合（豊かな生態系の確保）

(7) 「利用しやすい水質の確保」

① 評価項目と評価レベル

「利用しやすい水質の確保」は、上水利用に注目し、安全性や快適性、維持管理性(浄水処理管理)といった、湖沼水質が確保すべき機能を評価するための視点である。

評価項目として「トリハロメタン生成能」「2-MIB」「ジオスミン」「アンモニア性窒素 (NH₄-N)」の4つが設定されている。

各評価項目の評価レベルは表-39 に示すとおりであり、評価は、調査回ごとに最も低い項目別評価ランクをその地点のその調査時の総合評価ランクとしている。1年間の調査時の総合評価ランクのうち、年間を通じて95%値に該当するランクをその地点の年間の総合評価ランクとしている。

表-39 「利用しやすい水質の確保」の評価項目と評価レベル

ランク	説明	評価項目と評価レベル				
		全国共通項目				地域特性項目
		安全性	快適性		維持管理性	当該湖沼・地点の特性や地域住民のニーズに応じて独自に設定
		トリハロメタン生成能 (μg/L)	2-MIB (ng/L)	ジオスミン (ng/L)	NH ₄ -N (mg/L)	
A	より利用しやすい	100以下	5以下	10以下	0.1以下	文献等から設定
B	利用しやすい		20以下	20以下	0.3以下	
C	利用するためには高度な処理が必要	100を超えるもの	20を超えるもの	20を超えるもの	0.3を超えるもの	

②年間の総合評価ランク

地点の年間の総合評価について、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、湖沼別に図-48に示す。

全国的にCランクである地点の割合が高く、全国の合計では、Aランクの地点が20%であった。

湖沼ごとに見ると、松原ダム湖（梅林湖）のみがAランクであった。霞ヶ浦（西浦）、北浦は、いずれもCランクであった。

【利用しやすい水質の確保】

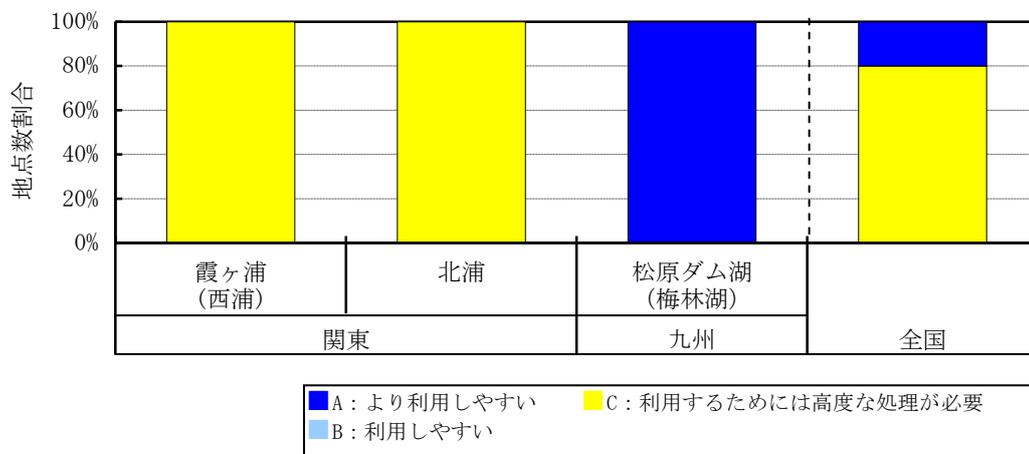


図-48 年間の総合評価ランク別割合（利用しやすい水質の確保）

③年間の評価項目評価ランク

4つの評価項目それぞれについて、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、湖沼別に図-49に示す。

全国を合わせてみると、トリハロメタン生成能はAランクと評価された地点が40%であった。2-MIB、ジオスミン、NH₄-NはAランクと評価された地点が20%であった。

湖沼ごとにCランク以下の項目を見ると、霞ヶ浦（西浦）では2-MIB、ジオスミン、北浦ではトリハロメタン生成能、2-MIB、ジオスミン、NH₄-Nであった。

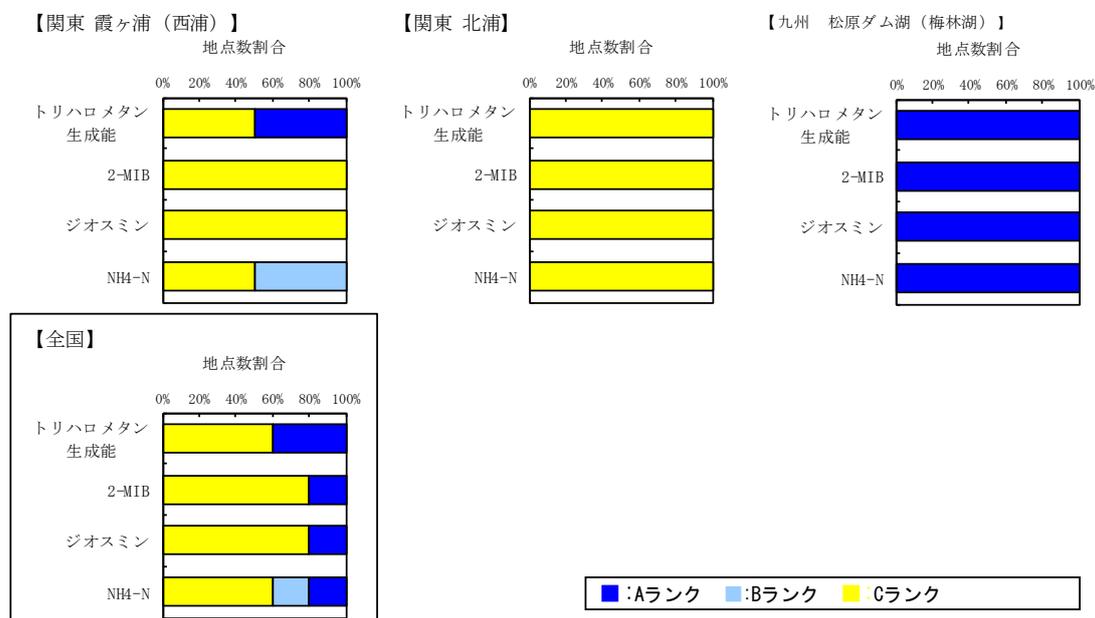


図-49 年間の評価項目のランク別割合 (利用しやすい水質の確保)

(8) 「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」

①指標項目

「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」は、下流部の富栄養化や閉鎖性水域の富栄養化への影響、アオコの放流や、ダム貯水池では冷水放流、濁水放流の長期化等による下流部への影響を意識した水質管理を行う視点で設定されている。指標項目としては、富栄養化状態を直接的に表す「総窒素 (T-N)」「総リン (T-P)」を設定している。

なお、水質管理の対象とする湖沼ごとに様々な評価項目が想定され、全国共通の評価項目を設定することが容易でないことから、「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」の視点では、評価項目や評価レベルは定めず、今後の課題としている。

②年間の地点平均値の濃度範囲

地点のT-N、T-P年平均値について、全地点数に占める各濃度範囲の地点数の割合を図-50に示す。

T-Nは、全国を合わせてみると約35%の地点が年平均値1mg/ℓ以下であった。年平均値が0.5mg/ℓ以下の地点は、琵琶湖、松原ダム湖（梅林湖）、竜門ダムの地点であった。

T-Pは、全国を合わせてみると、約29%の地点が年平均値0.05mg/ℓ以下であった。年平均値が0.025mg/ℓ以下の地点は、琵琶湖、竜門ダム、緑川ダムであった。

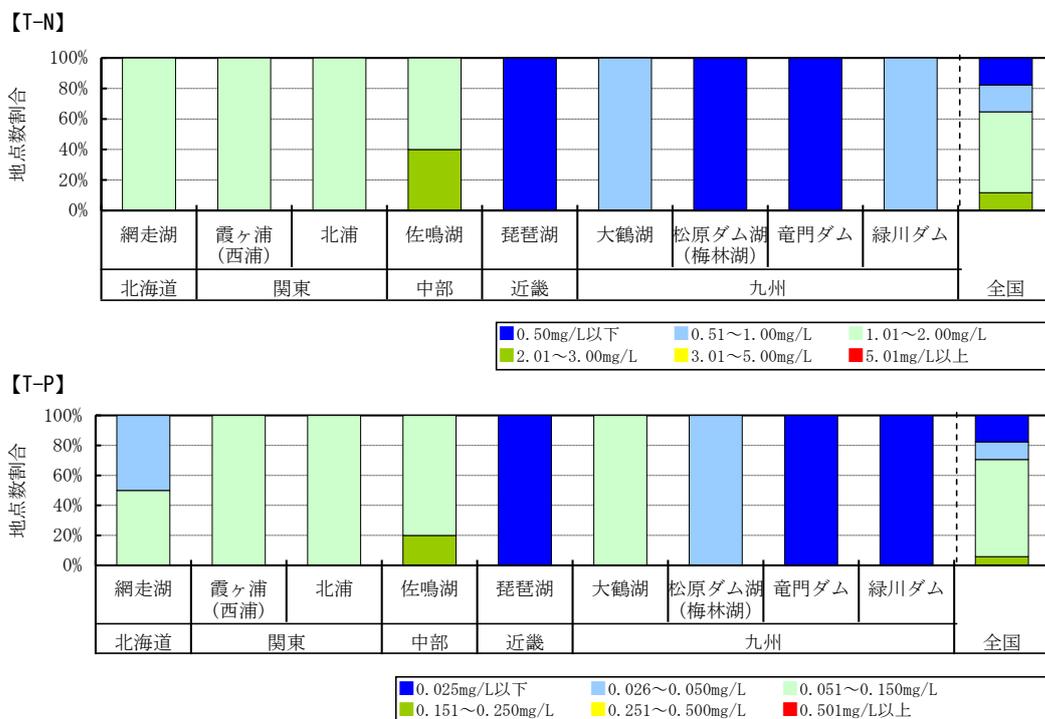


図-50 年間の地点平均値の濃度範囲別割合
(下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保)

※新しい水質指標の調査としてT-N、T-Pが同時に測定された調査データのみを対象

3. 水生生物による簡易水質調査結果（水生生物調査）

（1）調査の概要

サワガニ、カワゲラ等の河川に生息する水生生物は、水質汚濁の長期的・複合的な影響を反映していると考えられており、これらを指標とした水質の簡易調査は、誰でも調査に参加できるという利点を持っている。

国土交通省では、全国の一級河川において、小学生、中学生、高校生及び一般市民等の参加を得て、昭和59年度から継続して水生生物による水質の簡易調査を実施している。

平成25年の調査は、全国の一級河川のうち103水系256河川、486地点において、小学生・中学生・高校生の参加が得やすいよう夏休みを中心に、主に5～11月に実施した。過去5年間の参加人数及び調査地点数を図-51に示す。近年は概ね横ばい傾向が続いている。

（参加団体）	425団体（参考資料4参照）
小・中学生	11,278人（74.2%）
その他の学校	480人（3.2%）
その他	3,442人（22.6%）
（参加人員）	15,200人

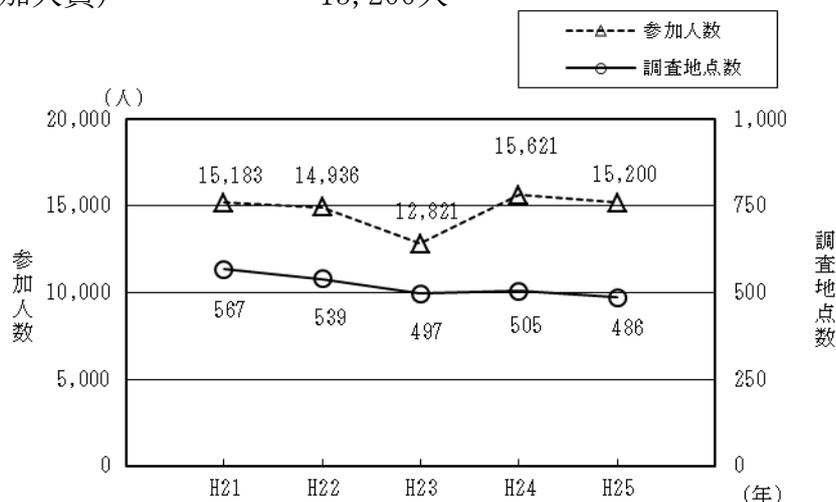


図-51 水生生物調査参加人数及び調査地点数の推移（一級河川）

（2）調査結果

表-40に示す水生生物を指標^{注27}として水のきれいさやきたなさの程度を調査

注²⁷ 水生生物の指標に関して、平成11年に、建設省（現国土交通省）と環境庁（現環境省）で指標となる生物の種類や集計方法といった調査方法の見直しを行った。国土交通省と環境省が連携して、平成11年から新しい調査方法に基づいて調査を行っている。また平成24年からは指標生物の一部が変更されている。

した。その結果を表-41に示す。きれいな水と判定された地点割合は61%であった。きれいな水と判定された地点割合は5ポイント減少し、ややきれいな水と判定された地点割合は3ポイント増加した。

表-40 指標生物

I. きれいな水の生物	II. ややきれいな水の生物
カワゲラ類 ナガレトビケラ類 ヤマトビケラ類 ヒラタカゲロウ類 ヘビトンボ ブユ類 アミカ類 ナミウズムシ サワガニ ヨコエビ類	コガタシマトビケラ類 オオシマトビケラ ヒラタドロムシ類 ゲンジボタル コオニヤンマ カワニナ類 ○ヤマトシジミ ○イシマキガイ
III. きたない水の生物	IV. とてもきたない水の生物
ミズムシ ミズカマキリ シマイシビル タニシ類 ○イソコツブムシ類 ○ニホンドロソコエビ	ユスリカ類 チョウバエ類 エラミミズ サカマキガイ アメリカザリガニ

※○は汽水域の生物である。

※平成24年からは指標生物の一部が変更されている。

表-41 水生生物による水質調査結果（判定別割合）

判定内容	地点割合 (%)	
	平成24年	平成25年
きれいな水	66	61
ややきれいな水	29	32
きたない水	4	4
とてもきたない水	0	1
判定不能	1	2

※四捨五入の関係で、合計が100にならないことがある。

地方別の水質調査結果判定別割合を図-52(1)、図-52(2)に示す。

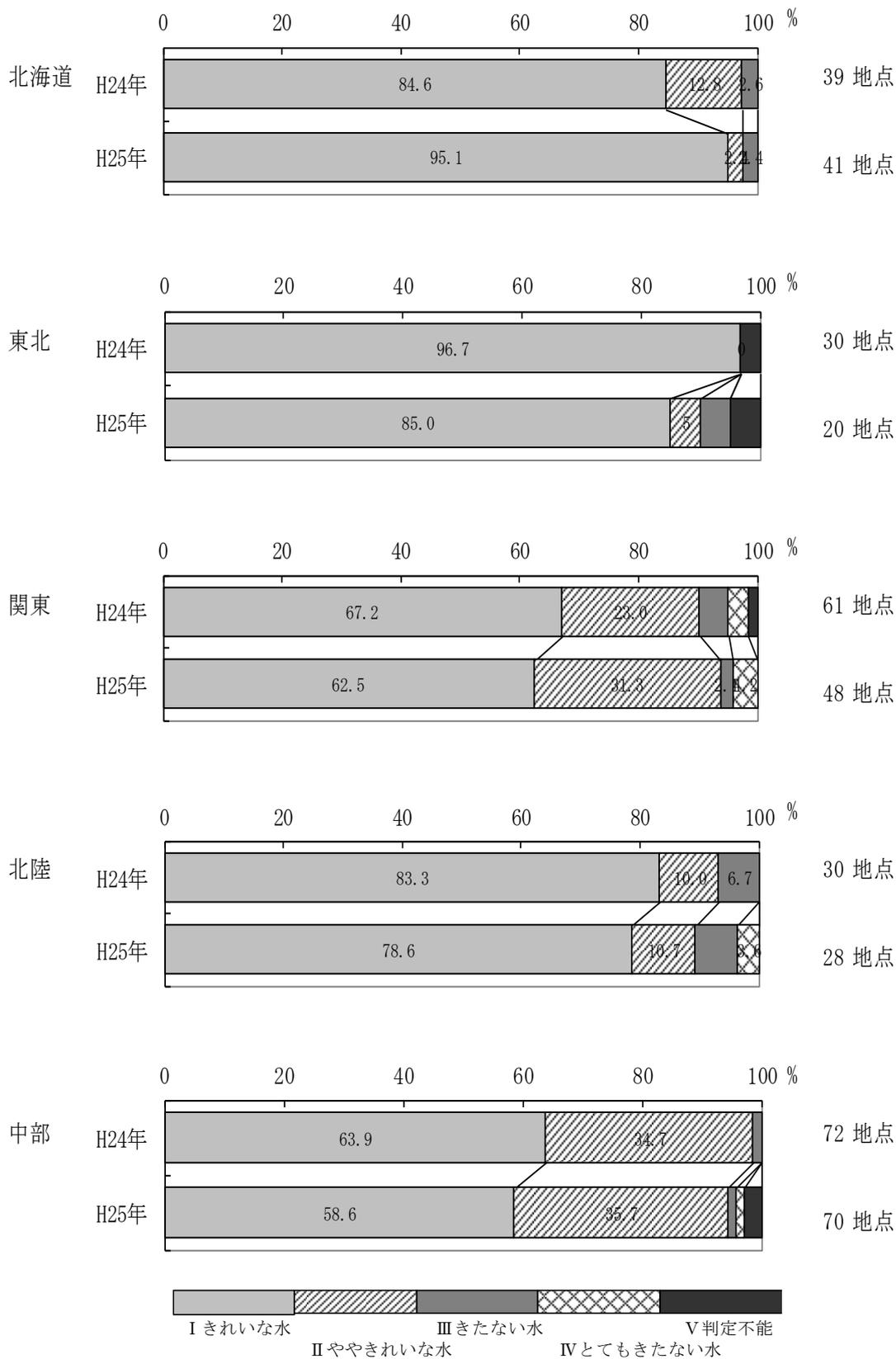


図-52(1) 水生生物による水質調査結果（地点割合）

※地方別の値のとりまとめは、開発局及び各地方整備局の管内を集計単位とした。

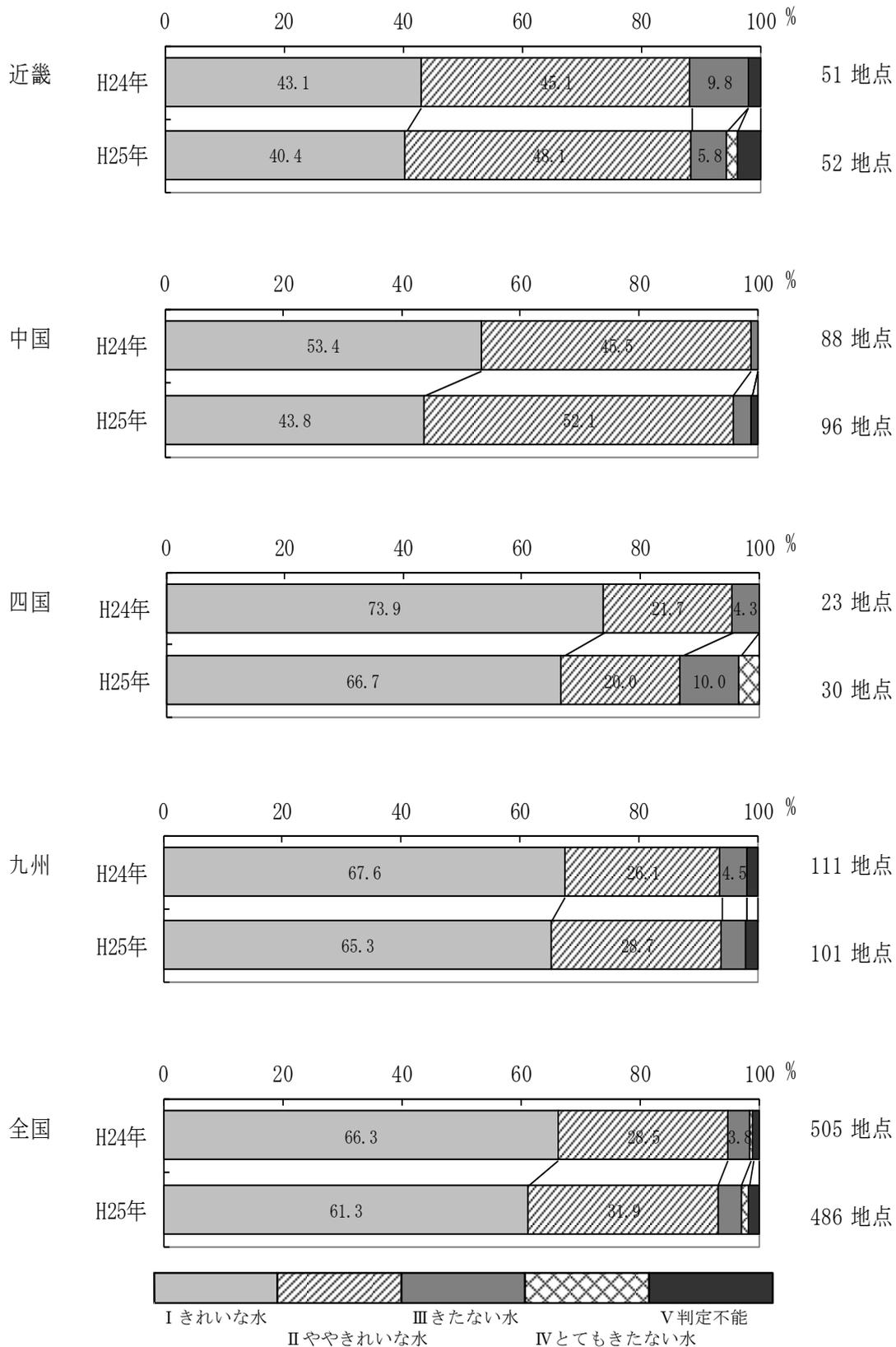


図-52(2) 水生生物による水質調査結果（地点割合）

※地方別の値のとりまとめは、開発局及び各地方整備局の管内を集計単位とした。

また、主要地点における水生生物による水質調査結果を図-53に示す。

水質階級	記号
I (きれいな水)	● (青)
II (ややきれいな水)	● (緑)
III (きたない水)	● (黄)
IV (とてもきたない水)	● (赤)

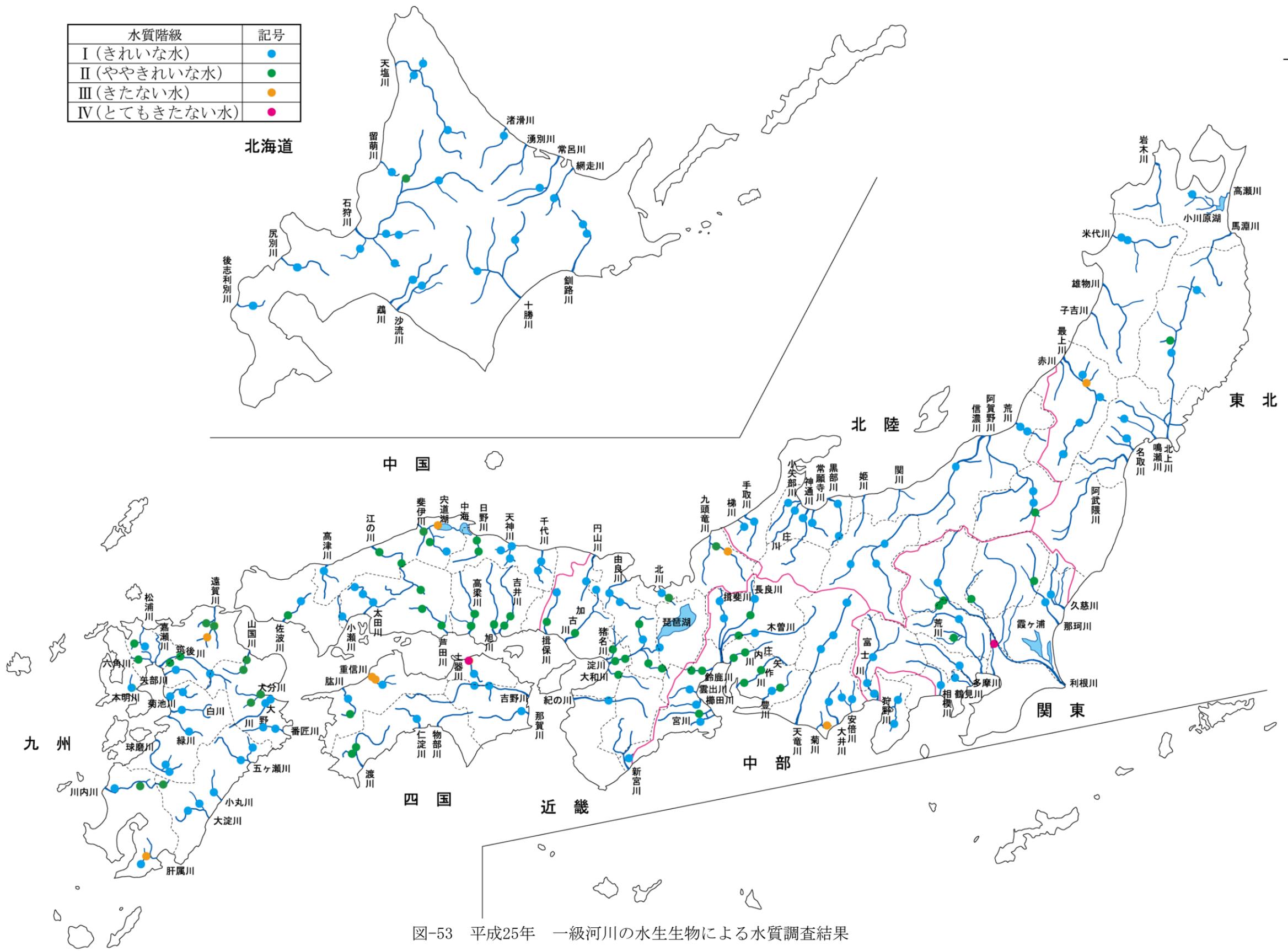


図-53 平成25年 一級河川の水生生物による水質調査結果

4. 身近な水環境の全国一斉調査の結果について

(1) 調査の概要

河川や水辺など身近な水環境の保全や再生に関する市民の意識が高まる中、1980年代半ばから、市民や学校の子供たちによる身近な川の一斉調査が多摩川・荒川の流域や霞ヶ浦・琵琶湖の流域など全国各地で行われてきた。

国土交通省では、平成16年から、市民団体等と連携して全国の河川や水辺など身近な水環境の水質を一斉に調査し、「全国水環境マップ」としてとりまとめた結果を公表している。

平成25年の調査の概要は以下のとおりである。

表-42 身近な水環境の全国一斉調査の概要

	全国統一日に 実施された調査	国内で実施された 全ての調査	備考
調査日	平成25年6月2日(日)	平成25年5月2日 ～7月29日	—
参加団体数	468団体 (個人参加含む)	863団体	平成24年は 926団体
調査地点数	2,648地点	5,397地点	平成24年は 5,581地点

(2) 調査のまとめ

傾向としては、都市河川で調査が実施されることが多いが、全体の32%の地点において、COD値が0～3mg/l未満という結果になっている。また、本調査では、水質調査の結果と併せて、調査時に市民が観察した河川や水辺の様子や過去と比べての変化についても情報の蓄積を行っている。平成25年の調査においては、以前は水が豊富にあったと記憶していた調査地点で調査を実施しようとしたところ、水量が少ない、または無い状態で調査が実施できなかったという市民からの報告が、52地点について提出されている。

平成25年の全国水環境マップを図-54に示す。

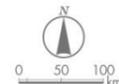
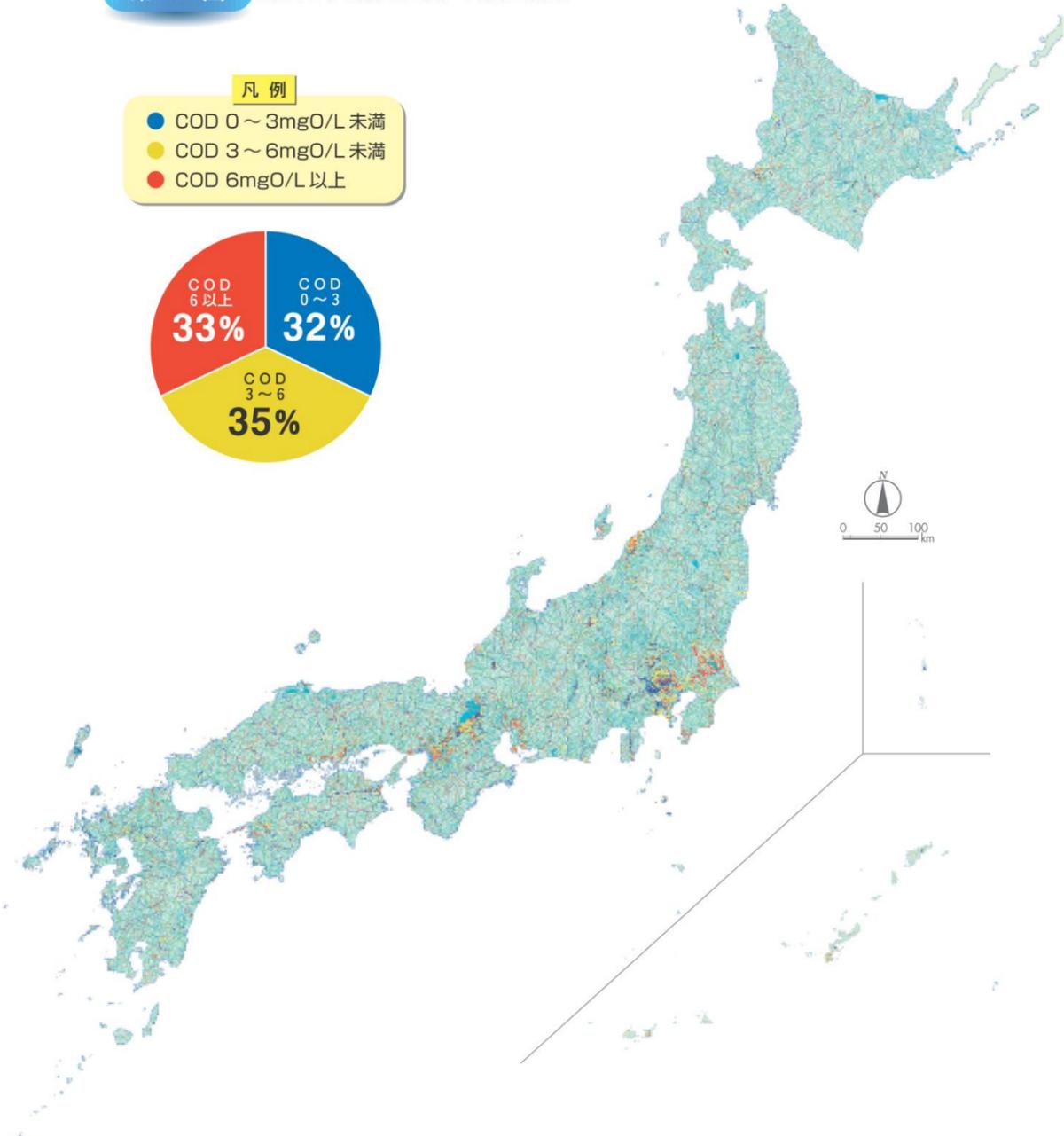
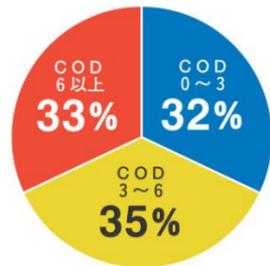
III 調査結果の概要

2013全国水環境マップ

第10回 身近な水環境の全国一斉調査結果

凡例

- COD 0～3mgO/L 未満
- COD 3～6mgO/L 未満
- COD 6mgO/L 以上



2004全国水環境マップ

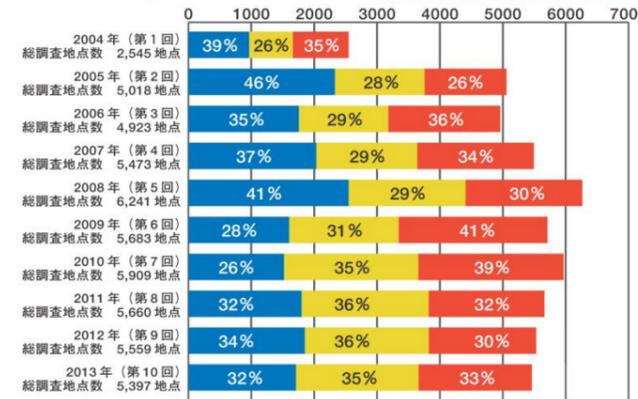
第1回 身近な水環境の全国一斉調査結果
水質調査の結果と分布

凡例

- COD 0～3mgO/L 未満
- COD 3～6mgO/L 未満
- COD 6mgO/L 以上



調査地点数と結果の推移



- COD 0～3mgO/L 未満
- COD 3～6mgO/L 未満
- COD 6mgO/L 以上

図-54 全国水環境マップ

5. 微量化学物質（ダイオキシン類・内分泌かく乱化学物質）

（1）調査概要

国土交通省では、「ダイオキシン類対策特別措置法」で定義されているダイオキシン類については平成11年度から、内分泌かく乱化学物質^{注28}として疑いのある物質については平成10年度から、全国一級水系で継続的に調査を実施している。

ダイオキシン類については、平成15年度に、それまでの調査を基に、監視地点、監視頻度、精度管理等の考え方を取りまとめた「河川、湖沼等におけるダイオキシン類常時監視マニュアル（案）」を作成し、以降はこのマニュアルに基づき調査を実施している（平成17年3月改訂）。

一方、内分泌かく乱化学物質については、平成13年度に、調査項目、調査頻度の考え方、それまでの調査結果等を取りまとめた「水環境における内分泌かく乱化学物質に関する実態調査結果」を、平成20年4月に「内分泌かく乱化学物質調査に係る考え方（案）」を作成し、以降はこれに基づき調査を実施している。

平成25年度の調査は以下のとおり実施した。なお、本調査結果は(独)水資源機構による調査結果を含む。

1) 対象物質

① ダイオキシン類

「ダイオキシン類対策特別措置法」で定義されているダイオキシン類であるポリ塩化ジベンゾーパラジオキシン（PCDD）、ポリ塩化ジベンゾフラン（PCDF）及びダイオキシン様塩化ビフェニル（DL-PCB）の3種類の化合物群について調査を行った。図-55に示すように、これらの化合物群は、いずれもベンゼン環を2つ有する化合物で、ベンゼン環に置換した塩素原子の数や位置の違いによって複数の同族体や異性体が存在する。また、環境中の存在量は微量であるが、毒性が強く、焼却、農薬等の製造、パルプの塩素漂白などで非意図的に生成し、残留性が高い物質である。

異性体ごとに毒性が異なるため、世界保健機関（WHO）によって提案されたTEF(毒性等価係数)を用い、各化合物の濃度をTEQ(毒性等量)で示したものを合計して、毒性を評価した。また、複数回測定した地点においては、水質は各回のTEQ合計値を平均し、底質は各回のTEQ合計値の最高値を抽出して、毒性を評価した。なお、平成20年4月にダイオキシン類対策特別措置

^{注28} 内分泌系に影響を及ぼすことにより、生体に障害や有害な影響を引き起こす外因性の化学物質。

法施行規則が改正され、排出基準に係るTEFがWHO-1998 TEFからWHO-2006 TEFに変更されたため、平成20年度以降の調査結果はWHO-2006 TEFを使用している。

各化合物の濃度の分析値を確定するに当たっては、学識経験者等の意見を踏まえて測定値の精度について検討を行った。

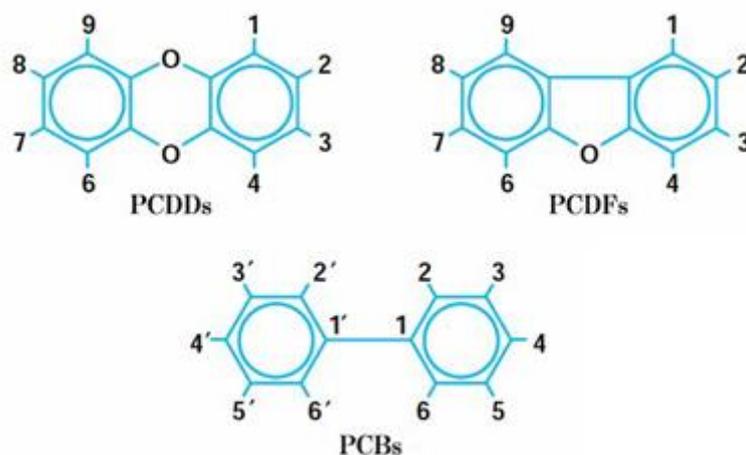


図-55 ダイオキシン類の構造図

② ベンゾ(a)ピレン

「内分泌かく乱化学物質調査の考え方(案)」(平成20年4月)において、内分泌かく乱化学物質の調査対象物質及び調査頻度を整理した際、ベンゾ(a)ピレンはExTEND2005^{注29}においてリスク評価の対象となっていないことから、平成20年度調査より内分泌かく乱化学物質調査の対象からは除くこととなった。

ただし、IARCの発がん性評価でグループ1の「発がん性物質」に分類されること、またダイオキシン類様の作用を及ぼすことが知られていることから、ダイオキシン類の底質調査と併せて調査を継続することとしている。

^{注29} ExTEND2005: 環境省では、平成10年(1998年)5月「内分泌攪乱化学物質問題への環境庁の対応方針について—環境ホルモン戦略計画SPEED'98—」を策定し(平成12年11月改訂)、化学物質の内分泌系への作用に関する研究、環境実態調査、試験法の開発等を推進した。この成果を受け、平成17年3月に「化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について—ExTEND 2005—」を策定し、野生生物の観察、基盤的研究、影響評価、情報提供とリスクコミュニケーション等を推進してきた。

なお、環境省では、ExTEND2005におけるこれまでの取組状況を踏まえて、内分泌かく乱作用に関する検討を発展的に推進することとしており、リスク管理の検討に向けて評価手法の確立と評価の実施を加速化することをねらいとする「EXTEND2010」を平成22年7月に策定している。

③ 内分泌かく乱化学物質

4物質（ビスフェノールA、17β-エストラジオール、エストロン、o,p'-DDT）について調査を行った。

これらの物質を選定した理由等については表-44に示すとおりである。

2) 調査地点および調査頻度

① ダイオキシン類

基準監視地点については、全国の一級水系における、順流最下流の環境基準点（順流最下流に環境基準点がない場合は最下流の環境基準点）に加えて、国土交通省が直轄管理している湖沼の代表地点などを選定している。補助監視地点については、基準監視地点を補完するため、ダイオキシン類濃度が比較的高濃度となる可能性がある地点を選定している。

また、基準監視地点又は補助監視地点において、過去に要監視濃度^{注30}を超えた地点を重点監視状態にある地点（以下、重点監視地点という。）としている。なお、重点監視地点において、8回連続して要監視濃度以下の値を観測した場合は、一般の監視地点に戻している。

監視頻度については、基準監視地点（一般）は毎年1回（秋に実施）、補助監視地点（一般）は3年毎に1回（秋に実施）、重点監視地点は毎年4回（四半期に1回）、調査を実施している。

表-43 ダイオキシン類の基準値

地点	環境基準	要監視濃度
水質	1.0pg-TEQ/l	0.5pg-TEQ/l
底質	150pg-TEQ/g	75pg-TEQ/g

② ベンゾ(a)ピレン

ベンゾ(a)ピレンについては全国の一級水系におけるダイオキシン類の底質調査と併せて調査を実施しているが、特に要監視濃度を設けておらず、調査頻度は6年に1回としている。

③ 内分泌かく乱化学物質

全国の一級水系における、順流最下流の環境基準点（順流最下流に環境基準点がない場合は最下流の環境基準点）に、河川の状況・特性から特に

^{注30} 環境基準（水質1.0pg-TEQ/l、底質150pg-TEQ/g）の1/2

必要と考えられる地点を加えて選定している。

このうち、国土交通省が重点的に調査を実施する際の日安として定めた重点調査濃度を、過去の調査で超えた地点を重点調査地点と呼び、それ以外の地点を一般調査地点と呼んでいる。重点調査濃度は表-44に示すとおりである。

一般調査地点の調査頻度は6年に1回（秋に実施）とし、重点調査地点の調査頻度は、毎年1回（秋に実施）としている。ただし、重点調査の対象となった物質が3回連続して重点調査濃度以下となった場合には、次年度より一般調査地点に戻すこととしている。

表-44 内分泌かく乱化学物質の調査対象物質及びその選定理由等

物質名	選定理由	調査頻度 (一般)	重点調査 濃度 ^{※1}
4-tert-オクチルフェノール ^{※2}	ExTEND2005等によると、哺乳類には明らかな内分泌かく乱作用は認められなかったが、魚類に対しては内分泌かく乱作用を有することが推測されるとされている。	6年に 1回	0.992 $\mu\text{g}/\ell$
ノニルフェノール ^{※2}			0.608 $\mu\text{g}/\ell$
ビスフェノールA			24.7 $\mu\text{g}/\ell$
17 β -エストラジオール			0.0015 $\mu\text{g}/\ell$
エストロン			0.0016 $\mu\text{g}/\ell$
o, p' -DDT			0.0145 $\mu\text{g}/\ell$

※1 「内分泌かく乱化学物質調査の考え方（案）（平成25年3月改訂）に基づく重点調査濃度。

平成25年度以降は平成25年3月改訂の考え方（案）に基づき調査を行っている。

※2 平成25年度以降は内分泌かく乱化学物質の調査対象物質ではなくなった。

（2）調査結果

① ダイオキシン類

i) 基準監視地点（一般）

基準監視地点（一般）では、平成25年度調査で、水質123地点、底質127地点で調査を実施した。調査の結果、水質で要監視濃度及び環境基準を超えた地点はなかった。よって、これらの地点は引き続き基準監視地点（一般）として毎年1回秋に調査を実施することとする。

ii) 補助監視地点（一般）

補助監視地点（一般）では、平成25年度調査で、水質80地点、底質89地点で調査を実施した。調査の結果、水質で要監視濃度ならびに環境基準を超えた地点はなかった。よって、これらの地点については引き続き3年に1回秋に調査を実施することとする。

iii) 重点監視地点

平成25年度調査では、表-45～表-47に示すとおり、水質18地点が重点監視地点となっており、年4回の調査を実施した。この内、水質については11地点が要監視濃度を超え、そのうち6地点は環境基準も超えた。

また、表-45に示すとおり、過去に要監視濃度を超える値が観測されたものの、それ以降、8回以上連続して要監視濃度以下の値が観測されることにより、平成26年度より重点監視状態を解除することとなった地点は1地点あった。

よって、平成26年度調査では、表-47に示すとおり、計17地点を水質に係る重点監視地点として、年4回の調査を行うこととする。

② ベンゾ(a)ピレン

平成25年度は、表-48に示すとおり、計23地点において調査を実施し、計10地点において検出された。

③ 内分泌かく乱化学物質

平成25年度は、一般調査地点86地点、重点調査地点18地点、合計で104地点において調査を実施した。調査結果は、表-49に示すとおり、調査対象物質のいずれか一つでも検出された地点は41地点あり、そのうち、1地点で重点調査濃度を超える物質があった。物質別に重点調査濃度を超えた地点を見てみると、エストロンの1地点となっている。

また、表-50(1)～表-50(3)に示すとおり、平成24年度調査で重点調査濃度を超える物質のあった6地点のうち、今回の調査では5地点が重点調査濃度以下になっていた。一方、1地点（エストロン）で、平成24年度に引き続き重点調査濃度を超える濃度が検出された。

(3) これまでの経年変化と今後の対応

① ダイオキシン類

ダイオキシン類に関する実態調査を開始した平成11年度から今回までの全調査地点数に対する環境基準超過地点数及び要監視濃度超過地点数の割合(水質)の経年変化を見ると、図-56に示すとおり、水質に関して明確な減少傾向は見られない。なお、底質に関しては、これまで環境基準を超えた地点はなく、平成14年度に綾瀬川槐戸橋で要監視濃度を超えたのみである。

また、現在設定されている地点とほぼ同一の基準監視地点での調査を開始した平成14年度以降の基準監視地点における濃度ヒストグラムの経年変化からは、図-57、図-58に示すとおり、水質に関しては減少傾向が示唆されるが、底質には明確な減少傾向は見られない。

② ベンゾ(a)ピレン

ベンゾ(a)ピレンに関する実態調査を開始した平成10年度から今回までの全調査地点数に対する検出地点数の割合の経年変化には、図-59に示すとおり、明確な減少傾向は見られない。なお、平成10年夏調査の検出率が100%であるが、調査地点は1地点のみである。平成10年秋調査以降、複数地点で調査を行っている。

③ 内分泌かく乱化学物質

内分泌かく乱化学物質に関する実態調査を開始した平成10年度から今回までの全調査地点数に対する検出地点数の割合の経年変化を見ると、図-60に示すとおり、明確な減少傾向は見られない。

また、図-61に示すとおり全調査地点数に対する重点調査濃度超過地点数の割合の経年変化についても明確な減少傾向は見られない。

内分泌かく乱化学物質に関しては、現在まで生態系全般に対する影響が明らかになっておらず、環境基準も設定されていないが、生物の生殖等への影響が考えられていること及び社会の関心が高いことから、将来的な対策等のためのデータの蓄積を図ることが重要である。

表-45 平成25年度ダイオキシン類に関する実態調査結果まとめ

		調査地点数		要監視濃度超過地点数		環境基準超過地点数	
		水質	底質	水質	底質	水質	底質
基準監視地点	(一般)	124	127	0	0	0	0
	(重点)	7	0	4	0	1	0
	計	131	127	4	0	1	0
補助監視地点	(一般)	85	89	0	0	0	0
	(重点)	11	0	7	0	5	0
	計	96	89	7	0	5	0
合計		227	216	11	0	6	0
重点監視地点		18	0	11	0	6	0

※年に複数回調査をしている地点については、水質については年平均値で、底質については年最大値で要監視濃度及び環境基準からの超過を評価している。

※重点監視地点は、基準監視地点（重点）と補助監視地点（重点）の合計である。

表-48 平成25年度ベンゾ(a)ピレンに関する実態調査結果

水系名	河川名	調査地点名	底質		
			採泥日	強熱減量 %	ベンゾ(a) ピレン $\mu\text{g}/\text{kg}$
北海道					
湧別川	湧別川	中湧別橋	11月1日	3.1	ND
渚滑川	渚滑川	ウツツ橋	11月1日	2.0	ND
東北					
最上川	最上川	基点橋	10月24日	1.3	ND
赤川	赤川	浜中	11月2日	6.7	4.3
関東					
相模川	相模川	馬入橋	11月8日	1.6	1.7
富士川	富士川	富士川橋	10月8日	1.4	ND
北陸					
手取川	手取川	美川大橋	10月8日	1.9	ND
梯川	梯川	石田橋	10月8日	2.1	3.6
中部					
天竜川	天竜川	新樋橋	10月23日	0.9	1.2
天竜川	天竜川	鹿島橋	10月22日	1.2	ND
櫛田川	櫛田川	櫛田橋	10月30日	0.7	ND
宮川	宮川	度会橋	10月16日	0.8	ND
中国					
吉井川	吉井川	熊山橋	10月10日	1.29	ND
旭川	百間川	清内橋	10月11日	10.5	24.9
高梁川	高梁川	霞橋	10月11日	2.63	34.8
芦田川	芦田川	小水呑橋	10月10日	0.47	ND
佐波川	佐波川	新橋	10月17日	0.91	ND
四国					
吉野川	吉野川	高瀬橋	10月3日	0.9	ND
重信川	重信川	出合橋	10月3日	1.4	1.5
土器川	土器川	丸亀橋	10月3日	1.6	0.6
九州					
白川	白川	小島橋	10月2日	1.3	2.0
菊池川	菊池川	白石	10月2日	1.0	ND
松浦川	松浦川	久里橋	10月28日	1.3	14.9
調査地点合計			23	23	23
検出地点合計			—	23	10
最大値			—	10.5	34.8
検出割合			—	—	43.5%

表-49 平成25年度内分泌かく乱化学物質に関する実態調査結果まとめ

調査対象物質名	重点調査濃度 ($\mu\text{g}/\ell$)	調査 地点数	今回、重点調査濃度 を超えた地点数 (括弧内は平成24年度調査)	検出地点数 ^{※1}	最大値 ($\mu\text{g}/\ell$)
ビスフェノールA	24.7	35	0 (0)	26	0.065
17 β -エストラジオール	0.0015	34	0 (0)	15	0.00004
エストロン	0.0016	42	1 (6)	34	0.00270
o,p'-DDT	0.0145	29	0 (0)	27	0.0009
全体 ^{※2}	-	46	1 (6)	35	-

※1 検出下限値以上の数値が観測された地点数

※2 同一の調査地点に複数の調査対象物質が該当するものがあるため、全体の数値は各調査対象物質の合計と一致しない。

表-50 平成15年度から25年度の間で重点調査濃度を超えた地点

($\mu\text{g}/\ell$)

水系名	河川名	調査地点名	物質名	重点調査濃度(H23年度調査まで)	重点調査濃度(H24年度調査以降)	H10 夏	H10 秋	H11 夏	H11 秋	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
常呂川	常呂川	忠志橋	17β-エストラジオール	0.0005	0.0015	0.0005	0.0009	0.0017	0.0010	0.0011	ND			ND			0.0006	ND	ND	0.0006	0.0003		
			エストロン	0.0005	0.0016						0.0011	ND	ND	ND	0.00189	0.0054	0.0027	0.00159	0.0023	0.0020	0.0011	0.00050	0.00060
尻別川	尻別川	名駒	ビスフェノールA	0.4	24.7	ND	0.05	0.03	0.06	0.06	0.11	0.03			1.087	0.287	0.012	0.045			0.015		
網走川	網走川	治水橋	エストロン	0.0005	0.0016						ND			ND			0.0007	0.00064	0.0011	0.00080	0.00040		
名取川	名取川	関上大橋	エストロン	0.0005	0.0016							ND			0.00064	ND	ND	ND					
北上川	北上川	登米	エストロン	0.0005	0.0016						ND	ND			0.00075	ND	ND	ND					
岩木川	岩木川	三好橋	エストロン	0.0005	0.0016						0.0007	0.00055	0.0016	ND	0.0013	ND	ND	0.00209	0.00124	0.00091	0.00129	0.00043	
岩木川	岩木川	乾橋	エストロン	0.0005	0.0016								0.0015	ND	0.0013	ND	0.0005	0.00188	0.00150	0.00099	0.00149	0.00056	
阿武隈川	阿武隈川	岩沼	エストロン	0.0005	0.0016					ND	ND	0.00076	ND	ND	0.0011	ND	ND	0.00066	ND	ND	0.00050		0.00050
最上川	最上川	基点橋	エストロン	0.0005	0.0016									ND			0.0013	0.00115	0.00078	0.00108	0.00115		
赤川	赤川	浜中	エストロン	0.0005	0.0016						ND			ND			0.0007	ND	ND	ND			
利根川	利根川	栗橋	エストロン	0.0005	0.0016							0.00078		ND	ND	ND	0.0005	ND	0.00064	ND	0.00040	0.00029	
利根川	鬼怒川	滝下橋	エストロン	0.0005	0.0016							0.00059		ND	ND	0.0005	0.0009	0.00061	0.00109	0.0005	0.00050	0.00022	
利根川	綾瀬川	内匠橋	ノニルフェノール	0.304	0.608	ND	2.7	2.0	3.3	1.1	1.7	0.79	1.40	0.23	2.1	0.56	0.5	0.37	0.27		0.41	ND	
			ビスフェノールA	0.4	24.7	1.4	1.20	0.64	0.65	0.45	0.36	0.24	0.14	0.070	0.84	0.012	0.08	0.145	0.116				
			エストロン	0.0005	0.0016					0.0054	0.0015		0.0066	ND	0.0014	0.0031	0.0026	0.00225	0.00227	0.00134	0.00291	0.0037	ND
利根川	矢場川	矢場川水門	ノニルフェノール	0.304	0.608	0.8	3.0	0.6				1.7	0.69	0.14	0.7	0.36	0.2	0.19	0.64	1.14	0.36	ND	
利根川	秋山川	秋山川末流	ノニルフェノール	0.304	0.608	0.1	0.6	0.2				0.38	0.32	ND	1.2	0.20	0.1	ND	0.26	0.31	0.16	ND	
利根川	利根運河	運河橋	ノニルフェノール	0.304	0.608	ND	0.6	1.5				0.99	0.77	0.24	1.8	0.27	0.2	0.13	0.15			0.19	
多摩川	多摩川	多摩川原橋	エストロン	0.0005	0.0016					0.0052	ND	0.017	0.0059	0.00267	0.0030	0.0044	0.0095	0.00565	0.00765	0.00102	0.00695	0.011	ND
多摩川	多摩川	田園調布堰	エストロン	0.0005	0.0016					0.0013	ND	0.0068	0.0013	0.00187	0.0007	0.0034	0.0043	0.00219	0.00238	0.00095	0.00334	0.0023	0.0001
鶴見川	鶴見川	亀の子橋	エストロン	0.0005	0.0016						0.0008	0.030	0.0022	0.00641	0.0044	0.020	0.010	0.01924	0.02538	0.00978	0.00773	0.0082	ND
相模川	相模川	馬入橋	エストロン	0.0005	0.0016						ND			ND			0.0019	0.00872	0.00565	0.00199	0.00055	0.017	ND
信濃川	信濃川	旭橋	エストロン	0.0005	0.0016					ND	ND		0.0006	ND	0.00039	0.00035	0.0005	0.00076	0.00062	ND	0.00032	0.00040	
信濃川	信濃川	立ヶ花橋	エストロン	0.0005	0.0016						ND		0.0010	ND	0.00062	ND	0.0007	0.00069	0.0012	0.00070	0.00048	0.00080	
関川	関川	直江津橋	エストロン	0.0005	0.0016						0.0010	0.0003	0.0007	ND	0.00028	0.00032	0.0014	ND	0.00074	0.00060	0.00030	0.0013	
小矢部川	小矢部川	城光寺橋	エストロン	0.0005	0.0016						0.0024	0.0007	ND	ND	ND	0.00035	0.0007	0.00083	0.0011	0.0005	0.00021	0.00060	
手取川	手取川	美川大橋	17β-エストラジオール	0.0005	0.0015			0.0003	0.00029	ND	ND			ND			0.0010	ND	0.00078	ND	ND	ND	
			エストロン	0.0005	0.0016						ND			0.0006	0.00066	0.00063	0.010	0.00070	0.00095	ND	0.00702	0.00020	<0.0001
梯川	梯川	石田橋	エストロン	0.0005	0.0016									ND			0.0006	0.00060	0.0039	0.00080	0.00032	0.00060	
狩野川	狩野川	徳倉橋	エストロン	0.0005	0.0016						0.0005	0.00073	0.00052	ND	0.0013	0.0021	0.00079	ND	0.00135	0.00064	0.00035		
安倍川	安倍川	安倍川橋	エストロン	0.0005	0.0016						ND			ND			0.00123	ND	ND	ND	ND		<0.0001
菊川	菊川	高田橋	ノニルフェノール	0.304	0.608	0.2	0.1	ND	0.1	ND	ND		1.06	ND	ND	1.2	0.20	ND	0.127			ND	
			エストロン	0.0005	0.0016						ND		0.00021			0.0017	ND	ND	0.000734	0.00176	0.00091	0.0013	0.0003
天竜川	天竜川	新樋橋	ノニルフェノール	0.304	0.608	0.7	ND	ND				0.30	0.5	ND	ND	ND	0.66	0.13	ND	ND	ND		
			エストロン	0.0005	0.0016									ND			0.00060	ND	0.000763	ND	0.00100		<0.0001
豊川	豊川	江島橋	エストロン	0.0005	0.0016							0.00061		ND	ND	ND	0.00103	ND	ND	ND	0.00026		
庄内川	庄内川	枇杷島橋	ノニルフェノール	0.304	0.608	1	ND	0.1	0.2	ND	0.1	0.25	0.15	ND	0.14	0.27	0.91	0.19	ND	0.07	ND		
			17β-エストラジオール	0.0005	0.0015	0.0032	0.0078	0.0013	0.0050	0.0029	0.0009	ND	0.00038	ND	ND	ND	0.00217	ND	0.00162	0.00107	0.00092	0.00041	
			エストロン	0.0005	0.0016					0.0042	0.0042	0.0081	0.004	ND	0.014	0.014	0.0167	0.0038	0.0118	0.00717	0.00440	0.0035	0.0027
木曾川	長良川	伊勢大橋	エストロン	0.0005	0.0016							0.0007	0.00081	0.0011	ND	0.0012	0.0014	0.00055	ND	ND	0.00070	0.00043	
木曾川	揖斐川	福岡大橋	エストロン	0.0005	0.0016								0.00031			0.0023	ND	ND	ND			0.00035	
雲出川	雲出川	雲出橋	ノニルフェノール	0.304	0.608	ND	ND	ND	ND	ND	ND		ND			0.81	0.32	ND	ND	0.06	ND	ND	
大和川	大和川	遠里小野橋 中	17β-エストラジオール	0.0005	0.0015	0.0053	0.0022	0.0070	0.0043	0.0034	ND		0.00068		ND	0.00075	0.00051	0.0007	ND	ND	ND		
			エストロン	0.0005	0.0016						0.0012	0.0017	0.0081	0.0054	0.00268	0.00594	0.00377	0.00266	0.00059	0.00177	0.00042	0.00064	0.00048
淀川	桂川	宮前橋	エストロン	0.0005	0.0016									0.0013	0.00179	0.00219	0.00176	0.00269	ND	0.00193	0.00103	0.0012	0.0008
淀川	淀川	枚方大橋 左岸	エストロン	0.0005	0.0016						ND			0.0006	0.00119	0.00098	0.00064	0.00087	ND	0.00077	0.00038	0.00029	
淀川	淀川	枚方大橋 中央	エストロン	0.0005	0.0016					ND	ND			ND			0.00078	0.00099	ND	0.00079	0.00034	0.00019	
淀川	淀川	枚方大橋 右岸	エストロン	0.0005	0.0016						ND			ND			0.00077	0.00079	ND	0.00095	0.00036	0.00010	
淀川	淀川	柴島	エストロン	0.0005	0.0016									ND			0.00078	0.00079	0.00055	ND	0.00031		
淀川	淀川	淀川大堰	エストロン	0.0005	0.0016						ND			ND			0.00072	0.00069	ND	ND	0.00053		0.00039
揖保川	揖保川	上川原(王子橋)	ノニルフェノール	0.304	0.608	0.3	ND	ND	ND	0.12	ND	ND	0.14	ND	ND	0.10	ND	0.41	0.06	ND			
由良川	由良川	波美橋	エストロン	0.0005	0.0016							ND			0.00064	ND	ND	ND	ND				
千代川	千代川	行徳	エストロン	0.0005	0.0016						0.0006	ND	ND	ND	ND	ND					0.00075		
天神川	天神川	小田	エストロン	0.0005	0.0016						ND	0.0007	ND	ND	ND	ND					0.0012		
吉井川	吉井川	熊山橋	エストロン	0.0005	0.0016						ND			0.00051	ND	0.00073	ND	ND	ND				0.0003
旭川	百間川	清内橋	17β-エストラジオール	0.0005	0.0015	0.0049	0.0029	0.0023	0.0026	0.0009	ND	ND		0.00059			ND	ND					

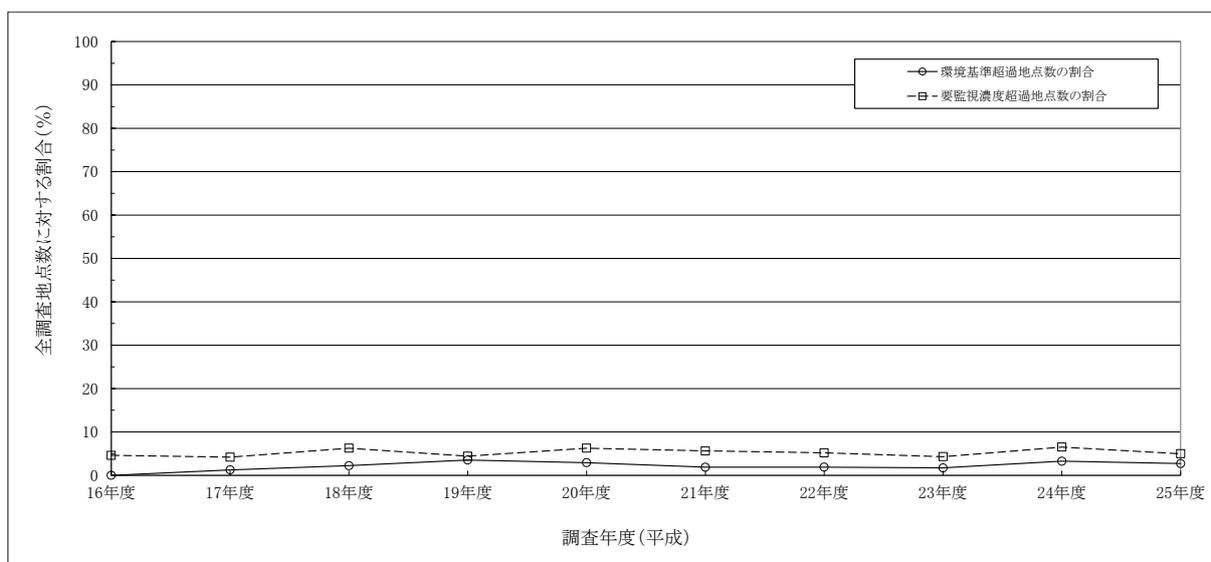


図-56 ダイオキシン類に関する全調査地点数のうち、環境基準超過地点数及び要監視濃度超過地点数の割合 (%) の推移 (水質)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
環境基準超過地点数	0	3	5	8	7	4	4	4	7	6
要監視濃度超過地点	11	10	14	10	15	12	11	10	14	11
全調査地点数	239	239	224	227	240	213	212	233	215	227
環境基準超過地点数の割合 (%)	0.0%	1.3%	2.2%	3.5%	2.9%	1.9%	1.9%	1.7%	3.3%	2.6%
要監視濃度超過地点数の割合 (%)	4.6%	4.2%	6.3%	4.4%	6.3%	5.6%	5.2%	4.3%	6.5%	4.8%

※感潮域の地点数 (平成14年度のみ設定) は除く
 ※平成16年度調査において参考値扱いとなった姫川山本 (中山橋) 及び姫川大橋は平成16年度調査地点数より除く

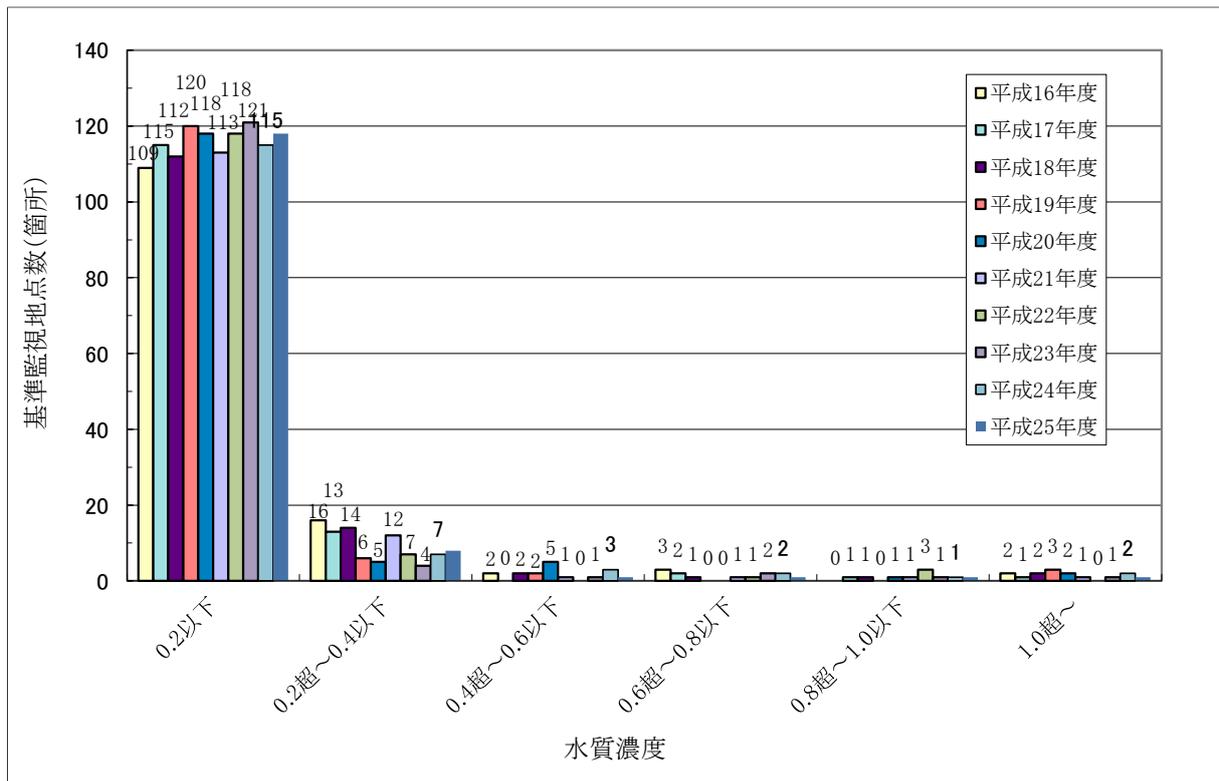


図-57 平成16年度～平成25年度水質ダイオキシン類調査（基準監視地点）
濃度ヒストグラム

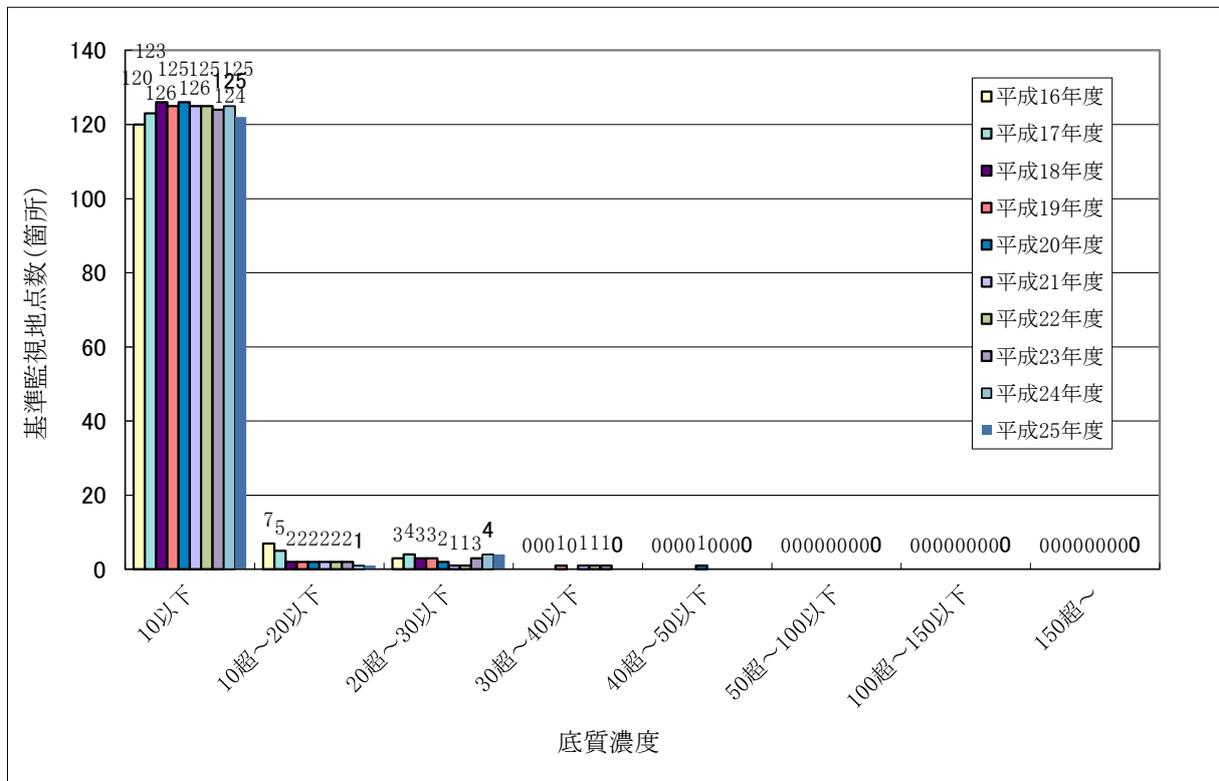


図-58 平成16年度～平成25年度底質ダイオキシン類調査（基準監視地点）
濃度ヒストグラム

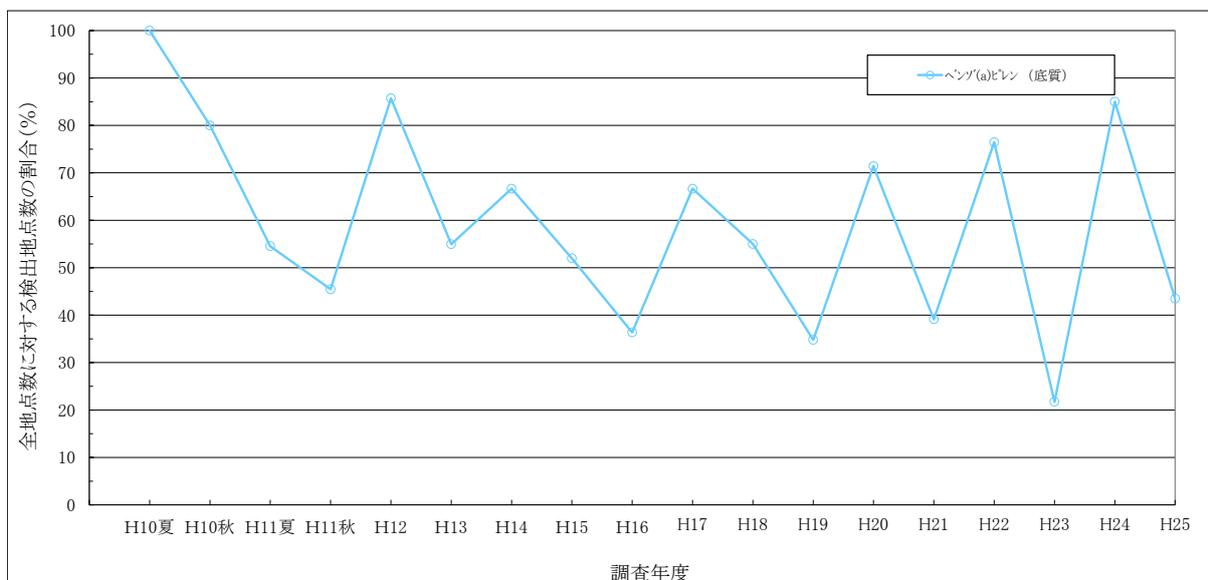


図-59 ベンゾ(a)ピレンに関する全調査地点数に対する
検出地点数の割合 (%) の推移

	H10夏	H10秋	H11夏	H11秋	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
ベンゾ(a)ピレン (底質)	1	4	6	5	12	72	16	13	8	12	11	8	15	9	13	5	17	10
	1	5	11	11	14	131	24	25	22	18	20	23	21	23	17	23	20	23
	100%	80%	54.5%	45.5%	85.7%	55.0%	66.7%	52.0%	36.4%	66.7%	55.0%	34.8%	71.4%	39.1%	76.5%	21.7%	85.0%	43.5%

上段: 検出地点数、中段: 全調査地点数、下段: 全調査地点数に対する検出地点数の割合 (%)

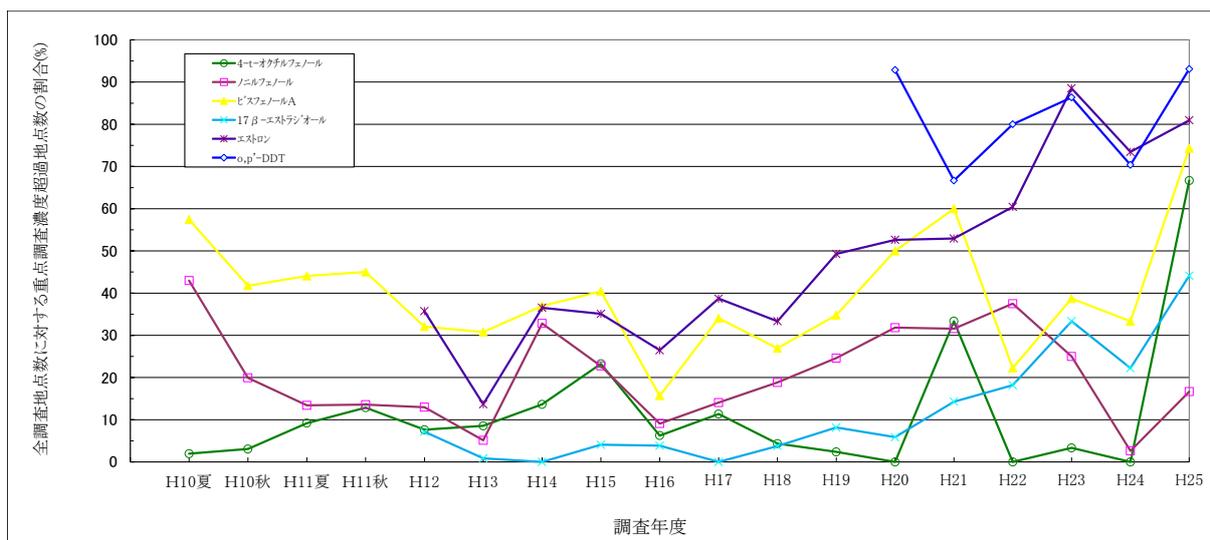


図-60 内分泌かく乱化学物質に対する検出地点数の割合(%)の推移

	H10夏	H10秋	H11夏	H11秋	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
4-tert-Octylphenol	5	8	24	18	10	10	6	10	3	5	2	1	0	3	0	1	0	18
	256	261	261	140	131	117	44	43	48	44	46	42	13	9	8	30	33	27
	2.0%	3.1%	9.2%	12.9%	7.6%	8.5%	13.6%	23.3%	6.3%	11.4%	4.3%	2.4%	0%	33.3%	0.0%	3.3%	0.0%	66.7%
Nonylphenol	110	52	35	19	17	6	21	15	6	9	13	16	7	6	6	9	1	10
	256	261	261	140	131	117	64	66	66	64	69	65	22	19	16	36	38	60
	43.0%	19.9%	13.4%	13.6%	13.0%	5.1%	32.8%	22.7%	9.1%	14.1%	18.8%	24.6%	31.8%	31.6%	37.5%	25.0%	2.6%	16.7%
Bisphenol A	147	109	115	63	42	36	17	19	8	16	14	16	8	6	2	12	11	26
	256	261	261	140	131	117	46	47	51	47	52	46	16	10	9	31	33	35
	57.4%	41.8%	44.1%	45.0%	32.1%	30.8%	37.0%	40.4%	15.7%	34.0%	26.9%	34.8%	50%	60%	22%	39%	33%	74%
17β-Estradiol					1	1	0	2	2	0	2	4	1	2	2	12	8	15
					14	117	49	49	52	50	53	49	17	14	11	36	36	34
					7.1%	0.9%	0.0%	4.1%	3.8%	0.0%	3.8%	8.2%	5.9%	14.3%	18.2%	33.3%	22.2%	44.1%
Estrogen					5	16	19	20	18	24	25	34	30	27	29	54	36	34
					14	117	52	57	68	62	75	69	57	51	48	61	49	42
					35.7%	13.7%	36.5%	35.1%	26.5%	38.7%	33.3%	49.3%	52.6%	52.9%	60.4%	88.5%	73.5%	81.0%
o,p'-DDT													26	8	8	19	19	27
													28	12	10	22	27	29
													93%	66.7%	80.0%	86.4%	70.4%	93.1%

上段:検出地点数、中段:全調査地点数、下段:全調査地点数に対する検出地点数の割合(%)

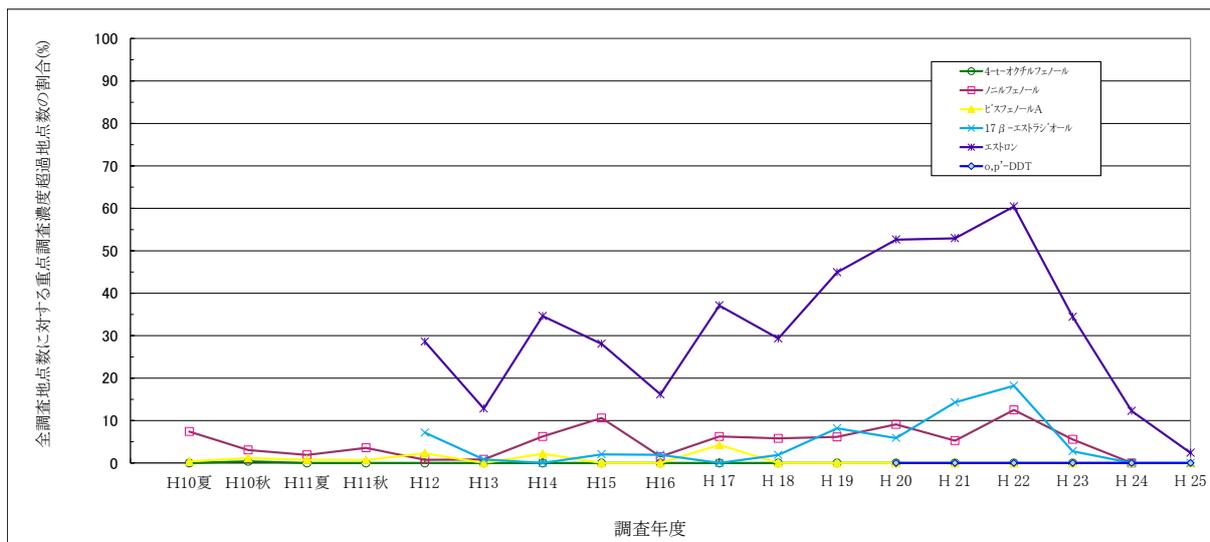


図-61 内分泌かく乱化学物質に関する全調査地点数に対する
重点調査濃度超過地点数の割合 (%) の推移

	H10夏	H10秋	H11夏	H11秋	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	
4-tert-オクチルフェノール	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	256	261	261	140	131	117	44	43	48	44	46	42	13	9	8	30	33	—	
	0%	0.4%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.0%	0.0%	—
ノニルフェノール	19	8	5	5	1	1	4	7	1	4	4	4	2	1	2	2	0	0	—
	256	261	261	140	131	117	64	66	66	64	69	65	22	19	16	36	38	—	
	7.4%	3.1%	1.9%	3.6%	0.8%	0.9%	6.3%	10.6%	1.5%	6.3%	5.8%	6.2%	9.1%	5.3%	12.5%	5.6%	0.0%	0.0%	—
ビスフェノールA	1	3	2	1	3	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	256	261	261	140	131	117	46	47	51	47	52	46	16	10	9	31	33	35	—
	0.4%	1.1%	0.8%	0.7%	2.3%	0%	2.2%	0%	0%	4.3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
17β-エストラジオール					1	1	0	1	1	0	1	4	1	2	2	1	0	0	0
					14	117	49	49	52	50	53	49	17	14	11	36	36	34	—
					7.1%	0.9%	0%	2.0%	1.9%	0%	1.9%	8.2%	5.9%	14.3%	18.2%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%
エストロン					4	15	18	16	11	23	22	31	30	27	29	21	6	1	—
					14	117	52	57	68	62	75	69	57	51	48	61	49	42	—
					28.6%	12.8%	34.6%	28.1%	16.2%	37.1%	29.3%	44.9%	52.6%	52.9%	60.4%	34.4%	12.2%	2.4%	—
o,p'-DDT													0	0	0	0	0	0	—
													28	12	10	22	27	29	—
													0%	0%	0%	0%	0.0%	0.0%	—

上段:重点調査濃度超過地点数、中段:全調査地点数、下段:全調査地点数に対する重点調査濃度超過地点数の割合 (%)

表-51(1) 平成25年度ダイオキシン類に関する実態調査結果（北海道）

都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類（水質） ^{※2}				ダイオキシン類（底質） ^{※2}			
				基準 or 補助	重点監視地点 ^{※1}		PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL ^{※3}	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL ^{※3}	評価値 (最高値)
北海道	石狩川	幾春別川	桂沢ダム	補助		秋期	0.062	0.0047	0.067	0.067	0.19	0.013	0.21	0.21
北海道	石狩川	漁川	漁川ダム	補助		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.39	0.033	0.43	0.43
北海道	石狩川	石狩川	石狩大橋	基準		秋期	0.088	0.0046	0.093	0.093	1.2	0.035	1.2	1.2
北海道	石狩川	豊平川	豊平峡ダム	補助		秋期	0.062	0.0047	0.067	0.067	0.83	0.060	0.89	0.89
北海道	石狩川	小樽内川	定山溪ダム	補助		秋期	0.062	0.0047	0.067	0.067	0.87	0.079	0.95	0.95
北海道	石狩川	豊平川	中沼	基準		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.58	0.079	0.66	0.66
北海道	常呂川	常呂川	忠志橋	基準		秋期	0.070	0.0046	0.075	0.075	0.28	0.014	0.29	0.29
北海道	尻別川	尻別川	名駒	基準		秋期	0.065	0.0046	0.070	0.070	1.5	0.058	1.6	1.6
北海道	尻別川	尻別川	初田橋	補助		秋期	-	-	-	-	1.4	0.070	1.4	1.4
北海道	後志利別川	後志利別川	美利河ダム	補助		秋期	0.062	0.0047	0.067	0.067	1.7	0.13	1.9	1.9
北海道	後志利別川	後志利別川	今金橋	基準		秋期	0.062	0.0048	0.067	0.067	0.23	0.013	0.24	0.24
北海道	鶴川	鶴川	鶴川橋	基準		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.20	0.013	0.21	0.21
北海道	沙流川	沙流川	長知内橋	基準		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.19	0.013	0.21	0.21
北海道	十勝川	札内川	札内川ダム	補助		秋期	0.062	0.0047	0.067	0.067	1.3	0.089	1.4	1.4
北海道	十勝川	十勝川	茂岩橋	基準		秋期	0.067	0.0047	0.072	0.072	0.20	0.013	0.21	0.21
北海道	釧路川	釧路川	愛国浄水場取水口	基準		秋期	0.062	0.0047	0.067	0.067	0.22	0.013	0.23	0.23
北海道	釧路川	釧路川	新川橋	補助		秋期	-	-	-	-	0.19	0.014	0.21	0.21
北海道	網走川	網走川	治水橋	基準		秋期	0.062	0.0047	0.067	0.067	0.28	0.013	0.30	0.3
北海道	網走川	網走湖	st.2	基準		秋期	0.068	0.0047	0.073	0.073	3.7	0.056	3.7	3.7
北海道	網走川	網走湖	st.3	補助		秋期	-	-	-	-	3.3	0.090	3.4	3.4
北海道	湧別川	湧別川	中湧別橋	基準		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.25	0.014	0.26	0.26
北海道	湧別川	湧別川	湧別大橋	補助		秋期	-	-	-	-	0.25	0.015	0.27	0.27
北海道	渚滑川	渚滑川	ウツン橋	基準		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.19	0.013	0.21	0.21
北海道	渚滑川	渚滑川	渚滑捕獲場	補助		秋期	-	-	-	-	0.24	0.024	0.26	0.26
北海道	天塩川	天塩川	天塩大橋	基準		秋期	0.062	0.0047	0.067	0.067	1.1	0.013	1.1	1.1
北海道	天塩川	天塩川	天塩河口	補助		秋期	-	-	-	-	1.5	0.013	1.5	1.5
北海道	留萌川	留萌川	16線橋	基準		秋期	0.063	0.0047	0.068	0.068	0.43	0.013	0.44	0.44
北海道	留萌川	留萌川	留萌橋	補助		秋期	-	-	-	-	0.44	0.014	0.45	0.45

※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。

※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、-は未測定

※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とDL-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-51(2) 平成25年度ダイオキシン類に関する実態調査結果（東北）

都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類（水質）※2				ダイオキシン類（底質）※2			
				基準 or 補助	重点監視地点※1		PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL※3	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL※3	評価値 (最高値)
青森県	馬淵川	馬淵川	尻内橋	基準		秋期	0.069	0.0049	0.074	0.074	0.24	0.013	0.26	0.26
青森県	岩木川	岩木川	乾橋	基準		秋期	0.076	0.0048	0.081	0.081	0.21	0.013	0.23	0.23
青森県	高瀬川	小河原湖	小河原湖No.H	基準		秋期	0.064	0.0046	0.069	0.069	5.9	0.28	6.2	6.2
青森県	高瀬川	高瀬川	河口	補助		秋期	0.069	0.0046	0.074	0.074	0.2	0.013	0.21	0.21
岩手県	北上川	和賀川	湯田ダム	補助		秋期	0.063	0.0046	0.067	0.067	1.6	0.067	1.7	1.7
秋田県	雄物川	玉川	玉川ダム	補助		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.07	1.8	0.10	1.9	1.9
秋田県	雄物川	雄物川	新屋	基準		秋期	0.071	0.0046	0.075	0.075	6.2	0.25	6.5	6.5
秋田県	子吉川	子吉川	二十六木橋	基準		秋期	0.068	0.0046	0.073	0.073	2.5	0.014	2.5	2.5
秋田県	米代川	米代川	二ッ井	基準		秋期	0.067	0.0047	0.072	0.072	0.46	0.035	0.50	0.50
山形県	最上川	最上川	碁点橋	基準		秋期	0.085	0.0049	0.090	0.09	0.22	0.016	0.23	0.23
山形県	赤川	梵字川	月山ダム	基準		秋期	0.063	0.0046	0.067	0.067	1.0	0.067	1.1	1.1
山形県	赤川	赤川	浜中	補助		秋期	0.067	0.0046	0.07	0.07	1.3	0.088	1.4	1.4
山形県	最上川	最上川	さみだれ大堰	補助		秋期	0.076	0.0048	0.08	0.08	1.6	0.068	1.7	1.7
宮城県	名取川	名取川	関上大橋	補助		秋期	0.13	0.0049	0.13	0.13	1.6	0.09	1.7	1.7
宮城県	阿武隈川	阿武隈川	岩沼	基準		秋期	0.14	0.0051	0.15	0.15	1.2	0.06	1.3	1.3
宮城県	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈大堰	補助		秋期	0.095	0.005	0.1	0.1	1.40	0.077	1.5	1.5
宮城県	阿武隈川	白石川	七ヶ宿ダム	基準		秋期	0.063	0.0046	0.067	0.067	4.1	0.120	4.2	4.2
宮城県	北上川	江合川	鳴子ダム	補助		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.9	0.076	0.98	0.98
宮城県	北上川	北上川	登米	補助		秋期	0.069	0.0047	0.074	0.074	1.4	0.046	1.4	1.4
宮城県	北上川	北上川	北上川河口	基準		秋期	0.068	0.0046	0.073	0.073	0.25	0.014	0.26	0.26
宮城県	鳴瀬川	鳴瀬川	鳴瀬堰（小野）	補助		秋期	0.31	0.0047	0.31	0.31	1.10	0.013	1.1	1.1
宮城県	鳴瀬川	鳴瀬川	鳴瀬川河口	基準		秋期	0.13	0.0046	0.14	0.14	2.00	0.024	2.1	2.1
福島県	阿武隈川	摺上川	摺上川ダム	補助		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.55	0.047	0.59	0.59
福島県	阿武隈川	阿武隈川	須賀川	補助		秋期	0.076	0.0047	0.080	0.080	0.20	0.013	0.22	0.22

- ※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。
 ※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、－は未測定
 ※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とDL-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-51(3) 平成25年度ダイオキシン類に関する実態調査結果 (関東 (1))

都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類 (水質) ^{#2}				ダイオキシン類 (底質) ^{#2}				
				基準 or 補助	重点監視地点 ^{#1}		PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL ^{#3}	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL ^{#3}	評価値 (最高値)	
					水質										底質
群馬県	利根川	利根川	藤原ダム	補助		秋期	0.062	0.0047	0.067	0.067	1.7	0.11	1.8	1.8	
群馬県	利根川	烏川	岩倉橋	補助		秋期	0.070	0.0049	0.075	0.075	0.43	0.066	0.50	0.50	
群馬県・埼玉県	利根川	利根川	坂東大橋	補助		秋期	0.067	0.0048	0.072	0.072	0.55	0.035	0.58	0.58	
群馬県・千葉県	利根川	利根川	布川(栄橋)	補助		秋期	0.077	0.0049	0.082	0.082	0.51	0.024	0.53	0.53	
千葉県・茨城県	利根川	利根川	佐原(水郷大橋)	基準		秋期	0.083	0.0048	0.088	0.088	11	0.53	11	11	
茨城県	利根川	渡良瀬川	三国橋	基準		秋期	0.17	0.0085	0.18	0.18	0.22	0.013	0.23	0.23	
栃木県	利根川	鬼怒川	川治ダム	補助		秋期	0.063	0.0047	0.067	0.067	0.35	0.034	0.39	0.39	
茨城県	利根川	鬼怒川	滝下橋	基準		秋期	0.072	0.0049	0.077	0.077	0.20	0.013	0.22	0.22	
茨城県	利根川	小貝川	文巻橋	基準	○	春期	0.54	0.0050	0.55	0.40	—	—	—	—	
						夏期	0.29	0.0048	0.29	—	—	—	—		
						秋期	0.59	0.012	0.60	0.19	0.013	0.21	0.21		
						冬期	0.15	0.0048	0.15	—	—	—	—		
東京都・千葉県	利根川	江戸川	江戸川水門(上)	基準	○	春期	0.098	0.011	0.11	0.14	—	—	—	—	
						夏期	0.21	0.014	0.23	—	—	—	—		
						秋期	0.096	0.0051	0.10	7.5	0.54	8.1	8.1		
						冬期	0.098	0.0052	0.10	—	—	—	—		
埼玉県	利根川	中川	潮止橋	補助	○	春期	1.2	0.027	1.2	1.0	—	—	—	—	
						夏期	1.5	0.028	1.5	—	—	—	—		
						秋期	0.82	0.030	0.85	—	—	—	—		
						冬期	0.43	0.024	0.46	—	—	—	—		
東京都	利根川	中川	飯塚橋	基準	○	春期	0.98	0.031	1.0	1.0	—	—	—	—	
						夏期	1.1	0.031	1.1	—	—	—	—		
						秋期	1.3	0.052	1.3	1.6	0.080	1.7	1.7		
						冬期	0.72	0.056	0.78	—	—	—	—		
東京都	利根川	中川	高砂橋	補助	○	春期	0.70	0.031	0.73	0.76	—	—	—	—	
						夏期	1.0	0.042	1.0	—	—	—	—		
						秋期	0.60	0.050	0.65	4.8	0.44	5.3	5.3		
						冬期	0.61	0.063	0.67	—	—	—	—		
埼玉県	利根川	綾瀬川	槐戸橋	補助	○	春期	2.1	0.057	2.2	1.2	—	—	—	—	
						夏期	1.1	0.035	1.2	—	—	—	—		
						秋期	0.56	0.045	0.60	—	—	—	—		
						冬期	0.59	0.040	0.63	—	—	—	—		

※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。
 ※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、—は未測定
 ※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とDL-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-51(4) 平成25年度ダイオキシン類に関する実態調査結果 (関東 (2))

都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類 (水質) ^{※2}				ダイオキシン類 (底質) ^{※2}			
				基準 or 補助	重点監視地点 ^{※1}		PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL ^{※3}	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL ^{※3}	評価値 (最高値)
埼玉県	利根川	綾瀬川	手代橋	補助	○	春期	1.5	0.080	1.6	1.1	—	—	—	—
						夏期	1.1	0.10	1.2	—	—	—	—	
						秋期	0.48	0.044	0.52	—	—	—	—	
						冬期	0.97	0.11	1.1	—	—	—	—	
埼玉県・東京都	利根川	綾瀬川	内匠橋	基準	○	春期	0.68	0.042	0.72	0.54	—	—	—	—
						夏期	0.59	0.055	0.64	—	—	—	—	
						秋期	0.43	0.053	0.49	19	2.3	22	22	
						冬期	0.28	0.034	0.31	—	—	—	—	
茨城県	利根川	霞ヶ浦	湖心	基準		秋期	0.25	0.0049	0.26	0.26	25	1.2	27	27
茨城県	利根川	霞ヶ浦	釜谷沖	基準		秋期	0.16	0.0048	0.16	0.16	21	0.51	22	22
埼玉県	荒川	荒川	久下橋	補助		秋期	0.062	0.0048	0.067	0.067	0.31	0.025	0.34	0.34
埼玉県	荒川	荒川	治水橋	基準		秋期	0.10	0.0052	0.11	0.11	1.9	0.11	2.0	2.0
埼玉県	荒川	荒川	笹目橋	補助		秋期	0.090	0.012	0.10	0.10	0.22	0.015	0.23	0.23
東京都	荒川	荒川	堀切橋	補助	○	春期	0.20	0.059	0.25	0.35	—	—	—	—
						夏期	0.27	0.063	0.33	—	—	—	—	
						秋期	0.40	0.059	0.45	—	—	—	—	
						冬期	0.30	0.048	0.35	—	—	—	—	
茨城県	久慈川	久慈川	榑橋	基準		秋期	0.078	0.0048	0.082	0.082	0.44	0.024	0.47	0.47
茨城県	久慈川	里川	新落合橋	補助		秋期	0.40	0.011	0.41	0.41	0.85	0.045	0.90	0.90
茨城県	那珂川	那珂川	下国井	基準		秋期	0.068	0.0047	0.073	0.073	0.80	0.014	0.81	0.81
茨城県	那珂川	桜川	駅南小橋	補助		秋期	0.30	0.015	0.32	0.32	0.54	0.12	0.66	0.66
東京都	多摩川	多摩川	多摩川原橋	補助		秋期	0.065	0.0049	0.069	0.069	0.42	0.047	0.46	0.46
東京都・神奈川県	多摩川	多摩川	田園調布堰	基準		秋期	0.064	0.0049	0.069	0.069	0.20	0.026	0.23	0.23
東京都	多摩川	浅川	長沼橋	補助		秋期	0.063	0.0048	0.068	0.068	0.31	0.057	0.37	0.37
神奈川県	鶴見川	鶴見川	亀の子橋	基準		秋期	0.067	0.0052	0.072	0.072	0.42	0.082	0.50	0.50
神奈川県	相模川	相模川	馬入橋	基準		秋期	0.20	0.024	0.23	0.23	0.24	0.057	0.29	0.29
山梨県	富士川	富士川	南部橋	補助		秋期	0.062	0.0047	0.067	0.067	0.25	0.013	0.27	0.27
静岡県	富士川	富士川	富士川橋	基準		秋期	0.062	0.0047	0.067	0.067	0.20	0.013	0.21	0.21
山梨県	富士川	富士川	南部橋	基準		秋期	0.066	0.0046	0.070	0.070	0.66	0.046	0.71	0.71
静岡県	富士川	富士川	富士川橋	補助		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	3.0	0.19	3.1	3.1

※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。

※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、—は未測定

※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とDL-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-51(5) 平成25年度ダイオキシン類に関する実態調査結果（北陸）

都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類（水質） ^{※2}				ダイオキシン類（底質） ^{※2}			
				基準 or 補助	重点監視地点 ^{※1}		PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL ^{※3}	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL ^{※3}	評価値 (最高値)
新潟県	荒川	荒川	旭橋下流	基準		秋期	0.067	0.0046	0.072	0.072	1.1	0.19	1.3	1.3
新潟県	阿賀野川	阿賀野川	横雲橋	基準		秋期	0.070	0.0046	0.075	0.075	0.20	0.013	0.21	0.21
新潟県	信濃川	信濃川	平成大橋	基準	○	春期	1.0	0.0047	1.0	0.78	0.58	0.014	0.60	0.60
						夏期	0.57	0.012	0.59		0.47	0.014	0.48	
						秋期	0.72	0.012	0.73		0.52	0.014	0.54	
						冬期	0.79	0.0095	0.80		0.56	0.014	0.57	
新潟県	信濃川	信濃川	庄瀬橋	補助	○	春期	0.96	0.012	0.98	1.2	0.42	0.013	0.43	1.8
						夏期	1.7	0.013	1.7		0.40	0.014	0.42	
						秋期	0.86	0.017	0.88		1.8	0.024	1.8	
						冬期	1.2	0.013	1.2		0.94	0.014	0.95	
新潟県	関川	関川	直江津橋	基準	○	春期	2.1	0.0047	2.1	0.82	2.3	0.045	2.3	2.3
						夏期	0.58	0.0048	0.59		2.1	0.025	2.2	
						秋期	0.38	0.0047	0.38		0.67	0.014	0.69	
						冬期	0.19	0.0046	0.20		1.8	0.024	1.9	
新潟県	関川	関川	稲田橋	補助	○	春期	1.8	0.0047	1.8	0.93	0.24	0.013	0.26	1.0
						夏期	1.2	0.0095	1.2		1.0	0.014	1.0	
						秋期	0.49	0.0048	0.50		0.52	0.013	0.54	
						冬期	0.21	0.0047	0.22		0.30	0.014	0.32	
新潟県	関川	保倉川	古城橋	補助	○	春期	7.4	0.0093	7.4	2.2	4.4	0.057	4.5	10.0
						夏期	0.59	0.0048	0.59		7.8	0.088	7.9	
						秋期	0.32	0.0052	0.33		3.1	0.036	3.2	
						冬期	0.55	0.0047	0.56		10	0.089	10	
新潟県	姫川	姫川	姫川大橋	補助		秋期	0.066	0.0046	0.071	0.071	0.20	0.013	0.21	0.21
新潟県	姫川	姫川	山本	基準		秋期	0.068	0.0046	0.072	0.072	0.20	0.013	0.21	0.21
富山県	黒部川	黒部川	下黒部橋	基準		秋期	0.064	0.0047	0.068	0.068	0.19	0.013	0.21	0.21
富山県	黒部川	黒部川	宇奈月ダム	補助		秋期	0.062	0.0047	0.067	0.067	0.45	0.034	0.48	0.48
富山県	常願寺川	常願寺川	常願寺橋	基準		秋期	0.064	0.0047	0.069	0.069	0.20	0.013	0.21	0.21
富山県	神通川	神通川	神通大橋	基準		秋期	0.089	0.0049	0.094	0.094	0.21	0.014	0.22	0.22
富山県	庄川	庄川	新庄川橋	補助		秋期	0.067	0.0047	0.072	0.072	0.20	0.014	0.21	0.21
富山県	庄川	庄川	大門大橋	基準		秋期	0.063	0.0046	0.068	0.068	0.19	0.013	0.21	0.21
富山県	小矢部川	小矢部川	城光寺橋	基準		秋期	0.095	0.0049	0.10	0.100	0.21	0.014	0.23	0.23
石川県	手取川	手取川	美川大橋	基準		秋期	0.068	0.0049	0.073	0.073	0.20	0.013	0.22	0.22
石川県	手取川	手取川	手取川ダム	補助		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	1.1	0.080	1.1	1.1
石川県	梯川	梯川	石田橋	基準		秋期	0.077	0.0048	0.082	0.082	0.38	0.014	0.39	0.39

※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。
 ※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、-は未測定
 ※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とDL-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-51(6) 平成25年度ダイオキシン類に関する実態調査結果 (中部)

都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類 (水質) ※2				ダイオキシン類 (底質) ※2													
				基準 or 補助	重点監視地点※1		PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL ※3	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL ※3	評価値 (最高値)										
															水質	底質	pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g
静岡県	狩野川	狩野川	徳倉橋	基準		秋期	0.11	0.0052	0.12	0.120	0.37	0.015	0.39	0.39										
静岡県	安倍川	安倍川	安倍川橋	基準		秋期	—	—	—	—	0.19	0.013	0.21	0.21										
静岡県	大井川	大井川	長島ダム貯水池基準点	補助		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.21	0.013	0.22	0.22										
静岡県	大井川	大井川	富士見橋	基準		秋期	0.069	0.0047	0.074	0.074	0.19	0.013	0.21	0.21										
静岡県	菊川	菊川	高田橋	基準		秋期	0.24	0.0048	0.24	0.240	0.29	0.013	0.31	0.31										
静岡県	天竜川	天竜川	鹿島橋	基準		秋期	0.084	0.0047	0.089	0.089	0.20	0.013	0.21	0.21										
長野県	天竜川	小渋川	小渋ダム貯水池基準点	補助		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.21	0.013	0.23	0.23										
愛知県	天竜川	大入川	新豊根ダム貯水池基準点	補助		秋期	0.066	0.0046	0.071	0.071	3.4	0.21	3.7	3.70										
愛知県	豊川	豊川	江島橋	基準		秋期	0.076	0.0046	0.081	0.081	0.21	0.013	0.22	0.22										
愛知県	矢作川	矢作川	矢作ダム	補助		秋期	0.064	0.0046	0.068	0.068	2.7	0.20	2.9	2.90										
愛知県	矢作川	矢作川	明治用水頭首工	補助		秋期	0.091	0.0047	0.095	0.095	—	—	—	—										
愛知県	矢作川	矢作川	米津大橋	基準		秋期	0.18	0.0047	0.18	0.180	0.21	0.013	0.22	0.22										
岐阜県	庄内川	庄内川	小里川ダム	補助		秋期	0.10	0.0046	0.10	0.100	11	0.54	12	12.00										
愛知県	庄内川	庄内川	枇杷島橋	基準		秋期	0.11	0.0052	0.12	0.120	0.21	0.014	0.22	0.22										
長野県	木曾川	木曾川	味噌川ダム	補助		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.63	0.063	0.69	0.69										
愛知県	木曾川	木曾川	濃尾大橋	基準		秋期	0.071	0.0047	0.076	0.076	0.21	0.013	0.23	0.23										
岐阜県	木曾川	阿木川	阿木川ダム	補助		秋期	0.075	0.0046	0.080	0.080	19	0.20	19	19.00										
岐阜県	木曾川	馬瀬川	岩屋ダム	補助		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	2.0	0.12	2.1	2.10										
三重県	木曾川	長良川	伊勢大橋	基準		秋期	0.12	0.0050	0.12	0.120	2.2	0.20	2.4	2.40										
岐阜県	木曾川	揖斐川	徳山ダム	補助		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	1.5	0.18	1.7	1.70										
岐阜県	木曾川	揖斐川	福岡大橋	基準		秋期	0.10	0.0047	0.11	0.110	0.40	0.014	0.41	0.41										
三重県	鈴鹿川	鈴鹿川	高岡橋	基準		秋期	0.22	0.010	0.23	0.230	0.24	0.013	0.25	0.25										
三重県	雲出川	雲出川	雲出橋	基準		秋期	0.11	0.0046	0.12	0.120	2.4	0.19	2.6	2.60										
三重県	櫛田川	櫛田川	櫛田橋	基準		秋期	0.088	0.0046	0.092	0.092	0.20	0.013	0.22	0.22										
三重県	櫛田川	蓮川	蓮ダム貯水池基準点	補助		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.66	0.093	0.75	0.75										
三重県	宮川	宮川	度会橋	基準		秋期	0.068	0.0046	0.073	0.073	0.21	0.013	0.22	0.22										

※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。

※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、—は未測定

※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とDL-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-51(7) 平成25年度ダイオキシン類に関する実態調査結果(近畿)

都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類(水質) ^{※2}				ダイオキシン類(底質) ^{※2}			
				基準 or 補助	重点監視地点 ^{※1}		PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL ^{※3}	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL ^{※3}	評価値 (最高値)
							pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g
							水質	底質						
和歌山	新宮川	熊野川	熊野川河口	補助		秋期	-	-	-	-	0.2	0.015	0.22	0.22
和歌山	新宮川	熊野川	熊野大橋	基準		秋期	0.065	0.0046	0.069	0.069	0.21	0.016	0.23	0.23
奈良県	新宮川	熊野川	猿谷ダム湖中央	補助		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	1.0	0.58	1.6	1.6
和歌山	紀の川	紀の川	藤崎井堰	補助		秋期	0.063	0.0046	0.068	0.068	1.1	0.19	1.3	1.3
和歌山	紀の川	紀の川	船戸	基準		秋期	0.066	0.0047	0.07	0.07	0.22	0.017	0.24	0.24
和歌山	紀の川	紀の川	紀の川大橋	補助		秋期	-	-	-	-	0.23	0.018	0.25	0.25
奈良県	大和川	大和川	太子橋	補助	○	春期	0.29	0.015	0.3	0.34	0.25	0.015	0.27	0.82
奈良県	大和川	大和川	太子橋			夏期	0.62	0.019	0.63		0.74	0.08	0.82	
奈良県	大和川	大和川	太子橋			秋期	0.29	0.017	0.31		0.35	0.027	0.38	
奈良県	大和川	大和川	太子橋			冬期	0.12	0.012	0.13		0.23	0.015	0.25	
奈良県	大和川	大和川	藤井	補助	○	春期	0.29	0.020	0.31	0.38	0.33	0.025	0.35	0.38
奈良県	大和川	大和川	藤井			夏期	0.68	0.027	0.71		0.36	0.026	0.38	
奈良県	大和川	大和川	藤井			秋期	0.28	0.020	0.30		0.23	0.016	0.25	
奈良県	大和川	大和川	藤井			冬期	0.20	0.017	0.21		0.23	0.015	0.25	
大阪府	大和川	大和川	遠里小野橋 中	基準	○	春期	0.18	0.015	0.19	0.23	0.22	0.014	0.24	0.27
大阪府	大和川	大和川	遠里小野橋 中			夏期	0.40	0.026	0.42		0.24	0.026	0.27	
大阪府	大和川	大和川	遠里小野橋 中			秋期	0.12	0.015	0.14		0.23	0.016	0.24	
大阪府	大和川	大和川	遠里小野橋 中			冬期	0.14	0.014	0.15		0.23	0.015	0.25	
大阪府	大和川	大和川	河口部 中	補助	○	春期	0.24	0.021	0.26	0.27	0.49	0.036	0.53	0.75
大阪府	大和川	大和川	河口部 中			夏期	0.53	0.044	0.58		0.48	0.046	0.52	
大阪府	大和川	大和川	河口部 中			秋期	0.11	0.013	0.12		0.26	0.025	0.29	
大阪府	大和川	大和川	河口部 中			冬期	0.09	0.012	0.1		0.69	0.057	0.75	
京都府	淀川	桂川	宮前橋	補助		秋期	0.078	0.017	0.095	0.095	0.94	0.58	1.5	1.5
大阪府	淀川	淀川	枚方大橋中央	基準		秋期	0.11	0.022	0.13	0.13	0.21	0.015	0.22	0.22
大阪府	淀川	淀川	菅原城北大橋	基準		秋期	0.088	0.015	0.1	0.1	0.22	0.017	0.24	0.24
大阪府	淀川	猪名川	利倉	基準		秋期	0.071	0.013	0.085	0.085	0.21	0.027	0.24	0.24
兵庫県	淀川	藻川	中園橋	基準		秋期	0.30	0.059	0.36	0.36	0.78	0.18	0.96	0.96
兵庫県	加古川	加古川	国包	補助		秋期	0.069	0.0047	0.074	0.074	0.21	0.015	0.22	0.22
兵庫県	加古川	加古川	池尻(加古川橋)	基準		秋期	0.069	0.0047	0.074	0.074	0.30	0.015	0.32	0.32
兵庫県	加古川	加古川	相生橋	補助		秋期	-	-	-	-	2.9	0.34	3.2	3.2
兵庫県	揖保川	揖保川	上川原(王子橋)	基準		秋期	0.073	0.0052	0.078	0.078	0.21	0.041	0.25	0.25
兵庫県	円山川	円山川	立野	基準		秋期	0.064	0.0046	0.069	0.069	0.20	0.017	0.22	0.22
兵庫県	円山川	円山川	港大橋	補助		秋期	-	-	-	-	0.20	0.014	0.22	0.22
京都府	由良川	由良川	波美橋	基準		秋期	0.064	0.0047	0.069	0.069	0.22	0.016	0.24	0.24
京都府	由良川	由良川	由良川橋	補助		秋期	-	-	-	-	0.20	0.014	0.21	0.21
福井県	九頭竜川	中角		基準		秋期	0.063	0.0046	0.068	0.068	0.20	0.017	0.22	0.22
福井県	北川	北川	高塚	基準		秋期	0.069	0.0046	0.074	0.074	0.22	0.061	0.28	0.28

※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。
 ※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、-は未測定
 ※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とDL-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-51(8) 平成25年度ダイオキシン類に関する実態調査結果（中国）

都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類（水質） ^{※2}				ダイオキシン類（底質） ^{※2}			
				基準 or 補助	重点監視地点 ^{※1}		PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL ^{※3}	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL ^{※3}	評価値 (最高値)
鳥取県	千代川	千代川	行徳	基準		秋期	0.067	0.0046	0.072	0.072	0.21	0.013	0.22	0.2
鳥取県	天神川	天神川	小田	基準		秋期	0.082	0.0046	0.086	0.086	0.20	0.013	0.21	0.21
鳥取県	日野川	日野川	車尾	基準		秋期	0.078	0.0046	0.083	0.083	0.20	0.013	0.21	0.21
鳥取県	日野川	日野川	日野川堰	補助		秋期	0.068	0.0046	0.073	0.073	0.20	0.013	0.21	0.21
鳥取県	日野川	印賀川	菅沢ダム	補助		秋期	0.066	0.0046	0.070	0.07	5.5	0.33	5.8	5.8
島根県	斐伊川	斐伊川	大津	基準		秋期	0.069	0.0046	0.074	0.074	0.20	0.013	0.21	0.21
島根県	斐伊川	宍道湖	N0.5	補助		秋期	0.12	0.0046	0.12	0.12	10	0.23	11	11
島根県	斐伊川	宍道湖	N0.3	基準		秋期	0.12	0.0046	0.13	0.13	21	0.68	21	21
島根県	斐伊川	宍道湖	N0.1	補助		秋期	0.077	0.0046	0.081	0.081	4.0	0.10	4.1	4.1
島根県	斐伊川	宍道湖	斐伊川河口	基準		秋期	0.094	0.0046	0.098	0.098	2.2	0.045	2.2	2.2
島根県	斐伊川	宍道湖	松江温泉沖	基準		秋期	0.076	0.0046	0.081	0.081	0.25	0.013	0.26	0.26
島根県	斐伊川	宍道湖	秋鹿沖	基準		秋期	0.11	0.0046	0.11	0.11	0.40	0.014	0.42	0.42
島根県	斐伊川	宍道湖	玉湯町泉源沖	基準		秋期	0.13	0.0046	0.13	0.13	0.41	0.013	0.42	0.42
島根県	斐伊川	中海	大橋川河口	補助		秋期	0.094	0.0048	0.099	0.099	12	0.43	12	12
島根県	斐伊川	中海	中海湖心	基準		秋期	0.067	0.0047	0.071	0.071	22	0.57	22	22
島根県	斐伊川	中海	米子湾中央部	補助		秋期	0.087	0.0047	0.092	0.092	7.7	0.18	7.9	7.9
島根県	江の川	江の川	桜江大橋	基準		秋期	0.067	0.0046	0.072	0.072	0.20	0.013	0.21	0.21
島根県	江の川	江の川	江川橋	補助		秋期	0.066	0.0046	0.071	0.071	0.20	0.013	0.21	0.21
島根県	高津川	高津川	金地橋	基準		秋期	0.066	0.0046	0.070	0.07	0.24	0.013	0.25	0.25
島根県	高津川	高津川	高津大橋	補助		秋期	0.073	0.0046	0.077	0.077	0.23	0.013	0.24	0.24
岡山県	吉井川	吉井川	熊山橋	基準		秋期	0.071	0.0046	0.075	0.075	0.26	0.013	0.27	0.27
岡山県	吉井川	吉井川	坂根堰	補助		秋期	0.072	0.0046	0.077	0.077	0.20	0.013	0.21	0.21
岡山県	旭川	旭川	乙井手堰	基準		秋期	0.069	0.0046	0.073	0.073	0.20	0.013	0.22	0.22
岡山県	旭川	百間川	清内橋	補助		秋期	0.31	0.0049	0.31	0.31	14	0.41	14	14
岡山県	高梁川	高梁川	霞橋	基準		秋期	0.073	0.0046	0.077	0.077	3.6	0.18	3.8	3.8
岡山県	吉井川	吉井川	苫田ダム	補助		秋期	0.063	0.0046	0.068	0.068	5.7	0.22	6.0	6
広島県	芦田川	芦田川	小水呑橋	基準		秋期	0.10	0.0048	0.11	0.11	0.21	0.013	0.22	0.22
広島県	太田川	太田川	壬辰橋	基準		秋期	0.069	0.0046	0.073	0.073	0.20	0.013	0.22	0.22
広島県・山口県	小瀬川	小瀬川	両国橋	基準		秋期	0.075	0.0047	0.080	0.08	0.20	0.013	0.21	0.21

※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。
 ※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、-は未測定
 ※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とDL-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-51(9) 平成25年度ダイオキシン類に関する実態調査結果（四国）

都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点			ダイオキシン類（水質） ^{※2}				ダイオキシン類（底質） ^{※2}				
				基準 or 補助	重点監視地点 ^{※1}		調査時期	PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL ^{※3}	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL ^{※3}	評価値 (最高値)
					水質	底質									
					pg-TEQ/l	pg-TEQ/l		pg-TEQ/l	pg-TEQ/l	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g		
愛媛県	重信川	重信川	出合橋	基準		秋期	0.073	0.0054	0.078	0.078	0.21	0.014	0.22	0.22	
徳島県	吉野川	吉野川	高瀬橋	基準		秋期	0.063	0.0058	0.069	0.069	0.21	0.013	0.22	0.22	
徳島県	那賀川	那賀川	那賀川橋	基準		秋期	0.064	0.0047	0.069	0.069	0.20	0.013	0.21	0.21	
高知県	物部川	物部川	深淵	基準		秋期	0.064	0.0057	0.069	0.069	0.22	0.014	0.23	0.23	
高知県	仁淀川	仁淀川	中島	基準		秋期	0.063	0.0055	0.069	0.069	0.20	0.013	0.22	0.22	
高知県	仁淀川	仁淀川	大渡ダム	補助		秋期	0.062	0.0051	0.067	0.067	1.4	0.23	1.7	1.7	
高知県	渡川	四万十川	具同	基準		秋期	0.065	0.0052	0.070	0.070	0.23	0.013	0.24	0.24	
高知県	渡川	中筋川	中筋川ダム	補助		秋期	0.064	0.0047	0.069	0.069	8.4	0.33	8.7	8.7	
愛媛県	肱川	肱川	肱川橋下流	基準		秋期	0.068	0.0055	0.073	0.073	0.26	0.013	0.27	0.27	
愛媛県	肱川	肱川	野村ダム	補助		秋期	0.094	0.0052	0.099	0.099	13	0.35	13	13	
愛媛県	肱川	肱川	鹿野川ダム	補助		秋期	0.074	0.0052	0.079	0.079	13	0.29	13	13	
香川県	土器川	土器川	丸亀橋	基準		秋期	0.12	0.0056	0.12	0.12	0.43	0.034	0.46	0.46	

- ※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。
- ※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、-は未測定
- ※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とDL-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-51(10) 平成25年度ダイオキシン類に関する実態調査結果 (九州)

都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類 (水質) ^{※2}				ダイオキシン類 (底質) ^{※2}								
				基準 or 補助	重点監視地点 ^{※1}		PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL ^{※3}	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL ^{※3}	評価値 (最高値)					
					水質										底質	pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g
																pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g
福岡県・佐賀県	筑後川	筑後川	瀬ノ下	基準		秋期	0.37	0.0047	0.38	0.38	2.9	0.070	2.9	2.9					
福岡県	遠賀川	遠賀川	日の出橋	基準		秋期	0.15	0.0047	0.15	0.15	0.22	0.013	0.23	0.23					
福岡県・大分県	山国川	山国川	下唐原	基準		秋期	0.078	0.0046	0.082	0.082	0.60	0.047	0.65	0.65					
大分県	大分川	大分川	府内大橋	基準		秋期	0.15	0.0047	0.16	0.16	0.26	0.013	0.27	0.27					
大分県	大野川	大野川	白滝橋	基準		秋期	0.074	0.0047	0.079	0.079	0.22	0.013	0.23	0.23					
大分県	大野川	大野川	家島	補助		秋期	0.072	0.0046	0.077	0.077	0.78	0.025	0.80	0.80					
大分県	番匠川	番匠川	番匠橋	基準		秋期	0.070	0.0046	0.074	0.074	0.54	0.013	0.55	0.55					
大分県	番匠川	番匠川	番匠川河口	補助		秋期	0.075	0.0046	0.080	0.080	0.83	0.069	0.90	0.90					
宮崎県	五ヶ瀬川	五ヶ瀬川	三輪	基準		秋期	0.064	0.0046	0.069	0.069	0.21	0.013	0.22	0.22					
宮崎県	小丸川	小丸川	高城橋	基準		秋期	0.063	0.0046	0.068	0.068	0.20	0.013	0.21	0.21					
宮崎県	大淀川	大淀川	相生橋	基準		秋期	0.072	0.0046	0.076	0.076	0.21	0.013	0.22	0.22					
宮崎県	大淀川	大淀川	小戸之橋	補助		秋期	0.073	0.0046	0.077	0.077	0.21	0.013	0.22	0.22					
鹿児島県	肝属川	肝属川	河原田橋	基準		秋期	0.070	0.0047	0.075	0.075	0.24	0.014	0.26	0.26					
鹿児島県	川内川	川内川	曹木大橋	基準		秋期	0.087	0.0046	0.092	0.092	0.28	0.013	0.29	0.29					
熊本県	球磨川	球磨川	横石	基準		秋期	0.065	0.0046	0.070	0.070	0.22	0.013	0.24	0.24					
熊本県	緑川	緑川	上杉堰	基準		秋期	0.087	0.0046	0.092	0.092	0.21	0.013	0.23	0.23					
熊本県	緑川	緑川	緑川ダム	補助		秋期	0.070	0.0046	0.074	0.074	7.3	0.099	7.4	7.4					
熊本県	白川	白川	小島橋	基準		秋期	0.12	0.0048	0.13	0.13	0.56	0.017	0.58	0.58					
熊本県	菊池川	菊池川	白石	基準		秋期	0.086	0.0046	0.090	0.090	0.28	0.013	0.30	0.30					
熊本県	菊池川	迫間川	竜門ダム	補助		秋期	0.063	0.0046	0.067	0.067	6.6	0.21	6.9	6.9					
福岡県	矢部川	矢部川	船小屋	基準		秋期	0.091	0.0049	0.096	0.096	0.37	0.026	0.40	0.40					
佐賀県	嘉瀬川	嘉瀬川	官人橋	基準		秋期	0.20	0.0046	0.20	0.20	0.22	0.013	0.23	0.23					
佐賀県	六角川	六角川	潮見橋	基準		秋期	0.16	0.0047	0.16	0.16	0.54	0.035	0.57	0.57					
佐賀県	松浦川	松浦川	久里橋	基準		秋期	0.12	0.0047	0.12	0.12	0.30	0.014	0.31	0.31					
佐賀県	松浦川	松浦川	舞鶴橋	補助		秋期	0.14	0.0048	0.15	0.15	10	0.35	11	11					
佐賀県	松浦川	巖木川	巖木ダム	補助		秋期	0.068	0.0046	0.072	0.072	9.4	0.33	9.7	9.7					
長崎県	本明川	本明川	旭町	基準		秋期	0.11	0.0048	0.12	0.12	0.29	0.014	0.31	0.31					

- ※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。
- ※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、-は未測定
- ※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とDL-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-52 平成25年度ダイオキシン類に関する実態調査結果（地点数一覧）

	区分	水質調査地点	底質調査地点
基準監視地点	調査地点数（一般）	123	127
	調査地点数（重点）	7	0
	要監視濃度超過地点数（一般）	0	0
	要監視濃度超過地点数（重点）	4	0
	環境基準超過地点数（一般）	0	0
	環境基準超過地点数（重点）	1	0
補助監視地点	調査地点数（一般）	80	89
	調査地点数（重点）	11	0
	要監視濃度超過地点数（一般）	0	0
	要監視濃度超過地点数（重点）	7	0
	環境基準超過地点数（一般）	0	0
	環境基準超過地点数（重点）	5	0

表-53(1) 平成25年度内分泌かく乱化学物質に関する実態調査結果

水系名	河川名	調査地点名	重点調査地点 (平成25年度調査)	平成26年 度調査 (予定)	重点調査対象物質 ^{※1}	測定値 ^{※2※3}					
						採水日	SS	ビスフェノールA	17β-エストロジ ^ン オール (LC/MS/MS法)	エストロン (LC/MS/MS法)	o, p'-DDT
							mg/ℓ	μg/ℓ	μg/ℓ	μg/ℓ	μg/ℓ
						重点調査濃度→	24.7	0.0015	0.0016	0.0145	
北海道											
常呂川	常呂川	忠志橋	○	○	エストロン	11月2日	6	ND		0.0006	
網走川	網走川	治水橋				10月15日	4	ND	ND		0.0000073
湧別川	湧別川	中湧別橋				11月1日	2	ND	ND	0.0001	0.0000015
渚滑川	渚滑川	ウツツ橋				11月1日	1	ND	ND	ND	
東北											
馬淵川	馬淵川	尻内橋				11月22日	2		<0.0001	<0.0001	
高瀬川	高瀬川	上野				11月20日	1	<0.005	<0.0001	<0.0001	
米代川	米代川	二ツ井				11月25日	1	<0.005	<0.0001	<0.0001	
最上川	最上川	基点橋				12月3日	12	<0.005			
赤川	赤川	浜中				12月4日	8	<0.005			
阿武隈川	阿武隈川	岩沼				11月13日	3		<0.0001	0.0005	
鳴瀬川	鳴瀬川	鳴瀬堰(小野)				11月19日	3		<0.0001	0.00020	
関東											
利根川	綾瀬川	内匠橋	○	○	ノニルフェノール エストロン	10月8日	16			ND	
多摩川	多摩川	多摩川原橋	○	○	エストロン	11月7日	2			ND	
多摩川	多摩川	田園調布堰	○	○	エストロン	11月7日	1			0.00010	
鶴見川	鶴見川	亀の子橋	○	○	エストロン	11月8日	3			ND	
相模川	相模川	馬入橋	○	○	エストロン	11月8日	7	0.014	ND	ND	0.0000018
富士川	富士川	富士川橋				10月8日	<1	ND	ND	ND	0.0000014

※1 *は過去3回連続して重点調査濃度以下となったため、平成26年度より一般調査に戻す物質。

※2 網掛けは重点調査濃度を超過。

※3 空欄は未測定、NDは不検出(検出下限未満)を示す。

表-53(2) 平成25年度内分泌かく乱化学物質に関する実態調査結果

水系名	河川名	調査地点名	重点調査地点 (平成25年度調査)	平成26年 度調査 (予定)	重点調査対象物質 ^{※1}	測定値 ^{※2※3}					
						採水日	SS	ビスフェノールA	17β-エストラジオール (LC/MS/MS法)	エストロン (LC/MS/MS法)	o,p'-DDT
							mg/ℓ	μg/ℓ	μg/ℓ	μg/ℓ	μg/ℓ
重点調査濃度→							24.7	0.0015	0.0016	0.0145	
北陸											
姫川	姫川	山本				10月2日	1	<0.005	<0.0001	<0.0001	0.0000005
黒部川	黒部川	下黒部橋				10月2日	2	<0.005	<0.0001	<0.0001	0.0000023
庄川	庄川	大門大橋				10月23日	7	<0.005	<0.0001	<0.0001	<0.0000005
手取川	手取川	美川大橋	○	○	エストロン	10月8日	16	<0.005		<0.0001	0.0000018
梯川	梯川	石田橋	○	○	エストロン	10月8日	6	<0.005	<0.0001		0.0000015
中部											
安倍川	安倍川	安倍川橋				11月8日	190	<0.005	ND	<0.0001	0.0000480
菊川	菊川	高田橋	○	○	エストロン	11月6日	57			0.0003	
天竜川	天竜川	新樋橋				10月23日	16	0.008	ND	<0.0001	0.00000500
天竜川	天竜川	鹿島橋				10月22日	59	<0.005	ND	<0.0001	0.00000240
矢作川	矢作川	米津大橋				10月29日	18	<0.005	ND	<0.0001	0.00000220
庄内川	庄内川	枇杷島橋	○	○	17β-エストラジオール エストロン	10月30日	12			0.00270	
櫛田川	櫛田川	櫛田橋				10月30日	4	<0.005	ND	<0.0001	<0.0000005
宮川	宮川	度会橋				11月7日	1	<0.005	ND	<0.0001	0.00000094
近畿											
大和川	大和川	遠里小野橋 中	○		エストロン*	11月1日	5.6			0.00048	
淀川	桂川	宮前橋	○	○	エストロン	11月1日	4.8	<0.005	<0.0001	0.0008	0.00001470
	淀川	菅原城北大橋				11月1日	4.2	0.013	<0.0001	0.00035	0.0000057
	淀川	淀川大堰				11月1日	5.2	0.013	<0.0001	0.00039	0.0000082

※1 *は過去3回連続して重点調査濃度以下となったため、平成26年度より一般調査に戻す物質。

※2 網掛けは重点調査濃度を超過。

※3 空欄は未測定、NDは不検出（検出下限未満）を示す。

表-53(3) 平成25年度内分泌かく乱化学物質に関する実態調査結果

水系名	河川名	調査地点名	重点調査地点 (平成25年度調査)	平成26年 度調査 (予定)	重点調査対象物質 ^{※1}	測定値 ^{※2※3}					
						採水日	SS	ビスフェノールA	17β-エストロゲン [*] オール (LC/MS/MS法)	エストロン (LC/MS/MS法)	o, p'-DDT
							mg/l	μg/l	μg/l	μg/l	μg/l
重点調査濃度→							24.7	0.0015	0.0016	0.0145	
中国											
吉井川	吉井川	熊山橋				10月10日	ND	0.065	ND	0.0003	ND
旭川	百間川	清内橋	○	○	エストロン	10月11日	14	0.02	ND	0.0007	0.0000011
高梁川	高梁川	霞橋				10月11日	3	ND	ND	0.0002	0.0000011
芦田川	芦田川	小水呑橋	○	○	エストロン	10月10日	5	0.02	ND	0.0004	0.000001
佐波川	佐波川	新橋				10月17日	ND	ND	ND	ND	0.0000015
四国											
渡川	四万十川	具同				10月3日	<1	<0.005	<0.0001	<0.0001	0.0000012
肱川	肱川	肱川橋下流				10月3日	1	<0.005	<0.0001	<0.0001	0.00000090
九州											
大淀川	大淀川	相生橋				10月17日	2	ND	ND	0.00010	0.0009
小丸川	小丸川	高城橋				10月22日	3	ND	ND	ND	0.0006000
肝属川	肝属川	俣瀬	○	○	エストロン	10月15日	16	0.018	ND	0.00110	0.0000043
川内川	川内川	中郷				10月1日	2	0.002	0.00004	0.000005	ND
白川	白川	小島橋	○		エストロン*	10月2日	11			0.00100	

※1 *は過去3回連続して重点調査濃度以下となったため、平成26年度より一般調査に戻す物質。
 ※2 網掛けは重点調査濃度を超過。
 ※3 空欄は未測定、NDは不検出（検出下限未満）を示す。

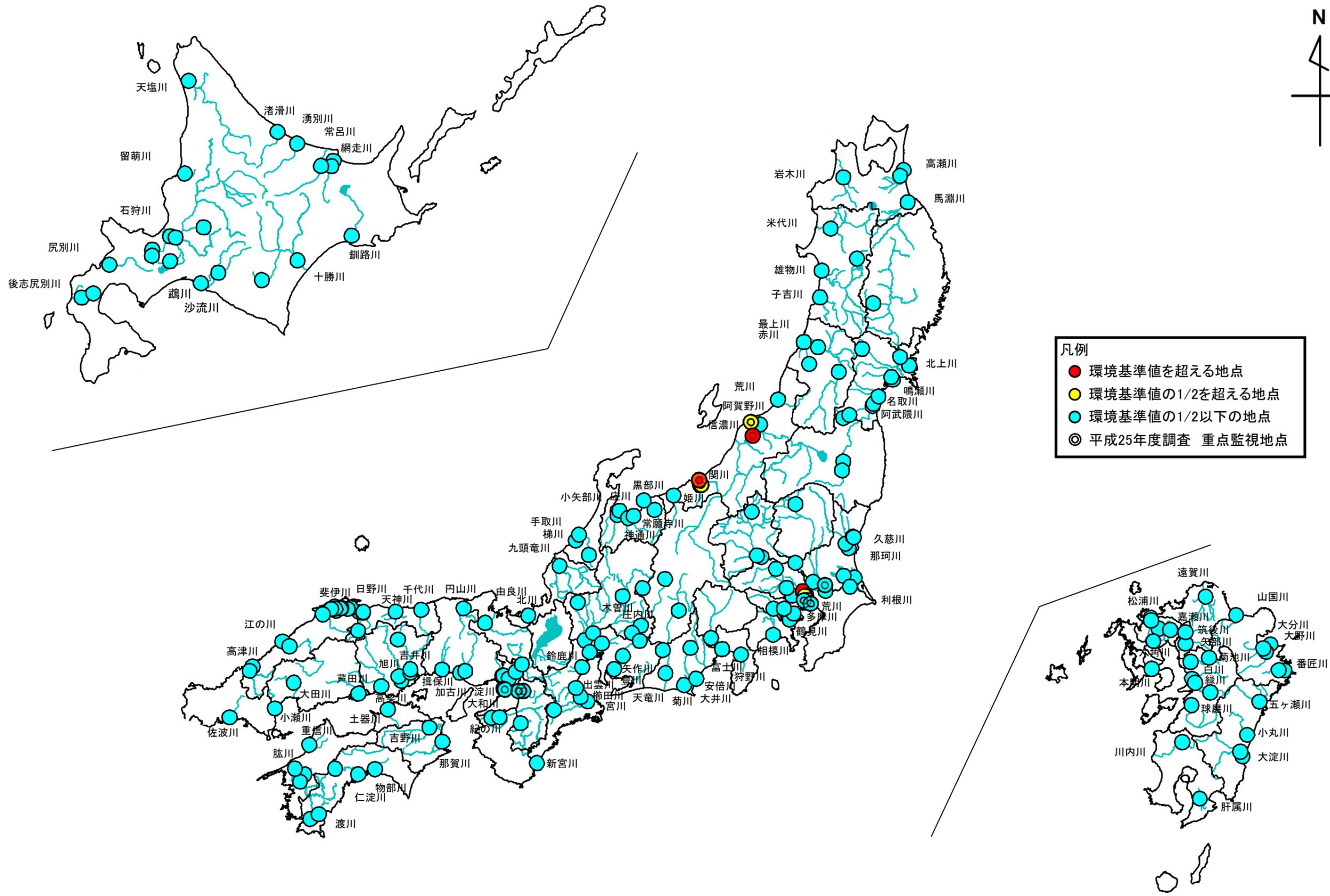
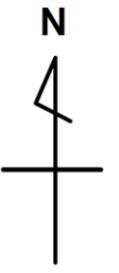


図-62 平成25年度ダイオキシン類調査に関する実態調査地点の全国分布図（水質）

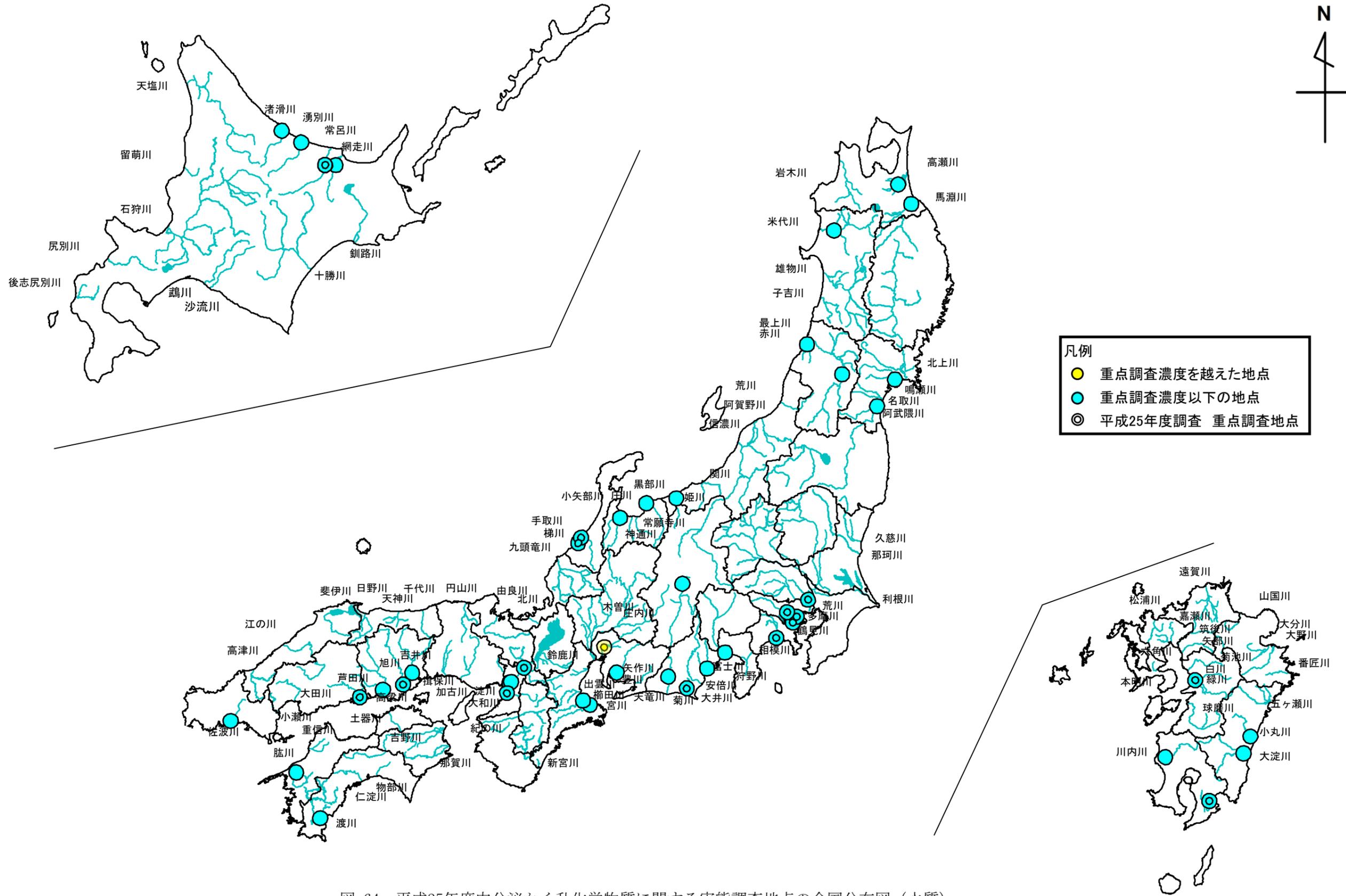
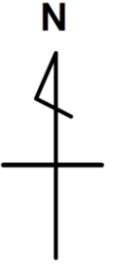


図-64 平成25年度内分泌かく乱化学物質に関する実態調査地点の全国分布図（水質）

6. 水質事故等の状況

(1) 水質事故の発生状況

河川における水質事故は、一般に工場等における操作ミスや機械の故障、交通事故、廃棄物の不法投棄等に起因する油類や化学物質の流出等により生じるものであり、河川管理上重要な課題となっている。

過去10ヵ年の水質事故発生件数の経年変化を図-65に示す。平成25年（1月～12月）に一級水系で発生した水質事故は1,233件であり、平成24年の1,244件を11件下回った。平成25年は1週間に約24件の頻度で水質事故が発生したことになる。

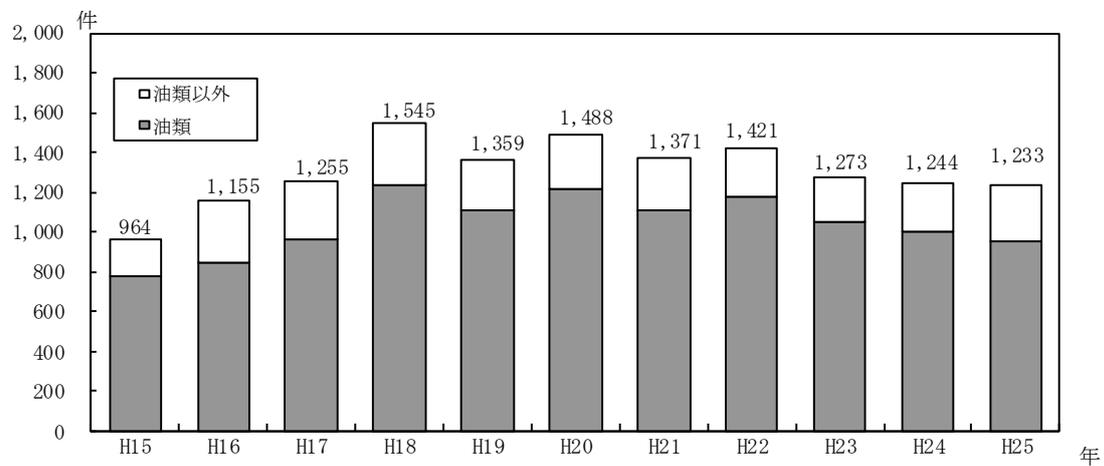


図-59 一級河川における水質事故発生件数の経年変化

一方、上水道の取水停止を伴った水質事故は16件発生した。上水道の取水停止を伴う事故発生件数の推移を図-66に示す。

上水道の取水停止を伴わない水質事故及び上水道の取水停止を伴った水質事故の発生件数は、平成18年時のピークを境に、近年やや減少傾向である。

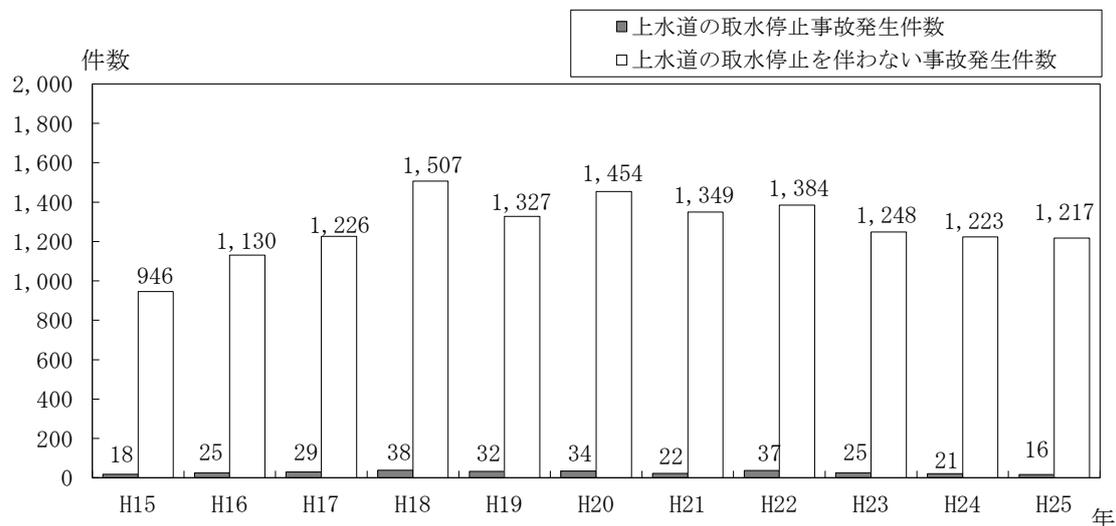


図-66 水質事故発生件数と上水道の取水停止事故発生件数の推移

事故の内容を原因物質別にみると、図-67に示すように油類の流出が全体の約77.0%と最も多い。

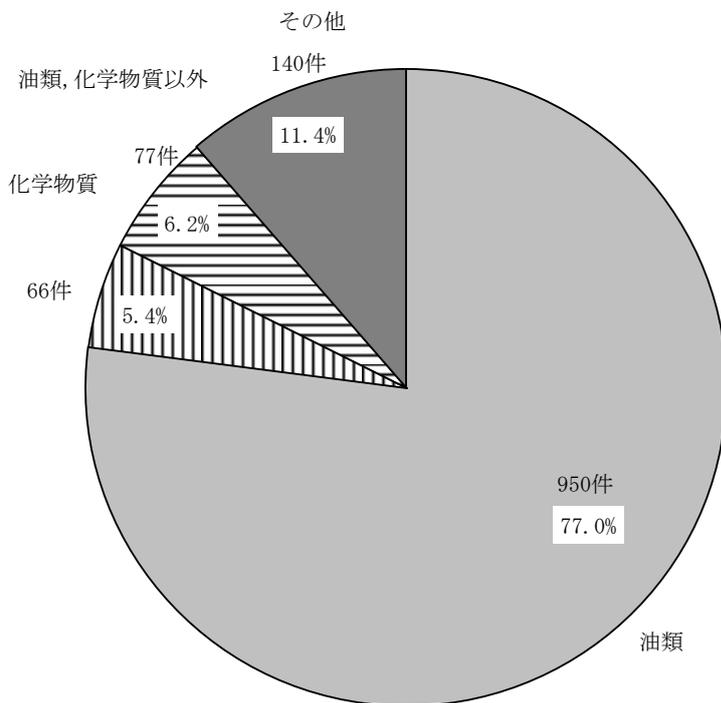
なお、自然現象による魚の斃死等は、水質事故発生件数に含めていないが、平成25年には58件発生しており、平成24年の34件より増加した。

一級水系においては、河川管理者と関係機関により構成される「水質汚濁防止連絡協議会」がすべての水系に設置されており、水質事故発生時には、速やかに情報の収集、通報・連絡を行うとともに、関係機関との連携のもとにオイルフェンスの設置等により、被害の拡大防止に努めている。

水質事故の原因物質による分類

- ①油類…………… 重油、軽油、ガソリン等の流出
- ②化学物質…………… シアン、有機溶剤、農薬等の流出
- ③油類、化学物質以外…… 土砂、糞尿等の流出
- ④その他…………… 自然現象ではなく、魚の浮上死等が確認され、原因物質が特定できなかったもの及びコイヘルペス

平成25年度



平成24年度

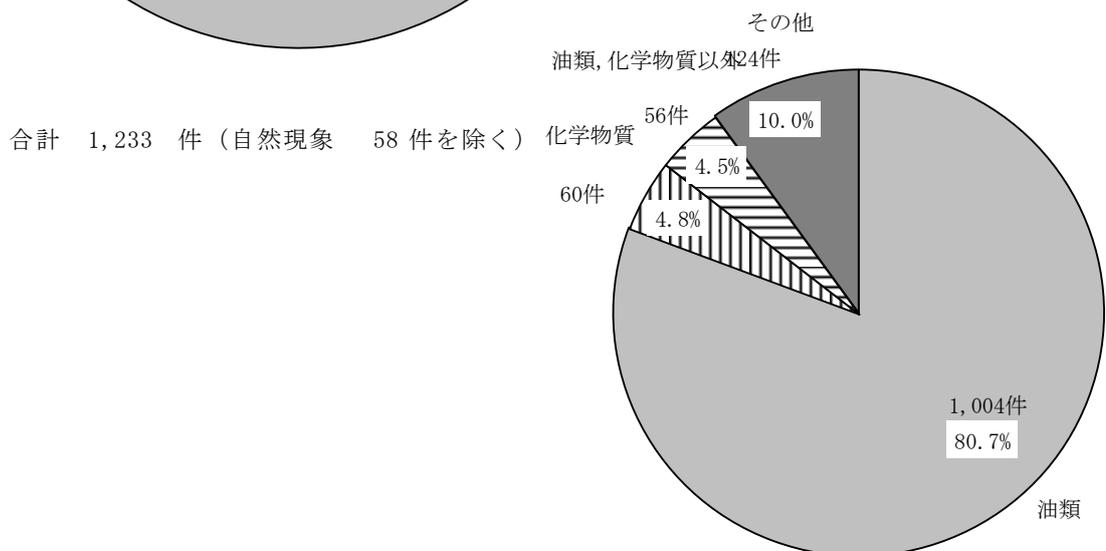


図-67 原因物質別水質事故発生件数

※自然現象とは濁水が原因の酸欠による魚の斃死等、人間の活動が直接の原因でないものとする。

(2) コイヘルペスの発生状況

コイヘルペスは平成15年以降、57水系で発生が確認されている。平成25年に河川においてコイヘルペスが確認されたのは1水系1地点であった。(図-68参照)

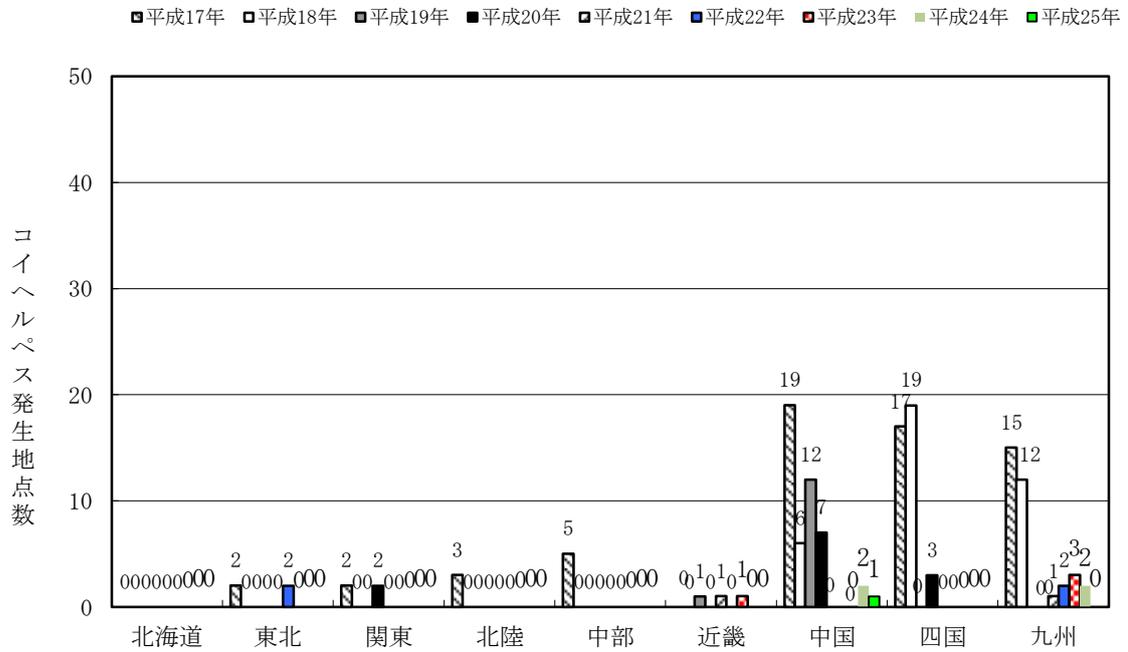


図-68 地方別コイヘルペス発生地点数

※地方別の値のとりまとめは、開発局及び各地方整備局の管内を集計単位とした。

第三章 河川の水環境改善のための事業及び施策

国土交通省は、一級河川の水質調査に着手した昭和33年に、最初の河川水質浄化対策となる隅田川の汚泥浚渫事業を実施し、また昭和34年には同じく隅田川で浄化用水導入事業に着手した。昭和44年度には、都市河川を対象とする「都市河川環境整備事業」制度を創設し、昭和49年度からは対象河川を全国に拡大した「河川環境整備事業」により、河川の水環境改善を図ってきた。

ダムについては、貯水池への土砂流入防止や富栄養化対策を実施するダム貯水池水質保全対策等を実施している。

平成17年度からは、上流ダムにおける環境整備と河川における環境整備を連携することにより水系として総合的に整備を行う「総合水系環境整備事業」を創設し、水環境改善等を各水系において水系一貫で実施している。

1. 水質浄化対策等

「総合水系環境整備事業」（直轄）による水質浄化対策として、水量が少なく汚濁した河川に対して清浄な河川水や下水の高度処理水を導入する「浄化導入」、悪臭や栄養塩類の溶出により富栄養化の原因になる河床・湖底に堆積した底泥を除去する「浚渫」、流水から直接汚濁負荷を取り除く施設を設置する「直接浄化」を実施している。

また、水質汚濁の著しいダム貯水池においても、富栄養化や濁水等の防止・軽減を図るため、曝気施設の設置等による水質対策を実施している。

2. 河川水量の回復

良好な河川環境を保全するには、豊かな河川水量の確保が必要である。このため、河川整備基本方針等において動植物の生息・生育環境、景観、水質等を踏まえた必要流量を定め、この確保に努めているほか、水力発電所のダム等の下流の減水区間における清流回復の取組みを進めている。また、ダム下流の河川環境を保全・改善するため、洪水調節に支障を及ぼさない範囲で洪水調節容量の一部を有効に活用するダムの弾力的管理及び弾力的管理試験を行っている（平成25年度は、全国の計16ダムで実施）。さらに、平常時の自然流量が減少した都市内河川では、下水処理場の処理水の送水等により、河川流量の回復に取り組んでいる。

3. 清流ルネッサンス21・清流ルネッサンスⅡ

国土交通省では、水質汚濁の著しい河川、湖沼、ダム貯水池等の水質改善を図るため、平成5年度に「水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンス21）」に着手し、地域の取り組みと一体となって、河川事業や下水道事業を重点的に実施してきた。平成13年度以降は、新たに水量の改善を目的に加え、都市下水路を対象に追加した「第二期水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンスⅡ）」に基づき、水環境改善施策を推進している。

清流ルネッサンスⅡでは、清流ルネッサンス21の対象であり、引き続き水環境改善に取り組むべき河川等及び新たに水環境改善に取り組む必要が生じた河川等について、平成13年度に22カ所、平成14年度に12カ所をそれぞれ計画対象として選定している。

計画対象河川等においては、地元市町村、河川管理者、下水道管理者等から構成される地域協議会を設置し、行動計画の策定及び計画に基づく施策の推進に努めている。行動計画の策定状況を表-54に示す。

また、全国の一級河川及び清流ルネッサンス対象河川の環境基準の満足率を図-69に示す。全国の一級河川の満足率の増加ペースに比べて、最近10カ年の清流ルネッサンス対象河川の満足率の増加が顕著となっている。

表-54 清流ルネッサンスⅡ行動計画策定状況(平成26年3月末時点)

	水系名	箇所名※1	清ルネ21※2	計画策定年月	計画目標年度
1	石狩川	茨戸川及び札幌北部地区河川		H15.3	H25
2	網走川	網走川		H16.6	H26
3	常呂川	常呂川		H21.4	H30
4	名取川	広瀬川		H14.7	H23
5	那珂川	桜川(千波湖舎)・沢渡川・堀川・逆川		H19.2	H27
6	利根川	渡良瀬川中流部支川	○	H18.3	H22
7	利根川	綾瀬川	○	H15.2	H22
8	利根川	江戸川中流部及び坂川	○	H15.2	H22
9	利根川	黒部川・黒部川貯水池	○	H15.3	H33
10	利根川	小山川・元小山川		H16.3	H23
11	荒川	菖蒲川・笹目川		H15.3	H22
12	荒川	不老川	○	H16.3	H23
13	荒川	芝川・新芝川	○	H16.3	H23
14	相模川	千の川		H15.3	H27
15	阿賀野川	湯川放水路		H19.3	H22
16	信濃川	鳥屋野潟	○	H15.3	H35
17	都田川	佐鳴湖	○	H16.6	H26
18	高浜川	油ヶ淵	○	H16.11	H32
19	庄内川	堀川		H16.8	H22
20	宮川	勢田川		H16.10	H17
21	淀川	寝屋川流域		H16.5	H33
22	淀川	西高瀬川		H20.3	H27
23	大和川	大和川	○	H14.10	H22
24	揖保川	林田川	○	H15.3	H20
25	千代川	湖山池	○	H14.3	H22
26	斐伊川	松江堀川	○	H13.2	H17
27	芦田川	芦田川		H20.4	H28
28	吉野川	正法寺川		H16.3	H30
29	仁淀川	仁淀川・宇治川・相生川	○	H19.4	H22
30	遠賀川	遠賀川		H16.3	H27
31	大淀川	大淀川上流		H16.7	H27
32	肝属川	肝属川		H17.3	H27

※1 まだ施策実施中の箇所については、欄に着色。

※2 清ルネ21の対象河川でもある場合、「○」を記載。

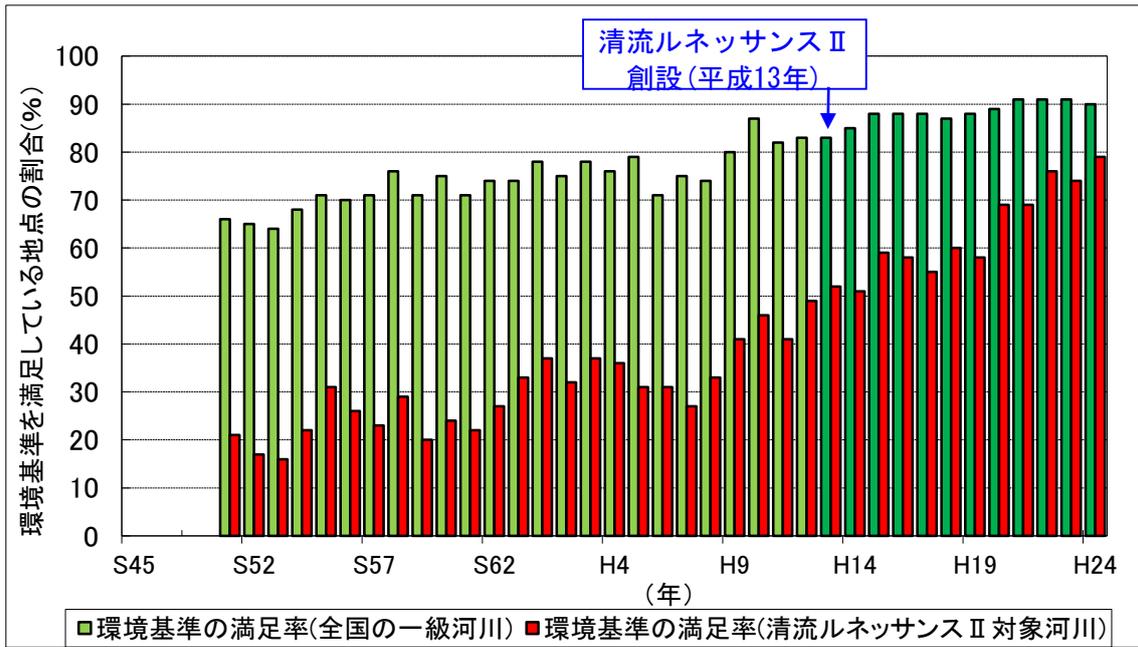


図-69 環境基準の満足率

4. 湖沼の水質保全

湖沼は滞留時間が長く、流入した汚濁物質が堆積しやすいこと、汚濁原因が多種多様であることから、多様な水質汚濁対策を総合的に実施する必要があるため、湖沼の水質の保全を図り、国民の健康で文化的な生活環境を確保することを目的に、「湖沼水質保全特別措置法」（昭和59年法律第61号）が制定された。

さらに、法施行後20年以上が経過した現在も湖沼の水質改善が停滞している現状を踏まえ、より一層の水質改善を図るため、平成17年6月に湖沼水質保全特別措置法が改正された。この改正により、「流出水対策地区」の指定による農地・市街地から流出する汚濁負荷対策の推進、排水規制の強化、「湖辺環境保護地区」の指定による水質浄化機能の確保等が図られることとなった。

本法律に基づき、国は湖沼水質保全基本方針を定めるとともに、総合的な水質保全施策を講ずるべき「指定湖沼」を定め、都道府県は当該指定湖沼について「湖沼水質保全計画」を定めることとされている。

湖沼水質保全計画の策定状況を表-55に示す。

表-55 湖沼水質保全計画の策定状況一覧（平成25年度現在）

湖沼名	指定年月 [施行]	計画名	計画策定年月	目標年度
八郎湖	平成19年12月	八郎湖に係る湖沼水質保全計画（第2期）	平成26年3月	平成30年度
釜房ダム貯水池	昭和62年10月	釜房ダム貯水池湖沼水質保全計画（第6期）	平成25年3月	平成33年度
霞ヶ浦	昭和60年12月	霞ヶ浦に係る湖沼水質保全計画（第6期）	平成24年3月	平成27年度
印旛沼	昭和60年12月	印旛沼に係る湖沼水質保全計画（第6期）	平成24年3月	平成27年度
手賀沼	昭和60年12月	手賀沼に係る湖沼水質保全計画（第6期）	平成24年3月	平成27年度
諏訪湖	昭和61年11月	諏訪湖に係る第6期湖沼水質保全計画	平成25年3月	平成28年度
野尻湖	平成6年10月	野尻湖水質保全計画（第4期）	平成22年3月	平成25年度
琵琶湖	昭和60年12月	琵琶湖に係る湖沼水質保全計画（第6期）	平成24年3月	平成27年度
中海	平成元年2月	中海に係る湖沼水質保全計画（第5期）	平成22年3月	平成25年度
宍道湖	平成元年2月	宍道湖に係る湖沼水質保全計画（第5期）	平成22年3月	平成25年度
児島湖	昭和60年12月	児島湖に係る第6期湖沼水質保全計画	平成24年3月	平成27年度

5. 水質監視等

国土交通省では、全国一級河川の水質現況の把握に加えて、以下のような水質監視等を行っている。

平成23年3月末現在、278カ所に水質自動監視装置を設置し、24時間連続的に水質監視を実施している。また、テレメータ装置を設置し、水質の集中監視を行うとともに、河川の水質情報を国土交通省ホームページ「川の防災情報」で公開している。

<URL>

インターネット <http://www.river.go.jp>

i-mode <http://i.river.go.jp>

6. 水質汚濁対策連絡協議会

水質汚濁対策に関しては、河川毎に水質関係機関相互が常時情報の交換を行うとともに、緊急事態が発生した場合に即応できるように、連絡体制を確立しておくことが極めて重要である。

全国の一級河川109水系においては河川水質汚濁対策の実施、水質事故時における情報の収集・伝達、緊急措置等に関する協力体制の確保、流域における水環境諸施策の調整とその積極的推進等を行うため、水系毎に河川管理者と関係行政機関により構成される「水質汚濁対策連絡協議会」が設立されており、毎年の水質事故対策訓練の実施も含めて、積極的な活動を実施している。

また、下水道施設被災による河川への下水流出時の情報共有といった下水道部局との連携強化や、環境部局等との連携強化を図っている。

参 考 資 料

参考資料1 一級河川の流量状況	-----	171
参考資料2 環境基準(BOD又はCOD)を満足した地点の割合(水系別)	----	172
参考資料3 各種基準値(指針値)一覧	-----	177
参考資料4 「水生生物による簡易水質調査」参加団体一覧	-----	192
参考資料5 一級河川的全調査地点の水質	-----	195
参考資料6 水系別コイヘルペス発生状況	-----	205
参考資料7 平成25年一級河川の水質状況図	-----	208

参考資料1 一級河川の流量状況

	平成25年 (A)	平成24年 (B)	最近10ヵ年 平均 (C)	平成25年の傾向	
				(A)/(B) × 100%	(A)/(C) × 100%
基準地点における 年間総流出量の合計 (億m ³)	2,277	2,528	2,578	90	88
北海道	502.88	432.53	390.46	116	129
東北	589.30	461.51	502.47	128	117
関東	135.43	162.46	172.04	83	79
北陸	231.09	467.56	483.99	49	48
中部	196.51	207.24	258.71	95	76
近畿	139.65	103.61	149.57	135	93
中国	49.66	175.24	194.47	28	26
四国	133.60	143.92	147.66	93	90
九州	299.19	373.99	278.40	80	107
基準地点における 低水流量の合計 (m ³ /s)	3,741	3,822	3,911	98	96

- 備考
1. 国土交通省で実施している流量観測結果に基づく。
 2. 低水流量：一年を通じて275日はこれを下らない流量。
 3. 平成25年の年間総流出量及び低水流量の合計値は速報値である。
 4. 最近10ヶ年平均値は平成15年から平成24年の平均値である。
 5. 参考資料で地方別の値のとりまとめは、開発局及び各地方整備局の管内を集計単位とした。

参考資料2 環境基準（BOD又はCOD）を満足した地点の割合（水系別）（1/5）

地局	水系	年次	調査地点	満足地点	満足度%	満足度				
						20	40	60	80	%
北海道	天塩川	平成24年	8	8	100					
		平成25年	8	8	100					
	留萌川	平成24年	3	3	100					
		平成25年	3	3	100					
	石狩川	平成24年	35	32	91					
		平成25年	35	32	91					
	尻別川	平成24年	2	2	100					
		平成25年	2	2	100					
	後志利別川	平成24年	4	4	100					
		平成25年	4	4	100					
	鶴川	平成24年	2	2	100					
		平成25年	2	2	100					
	沙流川	平成24年	4	4	100					
		平成25年	4	4	100					
	十勝川	平成24年	12	12	100					
		平成25年	12	12	100					
	釧路川	平成24年	4	4	100					
		平成25年	4	4	100					
網走川	平成24年	8	4	50						
	平成25年	8	4	50						
常呂川	平成24年	5	5	100						
	平成25年	5	5	100						
湧別川	平成24年	2	2	100						
	平成25年	2	2	100						
渚滑川	平成24年	3	3	100						
	平成25年	3	3	100						
東北	阿武隈川	平成24年	14	14	100					
		平成25年	16	15	94					
	名取川	平成24年	8	7	88					
		平成25年	8	7	88					
	鳴瀬川	平成24年	7	7	100					
		平成25年	7	7	100					
	北上川	平成24年	41	37	90					
		平成25年	39	38	97					
	馬淵川	平成24年	3	3	100					
		平成25年	3	3	100					
	高瀬川	平成24年	7	2	29					
		平成25年	7	1	14					
	岩木川	平成24年	16	12	75					
		平成25年	16	15	94					
	米代川	平成24年	5	5	100					
		平成25年	5	5	100					
	雄物川	平成24年	10	10	100					
		平成25年	11	11	100					
子吉川	平成24年	2	2	100						
	平成25年	2	2	100						
最上川	平成24年	17	17	100						
	平成25年	19	18	95						
赤川	平成24年	3	3	100						
	平成25年	4	4	100						

参考資料2 環境基準（BOD又はCOD）を満足した地点の割合（水系別）（2/5）

地局	水系	年次	調査地点	満足地点	満足度 %	満 足 度				
						20	40	60	80	%
関東	荒川	平成24年	16	16	100					
		平成25年	16	12	75					
	利根川	平成24年	91	60	66					
		平成25年	91	63	69					
	那珂川	平成24年	10	9	90					
		平成25年	10	10	100					
	久慈川	平成24年	5	5	100					
		平成25年	5	5	100					
	多摩川	平成24年	17	17	100					
		平成25年	17	17	100					
	鶴見川	平成24年	8	8	100					
		平成25年	4	4	100					
	相模川	平成24年	2	2	100					
		平成25年	2	2	100					
富士川	平成24年	14	14	100						
	平成25年	14	14	100						
北陸	荒川	平成24年	4	4	100					
		平成25年	4	4	100					
	阿賀野川	平成24年	10	8	80					
		平成25年	10	9	90					
	信濃川	平成24年	24	22	92					
		平成25年	24	23	96					
	関川	平成24年	4	4	100					
		平成25年	4	4	100					
	姫川	平成24年	2	2	100					
		平成25年	2	2	100					
	黒部川	平成24年	4	4	100					
		平成25年	4	4	100					
	常願寺川	平成24年	3	3	100					
		平成25年	2	2	100					
	神通川	平成24年	5	5	100					
		平成25年	5	5	100					
	庄川	平成24年	2	2	100					
		平成25年	2	2	100					
小矢部川	平成24年	3	3	100						
	平成25年	3	3	100						
手取川	平成24年	4	4	100						
	平成25年	4	4	100						
梯川	平成24年	3	3	100						
	平成25年	3	3	100						

参考資料2 環境基準（BOD又はCOD）を満足した地点の割合（水系別）（3/5）

地局	水系	年次	調査地点	満足地点	満足度 %	満足度				
						20	40	60	80	%
中部	狩野川	平成24年	7	7	100					
		平成25年	7	7	100					
	安倍川	平成24年	3	3	100					
		平成25年	3	3	100					
	大井川	平成24年	4	4	100					
		平成25年	4	4	100					
	菊川	平成24年	5	5	100					
		平成25年	5	4	80					
	天竜川	平成24年	15	15	100					
		平成25年	15	15	100					
	豊川	平成24年	5	5	100					
		平成25年	5	5	100					
	矢作川	平成24年	6	6	100					
		平成25年	6	5	83					
	庄内川	平成24年	9	9	100					
		平成25年	9	9	100					
	木曾川	平成24年	32	31	97					
		平成25年	32	31	97					
	鈴鹿川	平成24年	8	8	100					
		平成25年	8	8	100					
雲出川	平成24年	3	3	100						
	平成25年	3	2	67						
櫛田川	平成24年	2	2	100						
	平成25年	2	2	100						
宮川	平成24年	3	3	100						
	平成25年	3	3	100						
近畿	新宮川	平成24年	4	4	100					
		平成25年	5	5	100					
	紀の川	平成24年	11	10	91					
		平成25年	11	10	91					
	大和川	平成24年	14	14	100					
		平成25年	14	14	100					
	淀川	平成24年	54	42	78					
		平成25年	54	42	78					
	加古川	平成24年	5	5	100					
		平成25年	5	5	100					
	揖保川	平成24年	6	6	100					
		平成25年	6	6	100					
	円山川	平成24年	4	4	100					
		平成25年	4	3	75					
	由良川	平成24年	6	6	100					
		平成25年	6	6	100					
北川	平成24年	3	3	100						
	平成25年	3	3	100						
九頭竜川	平成24年	7	7	100						
	平成25年	7	6	86						

参考資料2 環境基準（BOD又はCOD）を満足した地点の割合（水系別）（4/5）

地局	水系	年次	調査地点	満足地点	満足度 %	満足度				
						20	40	60	80	%
中国	吉井川	平成24年	6	6	100					
		平成25年	6	6	100					
	旭川	平成24年	5	5	100					
		平成25年	5	5	100					
	高梁川	平成24年	5	5	100					
		平成25年	5	5	100					
	芦田川	平成24年	10	7	70					
		平成25年	10	5	50					
	太田川	平成24年	16	16	100					
		平成25年	16	16	100					
	小瀬川	平成24年	4	2	50					
		平成25年	4	3	75					
	佐波川	平成24年	4	4	100					
		平成25年	6	5	83					
	高津川	平成24年	4	4	100					
		平成25年	4	4	100					
	江の川	平成24年	13	13	100					
		平成25年	14	14	100					
	斐伊川	平成24年	16	4	25					
		平成25年	21	6	29					
日野川	平成24年	4	4	100						
	平成25年	4	4	100						
天神川	平成24年	4	4	100						
	平成25年	4	4	100						
千代川	平成24年	6	6	100						
	平成25年	6	6	100						
四国	吉野川	平成24年	12	12	100					
		平成25年	12	12	100					
	那賀川	平成24年	6	5	83					
		平成25年	5	4	80					
	物部川	平成24年	3	3	100					
		平成25年	3	3	100					
	仁淀川	平成24年	7	7	100					
		平成25年	7	7	100					
	渡川	平成24年	5	4	80					
		平成25年	5	4	80					
	肱川	平成24年	8	6	75					
		平成25年	8	8	100					
重信川	平成24年	7	6	86						
	平成25年	7	7	100						
土器川	平成24年	3	2	67						
	平成25年	3	2	67						

参考資料2 環境基準（BOD又はCOD）を満足した地点の割合（水系別）（5/5）

地局	水系	年次	調査地点	満足地点	満足度%	満足度				
						20	40	60	80	%
九州	遠賀川	平成24年	14	14	100	[100% bar]				
		平成25年	14	14	100	[100% bar]				
	山国川	平成24年	6	6	100	[100% bar]				
		平成25年	6	6	100	[100% bar]				
	大分川	平成24年	5	5	100	[100% bar]				
		平成25年	5	5	100	[100% bar]				
	大野川	平成24年	4	4	100	[100% bar]				
		平成25年	4	3	75	[75% bar]				
	番匠川	平成24年	4	4	100	[100% bar]				
		平成25年	4	4	100	[100% bar]				
	五ヶ瀬川	平成24年	5	5	100	[100% bar]				
		平成25年	5	5	100	[100% bar]				
	小丸川	平成24年	3	3	100	[100% bar]				
		平成25年	3	3	100	[100% bar]				
	大淀川	平成24年	13	13	100	[100% bar]				
		平成25年	13	12	92	[92% bar]				
	肝属川	平成24年	5	5	100	[100% bar]				
		平成25年	5	5	100	[100% bar]				
	川内川	平成24年	9	9	100	[100% bar]				
		平成25年	9	9	100	[100% bar]				
	球磨川	平成24年	13	13	100	[100% bar]				
		平成25年	13	13	100	[100% bar]				
	緑川	平成24年	8	8	100	[100% bar]				
		平成25年	8	8	100	[100% bar]				
	白川	平成24年	3	3	100	[100% bar]				
		平成25年	3	3	100	[100% bar]				
	菊池川	平成24年	9	9	100	[100% bar]				
		平成25年	9	9	100	[100% bar]				
	矢部川	平成24年	5	4	80	[80% bar]				
		平成25年	5	4	80	[80% bar]				
筑後川	平成24年	17	17	100	[100% bar]					
	平成25年	17	17	100	[100% bar]					
嘉瀬川	平成24年	4	4	100	[100% bar]					
	平成25年	4	4	100	[100% bar]					
六角川	平成24年	7	7	100	[100% bar]					
	平成25年	7	7	100	[100% bar]					
本明川	平成24年	4	4	100	[100% bar]					
	平成25年	4	4	100	[100% bar]					
松浦川	平成24年	9	9	100	[100% bar]					
	平成25年	9	9	100	[100% bar]					

参考資料 3 (1) 生活環境の保全に関する環境基準 (1/8)

河川 (湖沼を除く。) : 生物化学的酸素要求量 (BOD)

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基準値	項目 類型	利用目的の 適 応 性	基準値
		生物化学的 酸素要求量 (BOD)			生物化学的 酸素要求量 (BOD)
AA	水道1級 自然環境保全及び A以下の欄に掲げ るもの	1mg/ℓ 以下	C	水産3級 工業用水1級及びD 以下の欄に掲げる もの	5mg/ℓ 以下
A	水道2級 水産1級 水浴及び B以下の欄に掲げ るもの	2mg/ℓ 以下	D	工業用水2級 農業用水及び Eの欄に掲げるも の	8mg/ℓ 以下
B	水道3級 水産2級及び C以下の欄に掲げ るもの	3mg/ℓ 以下	E	工業用水3級 環境保全	10mg/ℓ 以下

備 考 1. 基準値は日間平均値とする (湖沼、海域もこれに準ずる。)

- (注)
1. 自然環境保全 : 自然探勝等の環境保全
 2. 水道 1級 : ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
 - 水道 2級 : 沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
 - 水道 3級 : 前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
 3. 水産 1級 : ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
 - 水産 2級 : サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用
 - 水産 3級 : コイ、フナ等、β-中腐水性水域の水産生物用
 4. 工業用水1級 : 沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
 - 工業用水2級 : 薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
 - 工業用水3級 : 特殊の浄水操作を行うもの
 5. 環境保全 : 国民の日常生活 (沿岸の遊歩等を含む。) において不快感を生じない限度

参考資料 3 (1) 生活環境の保全に関する環境基準 (2/8)

河川 (湖沼を除く。) : 全亜鉛

項目 類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値
		全亜鉛
生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/ℓ 以下
生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場 (繁殖場) 又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/ℓ 以下
生物B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/ℓ 以下
生物特B	生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場 (繁殖場) 又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/ℓ 以下

備考 1. 基準値は、年間平均値とする (湖沼、海域もこれに準ずる。)

参考資料 3 (1) 生活環境の保全に関する環境基準 (3/8)

湖沼（天然湖沼及び貯水量が1,000万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖）：化学的酸素要求量（COD）

項目 類型	利用目的の適応性	基準値
		化学的酸素要求量 (COD)
AA	水道1級 水産1級 自然環境保全及び A以下の欄に掲げるもの	1mg/ℓ以下
A	水道2、3級 水産2級 水浴及び B以下の欄に掲げるもの	3mg/ℓ以下
B	水産3級 工業用水1級 農業用水及び Cの欄に掲げるもの	5mg/ℓ以下
C	工業用水2級 環境保全	8mg/ℓ以下

- (注)
1. 自然環境保全： 自然探勝等の環境保全
 2. 水道 1級： ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
水道2、3級： 沈殿ろ過等による通常の浄水操作、又は、前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
 3. 水産 1級： ヒメマス等貧栄養湖型の水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
水産 2級： サケ科魚類及びアユ等貧栄養湖型の水域の水産生物並びに水産3級の水産生物用
水産 3級： コイ、フナ等富栄養化型の水域の水産生物用
 4. 工業用水1級： 沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
工業用水2級： 薬品注入等による高度の浄水操作、又は、特殊な浄水操作を行うもの
 5. 環境保全： 国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

参考資料 3 (1) 生活環境の保全に関する環境基準 (4/8)

湖沼（天然湖沼及び貯水量が1,000万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖）：全窒素、全リン

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基準値	
		全窒素	全リン
I	自然環境保全及び II以下の欄に掲げるもの	0.1mg/ℓ 以下	0.005mg/ℓ 以下
II	水道1、2、3級(特殊なものを除く) 水産1種 水浴及びIII以下の欄に掲げるもの	0.2mg/ℓ 以下	0.01mg/ℓ 以下
III	水道3級(特殊なもの)及び IV以下の欄に掲げるもの	0.4mg/ℓ 以下	0.03mg/ℓ 以下
IV	水産2種及び Vの欄に掲げるもの	0.6mg/ℓ 以下	0.05mg/ℓ 以下
V	水産3種 工業用水 農業用水 環境保全	1mg/ℓ 以下	0.1mg/ℓ 以下

- 備 考
1. 基準値は、年間平均値とする。
 2. 水域類型の指定は、湖沼植物プランクトンの著しい増殖を生ずるおそれがある湖沼について行うものとし、全窒素の項目の基準値は、全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼について適用する。
 3. 農業用水については、全リンの項目の基準値は適用しない。

- (注)
1. 自然環境保全： 自然探勝等の環境保全
 2. 水道 1級： ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
水道 2級： 沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
水道 3級： 前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの（「特殊なもの」とは、臭気物質の除去が可能な特殊な浄水操作を行うものをいう。）
 3. 水産 1種： サケ科魚類及びアユ等の水産生物並びに水産2種及び水産3種の水産生物用
水産 2種： ワカサギ等の水産生物用及び水産3種の水産生物用
水産 3種： コイ、フナ等の水産生物用
 4. 環境保全： 国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

参考資料 3 (1) 生活環境の保全に関する環境基準 (5/8)

湖沼（天然湖沼及び貯水量が1,000万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖）：全亜鉛

項目 類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値
		全亜鉛
生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/ℓ 以下
生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/ℓ 以下
生物B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/ℓ 以下
生物特B	生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/ℓ 以下

参考資料 3 (1) 生活環境の保全に関する環境基準 (6/8)

海域：化学的酸素要求量 (COD)

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基準値
		化学的酸素 要 求 量 (COD)
A	水産1級 水浴 自然環境保全及び B以下の欄に掲げるもの	2mg/ℓ以下
B	水産2級 工業用水及び Cの欄に掲げるもの	3mg/ℓ以下
C	環境保全	8mg/ℓ以下

- (注)
1. 自然環境保全： 自然探勝等の環境保全
 2. 水 産 1 級： マダイ、ブリ、ワカメ等の水産生物用及
び水産2級の水産生物用
水 産 2 級： ボラ、ノリ等の水産生物用
 3. 環 境 保 全： 国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）
において不快感を生じない限度

参考資料 3 (1) 生活環境の保全に関する環境基準 (7/8)

海域：全窒素、全リン

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基準値	
		全窒素	全リン
I	自然環境保全及びⅡ以下の欄に掲げるもの (水産2種及び3種を除く)	0.2mg/ℓ 以下	0.02mg/ℓ 以下
Ⅱ	水産1種 水浴及びⅢ以下の欄に掲げるもの(水産2 種および3種を除く。)	0.3mg/ℓ 以下	0.03mg/ℓ 以下
Ⅲ	水産2種及びⅣの欄に掲げるもの(水産3種 を除く。)	0.6mg/ℓ 以下	0.05mg/ℓ 以下
Ⅳ	水産3種 工業用水 生物生息環境保全	1mg/ℓ 以下	0.09mg/ℓ 以下

- 備 考 1. 基準値は、年間平均値とする。
 2. 水域類型の指定は、海洋植物プランクトンの著しい増殖を生ずる恐れのある海域に
 ついて行うものとする。

- (注) 1. 自然環境保全： 自然探勝等の環境保全
 2. 水 産 1 種： 底生魚介類を含めたような水産生物がバランス良く、かつ
 安定して漁獲される
 水 産 2 種： 一部の底生魚介類を除き、魚類を中心とした水産生物が多
 獲される
 水 産 3 種： 汚濁に強い特定の水産生物が主に漁獲される
 3. 生物生息環境保全： 年間を通して底生生物が生息できる限度

参考資料 3 (1) 生活環境の保全に関する環境基準 (8/8)

海域：全亜鉛

項目 類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値
		全亜鉛
生物A	水生生物の生息する水域	0.02mg/ℓ 以下
生物特A	生物Aの水域のうち、水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.01mg/ℓ 以下

参考資料3(2) 人の健康の保護に関する環境基準 (1/2)

環境基準項目及び基準値

項目名	基準値	備考
カドミウム	0.003 mg/l以下	1. 基準値は年間平均値とする。 ただし全シアンに係る基準値については最高値とする。
全シアン	検出されないこと	
鉛	0.01 mg/l以下	2. 「検出されないこと」とは定められた測定方法により測定した場合において、その結果が定量限界を下回ることをいう。
六価クロム	0.05 mg/l以下	
砒素	0.01 mg/l以下	
総水銀	0.0005 mg/l以下	
アルキル水銀	検出されないこと	
P C B	検出されないこと	
ジクロロメタン	0.02 mg/l以下	
四塩化炭素	0.002 mg/l以下	
1,2-ジクロロエタン	0.004 mg/l以下	
1,1-ジクロロエチレン	0.1 mg/l以下	
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04 mg/l以下	3. 海域については、ふっ素及びほう素の基準値は適用しない。
1,1,1-トリクロロエタン	1 mg/l以下	
1,1,2-トリクロロエタン	0.006 mg/l以下	
トリクロロエチレン	0.03 mg/l以下	
テトラクロロエチレン	0.01 mg/l以下	
1,3-ジクロロプロペン	0.002 mg/l以下	
チウラム	0.006 mg/l以下	
シマジン	0.003 mg/l以下	
チオベンカルブ	0.02 mg/l以下	
ベンゼン	0.01 mg/l以下	
セレン	0.01 mg/l以下	4. 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、測定された硝酸イオンの濃度に換算係数0.2259を乗じたものと亜硝酸イオンの濃度に換算係数0.3045を乗じたものの和とする。
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	10 mg/l以下	
ふっ素	0.8 mg/l以下	
ほう素	1 mg/l以下	
1,4-ジオキサン	0.05 mg/l以下	平成21年11月追加

参考資料3(2) 人の健康の保護に関する環境基準 (2/2)

要監視項目及び指針値

項目名	指針値	備考
イソキサチオン	0.008 mg/l以下	
ダイアジノン	0.005 mg/l以下	
フェニトロチオン (MEP)	0.003 mg/l以下	
イソプロチオラン	0.04 mg/l以下	
オキシ銅 (有機銅)	0.04 mg/l以下	
クロロタロニル (TPN)	0.05 mg/l以下	
プロピザミド	0.008 mg/l以下	
E P N	0.006 mg/l以下	
ジクロルボス (DDVP)	0.008 mg/l以下	
フェノブカルブ (BPMC)	0.03 mg/l以下	
イプロベンホス (IBP)	0.008 mg/l以下	
クロルニトロフェン (CNP)	—	
クロロホルム	0.06 mg/l以下	
トランス-1,2-ジクロロエチレン	0.04 mg/l以下	
1,2-ジクロロプロパン	0.06 mg/l以下	
p-ジクロロベンゼン	0.2 mg/l以下	
トルエン	0.6 mg/l以下	
キシレン	0.4 mg/l以下	
フタル酸ジエチルヘキシル	0.06 mg/l以下	
ニッケル	—	
モリブデン	0.07 mg/l以下	
アンチモン	0.02 mg/l以下	
塩化ビニルモノマー	0.002 mg/l以下	平成16年3月追加
エピクロロヒドリン	0.0004 mg/l以下	//
全マangan	0.2 mg/l以下	//
ウラン	0.002 mg/l以下	//

参考資料 3 (3) 水生生物の保全に関する環境基準

要監視項目及び指針値

項目	水域	類型	指針値
クロロホルム	河川及び湖沼	生物 A	0.7mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.006mg/ℓ 以下
		生物 B	3mg/ℓ 以下
		生物特 B	3mg/ℓ 以下
	海域	生物 A	0.8mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.8mg/ℓ 以下
フェノール	河川及び湖沼	生物 A	0.05mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.01mg/ℓ 以下
		生物 B	0.08mg/ℓ 以下
		生物特 B	0.01mg/ℓ 以下
	海域	生物 A	2mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.2mg/ℓ 以下
ホルムアルデヒド	河川及び湖沼	生物 A	1mg/ℓ 以下
		生物特 A	1mg/ℓ 以下
		生物 B	1mg/ℓ 以下
		生物特 B	1mg/ℓ 以下
	海域	生物 A	0.3mg/ℓ 以下
		生物特 A	0.03mg/ℓ 以下

参考資料 3 (4) ゴルフ場使用農薬暫定指導指針値 (1/4)

一般名	水濁基準値[mg/L]	指針値[mg/L] (※水濁基準値が設定されているものについては、 その値の10倍値を指針値とする)	告示年月日/改正年月日
ア行			
アジメスフロム	0.25	2.5	平成23年4月7日
アシュラム		2	平成25年6月18日
アセキノシル	0.058	0.58	平成23年10月18日
アセタミブリド	0.18	1.8	平成24年1月11日
アセフェート	0.0063	0.063	平成25年3月18日
アゾキシストロビン	0.47	4.7	平成23年4月4日
アバメクチン	0.0015	0.015	平成25年2月6日
アミスフロム	0.2	2	平成24年4月6日
アミトラズ	0.0066	0.066	平成24年10月10日
アメクトラジン	7.1	71	平成25年10月21日
アラクロール	0.02	0.2	平成25年3月18日
イソキサチオン		0.08	平成25年6月18日
イソチアニル	0.074	0.74	平成21年10月23日
イソプロチオラン	0.26	2.6	平成22年7月5日
イブフェンカルバゾン	0.0026	0.026	平成25年6月13日
イブロジオン		3	平成25年6月18日
イブロベンホス又はI B P	0.093	0.93	平成22年12月1日
イミシアホス	0.001	0.01	平成24年7月6日
イミダクロプリド	0.15	1.5	平成22年12月1日
イミノクタジンアルベシル酸塩及びイミノクタ		0.06	平成25年6月18日
イミベシコナゾール	0.026	0.26	平成23年10月18日
インダジフラム	0.05	0.5	平成24年4月6日
インダノファン	0.0093	0.093	平成23年2月15日
インドキサカルブ	0.013	0.13	平成24年4月6日
インドキサカルブMP	0.013	0.13	平成24年4月6日
ウニコナゾールP	0.042	0.42	平成22年12月1日
エスプロカルブ	0.02	0.2	平成22年7月5日
エタボキサム	0.1	1	平成25年6月13日
エチクロゼート	0.45	4.5	平成25年9月11日
エチプロール	0.01	0.1	平成23年10月18日
エトキサゾール	0.1	1	平成23年10月18日
エトキシスフロム		1	平成25年6月18日
エトフェンブロックス	0.082	0.82	平成25年3月18日
エトフメゼート	0.79	7.9	平成25年6月13日
エトリジアゾール (エクロメゾール)		0.04	平成25年6月18日
オキサジアゾン	0.0095	0.095	平成23年7月4日
オキサジアルギル	0.02	0.2	平成23年10月18日
オキサジクロメホン	0.024	0.24	平成23年2月15日
オキシシ銅 (有機銅)		0.4	平成25年6月18日
オキソリニク酸	0.055	0.55	平成24年10月10日
オリサストロビン	0.13	1.3	平成23年7月4日
カ行			
カズサホス	0.00066	0.0066	平成23年7月4日
カフェンストール	0.007	0.07	平成22年7月5日
カルフェントラゾンエチル	0.07	0.7	平成21年6月12日
カルブチレート	0.034	0.34	平成23年2月15日
カルプロバミド	0.037	0.37	平成23年4月7日
キャプタン		3	平成25年6月18日
ケミルロン	0.02	0.2	平成23年7月4日
グルホシネート	0.024 DL-ホモアラニン-4-イル (メチル) ホスフィン酸 (別名グルホシネート酸) として	0.24 DL-ホモアラニン-4-イル (メチル) ホスフィン酸 (別名グルホシネート酸) として	平成22年7月5日
グルホシネートPナトリウム塩	0.024 DL-ホモアラニン-4-イル (メチル) ホスフィン酸 (別名グルホシネート酸) として	0.24 DL-ホモアラニン-4-イル (メチル) ホスフィン酸 (別名グルホシネート酸) として	平成22年7月5日
クレソキシムメチル	0.95	9.5	平成25年9月11日
クロチアニジン	0.25	2.5	平成23年2月15日
クロマフェノジド	0.71	7.1	平成23年7月4日
クロメプロップ	0.016	0.16	平成23年2月15日
クロラントラニプロール	0.69	6.9	平成21年5月27日
クロリムロンエチル	0.2	2	平成21年2月18日
クロルチアミド (DCBM)	0.053	0.53	平成25年2月6日
クロルピリホス		0.02	平成25年6月18日
クロルフェナビル	0.069	0.69	平成24年10月10日
クロルフタリム	0.0069	0.069	平成25年6月13日
クロタロニル (TPN)		0.4	平成25年6月18日
クロロネブ		0.5	平成25年6月18日

※五十音順

参考資料 3 (4) ゴルフ場使用農薬暫定指導指針値 (2/4)

一般名	水濁基準値[mg/L]	指針値[mg/L] (※水濁基準値が設定されているものについては、 その値の10倍値を指針値とする)	告示年月日/改正年月日
サ行			
シアゾファミド	0.45	4.5	平成25年2月6日
シエノピラフェン	0.1	1	平成24年10月10日
ジカンバカリウム塩又はMDBAカリウム塩	0.93 2-メトキシ-3, 6-ジクロロ安息香酸 (別名ジカンバ又はMDBA) として	9.3 2-メトキシ-3, 6-ジクロロ安息香酸 (別名ジカンバ又はMDBA) として	平成22年1月12日
ジカンバジメチルアミン塩又はMDBAジメチルアミン塩	0.93 2-メトキシ-3, 6-ジクロロ安息香酸 (別名ジカンバ又はMDBA) として	9.3 2-メトキシ-3, 6-ジクロロ安息香酸 (別名ジカンバ又はMDBA) として	平成22年1月12日
ジカンバ又はMDBA	0.93 2-メトキシ-3, 6-ジクロロ安息香酸 (別名ジカンバ又はMDBA) として	9.3 2-メトキシ-3, 6-ジクロロ安息香酸 (別名ジカンバ又はMDBA) として	平成22年1月12日
ジクロシメット	0.013	0.13	平成23年4月4日
シクロスルファミロン		0.8	平成25年6月18日
ジチアノン	0.02	0.2	平成25年3月18日
ジチオピル	0.0095	0.095	平成23年7月4日
シデュロン		3	平成25年6月18日
ジノテフラン	0.58	5.8	平成22年3月26日
ジフェノコナゾール	0.025	0.25	平成25年10月21日
ジフェノコナゾール		0.3	平成25年6月18日
シフルフェナミド	0.1	1	平成25年3月18日
シフルメトフェン	0.24	2.4	平成24年10月10日
ジフルメトリム	0.0037	0.037	平成24年7月6日
シプロコナゾール		0.3	平成25年6月18日
シマジン (CAT)		0.03	平成25年6月18日
シメコナゾール	0.022	0.22	平成23年4月4日
ジメタメトリン	0.025	0.25	平成25年9月11日
ジメテナミド	0.1	1	平成22年1月12日
ジメテナミドP	0.1	1	平成22年1月12日
ジメトモルフ	0.29	2.9	平成24年7月6日
シラフルオフェン	0.29	2.9	平成22年7月5日
シロマジン	0.047	0.47	平成25年3月18日
スピネトラム	0.063	0.63	平成22年7月5日
スピノサド	0.063	0.63	平成24年4月6日
スピロジクロフェン	0.034	0.34	平成25年9月11日
スピロテトラマト	0.31	3.1	平成24年1月11日
スピロメシフェン	0.058	0.58	平成24年10月10日
タ行			
ダイアジノン		0.05	平成25年6月18日
ダイムロン	0.79	7.9	平成22年3月26日
チアジニル	0.1	1	平成23年4月7日
チアメトキサム	0.047	0.47	平成23年2月15日
チウラム (チラム)		0.2	平成25年6月18日
チオジカルブ		0.8	平成25年6月18日
チオファネートメチル		3	平成25年6月18日
チオベンカルブ	0.02	0.2	平成24年7月6日
チフルザミド	0.037	0.37	平成25年10月21日
チフルザミド		0.5	平成25年6月18日
テトラコナゾール		0.1	平成25年6月18日
テブコナゾール	0.077	0.77	平成23年10月18日
テブフェノジド	0.042	0.42	平成22年12月1日
テブフロキン	0.1	1	平成25年2月6日
テフリルトリオソ	0.002	0.02	平成21年10月23日
トブラメゾン	0.007	0.07	平成25年6月13日
トリアジフラム	0.023	0.23	平成23年7月4日
トリクロピル		0.06	平成25年6月18日
トリクロルホン (DEP)		0.05	平成25年6月18日
トリネキサバックエチル	0.015	0.15	平成25年6月13日
トリネキサバックエチル		0.15	平成25年6月18日
トリフルミゾール		0.5	平成25年6月18日
トリフルラリン	0.063	0.63	平成25年10月21日
トリフロキシストロピン	0.1	1	平成24年4月6日
トルクロホスメチル		2	平成25年6月18日
トルフェンピラド	0.014	0.14	平成24年1月11日
ナ行			
1-ナフタレン酢酸ナトリウム	0.39	3.9	平成21年5月27日
ナプロバミド		0.3	平成25年6月18日
ノバルロン	0.029	0.29	平成25年2月6日

※五十音順

参考資料 3 (4) ゴルフ場使用農薬暫定指導指針値 (3/4)

一般名	水濁基準値[mg/L]	指針値[mg/L]	告示年月日/改正年月日
		(※水濁基準値が設定されているものについては、その値の10倍値を指針値とする)	
ハ行			
バクプロトラゾール	0.053	0.53	平成22年3月26日
バリダマイシン		12	平成25年6月18日
ハロスルフロンメチル	0.26	2.6	平成24年4月6日
ヒドロキシイソキサゾール (ヒメキサゾール)		1	平成25年6月18日
ビフェナゼート	0.026	0.26	平成24年1月11日
ビフェントリン	0.026	0.26	平成23年10月18日
ビメトロジン	0.034	0.34	平成24年1月11日
ピラクストロビン	0.09	0.9	平成24年4月6日
ピラクロニル	0.011	0.11	平成23年7月4日
ピラフルフェンエチル	0.45	4.5	平成25年2月6日
ピリオフェノン	0.24	2.4	平成25年10月21日
ピリダベン	0.01	0.1	平成25年9月11日
ピリダリル	0.074	0.74	平成24年1月11日
ピリフタリド	0.014	0.14	平成23年4月7日
ピリプチカルブ	0.023	0.23	平成23年2月15日
ピリフルキサゾン	0.01	0.1	平成22年1月12日
ピリプロキシフェン	0.26	2.6	平成25年2月6日
ピリベンカルブ	0.1	1	平成24年1月11日
ピリミスルファン	0.93	9.3	平成22年3月26日
ピリミノバックメチル	0.05	0.5	平成25年3月18日
フェニトロチオン (MEP)		0.03	平成25年6月18日
フェノキサニル	0.018	0.18	平成23年4月4日
フェリムゾン	0.05	0.5	平成22年3月26日
フェンアミドン	0.074	0.74	平成24年10月10日
フェントエート (PAP)	0.0077	0.077	平成25年9月11日
フェントラザミド	0.013	0.13	平成23年4月4日
フェンピラザミン	0.31	3.1	平成25年6月13日
フェンブコナゾール	0.079	0.79	平成25年3月18日
フェンヘキサミド	0.45	4.5	平成25年9月11日
ブタクロール	0.026	0.26	平成25年3月18日
ブタミホス	0.02	0.2	平成23年7月4日
ブトルアリン	0.026	0.26	平成24年1月11日
ブプロフェジン	0.023	0.23	平成22年12月1日
ブラザルスフロン		0.3	平成25年6月18日
フラメトビル	0.01	0.1	平成25年9月11日
フルアクリピリム	0.15	1.5	平成25年3月18日
フルオピコリド	0.21	2.1	平成25年2月6日
フルオピラム	0.031	0.31	平成25年6月13日
フルキサピロキサド	0.055	0.55	平成25年6月13日
ブルジオキソニル	0.87	8.7	平成23年10月18日
ブルセトスルフロン	0.1	1	平成21年2月18日
フルチアニル	6.3	63	平成24年10月10日
フルトラニル	0.23	2.3	平成22年3月26日
フルフェノクソロン	0.098	0.98	平成25年2月6日
フルベンジアミド	0.045	0.45	平成24年10月10日
フルボキサム	0.021	0.21	平成21年5月27日
フルルブリミドール	0.039	0.39	平成25年11月29日
ブレチラクロール	0.047	0.47	平成22年7月5日
ブロジアミン	0.17	1.7	平成24年7月6日
ブロスルホカルブ	0.05	0.5	平成21年10月23日
ブロニカミド	0.19	1.9	平成20年12月1日
ブロバモカルブ塩酸塩	0.77	7.7	平成24年7月6日
ブロビコナゾール		0.5	平成25年6月18日
ブロビザミド		0.5	平成25年6月18日
ブロヒドロジヤクモン	0.37	3.7	平成24年10月10日
ブロピリスルフロン	0.029	0.29	平成22年7月5日
ブロモブチド	0.1	1	平成22年7月5日
ヘキサジノン	0.13	1.3	平成25年6月13日
ベノキスラム	0.13	1.3	平成23年7月4日
ベノミル		0.2	平成25年6月18日
ベルメトリン		1	平成25年6月18日
ベンシクロン	0.14	1.4	平成23年4月7日
ベンスルタップ		0.9	平成25年6月18日
ベンスルフロンメチル	0.5	5	平成24年7月6日
ベンゾピシクロン	0.09	0.9	平成22年12月1日
ベンチアバリカルブイソプロピル	0.18	1.8	平成24年10月10日
ベンチオピラド	0.2	2	平成20年7月23日
ベンディメタリン	0.31	3.1	平成25年2月6日
ベントキサゾン	0.61	6.1	平成24年4月6日
ベンフルフェン	0.053	0.53	平成25年10月21日
ベンフルラリン (ベスロジン)		0.1	平成25年6月18日
ベンフレゼート	0.069	0.69	平成23年4月4日
ボスカリド	0.11	1.1	平成25年9月11日
ボスカリド		1.1	平成25年6月18日
ホセチル		23	平成25年6月18日
ホラムスルフロン	1.3	13	平成23年4月7日
ポリカーバメート		0.3	平成25年6月18日

※五十音順

参考資料 3 (4) ゴルフ場使用農薬暫定指導指針値 (4/4)

一般名	水濁基準値[mg/L]	指針値[mg/L] (※水濁基準値が設定されているものについては、 その値の10倍値を指針値とする)	告示年月日/改正年月日
マ行			
マンジプロバミド	0.1	1	平成21年2月18日
ミクロブタニル	0.063	0.63	平成24年4月6日
ミルベメクチン	0.07	0.7	平成23年10月18日
メコプロップPイソプロピルアミン塩	0.047 (RS)-2-(4-クロロ-オトリ ルオキシ)プロピオン酸(別名メコ ロップ又はMCP P)として	0.47 (RS)-2-(4-クロロ-オトリ ルオキシ)プロピオン酸(別名メコ ロップ又はMCP P)として	平成21年10月23日
メコプロップPカリウム塩	0.047 (RS)-2-(4-クロロ-オトリ ルオキシ)プロピオン酸(別名メコ ロップ又はMCP P)として	0.47 (RS)-2-(4-クロロ-オトリ ルオキシ)プロピオン酸(別名メコ ロップ又はMCP P)として	平成21年10月23日
メコプロップカリウム塩又はMCP Pカリウム 塩	0.047 (RS)-2-(4-クロロ-オトリ ルオキシ)プロピオン酸(別名メコ ロップ又はMCP P)として	0.47 (RS)-2-(4-クロロ-オトリ ルオキシ)プロピオン酸(別名メコ ロップ又はMCP P)として	平成21年10月23日
メコプロップジメチルアミン塩 又は MCP Pジメチルアミン塩、メコプロップPイ ソプロピルアミン塩	0.047 (RS)-2-(4-クロロ-オトリ ルオキシ)プロピオン酸(別名メコ ロップ又はMCP P)として	0.47 (RS)-2-(4-クロロ-オトリ ルオキシ)プロピオン酸(別名メコ ロップ又はMCP P)として	平成21年10月23日
メソトリオン	0.007	0.07	平成21年10月23日
メタアルデヒド	0.058	0.58	平成24年10月10日
メタゾスルフロ	0.071	0.71	平成24年10月10日
メタフルミゾン	0.31	3.1	平成24年7月6日
メタミホップ	0.011	0.11	平成23年4月4日
メタラキシル	0.058	0.58	平成24年4月6日
メタラキシルM	0.058	0.58	平成24年4月6日
メトキシフェノジド	0.26	2.6	平成23年4月7日
メトコナゾール	0.1	1	平成25年2月6日
メトミノストロピン	0.042	0.42	平成25年3月18日
S-メトラクロール	0.25	2.5	平成22年1月12日
メトラクロール	0.25	2.5	平成22年1月12日
メフェナセツト	0.01	0.1	平成22年3月26日
メブロル	0.1	1	平成24年7月6日
ヤ行			
ヨウ化メチル	0.01	0.1	平成25年3月18日
ラ行			
ルフェネロン	0.037	0.37	平成25年2月6日
レピメクチン	0.053	0.53	平成24年7月6日
A~Z			
EPN	0.0037	0.037	平成23年4月7日
MCP Aイソプロピルアミン塩及びMCP Aナ トリウム塩		0.051	平成25年6月18日

※五十音順

参考資料 3 (5) ダイオキシン類の基準値

地点	環境基準	要監視濃度
水質	1.0pg-TEQ/l	0.5pg-TEQ/l
底質	150pg-TEQ/g	75pg-TEQ/g

参考資料 3 (6) 内分泌かく乱化学物質の基準値

物質名	重点調査濃度 ^{※1}
ビスフェノールA	24.7 μg/l
17β-エストラジオール	0.0015 μg/l
エストロン	0.0016 μg/l
o, p'-DDT	0.0145 μg/l

※1 「内分泌かく乱化学物質調査の考え方(案)(平成25年3月改訂)に基づく重点調査濃度。
平成25年度以降は平成25年3月改訂の考え方(案)に基づき調査を行っている。

参考資料4 「水生生物による簡易水質調査」参加団体一覧 (1/3)

北海道開発局管内 (51団体)

北海道	明星中学校 札幌市立南小学校 江別市教育員会 恵庭市立恵庭中学校 岩見沢市立岩見沢第二小学校 三笠市立三笠小学校 深川市立多度志小学校 新十津川町立新十津川小学校 北海道滝川高校 富良野市立布部小学校 蘭越小学校 蘭越高校 北檜山小学校 今金小学校 種川小学校 鶴川中央小学校 富川小学校 紫雲古津小学校 本別町立本別中学校 帯広市立帯広第一中学校 帯広市立帯広第八中学校 幕別町立札内北小学校 帯広市立帯広東小学校 帯広市立帯広第七中学校 音更町立緑陽台小学校 帯広市立帯広南町中学校 帯広市立帯広第二中学校 音更町立鈴蘭小学校 帯広市立帯広第五中学校 帯広市立帯広第四中学校 新得町立屈足南小学校 本別町立本別中央小学校 音更町立木野東小学校 景雲中学校 標茶中学校 弟子屈中学校 北見市立北光小学校 北見市立常呂小学校 北見市立小泉小学校 網走市立中央小学校 船橋市・津別町青少年交流事業団 網走市立潮見小学校 湧別アウトドアクラブ 湧別町立湧別小学校 紋別市立渚滑小学校 名寄西小学校 幌延小学校・間寒別小学校 天塩小学校 留萌市立幌糠小学校 留萌市立潮静小学校 留萌市立緑丘小学校
-----	--

東北地方整備局管内 (14団体)

青森県	—
岩手県	盛岡市立杜陵小学校 奥州市立水沢中学校 奥州市立水沢南中学校
宮城県	仙台市立八木山中学校 仙台市立八本松小学校 大和町立大和中学校
秋田県	能代市立能代第四小学校 能代市立朴瀬小学校
山形県	川西町立吉島小学校 大石田町立大石田小学校 大石田町立大石田北小学校 鮭川村立鮭川小学校 新庄神室産業高等学校 鶴岡市立鶴岡第三中学校

関東地方整備局管内 (43団体)

茨城県	日立市立東小沢小学校 日立市立坂本中学校 常陸太田市立幸久小学校 常陸大宮市立美和小学校 城里町立桂中学校 那珂川水系水質保全協議会
栃木県	茂木町立中川小学校 那珂川町立小川小学校 那珂川町立小川南小学校 栃木県立馬頭高等学校 鬼怒川小学校 さくら市立氏家中学校
群馬県	桐生南小学校 高崎市立新町第二小学校 上里町立賀美小学校 藤岡市立美九里東小学校 藤岡市立西中学校 藤岡市立東中学校 藤岡市立北中学校 高崎市立高松中学校 藤岡市立小野中学校
埼玉県	霞ヶ関東中学校 霞ヶ関東小学校 北坂戸小学校 熊谷南小学校 成田小学校 泉小学校 熊谷東中学校 大里中学校 久下小学校 名細子ども自然探検隊
千葉県	千葉県立柏の葉高等学校 川いい会
東京都	多摩川ふれあい教室 夏休み多摩川教室
山梨県	石和南小学校 若草南小学校 栄小学校 大河内小学校
静岡県	富士川第一小学校 富士川第二小学校

北陸地方整備局管内 (24団体)

福島県	勝常小学校 二本松市立杉田小学校 東町のびやか保育園 南町保育園 原町第二小学校
新潟県	村上市立金屋小学校 関川村立関川小学校 三条市立飯田小学校 長岡市立東中学校 大野小学校 上越教育大学附属小学校
富山県	くろべ水の少年団 常願寺川の清流と桜を愛する会 富山市立立山小学校 小矢部川に学ぶ会 富山市立熊野小学校 南砺市立利賀小学校
石川県	川北町教育委員会(町内4小学校) 野々市市立野々市中学校1年生 小松市立中海小学校6年生
長野県	千曲市立戸倉上山田中学校 長野市立柳町中学校 安曇野市立豊科北中学校 上田市立丸子北中学校

参考資料4 「水生生物による簡易水質調査」参加団体一覧 (2/3)

中部地方整備局管内 (51団体)

長野県	赤穂小学校 三峰川みらい会議
岐阜県	本田小学校 則武小学校 岩野田小学校
静岡県	大河内中学校 中藁科小学校 井宮小学校 神座小学校 菊川市消費者の会
愛知県	松葉小学校 鳳来西小学校 舟着小学校 清嶺小学校 大村小学校 賀茂小学校 清須市立新川小学校 名古屋市立志段味西小学校 名古屋市立川中小学校 名古屋市立甘軒家小学校 名古屋市立守山図書館 名古屋市立楠図書館 名古屋市立西味鏡小学校 名古屋市港区役所 光和幼稚園 当知地域委員会 (名古屋市港区) 一宮生活協同組合
三重県	木曾岬町ホリデー教室 三重県立飯野高等学校 二之丸塾亀山西小学校教育協議会 亀山市立神辺小学校 市民ネットワークすずかのぶどう 水辺づくりの会鈴鹿川のうお座 三重県立四日市農芸高等学校 四日市市立内部東小学校 鈴鹿市立井田川小学校 津市立久居中学校 三重県立久居農林高等学校 三重県立国児学園 津市立大井小学校 コイシロ子ども会 松阪市立掃水小学校 松阪市立東部中学校 三重県立相可高等学校 多気町松阪市学校組合立多気中学校 佐奈川を美しくする会 NPO法人まなびの広場 伊勢市立中島小学校 三重県立宇治山田高等学校 伊勢市立倉田山中学校 伊勢市立五十鈴中学校

近畿地方整備局管内 (45団体)

福井県	成和中学校 永平寺中学校 松岡中学校 雲浜まちづくり委員会
三重県	上野生涯学習推進会議 河川レンジャー活動
滋賀県	瀬田北中学校 立命館守山中学校 琵琶湖河川レンジャー 守山南中学校 大石小学校
京都府	京都市立嵯峨中学校 京都市立西京極中学校 上林小学校 遷喬小学校 大正公民館 南陵中学校 平屋小学校 東綾小学校
大阪府	大阪市立新北島中学校 高槻市立第七中学校 大阪市立城陽中学校 大阪市立大桐中学校 大阪市立文の里中学校 大阪市立中野中学校 大阪市立加美中学校 2013猪名川の愛護セミナー (池田床固下流) 新堂小学校 大和川釣り人クラブ 竹城台東小学校 柏原小学校 浅香山小学校
兵庫県	2013猪名川の愛護セミナー (こんにやく橋) 2013猪名川の愛護セミナー (桑津橋) 高橋小学校 都多小学校 小宅小学校区こども会 黒原自治会こども会 揖保小学校 斑鳩小学校 半田小学校 菅田小学校
奈良県	王寺北小学校
和歌山県	高野口小学校 近畿大学附属新宮高等学校・中学校

中国地方整備局管内 (72団体)

鳥取県	鳥取市立用瀬小学校 鳥取市立散岐小学校 鳥取市立河原第一小学校 鳥取大学附属小学校 鳥取市立宮ノ下小学校 鳥取市立日進小学校 上小鴨小学校 高城小学校 三朝西小学校 大栄中学校 倉吉東学童クラブ 関金小学校 倉吉農業高校 岸本小学校 法勝寺中学校
島根県	亀高公民館環境部 横田公民館婦人会 神戸川小学校 玉湯小学校 宍道小学校 赤江小学校 広瀬小学校 鳥上小学校 朝山小学校 本庄幼稚園 西野小学校 東茶町町内会 意東小学校 西益田小学校 横田中学校 大和小学校 大和中学校 川本中学校 桜江中学校 郷田小学校
岡山県	総社市立総社西中学校 岡山市立高島中学校 和気町立和気中学校 和気町立本荘小学校
広島県	福山市立中央中学校 福山市立城西中学校 めだかの学校 三次市立甲奴小学校 三次市立三良坂小学校 三次市立田幸小学校 三次市立八次小学校 三次市立十日市小学校 安芸高田市立郷野小学校 安芸高田市立可愛小学校 安芸高田市立吉田小学校 安芸高田市立小田東小学校 安芸高田市立甲立小学校 三次市立川地小学校 三次市立清河小学校 三次市立三次小学校 安芸太田町立戸内中学校 安芸太田町立殿賀小学校 安芸太田町立上殿小学校 広島県立加計高等学校 広島市立小河内小学校 広島市立久地中学校 広島県立可部高等学校 広島県立祇園北高等学校 広島市立東原中学校 大竹市立大竹小学校
山口県	防府市立右田中学校 防府市立桑山中学校 佐波川に学ぶ会 小野水辺の楽校空間利用を考える会 防府市立佐波小学校 防府市立華城小学校 防府市青少年科学館ソラール

参考資料4 「水生生物による簡易水質調査」参加団体一覧 (3/3)

四国地方整備局管内 (32団体)

香川県	丸亀市飯野小学校 丸亀市立城西小学校 丸亀市立城辰小学校 まんのう町立仲南小学校 まんのう町立長炭小学校 まんのう町立満濃南小学校 コーブかがわ 普通寺こどもエコクラブ 丸亀市内小学校他
愛媛県	大成小学校 中野小学校 河辺小学校 内子中学校 さくら小学校 拝志小学校 椿中学校 浮穴小学校 いよココロザン大学(NPO法人) 久米小学校 自然科学教室(大洲市) 御祓小学校 新谷中学校
高知県	三原小学校 中筋小学校 東中筋小学校 東山小学校 八束小学校 神谷小学校 高岡第二小学校
徳島県	穴吹小学校 重清西小学校 三庄小学校

九州地方整備局管内 (93団体)

福岡県	飯塚市立立岩小学校 飯塚地区解放子ども会 飯塚・片島子どもまなび塾 宮若市立若宮西小学校 宮若市小原区自治会 嘉麻市立碓井小学校 小竹町立小竹北小学校 直方市立下境小学校 おおそま自然塾(矢部小矢部川上中下流探検) 八女市立黒木小学校 みやま市立下庄小学校 みやま市立水上小学校 みやま市立南小学校 本郷子ども育成会 朝倉市松末コミュニティ協議会 久留米信愛女学院高等学校
佐賀県	福富小学校 武雄中学校 三里小学校 西溪小学校 武内小学校 武雄河川事務所 巖木小学校 簗木小学校 大良小学校
長崎県	諫早小学校 北諫早小学校
熊本県	相良南小学校 一勝地小学校 八竜小学校 菊池市立戸崎小学校 菊池市立花房小学校 和水町立菊水南小学校 熊本市立吉松小学校 和水町立春富小学校 山鹿市立中富小学校 山鹿市立内田小学校 和水町立神尾小学校 菊池市立菊之池小学校 菊池市立泗水西小学校 菊池市立泗水東小学校 和水町立菊水西小学校 菊池川自然塾
大分県	NAKATSUキッズサイエンス(中津市教育委員会) 府内高等学校 大分県立大分工業高等学校 大分市立植田西中学校 大分市立植田中学校 大分市立城南中学校 大分市立川添小学校 大分市立松岡小学校 大分市立戸次中学校 大分市立別保小学校 大分市立大東中学校 大分市立判田中学校 大分県立大分南高等学校 佐伯南中学校 鶴谷中学校 昭和中学校 本匠中学校 大山水環境アスリート 日田市民環境会議水と森部会 日田市三花公民館
宮崎県	九州保健福祉大学 延岡小学校 リバースクール 高鍋自然愛好会 木城町立木城小学校 大淀川学習館 宮崎市立小戸小学校 宮崎市立浦之名小学校 綾町立綾小学校 都城市立明道小学校 えびの市立上江小学校 えびの市立真幸小学校 えびの市立加久藤小学校 さわやかサマースクール実行委員会 えびの市立飯野小学校 薩摩川内市立大馬越小学校
鹿児島県	鹿屋市立鹿屋中学校 鹿屋市立吾平中学校 肝属町立高山中学校 清色地区コミュニティ協議会 安全管理講習会 水引キッズ応援隊 べんきょうしつモンシェリハウス 内之尾リバースクール(棚田を守り隊) 高城川ネイチャークラブ 川内スポーツクラブ01 さつま町久富木区公民館 川内川をつくり見守る会 薩摩川内市立入来中学校 さつま町立山崎小学校

参考資料5(1) 一級河川の水質 (BOD調査地点) (1/8)

地方	水系名	河川名	地点名	BOD(mg/l)					地方	水系名	河川名	地点名	BOD(mg/l)				
				平成25年	75%値	※1	※2	※3					平成25年	75%値	※1	※2	※3
北	天塩川	天塩川	岩尾内ダム	AA	0.5	0.6	1	○	北海道	十勝川	十勝川	佐幌川合流前	A	0.6	0.6	63	○
	天塩川	天塩川	朝日橋	AA	0.5	<0.5	2	○		十勝川	十勝川	十勝大橋	B	1.0	1.1	64	○
	天塩川	天塩川	中士別橋	A	0.6	0.7	3	○		十勝川	十勝川	千代田堰堤	B	1.1	1.3	65	○
	天塩川	天塩川	名寄大橋	B	0.8	0.9	4	○		十勝川	十勝川	茂岩橋	B	1.0	1.1	66	○
	天塩川	天塩川	美深橋	B	0.7	0.7	5	○		十勝川	札内川	札内川ダム	AA	0.5	0.5	67	○
	天塩川	天塩川	中川	B	0.6	0.6	6	○		十勝川	札内川	南帯橋	AA	0.6	0.6	68	○
	天塩川	天塩川	名寄川	A	0.6	<0.5	8	○		十勝川	札内川	札内橋	A	0.6	0.7	69	○
	天塩川	天塩川	真敷別頭首工	B	0.5	<0.5	7	○		十勝川	途別川	千住橋	A	1.0	1.1	70	○
	留萌川	留萌川	橋橋	AA	0.6	<0.5	9	○		十勝川	猿別川	止若橋	A	0.8	0.9	71	○
	留萌川	留萌川	16線橋	A	0.6	0.6	10	○		十勝川	下頃辺川	吉野	B	1.2	1.3	72	○
	留萌川	留萌川	留萌橋	B	1.2	0.9	11	○		釧路川	釧路川	瀬文平橋	AA	0.7	0.8	74	○
	留萌川	留萌川	留萌ダム	未	0.8	0.9	12	-		釧路川	新釧路川	愛国浄水場取水口	A	0.9	1.2	75	○
	石狩川	石狩川	納内橋	B	1.4	1.5	16	○		釧路川	新釧路川	新川橋	B	0.9	1.1	76	○
	石狩川	石狩川	砂川大橋	B	1.0	1.0	17	○		釧路川	釧路川	摩周大橋	AA	0.5	0.5	73	○
	石狩川	石狩川	奈井江大橋	B	0.8	0.7	18	○		網走川	網走川	大正橋	A	0.8	0.9	77	○
	石狩川	石狩川	石狩大橋	B	0.8	0.9	19	○		網走川	網走川	治水橋	B	1.1	1.3	78	○
	石狩川	石狩川	石狩河口橋	B	0.9	0.8	20	○		網走川	網走川	網走橋	B	1.3	1.4	83	○
	石狩川	雨竜川	竜水橋	A	0.8	0.5	27	○		網走川	美幌橋	B	0.7	0.8	84	○	
	石狩川	雨竜川	茜橋	B	0.6	0.5	28	○		常呂川	常呂川	鹿ノ子ダム	A	1.1	1.5	85	○
	石狩川	空知川	金山ダム	AA	0.7	0.7	29	○		常呂川	常呂川	金比羅橋	A	0.9	1.1	86	○
	石狩川	空知川	下金山橋	AA	0.6	0.5	30	○		常呂川	常呂川	若松橋	B	1.0	1.2	87	○
	石狩川	空知川	滝里ダム	A	0.9	1.2	31	○		常呂川	常呂川	忠志橋	B	1.5	1.6	88	○
	石狩川	空知川	泰山橋	A	0.6	0.6	32	○		常呂川	常呂川	上川谷	B	1.3	1.3	89	○
	石狩川	空知川	空知大橋	B	0.7	0.6	33	○		常呂川	無加川	常盤橋	未	0.9	0.9	90	-
	石狩川	幾春別川	桂沢ダム	A	0.7	0.8	34	○		湧別川	湧別川	遠軽橋	A	0.6	0.5	91	○
	石狩川	幾春別川	清松橋	A	0.8	0.7	35	○		湧別川	湧別川	中湧別橋	A	0.8	1.0	92	○
	石狩川	幾春別川	新川橋	B	1.0	1.0	36	○		渚滑川	渚滑川	新記念橋	A	0.6	0.7	93	○
	石狩川	夕張川	馬追橋	A	0.6	0.5	37	○		渚滑川	渚滑川	ウツツ橋	A	0.6	0.7	94	○
	石狩川	夕張川	江別大橋	B	0.9	1.0	38	○		渚滑川	渚滑川	渚滑橋	B	0.6	0.7	95	○
	石狩川	千歳川	日の出橋	A	<0.5	<0.5	96	○		阿武隈川	阿武隈川	丸森	B	1.9	2.3	12	○
	石狩川	千歳川	新江別橋	A	1.4	1.5	39	○		阿武隈川	阿武隈川	岩沼	A	1.5	1.8	13	○
	石狩川	漁川	漁川ダム	未	0.7	0.5	40	-		阿武隈川	阿武隈川	須賀川	B	1.1	1.3	1	○
	石狩川	豊平川	豊平鉄ダム	A	<0.5	<0.5	41	○		阿武隈川	阿武隈川	阿久津	B	1.2	1.7	3	○
	石狩川	豊平川	幌平橋	B	0.5	<0.5	97	○		阿武隈川	阿武隈川	高田橋	B	2.1	2.5	4	○
	石狩川	豊平川	豊水大橋	B	0.5	<0.5	42	○		阿武隈川	阿武隈川	黒岩	B	1.6	1.7	5	○
	石狩川	豊平川	中沼	B	1.2	1.3	43	○		阿武隈川	阿武隈川	伏黒	B	1.3	1.4	10	○
	石狩川	小樽内川	空山溪ダム	未	0.5	<0.5	44	-		阿武隈川	秋田堂川	下宿	B	1.0	1.0	2	○
	石狩川	小樽川	19線橋	A	0.7	0.8	45	○		阿武隈川	荒川	荒川橋	A	<0.5	<0.5	6	○
	石狩川	茨戸川	生振大橋	B	2.3	3.3	46	○		阿武隈川	荒川	信夫橋	A	0.5	<0.5	7	○
	石狩川	茨戸川	樽川合流前	B	3.5	4.1	47	○		阿武隈川	松川	松川橋	A	<0.5	<0.5	8	○
	石狩川	茨戸川	生振3線北側地先	B	2.5	3.8	48	○		阿武隈川	摺上川	瀬ノ上橋	A	0.7	0.8	9	○
	石狩川	石狩川	大雪ダム	AA	0.6	0.7	13	○		阿武隈川	広瀬川	舟場	B	1.4	1.4	11	○
	石狩川	石狩川	永山橋	A	0.9	0.7	14	○		阿武隈川	摺上川	摺上川ダム	A	0.7	0.8	15	○
	石狩川	石狩川	伊納大橋	B	1.5	1.6	15	○		阿武隈川	大滝根川	三春ダム	A	1.5	2.2	14	○
	石狩川	牛朱別川	功橋	A	0.7	0.8	21	○		名取川	名取川	名取橋	B	1.3	1.5	20	○
石狩川	牛朱別川	緑橋	B	1.3	1.2	22	○	名取川	名取川	関上大橋	B	1.0	1.1	22	○		
石狩川	忠別川	東神楽橋	A	0.6	0.5	24	○	名取川	名取川	名取川合流前	C	1.3	1.2	19	○		
石狩川	忠別川	忠別ダム	A	0.5	<0.5	23	○	名取川	広瀬川	三橋	B	1.2	1.1	21	○		
石狩川	美瑛川	美瑛緑橋	未	0.5	<0.5	25	-	名取川	太郎川	いもくぼ橋	AA	0.6	<0.5	18	○		
石狩川	オホラッパ川	治水橋	A	0.9	0.9	26	○	名取川	前川	北向橋	AA	0.6	0.5	16	○		
尻別川	尻別川	名駒	A	0.5	0.5	49	○	名取川	北川	北川橋	AA	0.6	0.5	17	○		
尻別川	尻別川	初田橋	A	<0.5	<0.5	50	○	名取川	鳴瀬川	三本木	A	1.1	1.3	23	○		
後志利別川	後志利別川	美利河ダム	AA	0.6	0.7	51	○	鳴瀬川	鳴瀬川	下中ノ目	A	1.1	1.2	24	○		
後志利別川	後志利別川	住吉	AA	0.5	<0.5	52	○	鳴瀬川	鳴瀬川	南郷	A	1.0	1.3	25	○		
後志利別川	後志利別川	今金橋	A	0.6	<0.5	53	○	鳴瀬川	鳴瀬川	小野	B	1.1	1.5	29	○		
後志利別川	後志利別川	兜野橋	B	0.6	<0.5	54	○	鳴瀬川	善川	善川橋	B	1.1	1.5	26	○		
鶴川	鶴川	穂別橋	A	0.5	<0.5	55	○	鳴瀬川	吉田川	落合	B	1.7	2.1	27	○		
鶴川	鶴川	鶴川橋	A	0.6	0.5	56	○	鳴瀬川	吉田川	鹿島台	B	1.6	2.2	28	○		
沙流川	沙流川	長知内橋	A	0.5	<0.5	57	○	北上川	北上川	南大橋	A	1.1	1.3	34	○		
沙流川	沙流川	二風谷ダム	B	0.5	0.5	58	○	北上川	北上川	紫波橋	A	1.5	1.8	35	○		
沙流川	沙流川	平取	B	0.6	<0.5	59	○	北上川	北上川	朝日橋	A	1.4	1.6	39	○		
沙流川	沙流川	沙流川橋	B	0.6	0.6	60	○	北上川	北上川	昭和橋	A	1.4	1.7	40	○		
十勝川	十勝川	土勝ダム	AA	0.5	0.6	61	○	北上川	北上川	珊瑚橋	A	1.5	1.9	41	○		
十勝川	十勝川	共栄橋	AA	0.6	0.7	62	○	北上川	北上川	金ヶ崎橋	A	1.5	1.6	45	○		

- ※1) ○印を表示している調査地点は、一級河川の水質調査地点のうち主要地点として「図-7 平成25年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
- ※2) 表示している数字は、「参考資料7 平成25年一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
- ※3) ○印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、-印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。
- ※ 報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。
- ※ 類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。
- ※ ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料 5 (1) 一級河川の全調査地点の水質 (BOD調査地点) (2/8)

地方	水系名	河川名	地点名	BOD(mg/l)					地方	水系名	河川名	地点名	BOD(mg/l)				
				類型	平均値	75%値	※1	※2					※3	類型	平均値	75%値	※1
東	北上川	北上川	藤橋	A	1.6	1.9	48	○	雄物川	玉川	玉川ダム	AA	0.5	<0.5	100	○	
	北上川	北上川	狐禅寺	A	1.6	1.8	51	○	子吉川	子吉川	宮内	A	1.3	1.6	101	○	
	北上川	北上川	北上大橋	A	1.7	2.0	53	○	子吉川	子吉川	本荘大橋	B	1.2	1.4	102	○	
	北上川	北上川	北上川橋	A	1.6	1.9	54	○	最上川	最上川	糠野目	A	1.1	1.4	103	○	
	北上川	中津川	御殿橋	A	1.2	1.2	32	○	最上川	最上川	小出	A	1.0	1.0	104	○	
	北上川	北上川	東北本線鉄橋	A	1.4	1.4	33	○	最上川	最上川	下野	A	1.1	1.2	106	○	
	北上川	猿ヶ石川	安野橋	A	1.5	1.8	38	○	最上川	最上川	稲下	A	1.2	1.4	108	○	
	北上川	和賀川	九年橋	A	1.0	1.2	44	○	最上川	須川	寺津	B	1.1	1.0	105	○	
	北上川	胆沢川	再巡橋	A	1.4	1.7	47	○	最上川	村山野川	舟戸橋	A	1.1	1.4	109	○	
	北上川	磐井川	上の橋	A	1.0	1.2	49	○	最上川	最上川	高屋	A	0.8	0.9	114	○	
	北上川	磐井川	狐禅寺橋	C	1.9	2.0	50	○	最上川	最上川	砂越	A	0.8	1.0	117	○	
	北上川	砂鉄川	門崎橋	A	1.2	1.3	52	○	最上川	最上川	両羽橋	A	0.8	1.2	118	○	
	北上川	荒雄	荒雄	B	1.0	1.0	60	○	最上川	最上川	東雲橋	A	0.6	0.5	115	○	
	北上川	北上川	大泉	A	1.0	1.1	55	○	最上川	相沢川	宝永橋	A	0.8	0.8	116	○	
	北上川	北上川	飯野川	A	0.9	1.1	57	○	最上川	最上川	堀内	A	0.7	0.8	111	○	
	北上川	旧北上川	和洞	A	1.0	1.2	62	○	最上川	丹生川	丹生川大橋	A	0.7	0.8	110	○	
	北上川	旧北上川	鹿又	B	0.9	1.0	63	○	最上川	鮭川	八千代橋	AA	0.7	0.8	112	○	
	北上川	旧北上川	門脇	B	1.1	1.6	64	○	最上川	鮭川	戸沢橋	A	0.7	0.6	113	○	
	北上川	江合川	短台	B	1.3	1.7	61	○	最上川	置賜白川	白川ダム	A	0.7	0.9	119	○	
	北上川	北上川	登米	A	0.8	0.8	56	○	最上川	寒河江川	中村	AA	0.6	0.6	107	○	
	北上川	前川	前川	AA	0.7	0.8	46	○	最上川	置賜野川	長井ダム	A	0.7	0.9	120	○	
	北上川	和賀川	山室橋	AA	0.7	0.8	42	○	赤川	赤川	東橋	A	0.6	0.5	121	○	
	北上川	小鬼ヶ瀬川	天子森	未	0.8	1.0	43	-	赤川	赤川	蛾眉橋	A	0.8	1.0	122	○	
	北上川	猿ヶ石川	落合橋	A	1.2	1.7	36	○	赤川	赤川	新川橋(浜中)	A	0.8	1.0	123	○	
	北上川	小友川	小友橋	A	1.1	1.3	37	○	赤川	梵字川	月山ダム	A	0.7	0.8	124	○	
	北上川	北上川	船田橋(2)	A	1.4	1.7	30	○	荒川	浦山川	浦山ダム	未	0.6	0.6	139	-	
	北上川	北上川	四十四田橋(2)	A	1.2	1.4	31	○	荒川	中津川	滝沢ダム	未	1.0	1.2	169	-	
	北上川	江合川	轟	AA	0.6	0.5	58	○	久慈川	久慈川	山方	A	0.7	0.8	1	○	
	北上川	江合川	大深沢	AA	0.6	<0.5	59	○	久慈川	久慈川	富岡橋	A	0.6	0.7	2	○	
	馬淵川	馬淵川	柳引橋	A	0.9	1.0	65	○	久慈川	久慈川	榑橋	A	0.8	1.0	5	○	
	馬淵川	馬淵川	尻内橋	B	0.9	1.1	66	○	久慈川	山田川	東橋	A	0.9	1.2	3	○	
	馬淵川	馬淵川	大橋	B	1.0	1.4	67	○	久慈川	里川	新落合橋	A	0.9	1.2	4	○	
	高瀬川	高瀬川	上野	A	0.6	0.6	68	○	那珂川	那珂川	新那珂橋	A	0.8	0.9	6	○	
岩木川	岩木川	上岩木橋	A	0.7	0.6	69	○	那珂川	那珂川	川堀	A	0.8	1.0	7	○		
岩木川	岩木川	安東橋	A	0.6	0.6	70	○	那珂川	那珂川	野口	A	0.9	0.9	8	○		
岩木川	岩木川	幡龍橋	A	1.0	1.1	73	○	那珂川	那珂川	下園井	A	0.8	0.9	9	○		
岩木川	岩木川	鶴寿橋	A	1.1	1.3	75	○	那珂川	那珂川	勝田橋	A	1.2	1.1	10	○		
岩木川	岩木川	乾橋	A	1.1	1.3	76	○	那珂川	那珂川	海門橋	A	1.0	1.1	11	○		
岩木川	岩木川	三好橋	A	1.2	1.3	77	○	那珂川	藤井川	上合橋	A	0.8	0.9	12	○		
岩木川	岩木川	神田橋	A	1.0	1.1	78	○	那珂川	桜川	駅南小橋	C	3.7	4.2	13	○		
岩木川	岩木川	津軽大橋	B	1.1	1.2	79	○	那珂川	桜川	搦手橋	C	3.2	4.1	14	○		
岩木川	岩木川	十三湖中央	B	1.9	1.8	81	○	那珂川	溜沼川	溜沼橋	B	1.4	1.7	15	○		
岩木川	岩木川	山田川河口	B	1.5	1.5	82	○	利根川	利根川	坂東大橋	A	0.9	0.9	16	○		
岩木川	岩木川	鳥谷川河口	B	1.2	1.1	83	○	利根川	利根川	上武大橋	A	0.9	1.0	17	○		
岩木川	岩木川	十三湖大橋	B	1.1	1.1	80	○	利根川	利根川	刀水橋	A	1.1	1.2	18	○		
岩木川	平川	豊平橋	A	0.7	0.8	72	○	利根川	利根川	利根大堰	A	0.9	1.1	19	○		
岩木川	平川	平川橋	A	0.7	0.8	73	○	利根川	利根川	栗橋	A	1.4	1.7	20	○		
岩木川	浅瀬石川	朝日橋	A	0.7	0.8	71	○	利根川	利根川	芽吹橋	A	1.3	1.7	21	○		
米代川	米代川	十二所	B	1.1	1.4	84	○	利根川	利根川	新開橋	B	1.7	2.1	22	○		
米代川	米代川	新真中橋(真中橋)	B	1.2	1.4	85	○	利根川	渡良瀬川	三國橋	B	2.2	3.1	23	○		
米代川	米代川	鷹巣	B	1.2	1.5	86	○	利根川	利根川	巴波川	B	2.6	2.6	24	○		
米代川	米代川	二ッ井	B	1.1	1.6	87	○	利根川	利根川	取手	A	1.6	1.9	26	○		
米代川	米代川	能代	B	1.1	1.4	88	○	利根川	利根川	布川	A	1.9	2.4	27	○		
米代川	小又川	森吉山ダム	未	0.7	0.8	89	-	利根川	利根川	須賀	A	1.9	2.5	28	○		
雄物川	雄物川	椿川	A	1.3	1.5	99	○	利根川	利根川	金江津	A	2.1	2.5	29	○		
雄物川	雄物川	酒崎橋	A	1.0	1.4	90	○	利根川	利根川	水郷大橋(佐原)	A	2.2	3.1	30	○		
雄物川	雄物川	雄物川橋	A	1.3	1.5	93	○	利根川	利根川	河口堰	A	2.5	2.7	31	○		
雄物川	雄物川	大曲橋	A	1.5	1.7	95	○	利根川	利根川	銚子大橋	A	1.5	1.7	32	○		
雄物川	雄物川	岳見橋	A	1.2	1.6	98	○	利根川	小貝川	中郷	A	2.1	2.1	33	○		
雄物川	雄物川	皆瀬川	A	1.2	1.5	92	○	利根川	手賀川	手賀沼水門	未	6.1	7.1	34	-		
雄物川	雄物川	藤木上橋	B	1.7	2.0	94	○	利根川	横利根川	八筋川	未	3.4	3.7	35	-		
雄物川	玉川	長野	A	0.7	0.8	96	○	利根川	江戸川	関宿橋	A	1.3	1.4	36	○		
雄物川	玉川	玉川橋	A	0.7	0.8	97	○	利根川	江戸川	野田橋	A	1.5	1.5	37	○		
雄物川	成瀬川	真入橋(成瀬川橋)	AA	0.8	0.9	91	○	利根川	江戸川	流山橋	A	1.3	1.6	38	○		

※1) ○印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として「図-7 平成25年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
 ※2) 表示している数字は、「参考資料7 平成25年一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
 ※3) ○印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、一印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。
 ※ 報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。
 ※ 類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。
 ※ ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料 5 (1) 一級河川の全調査地点の水質 (BOD調査地点) (3/8)

地方	水系名	河川名	地点名	BOD(mg/l)					地方	水系名	河川名	地点名	BOD(mg/l)					
				類型	平均値	75%値	※1	※2					※3	類型	平均値	75%値	※1	※2
関	利根川	江戸川	新葛飾橋	A	1.5	1.9	○	39	○	多摩川	多摩川	関戸橋	B	1.2	1.3	102	○	
	利根川	江戸川	矢切浄水場取水口	A	1.6	2.0		40	○	多摩川	多摩川	是政橋	B	1.4	1.7	103	○	
	利根川	江戸川	市川橋	B	1.6	2.0		41	○	多摩川	多摩川	多摩川原橋	B	1.8	1.8	104	○	
	利根川	江戸川	江戸川水門(上)	B	1.7	2.4		42	○	多摩川	多摩川	多摩水道橋	B	1.6	1.7	105	○	
	利根川	江戸川放水路	東西線鉄橋下	C	3.8	4.9		43	○	多摩川	多摩川	二子橋	B	2.1	2.7	106	○	
	利根川	利根運河	運河橋	B	6.4	7.7		44		多摩川	多摩川	田園調布堰(上)	B	1.4	1.9	○	107	○
	利根川	利根運河	運河(合流前)	B	9.3	10.0		45		多摩川	多摩川	六郷橋	B	2.4	2.0	108	○	
	利根川	中川	弥生橋	C	3.0	3.1		46	○	多摩川	多摩川	大師橋	B	2.2	2.4	109	○	
	利根川	中川	八条橋	C	3.0	3.0		47	○	多摩川	多摩川	浅川	B	0.7	0.8	110	○	
	利根川	中川	潮止橋	C	4.0	4.5		48	○	多摩川	多摩川	報恩橋	B	0.9	1.0	111	○	
	利根川	中川	飯塚橋	C	4.8	4.7	○	49		多摩川	野川	兵庫橋	D	2.2	3.0	112	○	
	利根川	中川	高砂橋	C	4.3	5.3		50		多摩川	多摩川	新二子橋	B	1.6	2.0	113	○	
	利根川	綾瀬川	槐戸橋	C	3.8	5.0		51	○	多摩川	浅川	鶴巻橋	A	0.6	0.6	114	○	
	利根川	綾瀬川	手代橋	C	4.0	4.6	○	52		鶴見川	鶴見川	魚の子橋	D	3.7	4.3	115	○	
	利根川	綾瀬川	内匠橋	C	3.5	4.0		53	○	鶴見川	鶴見川	大綱橋	E	3.2	3.6	○	116	○
	利根川	渡良瀬川	赤岩用水取水口	A	0.7	0.8		54	○	鶴見川	鶴見川	末吉橋	E	1.8	2.1	117	○	
	利根川	渡良瀬川	葉鹿橋	A	0.7	0.8		55	○	鶴見川	鶴見川	臨港鶴見川橋	E	1.7	1.9	118	○	
	利根川	渡良瀬川	中橋	A	0.9	1.0		56	○	鶴見川	大熊川	大竹橋	未	1.4	1.8	119	-	
	利根川	渡良瀬川	渡良瀬大橋	B	1.8	1.8	○	57	○	鶴見川	鳥山川	又口橋	未	1.3	1.1	120	-	
	利根川	旗川	旗川末流	B	1.7	2.2		58		鶴見川	早淵川	峯大橋	未	1.4	1.5	121	-	
	利根川	矢場川	矢場川水門	C	2.0	2.1		59	○	鶴見川	矢上川	矢上川橋	未	3.0	3.6	122	-	
	利根川	秋山川	秋山川末流	C	1.7	2.1		60	○	相模川	相模川	馬入橋	B	1.4	1.6	○	123	○
	利根川	鬼怒川	上平橋	A	0.9	1.2		61	○	富士川	富士川	富士川橋	A	0.9	1.0	124	○	
	利根川	鬼怒川	鬼怒川橋	A	1.0	1.0		62	○	富士川	富士川	北松野	A	0.7	0.8	125	○	
	利根川	鬼怒川	大道泉橋	A	1.1	1.4		63	○	富士川	富士川	南部	A	0.7	0.7	126	○	
	利根川	鬼怒川	川島橋	A	1.0	1.1	○	64		富士川	富士川	富士橋	A	1.7	1.6	128	○	
	利根川	鬼怒川	平方	A	1.7	1.9		65	○	富士川	富士川	三郡西橋	A	1.0	1.2	129	○	
	利根川	鬼怒川	豊水橋	A	1.7	1.7		66	○	富士川	釜無川	信玄橋	A	0.9	1.2	130	○	
	利根川	鬼怒川	滝下橋	A	1.6	1.7		67	○	富士川	釜無川	船山橋	AA	0.7	0.7	131	○	
	利根川	小貝川	三谷橋	A	1.4	1.5		68	○	富士川	笛吹川	三郡東橋	A	1.6	1.6	132	○	
	利根川	小貝川	養蚕橋	A	1.6	2.0		69	○	富士川	笛吹川	桃林橋	A	1.6	1.7	133	○	
	利根川	小貝川	黒子橋	A	1.4	1.7		70	○	富士川	笛吹川	鶴飼橋	A	1.3	1.4	134	○	
	利根川	小貝川	豊原橋	A	1.6	1.8		71	○	富士川	笛吹川	亀甲橋	A	0.7	0.7	135	○	
	利根川	小貝川	川又橋	A	1.7	2.1		72		富士川	日川	日川橋	A	0.9	1.1	136	○	
	利根川	小貝川	文巻橋	A	1.7	2.2		73		富士川	重川	重川橋	B	2.3	2.3	137	○	
	利根川	利根川	岩本	A	0.8	0.9		74	○	富士川	塩川	塩川橋	未	0.8	0.8	138	-	
	利根川	利根川	群馬大橋	A	0.7	0.8		75	○	富士川	富士川	富山橋	A	1.2	1.6	127	○	
	利根川	鬼怒川	川治第一発電所前	AA	0.5	<0.5		76	○	荒川	荒川	温泉橋	AA	0.7	0.5	1	○	
	利根川	男鹿川	五十里ダム	AA	0.6	0.6		165	○	荒川	荒川	荒川取水堰	AA	0.6	0.6	○	2	○
	利根川	男鹿川	男鹿川末流	AA	0.5	<0.5		77	○	荒川	荒川	荒川橋	AA	0.7	0.7	3	○	
	利根川	鳥川	高松	B	1.6	1.8		78	○	荒川	荒川	旭橋下流	AA	0.6	0.7	4	○	
	利根川	鳥川	岩鼻	B	2.0	2.3		79	○	荒川	大石川	大石ダム	未	0.6	0.6	5	-	
	利根川	鳥川	岩倉橋	B	1.6	2.0		80	○	荒川	横川ダム	湖心	未	1.0	1.0	6	-	
	利根川	神流川	藤武橋	A	0.7	0.8		81	○	阿賀野川	阿賀野川	馬下橋	A	1.0	1.1	12	○	
	利根川	神流川	神流川橋	A	0.7	1.0		82	○	阿賀野川	阿賀野川	横雲橋	A	0.9	1.1	○	13	○
荒川(指定)	荒川	正喜橋	A	0.8	0.9		83	○	阿賀野川	阿賀野川	松浜橋	A	1.0	1.2	14	○		
荒川	荒川	久下橋	A	1.2	1.4		84	○	阿賀野川	阿賀野川	早出川	AA	0.9	1.0	15	○		
荒川	荒川	御成橋	A	1.0	1.3		85	○	阿賀野川	阿賀野川	山科	A	0.8	0.9	11	○		
荒川	荒川	開平橋	A	1.1	1.3		86	○	阿賀野川	阿賀野川	宮古橋	A	0.9	1.0	9	○		
荒川	荒川	治水橋	A	1.3	1.6		87	○	阿賀野川	阿賀野川	馬越橋	A	0.6	0.6	7	○		
荒川	荒川	秋ヶ瀬堰(上)	A	1.7	2.1		88		阿賀野川	日橋川	南大橋	A	0.8	0.9	10	○		
荒川	入間川	落合橋(入)	A	1.1	1.6		89	○	阿賀野川	湯川	新湯川橋	B	2.9	3.6	8			
荒川	入間川	入間大橋	A	2.8	3.8		90		信濃川	信濃川	瑞雲橋	A	1.0	0.9	36	○		
荒川	越辺川	落合橋(越)	B	2.4	3.0		91	○	信濃川	信濃川	庄瀬橋	A	0.9	0.8	37	○		
荒川	高麗川	高麗川大橋	A	0.6	0.6		92	○	信濃川	信濃川	平成大橋	A	1.2	1.3	○	38	○	
荒川	都幾川	東松山橋	A	0.7	0.8		93	○	信濃川	信濃川	萬代橋	A	1.0	1.0	39	○		
荒川	小畔川	荊橋	B	2.5	3.4		94		信濃川	信濃川	河口	A	0.7	0.8	40	○		
荒川	荒川	笹目橋	C	6.6	6.4	○	95		信濃川	信濃川	関屋分水路	未	1.1	1.2	41	-		
荒川	荒川	堀切橋	C	2.2	2.3		96	○	信濃川	信濃川	十日町橋	A	0.9	1.0	27	○		
荒川	荒川	葛西橋	C	1.7	2.1		97	○	信濃川	信濃川	魚沼橋	A	1.1	1.2	28	○		
多摩川	多摩川	永田橋	A	0.7	0.7		98	○	信濃川	信濃川	旭橋	A	1.7	1.7	32	○		
多摩川	多摩川	調布橋	A	0.5	0.5		99	○	信濃川	信濃川	長生橋	A	1.3	1.4	33	○		
多摩川	多摩川	拝島橋	A	0.7	0.7		100	○	信濃川	信濃川	与板橋	A	1.2	1.2	34	○		
多摩川	多摩川	日野橋	B	1.2	1.6		101	○	信濃川	信濃川	渡部橋	A	1.2	1.6	35	○		

※1) ○印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として「図-7 平成25年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
 ※2) 表示している数字は、「参考資料7 平成25年一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
 ※3) ○印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、一印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。
 ※ 報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。
 ※ 類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。
 ※ ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料5(1) 一級河川の全調査地点の水質 (BOD調査地点) (4/8)

		BOD(mg/ℓ)												BOD(mg/ℓ)									
地方	水系名	河川名	地点名	平成25年						地方	水系名	河川名	地点名	平成25年									
				類型	平均値	75%値	※1	※2	※3					類型	平均値	75%値	※1	※2	※3				
北	信濃川	魚野川	小出橋	A	0.7	0.9	29	○	天竜川	天竜川	鹿島橋	AA	0.6	0.7	○	31	○						
	信濃川	魚野川	川口橋	A	1.0	1.2	30	○	天竜川	天竜川	掛塚橋	AA	0.6	0.6		32	○						
	信濃川	三國川	三國川ダム貯水池	未	0.6	0.8	31	-	天竜川	大入川	新豊根ダム貯水池	未	0.8	1.1		36	-						
	信濃川	千曲川	生田	A	1.2	1.5	17	○	天竜川	天竜川	新橋橋	B	1.8	2.2		21	○						
	信濃川	千曲川	千曲橋	A	1.4	1.6	18	○	天竜川	天竜川	中央橋	B	1.5	1.9		22	○						
	信濃川	千曲川	屋島橋	A	1.1	1.2	24	○	天竜川	天竜川	吉瀬ダム	A	1.3	1.6		23	○						
	信濃川	千曲川	立ヶ花橋	A	1.3	1.7	○	25	○	天竜川	天竜川	宮ヶ瀬橋	A	1.3	1.6		24	○					
	信濃川	千曲川	大関橋	A	1.6	2.1		26	○	天竜川	天竜川	阿島橋	A	1.3	1.6		25	○					
	信濃川	犀川	田沢橋	A	1.5	1.9		21	○	天竜川	天竜川	天竜橋	A	1.5	1.8		26	○					
	信濃川	犀川	睦橋	A	1.0	1.1		22	○	天竜川	天竜川	つつじ橋	A	1.3	1.6		27	○					
	信濃川	犀川	小市橋	A	1.0	1.0		23	○	天竜川	天竜川	南宮橋	A	1.4	1.7		28	○					
	信濃川	梓川	倭橋	A	0.6	0.6		19	○	天竜川	天竜川	竜東橋	A	0.8	0.9		34	○					
	信濃川	島橋	島橋	A	2.1	1.9		20	○	天竜川	三峰川	養和ダム貯水池	A	0.7	0.5		33	○					
	信濃川	高瀬川	大町ダム	AA	0.6	0.6		27	○	天竜川	小渋川	小渋ダム貯水池	AA	1.0	1.0		35	○					
	関川	関川	稲田橋	B	1.1	1.2		42	○	豊川	豊川	石田	A	0.8	1.0		37	○					
	関川	関川	春日山橋	B	0.8	0.8		43	○	豊川	豊川	江島橋	A	1.0	1.1	○	38	○					
	関川	関川	直江津橋	B	1.0	1.2	○	44	○	豊川	豊川	当古橋	A	0.9	1.3		39	○					
	関川	保倉川	古城橋	B	1.3	1.5		45	○	豊川	豊川	吉田大橋	B	1.1	1.6		40	○					
	姫川	姫川	山本	AA	0.7	0.7	○	46	○	豊川	豊川放水路	小坂井大橋	C	3.0	2.3		41	○					
	姫川	姫川	姫川大橋	AA	0.8	0.7		47	○	矢作川	矢作川	明治用水頭首工	A	1.0	1.3		43	○					
	黒部川	黒部川	宇奈月	AA	0.6	0.5		48	○	矢作川	矢作川	岩津天神橋	B	1.1	1.2		44	○					
	黒部川	黒部川	愛本橋	AA	0.6	<0.5		49	○	矢作川	矢作川	木戸	B	1.1	1.1		45	○					
	黒部川	黒部川	下黒部橋	AA	0.6	<0.5		50	○	矢作川	矢作川	米津大橋	B	1.1	1.4		46	○					
	黒部川	黒部川	湖面橋	AA	0.6	0.8		51	○	矢作川	矢作川	中畑橋	B	0.9	1.0		47	○					
	常願寺川	常願寺川	常願寺橋	AA	0.6	0.5	○	53	○	矢作川	矢作川	矢作ダム 貯水池	AA	0.9	1.2		42	○					
	常願寺川	常願寺川	今川橋	A	0.6	0.5		54	○	庄内川	小里川	小里川ダム 貯水池基準	B	2.3	2.1		56	○					
	神通川	神通川	神通大橋	A	1.1	1.3	○	58	○	庄内川	庄内川	多治見橋	B	1.3	0.9		48	○					
	神通川	神通川	萩浦橋	B	0.8	0.9		59	○	庄内川	庄内川	天ヶ橋	B	1.2	1.3		49	○					
	神通川	神通川	八幡橋	A	0.8	0.8		55	○	庄内川	庄内川	城嶺橋	B	1.1	1.2		50	○					
	神通川	神通川	落合橋	A	0.6	0.7		56	○	庄内川	庄内川	大留橋	D	1.5	1.5		51	○					
	神通川	神通川	井田川	B	1.8	2.4		57	○	庄内川	庄内川	水分橋	D	3.3	3.5		52	○					
	庄川	庄川	雄神橋	AA	0.5	<0.5		60	○	庄内川	庄内川	枇杷島橋	D	2.8	3.2	○	53	○					
庄川	庄川	大門大橋	A	0.5	0.5	○	61	○	庄内川	庄内川	庄内新川橋	D	1.8	1.8		54	○						
小矢部川	小矢部川	国条橋	A	0.8	1.0		62	○	庄内川	矢田川	天神橋	D	3.1	3.7		55	○						
小矢部川	小矢部川	城光寺橋	B	0.9	1.1	○	63	○	木曽川	木曽川	犬山橋	A	0.7	0.9		59	○						
小矢部川	小矢部川	河口	C	1.4	1.1		64	○	木曽川	木曽川	木曽川橋	A	0.7	0.8		60	○						
手取川	手取川	美川大橋	B	0.6	0.6		67	○	木曽川	木曽川	濃尾大橋	A	0.7	0.8		61	○						
手取川	手取川	辰口橋	A	0.6	0.6		66	○	木曽川	木曽川	新境川	C	1.7	2.3		66	○						
手取川	手取川	白山合口堰堤	A	0.6	0.6	○	65	○	木曽川	木曽川	米野	C	1.7	2.3		66	○						
手取川	手取川	手取川ダム湖心	A	0.6	0.6		68	○	木曽川	木曽川	長良川	A	0.6	0.6	○	67	○						
梯川	梯川	鴨浦橋	A	0.7	0.6		69	○	木曽川	木曽川	長良川	A	0.6	0.6		68	○						
梯川	梯川	能美大橋	A	0.8	1.0		70	○	木曽川	木曽川	長良大橋	A	0.6	0.8		69	○						
梯川	梯川	石田橋	B	0.8	0.8	○	71	○	木曽川	木曽川	伊自良川	A	0.8	0.9		73	○						
中	狩野川	狩野川	大仁橋	A	0.6	0.5		1	○	木曽川	伊自良川	竹橋	C	1.9	2.3		74	○					
	狩野川	狩野川	千歳橋	A	0.5	<0.5		2	○	木曽川	伊自良川	岡島橋	AA	0.7	0.8		77	○					
	狩野川	狩野川	徳倉橋	A	0.7	0.7		3	○	木曽川	伊自良川	摺斐川	AA	0.6	0.7		78	○					
	狩野川	狩野川	黒瀬橋	A	0.7	0.7	○	4	○	木曽川	伊自良川	鷺田橋	AA	0.5	<0.5		82	○					
	狩野川	狩野川	来光川	A	1.1	1.0		7	○	木曽川	伊自良川	山口	AA	0.6	<0.5		80	○					
	狩野川	大場川	塚本橋	B	1.3	1.6		5	○	木曽川	伊自良川	根尾川	AA	0.5	<0.5		82	○					
	狩野川	柿田川	柿田橋	未	<0.5	<0.5		8	-	木曽川	伊自良川	杭瀬川	A	0.7	0.7		85	○					
	狩野川	黄瀬川	黄瀬川橋	C	1.5	1.7		6	○	木曽川	伊自良川	野口橋	A	0.7	0.7		85	○					
	安倍川	安倍川	曙橋	AA	0.5	<0.5		9	○	木曽川	伊自良川	高瀬橋	A	1.2	1.3		86	○					
	安倍川	安倍川	安倍川橋	A	0.5	<0.5	○	10	○	木曽川	伊自良川	横曾根橋	A	0.6	0.6		83	○					
	安倍川	蘆科川	牧ヶ谷橋	AA	<0.5	<0.5		11	○	木曽川	伊自良川	牧田川	C	1.2	1.5		84	○					
	大井川	大井川	神座	AA	0.6	<0.5	○	13	○	木曽川	伊自良川	池辺	C	1.2	1.5		84	○					
	大井川	大井川	谷口橋	A	0.7	0.5		14	○	木曽川	伊自良川	水門川	C	3.0	4.2		87	○					
	大井川	大井川	富士見橋	A	0.8	0.8		15	○	木曽川	伊自良川	東海大橋	A	1.1	1.4		62	○					
	大井川	大井川	長島ダム 貯水池基準点	AA	0.7	0.9		12	○	木曽川	伊自良川	木曽川	A	1.1	1.4		62	○					
	菊川	菊川	加茂橋	A	0.7	0.9		16	○	木曽川	伊自良川	木曽川	A	1.4	1.7		63	○					
	菊川	菊川	高田橋	A	1.1	1.4		17	○	木曽川	伊自良川	横満蔵	A	1.4	1.7		63	○					
	菊川	菊川	国安橋	B	1.1	1.3	○	18	○	木曽川	伊自良川	福岡大橋	A	1.0	0.9		79	○					
	菊川	牛淵川	堂山橋	B	2.5	3.2		20	○	木曽川	伊自良川	揖斐川	A	1.0	0.9		79	○					
	菊川	牛淵川	鹿島橋	B	1.8	1.8		19	○	木曽川	伊自良川	揖斐川	A	1.1	1.0		80	○					
	天竜川	天竜川	秋葉ダム	AA	0.6	0.6		30	○	木曽川	伊自良川	揖斐川	A	1.6	1.3		81	○					
	部	天竜川	天竜川	鹿島橋	AA	0.6	0.6		30	○	木曽川	伊自良川	伊勢大橋	A	1.6	1.3		81	○				
		天竜川	天竜川	掛塚橋	AA	0.6	0.6		30	○	木曽川	伊自良川	多度川	A	1.6	1.6		88	○				
		天竜川	天竜川	大入川	未	0.8	1.1		36	-	木曽川	伊自良川	上之郷	A	1.6	1.6		88	○				
		天竜川	天竜川	千曲川	A	1.2	1.5		17	○	木曽川	伊自良川	南濃大橋	A	0.8	1.0		70	○				
		天竜川	天竜川	千曲川	A	1.4	1.6		18	○	木曽川	伊自良川	長良川	A	0.9	1.1		71	○				
		天竜川	天竜川	千曲川	A	1.1	1.2		24	○	木曽川	伊自良川	長良川	A	0.9	1.1		71	○				
		天竜川	天竜川	千曲川	A	1.3	1.7	○	25	○	木曽川	伊自良川	長良川	A	1.6	1.6		72	○				
		天竜川	天竜川	千曲川	A	1.6	2.1		26	○	木曽川	伊自良川	丸山ダム 貯水池	A	0.6	0.6		58	○				
		天竜川	天竜川	犀川	A	1.5	1.9		21	○	木曽川	伊自良川	勸進橋	AA	0.5	0.5		89	○				
		天竜川	天竜川	犀川	A	1.0	1.1		22	○	木曽川	伊自良川	鈴鹿川	AA	0.6	0.5		90	○				
		天竜川	天竜川	犀川	A	1.0	1.0		23	○	木曽川	伊自良川	鈴鹿川	AA	0.6	0.5		90	○				
天竜川		天竜川	犀川	A	0.6	0.6		19	○	木曽川	伊自良川	鈴鹿川	A	0.7	0.7		91	○					

※1) ○印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として「図-7 平成25年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
 ※2) 表示している数字は、「参考資料7 平成25年一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
 ※3) ○印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、一印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。
 ※ 報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。
 ※ 類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。
 ※ ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料 5 (1) 一級河川の水質 (BOD調査地点) (5/8)

地方	水系名	河川名	地点名	BOD(mg/l)					地方	水系名	河川名	地点名	BOD(mg/l)				
				平成25年	平均値	75%値	※1	※2					※3	平成25年	平均値	75%値	※1
中	鈴鹿川	鈴鹿川	庄野橋	A	0.7	0.6	92	○	淀川	木津川	木津川御幸橋	A	0.9	0.9	61	○	
	鈴鹿川	鈴鹿川	高岡橋	A	0.7	0.7	93	○	淀川	木津川	大野木橋	A	1.0	1.0	42	○	
	鈴鹿川	鈴鹿川	小倉橋	A	0.7	0.6	94	○	淀川	木津川	長田橋	A	1.3	1.5	43	○	
	鈴鹿川	安楽川	和泉橋	AA	0.6	0.5	96	○	淀川	木津川	岩倉橋	A	1.1	1.2	45	○	
	鈴鹿川	内部川	河原田橋	A	0.8	0.9	95	○	淀川	木津川	島ヶ原大橋	A	1.3	1.6	46	○	
	雲出川	雲出川	大仰橋	A	0.9	1.1	97	○	淀川	木津川	笹瀬橋	A	1.4	1.7	47	○	
	雲出川	雲出川	雲出橋	A	1.7	1.6	98	○	淀川	服部川	伊賀上野橋	A	1.1	1.1	44	○	
	雲出川	中村川	小川橋	AA	1.0	1.1	99	○	淀川	名張川	高山ダム下流	未	0.8	0.8	55	-	
	榑田川	榑田川	向郡橋	A	0.7	0.7	101	○	淀川	名張川	新夏見橋	A	1.3	0.9	49	○	
	榑田川	榑田川	榑田川	A	0.9	1.0	102	○	淀川	名張川	名張	A	1.3	1.1	51	○	
	榑田川	蓮川	蓮ダム貯水池基準点	未	0.8	1.0	100	-	淀川	名張川	家野橋	A	1.0	1.2	52	○	
	宮川	宮川	岩出	AA	0.5	0.5	103	○	淀川	宇陀川	高倉橋	A	0.9	1.1	56	○	
	宮川	宮川	度会橋	AA	0.6	0.7	104	○	淀川	宇陀川	室生路橋	A	1.2	1.0	58	○	
	宮川	勢田川	勢田大橋	C	3.7	4.7	105	○	淀川	宇陀川	辻堂橋	A	0.8	0.9	57	○	
	木曽川	阿木川	阿木川ダム	A	1.0	1.2	64	○	淀川	宇陀川	安部田	未	0.8	1.0	50	-	
木曽川	馬瀬川	岩屋ダム	AA	0.9	1.1	65	○	淀川	淀川	枚方大橋中央	B	1.1	1.2	68	○		
木曽川	揖斐川	徳山ダム	AA	0.7	0.7	75	○	淀川	淀川	鳥飼大橋中央	B	1.2	1.1	69	○		
近	新宮川	熊野川	熊野大橋	A	0.5	<0.5	2	○	淀川	淀川	柴島	B	1.4	1.6	70	○	
	新宮川	熊野川	熊野川河口	A	0.7	0.7	4	○	淀川	淀川	菅原城北大橋	B	0.8	1.0	70	○	
	新宮川	市田川	市田川河口	E	4.5	5.7	3	○	淀川	淀川	伝法大橋	C	4.2	3.6	71	○	
	新宮川	川原樋川	川原樋川取水口	AA	0.6	0.5	1	○	淀川	芥川	鷲打橋	A	1.2	1.2	72	○	
	紀の川	紀の川	大川橋	A	0.7	0.7	5	○	淀川	猪名川	銀橋	A	0.8	0.8	74	○	
	紀の川	紀の川	御蔵橋	A	0.7	0.7	6	○	淀川	猪名川	呉服橋	A	0.9	1.1	75	○	
	紀の川	紀の川	恋野橋	A	0.7	0.7	7	○	淀川	猪名川	最明寺川流末	未	1.0	1.0	76	-	
	紀の川	紀の川	岸上橋	A	0.8	0.8	8	○	淀川	猪名川	軍行橋	A	0.8	0.9	77	○	
	紀の川	紀の川	三谷橋	A	0.9	1.1	9	○	淀川	内川	内川流末	未	1.7	1.5	78	-	
	紀の川	紀の川	藤崎井堰	A	0.9	1.1	10	○	淀川	駄六川	駄六川流末	未	1.4	1.3	79	-	
	紀の川	貴志川	高島橋	A	1.2	1.3	11	○	淀川	猪名川	利倉	D	7.8	9.7	81	○	
	紀の川	紀の川	船戸	A	1.0	1.1	12	○	淀川	藻川	中園橋	B	1.1	1.3	82	○	
	紀の川	紀の川	新六ヶ井堰	A	1.4	1.5	13	○	淀川	猪名川	猪名川橋	D	0.9	1.0	80	○	
	紀の川	紀の川	紀の川大橋	A	1.1	1.2	14	○	加古川	加古川	板波	B	1.0	1.1	83	○	
	紀の川	紀の川	太瀬ダム湖ダムサイト	AA	1.0	1.1	15	○	加古川	加古川	大住橋	B	1.2	1.4	84	○	
大和川	初瀬川	上吐田	C	2.8	3.2	17	○	加古川	加古川	国包	B	1.4	1.5	85	○		
大和川	大和川	太子橋	C	3.6	4.0	18	○	加古川	加古川	池尻	B	1.4	1.6	86	○		
大和川	大和川	御幸大橋	C	3.0	3.2	21	○	加古川	加古川	相生橋	B	1.0	1.0	87	○		
大和川	大和川	藤井	C	2.8	3.2	22	○	加古川	東条川	古川橋	未	1.5	1.7	88	-		
大和川	大和川	国豊橋	C	2.4	2.6	23	○	加古川	万願寺川	西脇橋	未	1.4	1.5	89	-		
大和川	大和川	河内橋	C	1.9	2.0	25	○	揖保川	揖保川	曲里	A	0.6	0.6	90	○		
大和川	大和川	浅香新取水口	C	1.6	1.7	26	○	揖保川	揖保川	山崎	A	0.6	0.7	91	○		
大和川	大和川	遠里小野橋	D	1.9	2.0	27	○	揖保川	揖保川	猪崎	A	0.7	0.7	92	○		
大和川	佐保川	郡界橋	C	2.3	2.5	29	○	揖保川	揖保川	龍野	A	0.7	0.7	93	○		
大和川	佐保川	井筒橋	C	3.4	3.8	16	○	揖保川	揖保川	上川原	B	0.7	0.8	94	○		
大和川	佐保川	額田部高橋	C	2.8	3.2	28	○	揖保川	揖保川	本町橋	B	0.7	0.8	95	○		
大和川	曾我川	小柳橋	C	3.4	4.4	19	○	揖保川	揖保川	林田川	未	0.9	1.1	96	-		
大和川	曾我川	保橋	C	2.6	3.2	20	○	九頭竜川	九頭竜川	中角	A	0.6	0.6	99	○		
大和川	石川	石川橋	B	1.1	1.2	24	○	九頭竜川	九頭竜川	高屋橋	A	0.7	0.7	100	○		
淀川	瀬田川	洗堰下	A	1.1	1.3	30	○	九頭竜川	九頭竜川	布施田	B	0.8	0.9	103	○		
淀川	野洲川	石部	A	0.8	0.9	32	○	九頭竜川	九頭竜川	九頭竜川河口	B	0.8	0.7	104	○		
淀川	野洲川	服部	A	0.7	0.8	33	○	九頭竜川	日野川	日光橋	B	1.3	1.7	102	○		
淀川	宇治川	大峰橋(天ヶ瀬ダム湖)	A	1.4	1.6	34	○	九頭竜川	日野川	深谷	B	0.9	1.3	101	○		
淀川	宇治川	観月橋	B	0.9	1.0	38	○	九頭竜川	九頭竜川	九頭竜ダム湖	AA	1.0	1.3	97	○		
淀川	宇治川	宇治川大橋	B	1.1	1.0	40	○	九頭竜川	真名川	真名川ダム湖	未	1.0	1.2	98	-		
淀川	山科川	中野橋	未	3.2	3.4	37	-	北川	北川	上中橋	A	0.6	0.5	105	○		
淀川	東高瀬川	三栖橋	未	1.5	1.2	39	-	北川	北川	高塚	A	0.6	0.6	106	○		
淀川	桂川	渡月橋	A	0.7	0.9	63	○	北川	北川	西津橋	A	0.5	<0.5	107	○		
淀川	桂川	西大橋	A	0.7	0.9	64	○	由良川	由良川	以久田橋	A	0.6	0.7	109	○		
淀川	桂川	久世橋	A	0.7	0.8	65	○	由良川	由良川	音無瀬橋	A	0.7	0.8	110	○		
淀川	桂川	羽束師橋	A	0.8	0.9	66	○	由良川	由良川	管巻橋	A	0.8	0.9	111	○		
淀川	桂川	宮前橋	A	1.0	1.1	67	○	由良川	由良川	波美橋	A	0.6	0.6	112	○		
淀川	宇治川	宇治橋	A	1.1	0.9	35	○	由良川	由良川	由良川橋	A	1.0	1.1	113	○		
淀川	宇治川	隠元橋	A	1.0	1.0	36	○	由良川	土師川	土師橋	A	0.7	0.8	108	○		
淀川	宇治川	宇治川御幸橋	B	1.1	1.2	41	○	円山川	円山川	府市場	A	0.6	0.6	114	○		
淀川	木津川	加茂恭仁大橋	A	0.9	1.0	59	○	円山川	円山川	立野	B	1.6	0.8	116	○		
淀川	木津川	玉木橋	A	0.9	1.0	60	○	円山川	円山川	結和橋	B	2.1	3.2	117	○		

※1) ○印を表示している調査地点は、一級河川の水質調査地点のうち主要地点として「図-7 平成25年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
 ※2) 表示している数字は、「参考資料7 平成25年一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
 ※3) ○印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、-印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。
 ※ 報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。
 ※ 類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。
 ※ ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料5(1) 一級河川の水質 (BOD調査地点) (6/8)

地方	水系名	河川名	地点名	BOD(mg/l)					地方	水系名	河川名	地点名	BOD(mg/l)				
				類型	平均値	75%値	※1	※2					※3	類型	平均値	75%値	※1
畿	円山川	円山川	港大橋	B	1.3	1.8	118	○	太田川	太田川	柴木川下流	A	0.7	0.8	77	○	
	円山川	出石川	弘原	未	0.5	0.5	115	-	太田川	太田川	加計	A	0.7	0.9	78	○	
	淀川	名張川	高山ダム湖	未	1.5	1.7	54	-	太田川	太田川	高山川下流	A	0.7	0.7	79	○	
	淀川	青蓮寺川	青蓮寺ダム湖	未	0.9	1.0	48	-	太田川	太田川	壬辰橋	A	0.7	0.8	80	○	
	淀川	名張川	比奈知ダム湖	A	0.9	0.9	53	○	太田川	太田川	太田川橋	A	0.6	0.7	81	○	
	淀川	桂川	新水池堰池 (日吉ダム)	A	0.5	<0.5	62	○	太田川	太田川	玖村	A	0.9	1.1	82	○	
	淀川	一庫ダム	一庫ダム	未	1.9	2.2	73	-	太田川	太田川	矢口川上流	A	0.9	1.1	83	○	
	淀川	瀬田川	唐橋流心	A	0.8	0.9	31	○	太田川	太田川	旭橋	B	1.4	1.9	84	○	
	吉井川	吉井川	和気橋	未	1.0	1.1	49	-	太田川	滝山川	滝山川河口	A	0.9	1.0	85	○	
	千代川	千代川	佐貫	AA	0.7	0.8	2	○	太田川	根谷川	根の谷橋	B	1.1	1.3	86	○	
千代川	千代川	稲常	AA	0.7	0.8	3	○	太田川	三篠川	深川橋	A	0.8	0.9	87	○		
千代川	千代川	源太橋	AA	0.7	0.9	4	○	太田川	古川	東原	B	1.0	1.1	88	○		
千代川	千代川	行徳	A	0.8	1.0	5	○	太田川	旧太田川	舟入橋	A	1.2	1.3	90	○		
千代川	千代川	賀露	A	0.8	0.9	6	○	太田川	天満川	昭和太橋	A	1.2	1.2	89	○		
千代川	袋川	宮ノ下	未	0.9	1.1	10	-	太田川	元安川	南太橋	A	1.1	1.2	91	○		
千代川	袋川	美保橋	未	1.1	1.3	11	-	芦田川	芦田川	久佐	A	1.2	1.4	67	○		
千代川	袋川	中郷橋	未	1.6	1.9	7	-	芦田川	芦田川	大渡橋	A	1.1	1.3	68	○		
千代川	旧袋川	秋里	未	1.8	2.3	8	-	芦田川	芦田川	府中大橋	A	1.2	1.5	69	○		
千代川	旧袋川	浜坂	未	1.9	2.5	12	-	芦田川	芦田川	上戸手	A	1.3	1.3	70	○		
千代川	千代川	用瀬	AA	0.7	0.8	1	○	芦田川	芦田川	中津原	A	1.6	1.9	71	○		
千代川	袋川	谷	未	0.8	0.9	9	-	芦田川	芦田川	山手橋	A	2.4	2.8	72	○		
天神川	天神川	今泉	AA	0.5	0.5	13	○	芦田川	芦田川	小水呑橋	B	3.6	5.5	73	○		
天神川	天神川	大原	AA	0.5	0.5	14	○	芦田川	砂川	中須	未	2.0	2.2	74	-		
天神川	天神川	小田	A	0.6	0.6	15	○	芦田川	高屋川	川北	A	2.7	2.9	75	○		
天神川	天神川	田後	A	0.6	0.6	16	○	芦田川	高屋川	横尾	B	2.7	3.1	76	○		
天神川	小鴨川	関金	未	<0.5	<0.5	17	-	高梁川	高梁川	湛井堰	A	0.9	1.0	62	○		
天神川	小鴨川	河原町	未	<0.5	<0.5	18	-	高梁川	高梁川	川辺橋	B	0.8	1.1	63	○		
天神川	小鴨川	巖城	未	0.6	0.6	19	-	高梁川	高梁川	笠井堰	B	0.9	1.1	64	○		
天神川	国府川	福光	未	0.6	0.6	20	-	高梁川	高梁川	霞橋	B	1.3	1.3	65	○		
日野川	日野川	溝口	AA	0.6	0.6	21	○	高梁川	小田川	福松橋	B	1.5	2.2	66	○		
日野川	日野川	八幡	AA	0.7	0.6	22	○	旭川	旭川	合同堰	A	0.8	0.9	56	○		
日野川	日野川	車尾	A	0.7	0.6	23	○	旭川	旭川	乙井手堰	A	0.8	1.0	57	○		
日野川	日野川	皆生	A	0.8	0.7	24	○	旭川	旭川	相生橋	B	0.8	0.9	58	○		
日野川	日野川	印賀川	未	1.4	1.0	27	-	旭川	旭川	桜橋	B	0.9	1.3	59	○		
日野川	法勝寺川	法勝寺	未	0.8	0.9	25	-	旭川	旭川	旭川大橋	未	2.5	0.9	60	-		
日野川	法勝寺川	福市	未	0.9	0.8	26	-	旭川	百間川	清内橋	C	2.1	2.3	61	○		
斐伊川	斐伊川	里熊	AA	0.7	0.7	28	○	吉井川	吉井川	熊山橋	B	0.9	1.0	50	○		
斐伊川	斐伊川	大津	AA	0.6	0.6	29	○	吉井川	吉井川	弓削橋	B	0.9	1.1	51	○		
斐伊川	神戸川	馬木	A	0.6	0.6	30	○	吉井川	吉井川	備前大橋	B	0.9	1.1	52	○		
斐伊川	神戸川	神戸川河口	A	0.7	0.7	31	○	吉井川	吉井川	鴨越堰	B	1.1	1.1	53	○		
江の川	江の川	都賀大橋	A	0.6	0.5	40	○	吉井川	吉井川	永安橋	B	2.4	2.2	54	○		
江の川	江の川	川本大橋	A	0.6	0.5	41	○	吉井川	金剛川	宮橋	A	0.7	0.7	55	○		
江の川	江の川	桜江大橋	A	0.6	0.5	42	○	江の川	上下川	灰塚ダム	A	1.3	1.4	37	○		
江の川	江の川	江川橋	A	0.6	0.7	43	○	重信川	重信川	川口大橋	A	0.8	1.0	1	○		
江の川	江の川	吉田	A	1.0	1.1	32	○	重信川	重信川	出合橋	A	1.1	1.5	2	○		
江の川	江の川	栗屋	A	1.0	1.1	33	○	重信川	重信川	中川原橋	A	1.1	1.6	3	○		
江の川	江の川	尾関山	A	1.0	1.2	34	○	重信川	重信川	重信橋	AA	0.5	<0.5	4	○		
江の川	江の川	三国橋	A	0.9	1.1	35	○	重信川	重信川	押志大橋	AA	0.8	1.0	5	○		
江の川	馬洗川	雨畑敷	A	1.3	1.4	36	○	重信川	石手川	市坪	C	1.6	2.0	6	○		
江の川	西城川	三次	A	0.7	0.8	38	○	重信川	石手川	石手川ダム	AA	1.0	1.0	7	○		
江の川	神野瀬川	神野瀬川	A	0.8	0.8	39	○	肱川	肱川	肱川橋	A	0.6	0.6	11	○		
高津川	高津川	神田橋	AA	0.5	0.5	45	○	肱川	肱川	祇園大橋	A	0.6	0.7	10	○		
高津川	高津川	金地橋	AA	0.5	<0.5	46	○	肱川	肱川	大和橋	A	0.7	0.9	9	○		
高津川	高津川	高角	A	0.5	<0.5	47	○	肱川	肱川	長浜大橋	A	0.6	0.7	8	○		
高津川	高津川	高津大橋	A	0.5	0.5	48	○	肱川	矢落川	新大橋	A	0.6	0.8	15	○		
佐波川	佐波川	揺	A	0.7	0.7	95	○	肱川	矢落川	生々橋	A	1.6	1.4	14	○		
佐波川	佐波川	漆尾	A	0.5	0.5	96	○	肱川	肱川	野村ダム	A	1.2	1.2	13	○		
佐波川	佐波川	真尾	A	0.6	0.6	97	○	渡川	四万十川	下田	AA	1.6	2.1	16	○		
佐波川	佐波川	新橋	A	0.6	0.7	98	○	渡川	四万十川	具同	AA	0.5	0.5	17	○		
佐波川	佐波川	佐波川大橋	B	0.7	0.7	99	○	渡川	中筋川	山路橋	B	1.2	1.2	19	○		
小瀬川	小瀬川	小川津	AA	1.0	0.9	92	○	渡川	後川	後川橋	A	0.5	0.5	18	○		
小瀬川	小瀬川	両国橋	A	1.0	1.2	93	○	渡川	中筋川	中筋川ダム	B	0.6	0.7	20	○		
小瀬川	小瀬川	大和橋	B	1.0	1.2	94	○	仁淀川	仁淀川	伊野	AA	0.5	<0.5	24	○		
								仁淀川	仁淀川	八田堰	AA	0.5	0.5	23	○		

- ※1) ○印を表示している調査地点は、一級河川の水質調査地点のうち主要地点として「図-7 平成25年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
- ※2) 表示している数字は、「参考資料7 平成25年一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
- ※3) ○印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、一印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。
- ※ 報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。
- ※ 類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。
- ※ ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料5(1) 一級河川の全調査地点の水質 (BOD調査地点) (7/8)

地方	水系名	河川名	地点名	BOD(mg/l)					地方	水系名	河川名	地点名	BOD(mg/l)						
				類型	平均値	75%値	※1	※2					※3	類型	平均値	75%値	※1	※2	※3
四国	仁淀川	仁淀川	中島	AA	0.5	<0.5		22	○	嘉瀬川	嘉瀬川	久保田橋	D	1.7	2.1		128	○	
	仁淀川	仁淀川	仁西	AA	0.5	<0.5		21	○	嘉瀬川	嘉瀬川	石井樋	A	1.2	1.1		126	○	
	仁淀川	宇治川	音竹	C	1.7	2.1		27	○	筑後川	筑後川	杖立	AA	0.6	0.6		111	○	
	仁淀川	波介川	小野橋	B	1.2	1.2		26	○	筑後川	筑後川	柚木	A	0.9	0.9		112	○	
	仁淀川	仁淀川	大渡ダム	AA	0.7	0.7		25	○	筑後川	筑後川	大宮橋	A	0.8	0.8		114	○	
	物部川	物部川	山田堰	A	0.7	0.8	○	30	○	筑後川	筑後川	三隈大橋	A	0.8	0.9		115	○	
	物部川	物部川	戸板島	A	1.1	0.8		29	○	筑後川	筑後川	島内堰	A	0.7	0.8		116	○	
	物部川	物部川	深瀬	A	0.6	0.7		28	○	筑後川	筑後川	川下	A	0.9	0.9		117	○	
	那賀川	那賀川	那賀川橋	A	0.6	0.6	○	33	○	筑後川	筑後川	荒瀬	A	0.9	1.0		118	○	
	那賀川	吉野川	富岡新橋	B	1.1	1.4		36	○	筑後川	筑後川	片ノ瀬	A	1.0	1.1		119	○	
	那賀川	桑野川	領家	B	0.8	0.8		35	○	筑後川	筑後川	神代橋	A	1.0	1.1		120	○	
	那賀川	那賀川	長安ロダム	AA	0.8	1.2		34	○	筑後川	筑後川	瀬ノ下	A	1.5	2.0		121	○	
	吉野川	吉野川	脇町潜水橋	A	0.5	<0.5		38	○	筑後川	筑後川	六五郎橋	B	1.4	1.9		122	○	
	吉野川	吉野川	高瀬橋	A	0.5	0.5	○	37	○	筑後川	筑後川	宝満川	B	1.8	1.6		124	○	
	吉野川	旧吉野川	市場橋	A	0.6	0.7		43	○	筑後川	筑後川	玖珠川	A	0.8	0.7		123	○	
	吉野川	旧吉野川	牛屋島橋	A	0.7	0.7		42	○	筑後川	筑後川	大山水辺プラザ	A	0.9	1.0		113	○	
	吉野川	旧吉野川	大津橋	B	0.9	0.9		41	○	筑後川	津江川	下笠ダムS-1	未	1.0	1.1		149	-	
	吉野川	今切川	鯛浜堰上流	C	0.9	1.1		45	○	矢部川	矢部川	船小屋	A	0.9	1.1	○	106	○	
	吉野川	今切川	加賀須野橋	B	1.0	1.1		44	○	矢部川	矢部川	瀬高	A	1.9	2.8		107	○	
	吉野川	貞光川	貞光	未	<0.5	<0.5		48	-	矢部川	矢部川	浦島橋	B	1.2	1.3		108	○	
	吉野川	穴吹	穴吹	未	<0.5	<0.5		47	-	矢部川	飯江川	古賀橋	A	1.6	1.8		109	○	
	吉野川	鮎喰川	鮎喰	未	1.1	1.4		46	-	矢部川	飯江川	丁字橋	C	1.6	2.0		110	○	
	吉野川	吉野川	池田ダム	A	0.6	0.6		39	○	菊池川	菊池川	広瀬	A	0.9	0.9		97	○	
	吉野川	銅山川	富郷ダム	AA	0.8	0.9		51	○	菊池川	菊池川	中富	A	0.8	1.0		98	○	
	土器川	土器川	丸亀橋	A	1.7	2.2	○	52	○	菊池川	菊池川	山鹿	A	1.0	1.2	○	99	○	
	土器川	土器川	祓川橋	A	0.6	0.6		53	○	菊池川	菊池川	白石	A	1.6	1.3		100	○	
	土器川	土器川	常包橋	A	0.7	0.8		54	○	菊池川	菊池川	高瀬	A	1.4	1.0		101	○	
	九州	遠賀川	遠賀川	鶴三緒	B	1.6	1.7		1	○	菊池川	菊池川	迫間川	A	0.8	1.0		102	○
		遠賀川	遠賀川	川島	B	1.5	1.9		2	○	菊池川	菊池川	合志川	A	1.9	2.0		103	○
		遠賀川	遠賀川	日の出橋	B	2.0	2.6	○	3	○	菊池川	岩野川	八幡	未	1.0	1.1		104	-
		遠賀川	遠賀川	伊佐座	B	2.2	2.9		4	○	菊池川	繁根木川	永徳寺	未	1.2	1.0		105	-
		遠賀川	遠賀川	芦屋	B	1.5	1.7		5	○	白川	白川	小磯橋	B	0.9	1.2		94	○
		遠賀川	徳波川	東町橋	B	1.4	1.5		6	○	白川	白川	代継橋	B	0.9	1.0		95	○
		遠賀川	彦山川	今任橋	A	1.1	1.0		7	○	白川	白川	小島橋	B	1.3	1.3	○	96	○
		遠賀川	彦山川	櫛橋	B	2.2	2.3		8	○	緑川	緑川	中甲橋	A	0.8	1.0		87	○
		遠賀川	彦山川	中島	B	2.4	2.7		9	○	緑川	緑川	城南	A	1.4	1.9		88	○
		遠賀川	金辺川	高木橋	A	1.8	2.0		10	○	緑川	緑川	上杉堰	A	1.3	1.6		89	○
		遠賀川	遠賀川	皆添橋	B	2.1	2.3		11	○	緑川	緑川	平木橋	B	1.5	1.7		90	○
		遠賀川	犬鳴川	春日橋	B	1.2	1.4		12	○	緑川	御船川	五庵橋	A	0.6	0.8		91	○
		遠賀川	犬鳴川	粥田橋	B	1.4	1.7		13	○	緑川	加勢川	大六橋	A	1.3	1.4		92	○
遠賀川		西川	島津橋	B	2.2	2.8		14	○	緑川	浜戸川	大曲	B	1.5	1.8		93	○	
松浦川		松浦川	舞鶴橋	A	1.0	0.9		139	○	球磨川	球磨川	多良木	A	0.5	<0.5		73	○	
松浦川		松浦川	久里橋	A	1.3	1.4	○	138	○	球磨川	球磨川	人吉	A	0.5	0.5		74	○	
松浦川		松浦川	徳須恵川	A	1.0	1.1		143	○	球磨川	球磨川	西瀬橋	A	0.6	0.5		75	○	
松浦川		松浦川	牟田部	A	1.0	1.0		137	○	球磨川	球磨川	天狗橋	A	0.6	0.6		76	○	
松浦川		松浦川	浦の川橋	A	0.7	0.8		142	○	球磨川	球磨川	横石	A	0.6	0.7	○	77	○	
松浦川		松浦川	和田山橋	A	1.0	1.0		136	○	球磨川	球磨川	萩原橋	A	0.7	0.7		78	○	
松浦川		松浦川	古川橋	A	<0.5	<0.5		140	○	球磨川	球磨川	金剛橋	A	0.7	0.9		79	○	
松浦川		松浦川	巖木ダクAK-1	A	0.9	0.8		150	○	球磨川	前川	前川橋	A	0.7	0.9		80	○	
松浦川		松浦川	観音橋	A	0.5	<0.5		141	○	球磨川	川辺川	五木宮園	AA	<0.5	<0.5		81	○	
本明川		本明川	鉄道橋	A	0.6	0.6		144	○	球磨川	川辺川	神屋敷	AA	<0.5	<0.5		82	○	
本明川		本明川	天満公園前	B	0.7	0.8		145	○	球磨川	川辺川	五木	AA	<0.5	<0.5		83	○	
本明川		本明川	旭町	B	0.7	0.8	○	146	○	球磨川	川辺川	四浦	A	<0.5	<0.5		84	○	
本明川		半造川	半造橋	未	2.0	2.3		148	-	球磨川	川辺川	柳瀬	A	<0.5	<0.5		85	○	
本明川		本明川	不知火	B	1.5	1.7		147	○	球磨川	球磨川	元井谷	未	<0.5	<0.5		86	-	
六角川		牛津川	羽佐間堰	C	0.8	0.8		134	○	川内川	川内川	亀沢橋	A	0.6	0.5		65	○	
六角川		牛津川	道祖元橋	A	0.8	0.8		133	○	川内川	川内川	栗野	A	0.7	<0.5		66	○	
六角川		牛津川	砥川大橋	D	2.4	3		135	○	川内川	川内川	曾木大橋	A	0.6	0.7		67	○	
六角川		六角川	新橋	D	2.2	2.2		130	○	川内川	川内川	神子	A	0.7	0.9		68	○	
六角川		六角川	六角橋	D	1.1	1.2		131	○	川内川	川内川	斧瀬	A	0.7	0.9		69	○	
六角川		六角川	住ノ江橋	E	1.8	2.2	○	132	○	川内川	川内川	中郷	A	0.6	0.7	○	70	○	
六角川		六角川	潮見橋	A	1.0	1.1		129	○	川内川	川内川	小倉	A	1	0.9		71	○	
嘉瀬川		嘉瀬川	官人橋	A	1.2	1.3	○	125	○	川内川	川内川	花北	未	0.6	<0.5		72	-	
嘉瀬川		嘉瀬川	嘉瀬橋	A	1.4	1.7		127	○	肝属川	肝属川	朝日橋	B	2	2.1		57	○	

※1) ○印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として「図-7 平成25年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
 ※2) 表示している数字は、「参考資料7 平成25年一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
 ※3) ○印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、一印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。
 ※ 報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。
 ※ 類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。
 ※ ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料 5 (1) 一級河川の全調査地点の水質 (BOD調査地点) (8/8)

地方	水系名	河川名	地点名	BOD(mg/l)					
				平成25年					
				類型	平均値	75%値	※1	※2	※3
九州	肝属川	肝属川	河原田橋	B	2.3	2.8	○	58	○
	肝属川	肝属川	俣瀬	A	1.6	1.6		59	○
	肝属川	肝属川	第二有明橋	A	0.8	0.9		60	○
	肝属川	下谷川	田崎橋	未	1.2	1.2		61	-
	肝属川	始良川	始良橋	未	0.7	<0.5		62	-
	肝属川	高山川	新前田橋	未	0.8	<0.5		63	-
	肝属川	串良川	串良橋	A	1.3	1.4		64	○
	大淀川	大淀川	岳下橋	A	1.8	2.1		43	
	大淀川	大淀川	志比田橋	B	1.7	2.1		44	○
	大淀川	大淀川	乙房橋	B	1.5	1.7		45	○
	大淀川	大淀川	樋渡橋	A	1.0	1.4		46	○
	大淀川	大淀川	大ノ丸橋	A	1.2	1.4		47	○
	大淀川	大淀川	相生橋	A	0.9	0.9	○	48	○
	大淀川	大淀川	小戸之橋	A	0.7	0.7		49	○
	大淀川	年見川	宮丸橋	A	1.0	1.1		50	○
	大淀川	本庄川 (徳島川)	綾南川橋	A	0.6	0.6		52	○
	大淀川	本庄川	本庄橋	A	0.6	0.6		53	○
	大淀川	本庄川	柳瀬橋	A	0.7	0.8		54	○
	大淀川	綾北川	入野橋	A	0.6	0.6		51	○
	大淀川	深年川	太田原橋	A	0.7	0.7		55	○
	大淀川	八重川	番所橋	未	2.5	4.2		56	-
	小丸川	小丸川	高城橋	AA	0.6	0.6	○	40	○
	小丸川	小丸川	高鍋大橋	A	0.6	0.7		41	○
	小丸川	宮田川	宮田川水門	B	1.0	1.0		42	○
	五ヶ瀬川	五ヶ瀬川	三輪	A	0.5	0.5		35	○
	五ヶ瀬川	五ヶ瀬川	松山橋	A	0.5	0.5	○	36	○
	五ヶ瀬川	大瀬川	大瀬橋	A	0.5	0.5		37	○
	五ヶ瀬川	祝子川	中州合流点	A	0.9	0.8		38	○
	五ヶ瀬川	北川	白石	A	0.6	0.5		39	○
	番匠川	番匠川	番匠橋	A	0.5	<0.5	○	31	○
	番匠川	番匠川	水路橋	A	1.0	0.7		32	○
	番匠川	番匠川	番匠川河口	A	0.8	0.9		33	○
	番匠川	堅田川	茶屋ヶ鼻橋	A	0.9	0.9		34	○
	大野川	大野川	白滝橋	A	0.9	1.1	○	27	○
	大野川	大野川	鶴崎橋	A	2.2	2.6		28	
	大野川	大野川	家島	A	1.2	1.5		29	○
	大野川	乙津川	海原橋	A	1.4	1.6		30	○
	大分川	大分川	明礮橋	A	1.2	1.2		22	○
	大分川	大分川	府内大橋	A	1.1	1.2	○	23	○
	大分川	大分川	広瀬橋	B	1.4	1.7		24	○
	大分川	大分川	弁天大橋	B	1.2	1.6		25	○
	大分川	七瀬川	光吉	A	0.9	0.8		26	○
	山国川	山国川	柿坂	A	0.9	1.0		15	○
	山国川	山国川	上曾木	A	0.9	1.1		16	○
	山国川	山国川	下唐原	A	1.1	1.4	○	17	○
	山国川	山国川	下宮永	A	1.2	1.6		18	○
	山国川	山国川	山国橋	A	0.9	0.8		19	○
山国川	山国川	小祝	A	1.2	1.2		20	○	
山国川	中津川	北門橋	未	1.2	1.4		21	-	
山国川	山移川	耶麻流ダム (VI-1)	未	1.6	1.9		151	-	

- ※1) ○印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として「図-7 平成25年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
- ※2) 表示している数字は、「参考資料7 平成25年一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
- ※3) ○印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、一印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。
- ※ 報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。
- ※ 類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。
- ※ ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料5(2) 一級河川の水質調査地点の水質 (COD調査地点)

地方	水系名	河川名	地点名	COD(mg/l)					※3	地方	水系名	河川名	地点名	COD(mg/l)					※3		
				類型	平成25年									※2	類型	平成25年				※2	
					平均値	75%値	地点	※2								平均値	75%値	地点			※2
北海道	網走川	網走湖	ST.1(流入口沖50m)	A	4.9	5.5	79		近畿	淀川	琵琶湖	ほうらい沖	AA	2.4	2.6	142					
	網走川	網走湖	ST.2(湖心)	A	5.7	6.0	80			淀川	琵琶湖	大溝沖	AA	2.3	2.4	151					
	網走川	網走湖	ST.3(湖心方位30° 2500m)	A	5.7	5.7	81			淀川	琵琶湖	天野川沖	AA	2.3	2.4	159					
	網走川	網走湖	ST.4(流出口沖100m)	A	5.7	6.3	82			淀川	琵琶湖	姉川沖	AA	2.2	2.5	162					
東	阿武隈川	白石川	七ヶ宿ダム	A	2.0	2.1	125	○	淀川	琵琶湖	知内川沖	AA	2.2	2.3	164						
	名取川	碓氷川	釜房ダム	AA	2.3	2.5	126		淀川	琵琶湖	知内川沖中央	AA	2.2	2.4	165						
	北上川	和賀川	湯田ダム貯水池	A	2.0	2.6	130	○	淀川	琵琶湖	堅田沖	AA	3.1	3.0	136						
	北上川	猿ヶ石川	田瀬ダム貯水池	A	2.5	3.0	129	○	淀川	琵琶湖	木ノ浜沖	AA	2.9	3.0	138						
	北上川	北上川	四十四田ダム貯水池	A	2.0	2.2	127	○	淀川	琵琶湖	雄琴沖	AA	2.9	3.0	133						
	北上川	碓氷川	御所ダム貯水池	A	1.6	1.9	128	○	淀川	琵琶湖	雄琴沖中央	AA	2.9	2.9	134						
	北上川	江合川	鴨子ダム	AA	1.9	1.9	131		淀川	琵琶湖	唐崎沖	AA	3.2	3.5	127						
	高瀬川	高瀬川	小川原湖(No. A)	A	3.6	4.3	132		淀川	琵琶湖	伊佐々川沖	AA	3.6	4.0	129						
	高瀬川	高瀬川	小川原湖(No. C)	A	3.3	3.5	133		淀川	琵琶湖	柳ヶ崎沖	AA	3.1	3.1	124						
	高瀬川	高瀬川	小川原湖(No. G)	A	10.1	10.6	134	○	淀川	琵琶湖	柳ヶ崎沖中央	AA	2.9	2.9	125						
	高瀬川	高瀬川	小川原湖(No. H)	A	5.4	6.7	135		淀川	琵琶湖	三保ヶ崎沖	AA	3.2	3.3	121						
	北	高瀬川	高瀬川	高瀬橋	A	3.1	3.4	136		淀川	琵琶湖	浜大津沖中央	AA	3.0	3.2	123					
高瀬川		高瀬川	河口	A	3.3	3.8	137		淀川	琵琶湖	栗津沖中央	AA	3.2	3.6	120						
岩木川		浅瀬石川	浅瀬石川ダム	A	3.3	3.3	138		淀川	琵琶湖	山田港沖	AA	3.7	3.5	126						
最上川		寒河江川	寒河江ダム	A	4.0	7.7	139		淀川	琵琶湖	大宮川沖	AA	2.9	3.0	130						
東		利根川	利根川	矢木沢ダム	A	2.2	2.3	140	○	淀川	琵琶湖	大宮川沖中央	AA	2.8	2.9	131	○				
		利根川	檜俣川	奈良俣ダム	A	2.5	2.8	141	○	淀川	琵琶湖	志那沖	AA	3.4	3.5	132	○				
		利根川	渡良瀬川	草木ダム	A	1.4	1.6	142	○	淀川	琵琶湖	長浜沖	AA	2.4	2.6	163	○				
		利根川	神流川	下久保ダム	A	2.1	2.6	143	○	淀川	琵琶湖	今津沖中央	AA	2.3	2.5	161	○				
		利根川	手賀川	布佐下	B	9.2	9.3	144		淀川	琵琶湖	安曇川沖中央	AA	2.2	2.4	155	○				
		利根川	霞ヶ浦	高崎沖	A	7.1	8.1	145		淀川	琵琶湖	新杉江港沖	AA	3.9	4.4	135					
		利根川	霞ヶ浦	玉造沖	A	7.0	7.5	146		淀川	琵琶湖	浜大津沖	AA	3.2	3.3	122					
		利根川	霞ヶ浦	掛馬沖	A	6.7	7.5	147		淀川	琵琶湖	唐崎沖中央	AA	2.9	3.0	128					
	利根川	霞ヶ浦	木原沖	A	6.8	7.6	148		淀川	琵琶湖	堅田沖中央	AA	2.8	3.0	137						
	利根川	霞ヶ浦	牛込沖	A	6.8	7.3	149		淀川	琵琶湖	南比良沖中央	AA	2.4	2.7	146						
	利根川	霞ヶ浦	湖心	A	6.9	7.7	150	○	淀川	琵琶湖	北小松沖	AA	2.3	2.4	148						
	利根川	霞ヶ浦	西の洲沖	A	7.1	7.8	151		淀川	琵琶湖	愛知川沖	AA	2.4	2.5	150						
東	利根川	霞ヶ浦	麻生沖	A	7.5	8.0	152		淀川	琵琶湖	今津沖	AA	2.3	2.5	160						
	利根川	常陸利根川	湖来	A	7.4	8.0	153		斐伊川	宍道湖	宍道湖 No.5	A	4.6	4.6	102						
	利根川	常陸利根川	外浪逆浦	A	7.2	8.0	154		斐伊川	宍道湖	宍道湖 No.3	A	4.6	4.6	101	○					
	利根川	常陸利根川	息栖	A	7.1	7.5	155		斐伊川	宍道湖	宍道湖 No.1	A	4.7	4.7	100						
	利根川	常陸利根川	波崎	A	7.1	7.5	156		斐伊川	大橋川	矢田	A	4.2	4.2	103						
	利根川	北浦	武井沖	A	7.1	7.5	157		斐伊川	中海	大橋川河口地先	A	3.9	3.9	104						
	利根川	北浦	釜谷沖	A	7.4	8.2	158		斐伊川	中海	意東鼻沖地先	A	3.9	3.9	105						
	利根川	北浦	神宮橋	A	8.2	8.7	159		斐伊川	中海	羽入川河口地先	A	4.1	4.1	106						
	利根川	利根川	藤原ダムC(ダム湖)	A	1.6	1.8	160	○	斐伊川	中海	中海湖心	A	3.5	3.5	107	○					
	利根川	赤谷川	相俣ダムC(ダム湖)	A	1.5	1.6	161	○	斐伊川	中海	飯梨川河口地先	A	3.6	3.6	108						
	利根川	片品川	藪原ダムB(ダム湖)	A	2.0	2.0	162	○	斐伊川	中海	安来港地先	A	3.7	3.7	109						
	利根川	利根川	川俣ダム	A	1.6	1.7	163	○	斐伊川	中海	米子湾中央部	A	4.6	4.6	110						
利根川	利根川	川治ダム	A	1.7	2.0	164	○	斐伊川	中海	葭津地先	A	3.4	3.4	111							
利根川	利根川	須田貝ダム	A	2.1	2.6	166	○	斐伊川	中海	渡町地先	A	2.8	2.8	112	○						
中部	荒川	二瀬ダム	湖心	A	2.0	2.3	167	○	斐伊川	中海	上宇部尾町地先	A	3.8	3.8	116						
	相模川	中津川	ダムサイト(宮ヶ瀬ダム)	A	1.1	1.3	168	○	斐伊川	中海	長海町地先	A	3.7	3.7	114						
	阿賀野川	大川ダム	湖心	A	1.9	2.1	16	○	斐伊川	境水道	境水道中央部	A	2.3	2.3	113	○					
	天竜川	天竜川	佐久間ダム	A	2.4	2.9	29	○	斐伊川	中海	本庄	A	3.8	3.8	115						
	木曾川	揖斐川	横山ダム 貯水池	A	1.1	1.4	76	○	江の川	江の川	土師ダム湖心	A	2.2	2.4	117	○					
	木曾川	木曾川	味噌川ダム	A	0.8	0.9	57	○	佐佐川	島地川	島地川ダム	A	3.1	3.1	121						
	近畿	新宮川	熊野川	猿谷ダム中央	A	1.6	1.7	119	○	小瀬川	小瀬川	貯水池No.1	AA	1.5	1.6	120					
		淀川	宇陀川	興宮水道取水口付近	A	3.8	4.2	169		大田川	滝山川	温井ダム堰堤	A	1.6	1.9	119	○				
		淀川	宇陀川	室生ダム湖	A	3.3	3.6	168		芦田川	芦田川	八田原ダム基準点	A	2.9	3.4	118					
		淀川	布目川	布目ダム	A	3.7	4.2	167		四国	那賀川	那賀川	鹿野川湖堰堤	B	2.9	3.6	12	○			
		淀川	琵琶湖	早崎港沖	AA	2.2	2.4	166			那賀川	那賀川	JR那賀川鉄橋	A	1.8	2.0	32	○			
		淀川	琵琶湖	外ヶ浜沖	AA	2.3	2.4	157			那賀川	那賀川	富岡水門	A	1.9	2.5	31				
淀川		琵琶湖	外ヶ浜沖中央	AA	2.2	2.5	158		吉野川		銅山川	柳瀬ダム	A	1.7	2.1	50	○				
淀川		琵琶湖	大溝沖中央	AA	2.3	2.4	152		吉野川		吉野川	早明浦ダム	A	1.4	1.6	40	○				
淀川		琵琶湖	石寺沖	AA	2.4	2.5	153		吉野川		銅山川	新宮ダム	A	2.1	2.6	49	○				
淀川		琵琶湖	北小松沖中央	AA	2.2	2.4	149		九州		筑後川	佐田川	寺内ダムダムサイト	A	1.8	1.9	159	○			
淀川		琵琶湖	南比良沖	AA	2.4	2.5	145				筑後川	筑後川	松原ダムM-3	A	1.8	1.8	158	○			
淀川		琵琶湖	長命寺沖	AA	2.5	2.6	147				筑後川	筑後川	松原ダムM-1	A	1.8	1.8	157	○			
淀川	琵琶湖	ほうらい沖中央	AA	2.4	2.5	143		菊池川			追間川	竜門ダム(ダム基準地点)	A	1.6	1.6	155	○				
淀川	琵琶湖	丹出川沖	AA	2.4	2.6	139		菊池川			追間川	竜門ダム(副基準地点)	A	1.8	2.0	156	○				
淀川	琵琶湖	丹出川沖中央	AA	2.4	2.6	140		緑川			緑川	緑川ダムSt.2	A	1.7	2.0	154	○				
淀川	琵琶湖	吉川港沖	AA	2.6	2.7	141		川内川		川内川	鶴田ダムST-I	A	2.4	2.9	152	○					
淀川	琵琶湖	彦根港沖	AA	2.5	2.6	156		川内川		川内川	鶴田ダムST-III	A	2.1	2.3	153	○					
淀川	琵琶湖	安曇川沖	AA	2.3	2.5	154		川内川		川内川	鶴田ダムST-II	A	-	-	-	-					
淀川	琵琶湖	日野川沖	AA	2.6	2.8	144		川内川		川内川	鶴田ダム監視点-I	A	-	-	-	-					
								川内川		川内川	鶴田ダム監視点-ロ	A	-	-	-	-					

※1) ○印を表示している調査地点は、一級河川の水質調査地点のうち主要地点として「図-7 平成25年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
 ※2) 表示している数字は、「参考資料7 平成25年一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
 ※3) ○印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。
 ※ 報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。
 ※ 類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。
 ※ JR那賀川鉄橋及び富岡水門のみ海域類型である。他は全て湖沼類型である。
 ※ 川内川水系川内川の鶴田ダムST-II、鶴田ダム監視点-I、鶴田ダム監視点-ロにおいて、平成25年は未観測である。

参考資料5(3) 一級河川の全調査地点の水質
(河川類型指定ダム貯水池のCOD値)

地方	水系名	河川名	地点名	COD(mg/l)		
				類型	平成25年	
					平均値	75%値
北海道	天塩川	天塩川	岩尾内ダム	AA	1.8	1.9
	留萌川	チバベリ川	留萌ダム	未	5.4	4.9
	石狩川	空知川	金山ダム	AA	2.7	3.1
	石狩川	空知川	滝里ダム	A	2.6	2.8
	石狩川	幾春別川	桂沢ダム	A	4.5	5.0
	石狩川	漁川	漁川ダム	未	1.6	1.7
	石狩川	豊平川	豊平峡ダム	A	1.9	2.3
	石狩川	小樽内川	定山溪ダム	未	2.0	2.0
	石狩川	石狩川	大雪ダム	AA	2.2	2.6
	石狩川	忠別川	忠別ダム	A	1.2	1.3
	後志利別川	後志利別川	美利河ダム	AA	1.6	1.8
	沙流川	沙流川	二風谷ダム	B	2.2	2.5
	十勝川	十勝川	十勝ダム	AA	2.1	2.5
	十勝川	札内川	札内川ダム	AA	2.0	2.4
常呂川	常呂川	鹿ノ子ダム	A	4.2	4.5	
東北	阿武隈川	摺上川	摺上川ダム	A	1.8	2.0
	阿武隈川	大滝根川	三春ダム	A	4.7	4.8
	米代川	小又川	森吉山ダム	未	2.5	2.9
	雄物川	玉川	玉川ダム	AA	1.0	1.2
	最上川	置賜白川	白川ダム	A	2.9	3.8
	最上川	置賜野川	長井ダム	A	1.9	2.2
関東	赤川	梵字川	月山ダム	A	3.0	4.1
	荒川	浦山川	浦山ダム	未	1.2	1.3
	荒川	中津川	滝沢ダム	未	1.9	2.2
北陸	利根川	男鹿川	五十里ダム	AA	1.9	2.0
	荒川	大石川	大石ダム	未	2.9	3.4
	荒川	横川ダム	湖心	未	2.7	3.2
	信濃川	三国川	三国川ダム貯水池	未	1.9	1.8
	信濃川	高瀬川	大町ダム	AA	1.3	1.4
	黒部川	黒部川	湖面橋	AA	1.2	1.3
	手取川	手取川	手取川ダム湖心	A	1.7	2.1
中部	大井川	大井川	長島ダム 貯水池基準点	AA	1.7	1.7
	天竜川	大入川	新豊根ダム貯水池	未	2.2	2.4
	天竜川	三峰川	美和ダム貯水池	A	1.1	1.3
	天竜川	小渋川	小渋ダム貯水池	AA	1.8	1.8
	矢作川	矢作川	矢作ダム 貯水池	AA	1.8	1.9
	庄内川	小里川	小里川ダム 貯水池基準	B	4.2	4.5
	木曾川	木曾川	丸山ダム貯水池	A	2.0	2.1
	櫛田川	蓮川	蓮ダム貯水池基準点	未	1.3	1.4
	木曾川	阿木川	阿木川ダム	A	2.1	2.1
	木曾川	馬瀬川	岩屋ダム	AA	1.1	1.3
近畿	木曾川	揖斐川	徳山ダム	AA	2.4	2.5
	紀の川	紀の川	大滝ダム湖ダムサイト	AA	1.7	1.8
	淀川	宇治川	大峰橋(天ヶ瀬ダム湖)	A	3.2	3.1
	九頭竜川	九頭竜川	九頭竜ダム湖	AA	1.6	1.7
	九頭竜川	真名川	真名川ダム湖	未	1.3	1.5
	淀川	名張川	高山ダム湖	未	3.3	3.5
	淀川	青蓮寺川	青蓮寺ダム湖	未	2.6	3.1
	淀川	名張川	比奈知ダム湖	A	2.4	2.5
中国	淀川	桂川	貯水池基準点(日吉ダム)	A	1.8	1.7
	淀川	一庫大路次川	一庫ダム	未	3.7	4.2
四国	日野川	印賀川	菅沢ダム	未	2.9	3.7
	江の川	上下川	灰塚ダム	A	3.1	3.2
	重信川	石手川	石手川ダム	AA	3.5	3.6
	肱川	肱川	野村ダム	A	2.8	2.8
	渡川	中筋川	中筋川ダム	B	1.5	1.6
	仁淀川	仁淀川	大渡ダム	AA	1.5	1.7
	那賀川	那賀川	長安口ダム	AA	1.4	1.5
	吉野川	吉野川	池田ダム	A	1.2	1.3
	吉野川	銅山川	富郷ダム	AA	1.2	1.3
	九州	松浦川	厳木川	厳木ダクAK-1	A	2.1
筑後川		津江川	下釜ダムS-1	未	1.8	1.8
山国川		山移川	耶馬溪ダム(YI-1)	未	3.8	4.1

※ 環境省告示により、「貯水量が1,000万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖」は湖沼として類型指定されることとなっており、ダム貯水池であっても河川としての類型指定を受けている地点が存在する。本報告では、河川として類型指定されているダム湖については、BODで環境基準を満足しているかどうかを判断し、その他の整理については湖沼として判定・整理をしている。

※ 報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。

※ 類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。

参考資料6 水系別コイヘルペス発生状況(1/3)

地方	水系名	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年
北海道	天塩川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	留萌川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	石狩川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	尻別川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	後志利別川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鶴川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	沙流川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	十勝川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	釧路川	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	網走川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	常呂川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	湧別川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	渚滑川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東北	阿武隈川	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	名取川	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳴瀬川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	北上川	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	馬淵川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	高瀬川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	岩木川	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	米代川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	雄物川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	子吉川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最上川	0	9	0	0	0	0	0	1	0	0	0
赤川	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
関東	久慈川	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	那珂川	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	利根川	0	16	1	0	0	2	0	0	0	0	0
	荒川	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多摩川	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鶴見川	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	相模川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	富士川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北陸	阿賀野川	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	信濃川	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	関川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	姫川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	黒部川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	常願寺川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	神通川	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	庄川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小矢部川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	手取川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	荒川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
梯川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

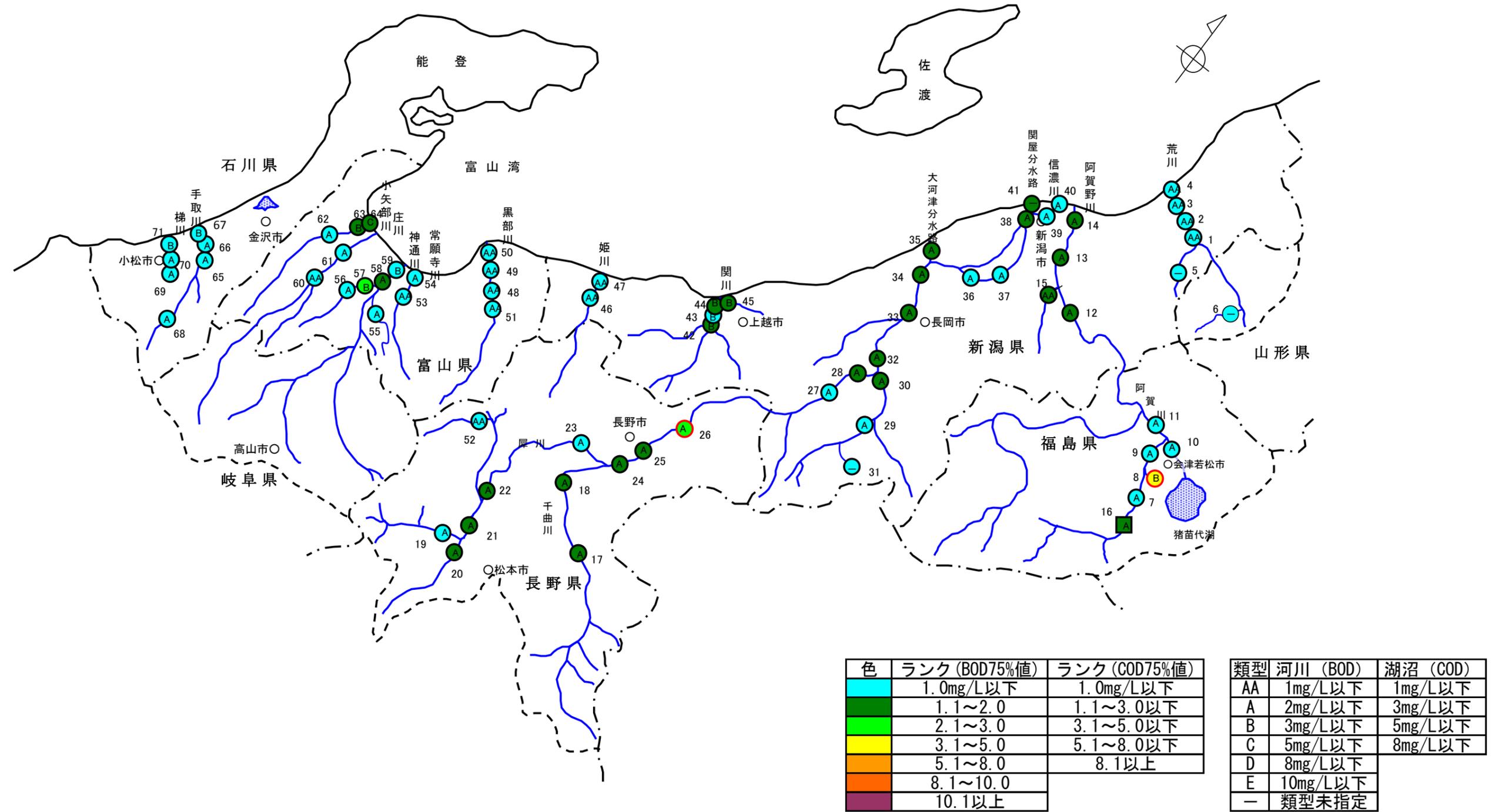
参考資料6 水系別コイヘルペス発生状況(2/3)

地方	水系名	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年
中部	狩野川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	安倍川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大井川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	菊川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	天竜川	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	豊川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	矢作川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	庄内川	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	木曽川	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鈴鹿川	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	雲出川	0	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	櫛田川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	宮川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	近畿	新宮川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
紀の川		0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大和川		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
淀川		16	6	0	0	0	0	0	0	1	0	0
加古川		0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
揖保川		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
九頭竜川		0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0
北川		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
由良川		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
円山川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国	千代川	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	天神川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	日野川	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	斐伊川	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	江の川	0	0	0	0	11	5	0	0	0	0	0
	高津川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	佐波川	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	小瀬川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	太田川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	芦田川	0	0	11	5	0	0	0	0	0	0	0
	高梁川	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	旭川	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
吉井川	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
四国	重信川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	肱川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	渡川	0	0	0	13	0	2	0	0	0	0	0
	仁淀川	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
	物部川	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
	那賀川	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	吉野川	0	0	17	1	0	0	0	0	0	0	0
	土器川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

参考資料6 水系別コイヘルペス発生状況(3/3)

地方	水系名	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年
九州	遠賀川	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0
	松浦川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	本明川	0	0	0	11	0	0	0	0	0	1	0
	六角川	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	筑後川	0	14	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	矢部川	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	菊池川	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
	白川	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	緑川	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	球磨川	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	川内川	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	肝属川	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	大淀川	1	12	1	0	0	0	0	2	0	0	0
	小丸川	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	五ヶ瀬川	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	番匠川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大野川	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	大分川	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	山国川	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
嘉瀬川	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合 計		26	118	63	37	13	12	2	4	4	4	1

参考資料 7 (4) 平成25年一級河川の水質状況図 (北陸)



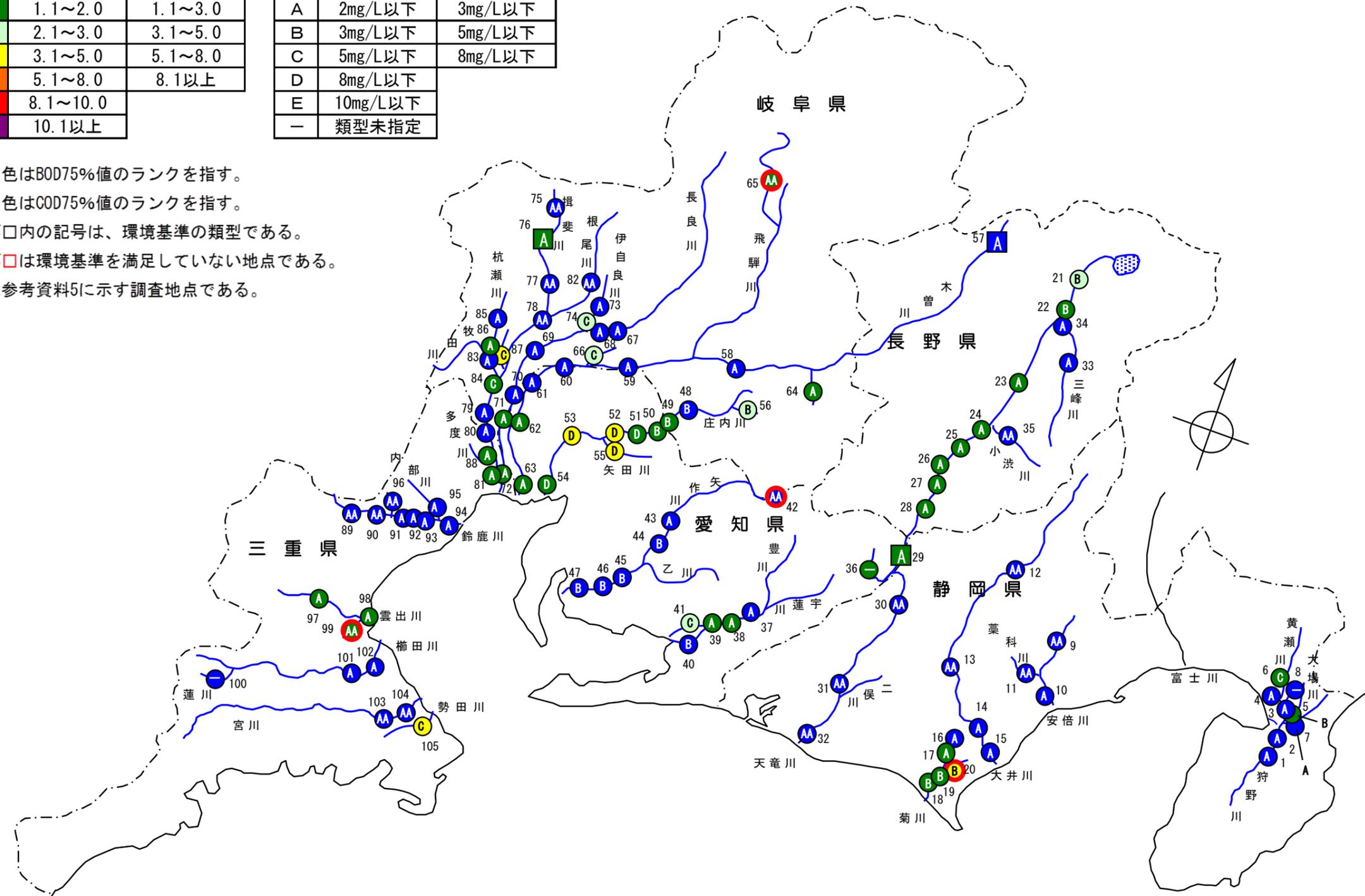
- 内の色はBOD75%値のランクを指す。
- 内の色はCOD75%値のランクを指す。
- 及び□内の記号は、環境基準の類型である。
- 及び□は環境基準を満足していない地点である。
- 数字は参考資料5に示す調査地点である。

参考資料 7 (5) 平成25年一級河川の水質状況図 (中部)

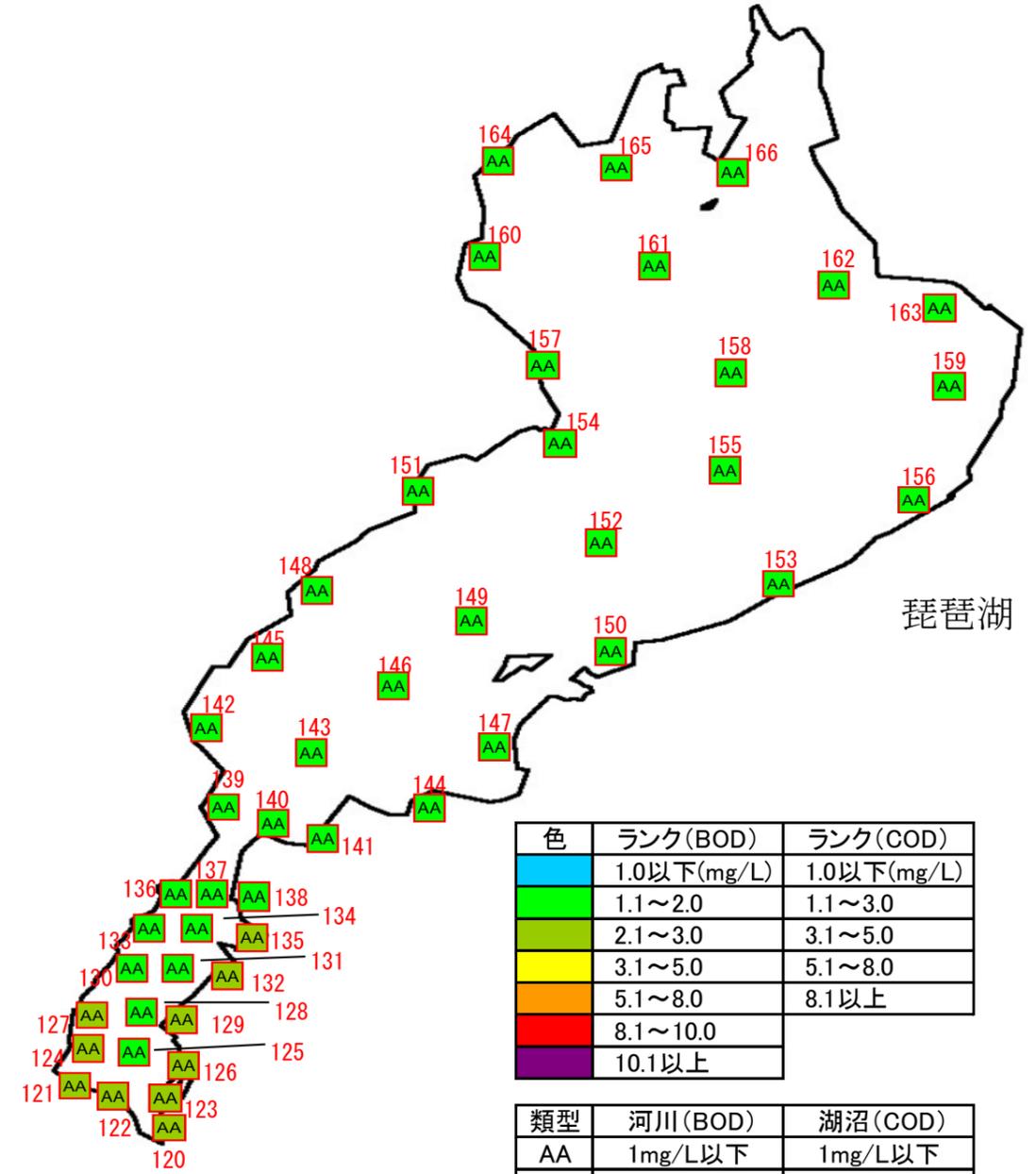
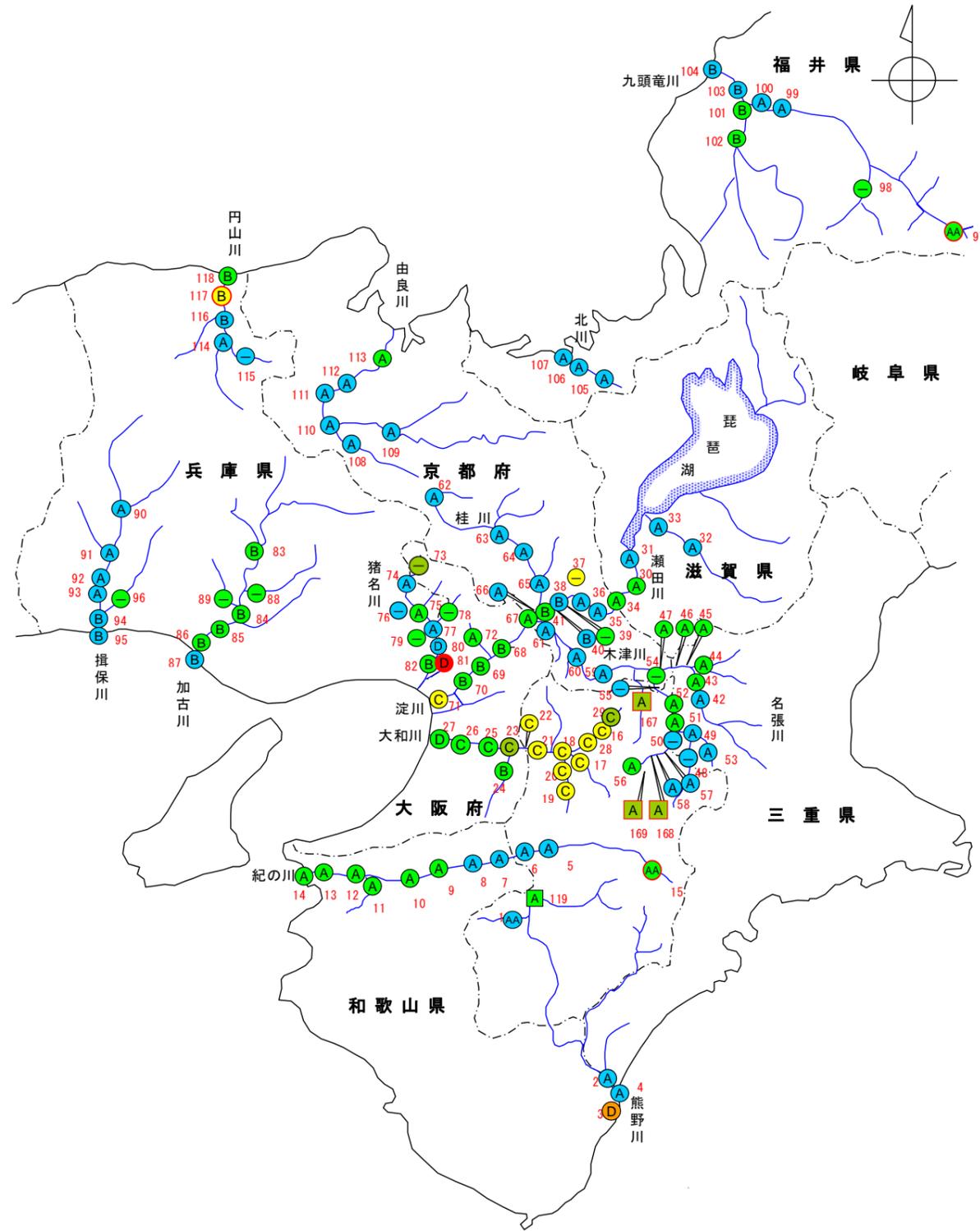
色	ランク (BOD75%値)	ランク (COD75%値)
■	1.0mg/L以下	1.0mg/L以下
■	1.1~2.0	1.1~3.0
■	2.1~3.0	3.1~5.0
■	3.1~5.0	5.1~8.0
■	5.1~8.0	8.1以上
■	8.1~10.0	
■	10.1以上	

類型	河川 (BOD)	湖沼 (COD)
AA	1mg/L以下	1mg/L以下
A	2mg/L以下	3mg/L以下
B	3mg/L以下	5mg/L以下
C	5mg/L以下	8mg/L以下
D	8mg/L以下	
E	10mg/L以下	
—	類型未指定	

- 内の色はBOD75%値のランクを指す。
- 内の色はCOD75%値のランクを指す。
- 及び□内の記号は、環境基準の類型である。
- 及び□は環境基準を満足していない地点である。
- 数字は参考資料5に示す調査地点である。



参考資料 7 (6) 平成25年一級河川の水質状況図 (近畿)

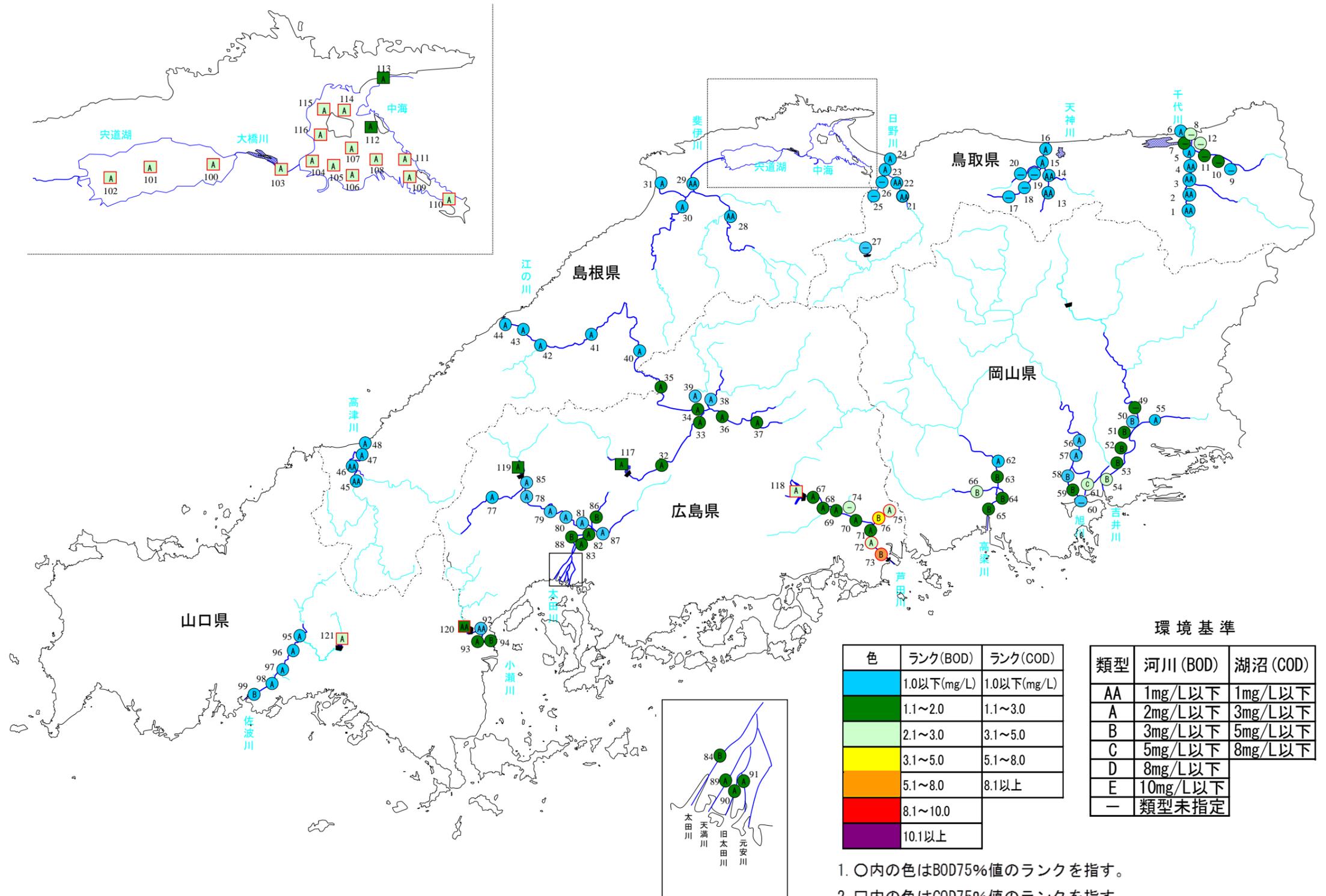


色	ランク(BOD)	ランク(COD)
青	1.0以下(mg/L)	1.0以下(mg/L)
緑	1.1~2.0	1.1~3.0
黄緑	2.1~3.0	3.1~5.0
黄	3.1~5.0	5.1~8.0
オレンジ	5.1~8.0	8.1以上
赤	8.1~10.0	
紫	10.1以上	

類型	河川(BOD)	湖沼(COD)
AA	1mg/L以下	1mg/L以下
A	2mg/L以下	3mg/L以下
B	3mg/L以下	5mg/L以下
C	5mg/L以下	8mg/L以下
D	8mg/L以下	類型未指定
E	10mg/L以下	
—	類型未指定	

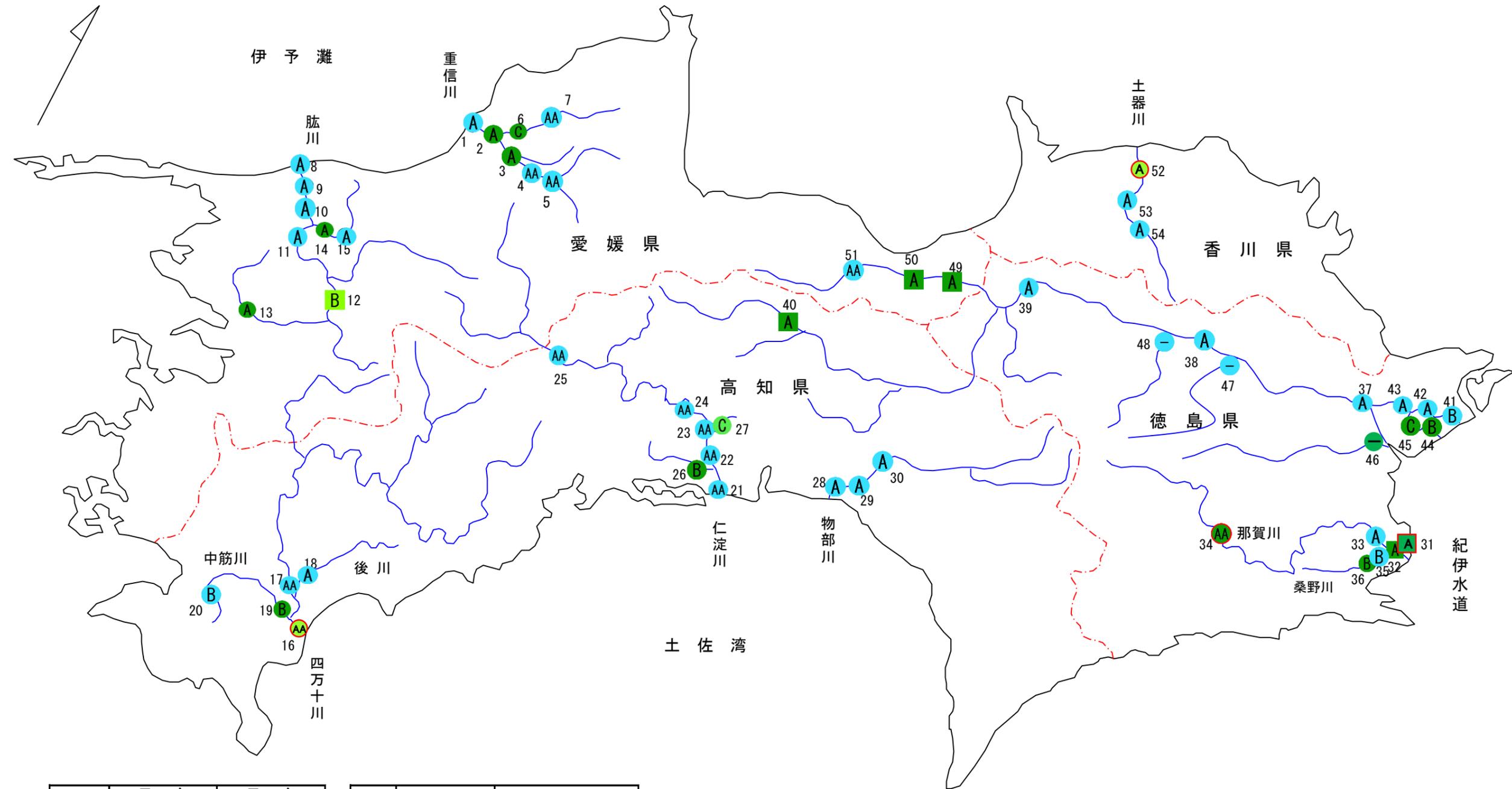
- 内の色はBOD75%値のランクを指す。
- 内の色はCOD75%値のランクを指す。
- 及び□内の記号は、環境基準の類型である。
- 及び□は環境基準を満足していない地点である。
- 数字は参考資料5に示す調査地点である。

参考資料 7 (7) 平成25年一級河川の水質状況図 (中国)



- 内の色はBOD75%値のランクを指す。
- 内の色はCOD75%値のランクを指す。
- 及び□内の記号は、環境基準の類型である。
- 及び□は環境基準を満足していない地点である。
- 数字は参考資料5に示す調査地点である。

参考資料 7 (8) 平成25年一級河川の水質状況図 (四国)



色	ランク (BOD75%値)	ランク (COD75%値)
青	1.0mg/L以下	1.0mg/L以下
緑	1.1~2.0	1.1~3.0
黄緑	2.1~3.0	3.1~5.0
黄	3.1~5.0	5.1~8.0
赤	5.1~8.0	8.1以上
紫	8.1~10.0	
	10.1以上	

類型	河川(BOD)	湖沼・海域(COD)
AA	1mg/L以下	1(-)mg/L以下
A	2mg/L以下	3(2)mg/L以下
B	3mg/L以下	5(3)mg/L以下
C	5mg/L以下	8mg/L以下
D	8mg/L以下	()は海域
E	10mg/L以下	
-	類型未指定	

- 内の色はBOD75%値のランクを指す。
- 内の色はCOD75%値のランクを指す。
- 及び□内の記号は、環境基準の類型である。
- 及び□は環境基準を満足していない地点である。
- 数字は参考資料5に示す調査地点である。

参考資料 7 (9) 平成25年一級河川の水質状況図 (九州)

